

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第554集

つ ぼ ふ も

坪渕Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

2010

国土交通省東北地方整備局
胆沢ダム工事事務所
(財)岩手県文化振興事業団

坪渕Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解する上で欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会资本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれその土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県奥州市胆沢区の胆沢ダム建設事業に関連して平成19年・20年の2カ年にわたって発掘調査を実施した、奥州市胆沢区坪潤Ⅱ遺跡の成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代後・晩期の遺構や遺物を中心に、近世墓や建物跡も見つかりました。本遺跡は、近世における岩手と秋田を結ぶ主要な仙北街道筋にあたり、当時の人々の往来が盛んだった痕跡を示すことができたほか、これまで未調査であった奥州市胆沢区の最西地域での歴史時代以前の様子が一部ではありますが明らかとなりました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所、奥州市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成22年1月

財團法人 岩手県文化振興事業団

理事長 武田牧雄

例　　言

- 1 本書は、岩手県奥州市胆沢区若柳字追分 34 ほかに所在する坪湖Ⅱ遺跡の調査成果を収録したものである。
- 2 岩手県遺跡台帳における本遺跡の登録番号は、N E 31-1023、遺跡の調査略号は T F II - 07・08 である。
- 3 本遺跡の発掘調査は、胆沢ダム建設事業に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所の委託を受けた（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
- 4 調査期間・調査面積・調査担当者は、以下のとおりである。
平成 19 年 5 月 1 日～6 月 22 日／5,029m²／木戸口俊子・濱田 宏
平成 20 年 4 月 11 日～5 月 29 日／2,000m²／濱田 宏・藤原大輔・小林弘卓
- 5 室内整理期間・担当者は、以下のとおりである。
平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日／木戸口俊子
平成 20 年 11 月 16 日～平成 21 年 3 月 31 日／濱田 宏
- 6 本書の執筆については、平成 19 年度調査分は木戸口が、平成 20 年度調査分は濱田が担当した。また、全体の編集は濱田が担当した。
- 7 地図に使用している地図は、国土地理院 5 万分の 1 「焼石岳」である。
- 8 野外調査の土層観察は、下記の土色帖を使用して行った。
「新版 標準土色帖 1993 年版」農林水産省農林水産技術会議事務局 監修
財団法人日本彩色研究所 色票監修
- 9 野外調査では、国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所、奥州市教育委員会、奥州市胆沢区・水沢区の作業員の方々、胆沢ダム建設事業に関わる多くの工事業者により多大なご協力をいただいた。
- 10 各種分析・鑑定は、以下の機関に依頼した。
石質鑑定・・・花崗岩研究会
火山灰分析・・・(株)火山灰考古学研究所
- 11 基準点測量は、平成 19 年度に株式会社ランド技術設計が行った。
- 12 航空写真は、東邦航空株式会社により撮影した。
- 13 平成 20 年度の遺物の撮影は、福士昭夫氏に外部委託した。
- 14 本遺跡の調査結果は、先に『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 524 集 平成 19 年度発掘調査報告書 2008』及び『(同) 第 546 集 平成 20 年度発掘調査報告書 2009』において発表しているが、本書の内容が優先する。
- 15 本遺跡の出土遺物および諸記録は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 立地と環境	2
1 遺跡の位置と地理的環境	2
2 歴史的環境	2
3 基本層序	9
III 野外調査と室内整理の方法	11
1 野外調査	11
(1) グリッドの設定	11
(2) 試掘・表土除去	11
(3) 遺構の検出と精査	11
(4) 調査経過	12
2 室内整理	12
IV 検出された遺構と遺物	16
1 検出遺構の内訳	16
2 平成19年度調査	16
(1) 遺構	16
(2) 遺物	48
3 平成20年度調査	89
(1) 遺構	89
(2) 遺物	123
V 自然科学的分析	153
VI まとめ	157
1 繩文時代の遺構について	157
2 「寺屋敷」と時期不明掘立柱建物跡について	157
3 近世以降の墓壙群について	158
4 表面採集遺物	161
5 総括	161
報告書抄録	227

図版目次

第1図 遺跡位置図	3	第40図 遺構外出土遺物（2）	71
第2図 地形分類図	4	第41図 遺構外出土遺物（3）	72
第3図 周辺の遺跡図	6	第42図 遺構外出土遺物（4）	73
第4図 基本層序	9	第43図 遺構外出土遺物（5）	74
第5図 遺跡周辺図	10	第44図 墓石（1）	75
第6図 北側調査区遺構配置図	14	第45図 墓石（2）	76
第7図 南側調査区遺構配置図	15	第46図 墓石（3）	77
第8図 101号堅穴住居跡	17	第47図 101号土器埋設遺構	89
第9図 102号堅穴住居跡	19	第48図 122～125号土坑	91
第10図 101・302号掘立柱建物跡	20	第49図 223～229・231号土坑	92
第11図 102号掘立柱建物跡	22	第50図 230・232～235・246号土坑	95
第12図 201号掘立柱建物跡	23	第51図 236～240号土坑	97
第13図 301号掘立柱建物跡	25	第52図 241～245・247号土坑	99
第14図 101～106号土坑	26	第53図 248～253号土坑	101
第15図 107～110号土坑	29	第54図 254・255・257・261号土坑ほか	103
第16図 111～116号土坑	31	第55図 256・259・262・265号土坑ほか	105
第17図 117～121号土坑	33	第56図 260・267～269・273号土坑	108
第18図 201～206号土坑	36	第57図 258・274・275・277号土坑ほか	111
第19図 207～211・301号土坑	38	第58図 263・270・271・276号土坑	112
第20図 212～217号土坑	41	第59図 271・278～281・294号土坑	114
第21図 218～222号土坑、201号溝	44	第60図 282・283・285・286号土坑ほか	116
第22図 焼土	45	第61図 302～310号土坑	119
第23図 遺構内出土遺物（1）	54	第62図 311～314号土坑	122
第24図 遺構内出土遺物（2）	55	第63図 遺構内出土遺物（17）	125
第25図 遺構内出土遺物（3）	56	第64図 遺構内出土遺物（18）	126
第26図 遺構内出土遺物（4）	57	第65図 遺構内出土遺物（19）	127
第27図 遺構内出土遺物（5）	58	第66図 遺構内出土遺物（20）	128
第28図 遺構内出土遺物（6）	59	第67図 遺構内出土遺物（21）	129
第29図 遺構内出土遺物（7）	60	第68図 遺構内出土遺物（22）	130
第30図 遺構内出土遺物（8）	61	第69図 遺構内出土遺物（23）	131
第31図 遺構内出土遺物（9）	62	第70図 遺構内出土遺物（24）	132
第32図 遺構内出土遺物（10）	63	第71図 遺構内出土遺物（25）	133
第33図 遺構内出土遺物（11）	64	第72図 遺構内出土遺物（26）	134
第34図 遺構内出土遺物（12）	65	第73図 遺構内出土遺物（27）	135
第35図 遺構内出土遺物（13）	66	第74図 遺構内出土遺物（28）	136
第36図 遺構内出土遺物（14）	67	第75図 遺構内出土遺物（29）	137
第37図 遺構内出土遺物（15）	68	第76図 遺構内出土遺物（30）	138
第38図 遺構内出土遺物（16）	69	第77図 遺構内出土遺物（31）・遺構外出土銭貨	139
第39図 遺構外出土遺物（1）	70	第78図 掘立柱建物跡と焼土、土坑	157

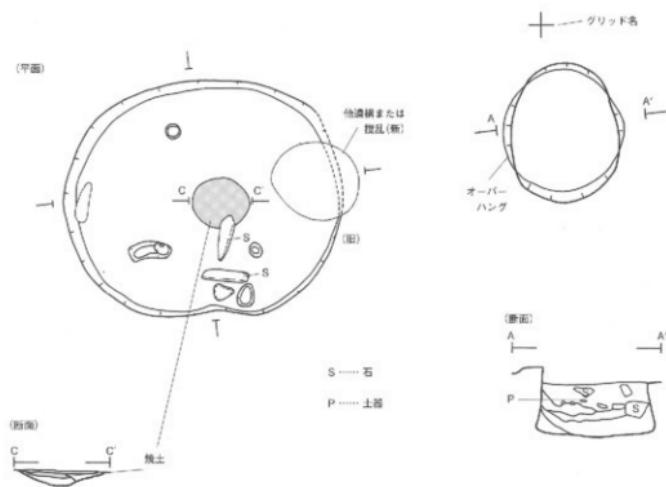
表 目 次

第1表 局辺の遺跡一覧表	7
第2表 柱穴及び柱穴状小土坑観察表	47
第3～11表 平成19年度出土遺物観察表	78～88
第12表 柱穴状小土坑観察表	123
第13～19表 平成20年度出土遺物観察表	140～152
第20表 墓壙観察表	159

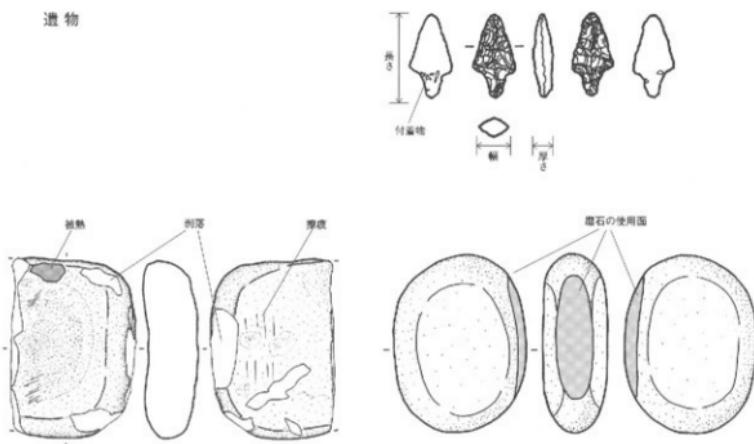
写真図版目次

写真図版1 航空写真	165
写真図版2 调査前風景、基本圖序、調査区全景	166
写真図版3 101号堅穴住居跡	167
写真図版4 101・102号堅穴住居跡	168
写真図版5 102号堅穴住居跡ほか	169
写真図版6 301・302号掘立柱建物跡ほか	170
写真図版7 103・104・106号土坑	171
写真図版8 105・107～109号土坑	172
写真図版9 110～113号土坑	173
写真図版10 114・116～118号土坑	174
写真図版11 115・119・120号土坑ほか	175
写真図版12 203～208号土坑	176
写真図版13 209・210号土坑ほか	177
写真図版14 211・215～217号土坑ほか	178
写真図版15 101・102・201・301号焼土	179
写真図版16 302・303号焼土、墓石(1)ほか	180
写真図版17 墓石(2)	181
写真図版18 遺構内出土遺物(1)	182
写真図版19 遺構内出土遺物(2)	183
写真図版20 遺構内出土遺物(3)	184
写真図版21 遺構内出土遺物(4)	185
写真図版22 遺構内出土遺物(5)	186
写真図版23 遺構内出土遺物(6)	187
写真図版24 遺構内出土遺物(7)	188
写真図版25 遺構内出土遺物(8)	189
写真図版26 遺構内出土遺物(9)	190
写真図版27 遺構外出土遺物(1)	191
写真図版28 遺構外出土遺物(2)	192
写真図版29 遺構外出土遺物(3)	193
写真図版30 遺構外出土遺物(4)	194
写真図版31 122～125号土坑	195
写真図版32 223～226号土坑	196
写真図版33 227～230号土坑ほか	197
写真図版34 231～235号土坑	198
写真図版35 236～239号土坑	199
写真図版36 240～243号土坑	200
写真図版37 244～247号土坑	201
写真図版38 248～251号土坑	202
写真図版39 252～255号土坑ほか	203
写真図版40 256～257号土坑ほか	204
写真図版41 258～260号土坑ほか	205
写真図版42 263～266号土坑ほか	206
写真図版43 267～270号土坑	207
写真図版44 271～274号土坑	208
写真図版45 275～278号土坑	209
写真図版46 279～283号土坑	210
写真図版47 282～286号土坑	211
写真図版48 287～290号土坑	212
写真図版49 293・294号土坑ほか	213
写真図版50 304～307号土坑	214
写真図版51 308～311号土坑	215
写真図版52 312～314号土坑ほか	216
写真図版53 遺構内出土遺物(10)	217
写真図版54 遺構内出土遺物(11)	218
写真図版55 遺構内出土遺物(12)	219
写真図版56 遺構内出土遺物(13)	220
写真図版57 出土銭貨(1)	221
写真図版58 出土銭貨(2)	222
写真図版59 出土銭貨(3)	223
写真図版60 出土銭貨(4)	224
写真図版61 出土銭貨(5)	225
写真図版62 出土銭貨(6)	226

遺構



遺物



凡例

I 調査に至る経過

坪沢Ⅱ遺跡は、「胆沢ダム建設事業」に伴いその事業区域内に位置することから、発掘調査を実施することになったものである。

胆沢ダムは、北上川右支川胆沢川に建設中の堤体高132m、堤頂長723m、総貯水容量1億4,300万m³の中央コア型ロックフィルダムで、その目的に洪水調節・河川環境保全等のための流水確保・かんがい用水・水道用水・水力発電を有する多目的ダムである。胆沢ダム建設事業は、平成2年5月11日に「胆沢ダムの建設に関する基本計画」が官報告示されて建設着手し、その後平成12年6月14日に基本計画変更が官報告示され、事業費及び工期改定を行い現在に至っている。(当初工期：平成11年度→変更工期：平成25年度)

埋蔵文化財の取り扱いについては、事業に先立ち昭和58年10月に建設省（現国土交通省）新石淵ダム調査事務所（昭和63年4月に胆沢ダム工事事務所に組織改正）から、ダム事業区域内における埋蔵文化財の有無を岩手県教育委員会に照会し、周知地区864,000m²、可能性有の地区490,000m²を確認した。その後は、水面面積4,400,000m²を含む事業区域内における埋蔵文化財の包蔵地について、毎年度各工事の実施に先立って、岩手県教育委員会と協議を行なながら計画的に調査を実施してきているところである。

坪沢Ⅱ遺跡については、包蔵地全体で約50,000m²と広大な面積であったため、付替市道敷及び工事用道路敷に係る包蔵地北側区域を先行することとし、平成18年5月15日付け国東整胆調設第10号により、胆沢ダム工事事務所長から岩手県教育委員会に試掘調査の依頼を行った。依頼を受けた岩手県教育委員会が平成18年9月14日～15日、同11月29日、同12月14日の4日間にわたり試掘調査を実施した結果、設定した14本のトレンチのうち、西側高標高部から縄文土器などが検出され、遺構等が存在する可能性が高いことが判明した。これにより、当該区域については平成18年12月19日付け教生第1276号にて「発掘調査が必要」である旨、胆沢ダム工事事務所長に回答があった。

また、包蔵地の未調査区域（當時満水位以下箇所）について、平成19年3月22日付け国東整胆調設第29号により、再度胆沢ダム工事事務所長から岩手県教育委員会に試掘調査の依頼を行った。依頼を受けた岩手県教育委員会は、平成19年7月24日、同8月23日の2日間にわたり試掘調査を実施し、設定した19本のトレンチの遺物出土分布と平成18年度のそれを重ね合わせて総合判定した結果、平成18年度要発掘判定箇所の隣接部のみ遺構等が存在する可能性が高いことが判明し、当該区域については平成19年度8月27日付け教生第884号にて「発掘調査が必要」である旨、胆沢ダム工事事務所長に回答があった。

この回答に基づき岩手県教育委員会と協議し、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに委託して発掘調査を実施することとなったものである。

(国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所)

II 立地と環境

1 遺跡の位置と地理的環境

遺跡が所在する奥州市は、県南部の北上盆地を中心に西は秋田県に接し、東は物見山（種山高原）に達しており、平成18年に水沢市、江刺市、前沢町、胆沢町、衣川村の2市2町1村の合併により誕生した市である。古墳や安倍氏、藤原氏にまつわる旧跡をはじめ、近現代においても偉人を多く輩出するなど、長い歴史の中で受け継がれてきた多くの文化が根付いている。遺跡のある旧胆沢町（現胆沢区）は、西端の県境にそびえる奥羽山系の栗駒山（須川岳1627m）、焼石岳(1548m)から挿がる山々と胆沢川を中心とした大小河川により河岸段丘が形成され、胆沢川中流市野々付近を扇頂部とし東方北上川に向かって大規模な扇状地となっている。この胆沢扇状地は、更新世中期から後期にかけて胆沢川の開拓を受けて形成された。近年の大上・吉田（1984）や渡辺（1991）氏らの研究では、胆沢扇状地は、高位からT1（大歩面）・T2（一首坂面）・T3（西根面）、H1（上野原面）・H2（横道面）、M1（堀切面）・M2（福原面）、L1（水沢高位面）・L2（水沢低位面）の9面に区分される傾斜扇状地で、1辺約20km、面積が約20,000haにも及び、国内最大級の扇状地で県下有数の穀倉地帯となっている。

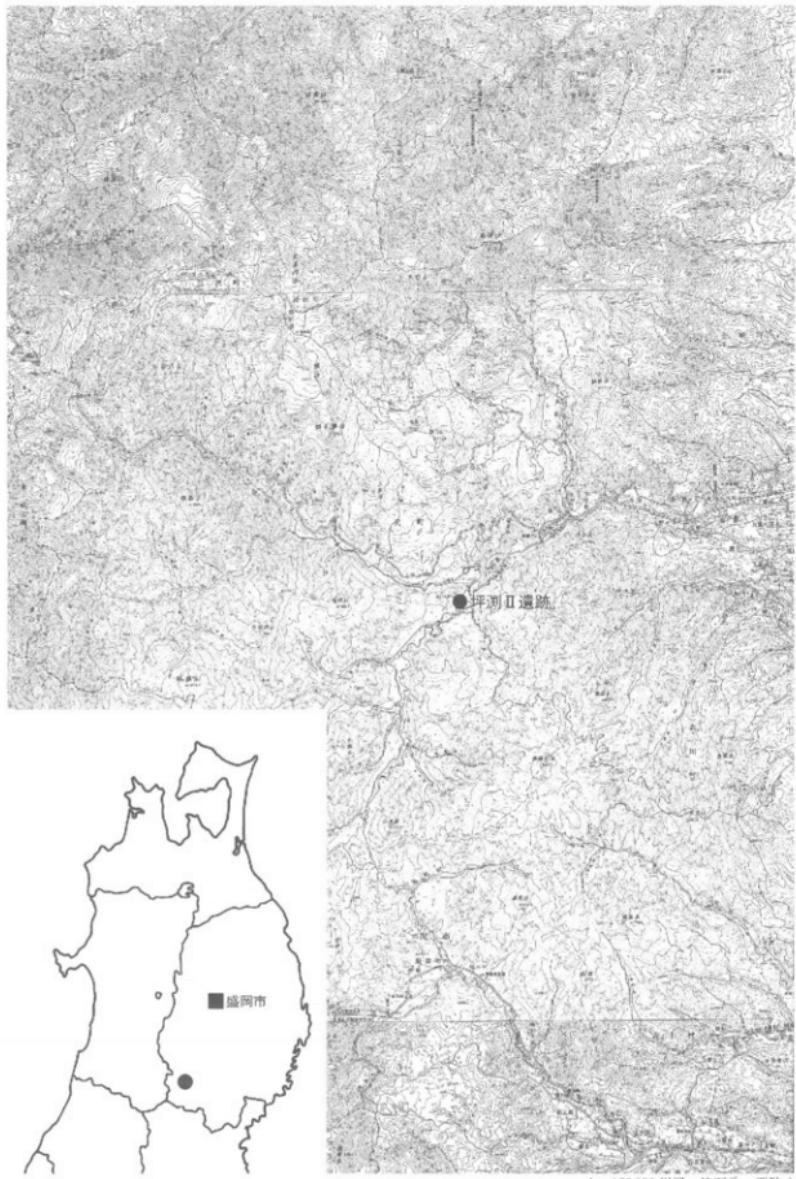
本遺跡はその扇頂部より更に奥にあり、奥州市役所の西南西方向約25.1km、市胆沢支所西方約17km、北緯39度5分57秒、東経140度52分48秒に位置する。北は大森山（739m）、西は大胡桃山（934m）、小胡桃山（783m）、南は大森山（818m）、高檜能山（927m）、東は媚山（684m）に囲まれた石淵ダム西南に坪測Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡が密接してある。今回調査が行われた坪測Ⅱ遺跡は、石淵ダムに注ぐ胆沢川支流前川左岸の河岸段丘面に立地し、北東に右英安山岩質凝灰岩の一大巨峰である猿岩（549m）を眺める南東向きの緩斜面となっている。地形分類図上では砂礫段丘ではあるが、その後の改変等のために崖錐性の礫を多く含んでいる。標高は346～353mであり、現在石淵ダムとの標高差は35m前後、挟まれた坪測Ⅰ遺跡や坪測Ⅲ遺跡よりも高位にある。現況は山林で、約40年前までは数件の民家があつたが、ダム建設に伴う移転後は無人となっている。前川と胆沢川との合流地点である500m東には下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡が、本遺跡よりも前川上流1.5km西には大平野Ⅱ遺跡がある。

2 歴史的環境

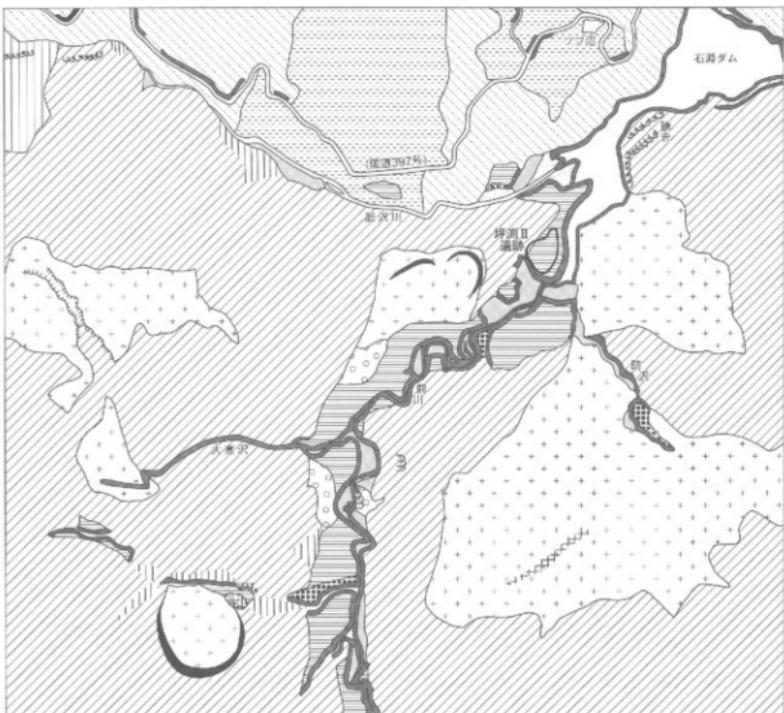
平成17年度版の岩手県遺跡台帳に登録されている奥州市の遺跡は1,065カ所にのぼり、このうち胆沢区（旧胆沢町）内の登録数は185遺跡である。これらは縄文時代の遺跡が大半で、該期との複合遺跡を含めると全体の約7割を占めるが、旧石器から中・近世に亘り多くの遺跡が存在する。

旧石器時代の遺跡としては、昭和50年から3年間胆沢町教育委員会が中心となって調査を行った上萩森遺跡がある。調査の結果2面の文化層が確認され、ナイフ形石器や鬱器、スクレーパー等、数ユニットをなして2,000点以上の遺物が確認された。下部のⅡb文化層は前半期～中葉期に位置づけられている。また、胆沢町史には、山神遺跡や上佐布遺跡からもは場整備や開田時に石器が発見されたことが紹介されている。近年では、平成16年度に当センターが調査した二の台長根遺跡、平成18・19年度に同じく当センターで調査した岩洞堤遺跡などで旧石器が出土している。

縄文時代では、先述したとおり大半の遺跡がこの時代に属し広く分布する。草創期に位置づけられる遺跡は確認されていないが、下原前Ⅳ遺跡から「小瀬ヶ沢型」に似た有舌尖頭器が2点、大平野Ⅱ



第1図 遺跡位置図



山 地
大起伏山地
(起伏量 400m 以上)

中起伏山地
(起伏量 200m~400m)

小起伏山地
(起伏量 200m 未満)

火 山 地
中起伏山地
(起伏量 400~200m)

小起伏山地
(起伏量 200m 未満)

台 地
砂礫段丘Ⅱ

砂礫段丘Ⅲ

低 地
畠状地

業錆性畠状地

苔蘚平野及び
泥炭平野

河 原

地すべり地形

崩壊地

土石流地形

崖・段丘崖及び
ダム堤壁

斜面及び崖縫

壁岩

第2図 地形分類図

遺跡からも有舌尖頭器が出土している。

早期の遺跡としては、尼坂遺跡がある。尼坂遺跡は昭和26年の東北大学の調査をはじめとし、これまで4回の発掘調査が行われ、検出された竪穴住居跡から、貝殻文、条痕文、縄文条痕文、表裏縄文、羽状縄文の土器が出土している。また、漆町遺跡からも撲糸文をはじめ、貝殻文など早期の土器が出土している。

前期の遺跡では、先の尼坂遺跡の第4次調査で前期前半の土器が出土しているほか、前葉期の住居跡を検出している芦の隨遺跡や、末葉期の浅野遺跡がある。大規模遺跡としては、近年調査された前期末の大清水上遺跡があげられる。この遺跡は当センターにより平成12年度から5年に亘って調査が行われ、竪穴住居跡74棟、土坑203基など、大形住居を主体として構成される縄文時代前期後葉（大木5式期）に相当する環状集落跡であることがわかった。

中期の遺跡には宮沢原遺跡群があり、前葉～末葉（大木7a～10式）にわたる住居跡が多数検出されている。このうち宮沢原A・E・E東遺跡における大木9～10式期の住居跡では、「上原型複式炉」と呼ばれる土器壇設炉と右敷き石組部からなる複式炉を持つものが多く、注目される遺跡のひとつである。

後期になると、扇状地地帯ではこれまでより下位の段丘面に分布する傾向が見られるが、遺構を確認している遺跡は少ない。宮沢原D遺跡では、門前式の可能性がある立石を伴う土坑が検出されている。また、下原前ⅡA遺跡や下原前Ⅱ遺跡からは、後期前葉～中葉期に位置づけられる可能性を持つ住居跡と土坑が検出され、また赤堀遺跡や南中沢遺跡からも後期前半の土器が出土している。

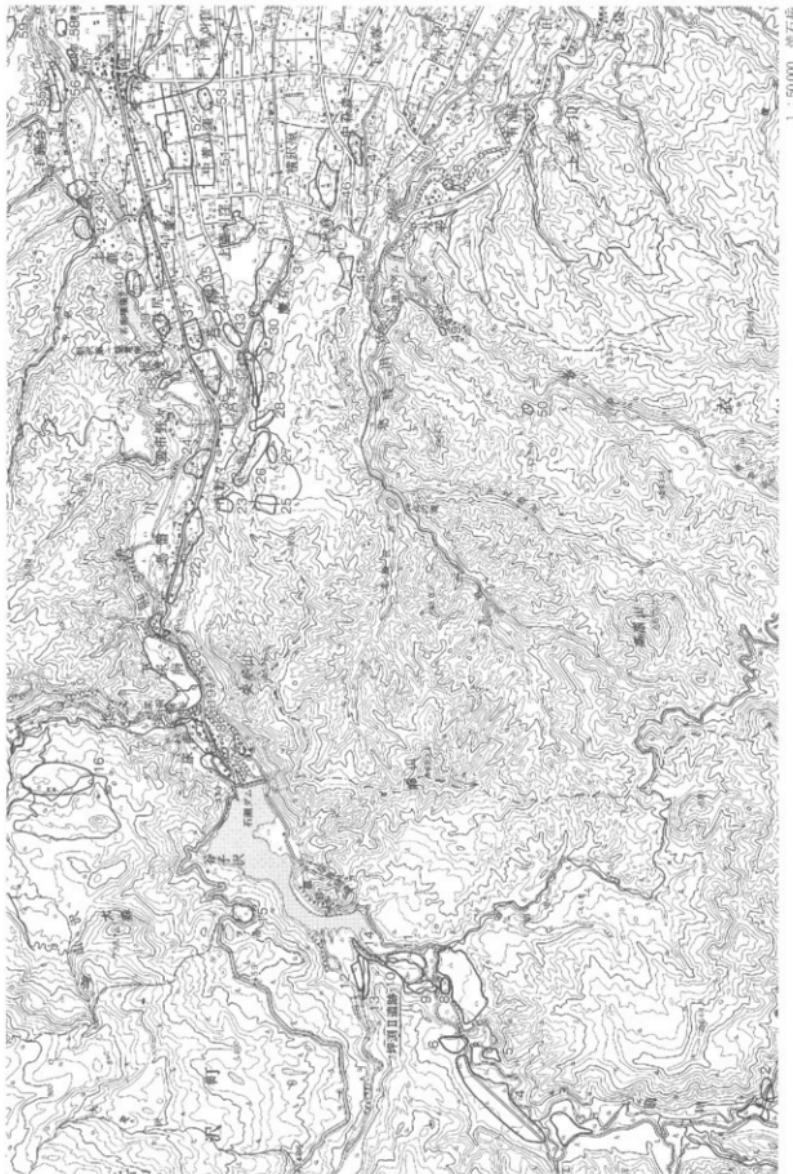
晚期の遺跡も後期と同じような分布傾向を見せる。後葉期の墓墳と炉跡が検出されている南中沢遺跡のほか、赤堀遺跡や合野遺跡などからは該期の土器片が出土している。下嵐江遺跡でも、独鉛石とともに中葉の土器の出土が認められている。

多くの縄文時代の遺跡に比べ、弥生時代の遺構、遺物が確認されている遺跡は大変少ない。台帳から確認できるのは、昭和52年に架橋工事中に県内で初めて石包丁2点が発見された清水下遺跡、また土器が出土している荻袋遺跡や上愛宕原遺跡などである。下原前Ⅳ遺跡からも後期の土器片が出土している。

古墳時代には、本州最北端に位置する県内最古の前方後円墳である角塚古墳がある。同古墳は国の指定史跡となっており、その造営年代は5世紀末～6世紀初頭と考えられている。これより北方2kmには、角塚古墳と同時期と推定される方形区画の濠で囲まれた集落跡や、古式須恵器の壙と坏、大量の黒曜石などが出土した中半入遺跡も存在する。

奈良、平安時代になると更に遺跡登録数は増加する。沢田遺跡調査報告書（1988）の中にも述べられているように、「農耕社会の確立が促した生活領域の拡大」によって、沖積地における集落形成がなされていく。二本木遺跡からは、奈良時代後半～平安時代初頭の遺物とともに8棟の竪穴住居跡が検出されているほか、8世紀第1四半期と見られる畿内系暗文土器と関東系土器が出土している。沢田遺跡からは8世紀中～後半の竪穴住居跡が、また同時期の焼失住居跡が確認されている要害遺跡などがある。9世紀以降の遺跡としては同沢田遺跡（9世紀末～10世紀代）、宇南田遺跡（9世紀中葉頃）などから住居跡が、小十文字遺跡では住居跡とともに同時期と思われる作業場跡が検出されている。また、石行遺跡では10世紀の焼土遺構がまとまって検出されている。

中・近世の城館跡は12カ所登録され、特に近世の扇状地における水文化の歴史には欠かせない遺構も多く残っている。平成10年から行われた調査（平成10岩埋文、平成13胆沢町教委）により明らかになった旧穴山堰跡は、「馬留取水口」「昭和穴出口」「七左エ門口」などが次々と発見され、当時の



第3図 周辺の道路図

第1表 周辺の遺跡一覧表

NO	遺跡名	時代	地図	遺構・遺物	備考
1	洪沢	縄文・近世	散布地	陶文土器(中) 近世鐵山等 寺院跡	
2	洪沢Ⅱ	近世	武山路	寺院跡 鉛治跡等	
3	大塚山				小字11番地
4	大平野Ⅱ	縄文・弥生・中世	集落跡	坐穴式居跡(中-後) 土坑 中世土器 縄文土器(乍~晚) 弥生土器	平成14範囲変更 平成18~調査
5	大平野	縄文	散布地	縄文土器	平成14新規
6	大平野Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器	平成14範囲変更
7	平根原Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器	平成14範囲変更
8	平根原Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器	平成14範囲変更
9	坪瀬Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器	平成14範囲変更
10	坪瀬Ⅱ	縄文・近世	集落	坐穴式居跡(後・晚) 千坑 聖立社遺跡群 近世墓塚	平成14範囲変更 本報告書
11	坪瀬Ⅲ	縄文	散布地	縄文土器	平成14範囲変更
12	下風江Ⅲ	縄文	散布地	縄文土器	平成14範囲変更
13	下風江Ⅰ	縄文・近世	集落跡	円石壁 縄文土器 聖立社遺跡群(後世) 並列墓塚	平成14範囲変更
14	下風江Ⅱ	縄文・近世	散布地	山石壁 縄文土器 聖立社遺跡群(近世) 近世墓塚	平成14範囲変更
15	谷子沢	縄文	散布地	縄文土器	平成14範囲変更
16	蜂谷	縄文	散布地	縄文土器 石器	平成14範囲変更
17	原前Ⅱ	縄文	集落跡	縄文土器(早・前、後、晚期) 石器 作業跡	井准区庶類文報告書第343号 平成14範囲変更
18	原前Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器 石器	平成14範囲変更
19	下原前Ⅱ	縄文・弥生	散布地	縄文土器(早・前) 有孔尖頭器 弥生石器	県版文報告書第222集 下原前 改め 平成14範囲変更
20	下原前Ⅰ	縄文・武生・中世	集落跡	聖穴式居跡(中-後) 千坑(乍~晚) 石器 弥生土器 中-後	平成5~平成7調査 平成14範 囲変更 下原前Ⅱ・Ⅲ統合
21	舟穴山古跡	中世~現代	生産遺跡	隧道 石器 水門 水門遮水板 取水口	平成10年、平成13科教委報告、 平成14範囲変更
22	馬音	縄文	散布地	縄文土器	平成14範囲変更
23	なめだけⅣ	縄文	散布地	縄文土器	平成14範囲変更
24	布野ヶ	縄文・古代	散布地	縄文土器 須恵器	平成14範囲変更
25	筒寺	縄文	散布地	縄文土器	平成14範囲変更
26	なめだけⅡ	縄文	散布地	縄文土器	平成14範囲変更
27	人清水上Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器(早・前、後、晚期)	
28	なめだけⅠ	縄文	散布地	縄文土器	
29	大清水上	縄文	集落跡	縄文土器(早・前、後、晚期) 石器 横 ほか	田川町縄文聚落書第15集 県版 文報告書第473集
30	人清水	縄文	散布地	縄文土器(早・前、後、晚期) 石器 横 ほか	
31	下瀬沢原	縄文	散布地	縄文土器(接・疎期) 上鳥	
32	横沢原	縄文	散布地	縄文土器(後・晚期) 上鳥	
33	横沢原Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器	
34	横沢原Ⅲ	縄文	散布地	縄文土器	
35	横沢原Ⅳ	縄文	散布地	縄文土器	
36	宮坂	縄文	散布地	縄文土器(後・晚期) 石碑	
37	二本堀	縄文	散布地	縄文土器(後・晚期) 土偶	
38	猪の鼻館(采の家館)	近世	城跡	二名 空堀 上壇	
39	林尻	縄文	散布地	縄文土器	
40	萩袋	縄文・弥生・古代	散布地	國文土器(晚期) 土偶 弥生土器 上土器	
41	岳山	縄文・古代	散布地	縄文土器(後・晚期) 上崩	
42	誕合跡(山崩地)	中世末期	城跡跡	空堀 剣立柱跡物語 小札 海器 石器 石碑	一括調査
43	上應合	縄文	集落跡	縄文土器	
44	南中沢	縄文	散布地	縄文土器(後・晚期) 石路 石礎 石斧 石棒	一部調査
45	上萩森	旧石器・弥生	散布地	旧石器 サイフ形器 スクレーバー 石核 弥生土器	一括調査
46	萩森北	縄文・弥生	散布地	縄文土器(晩・中期) 石器 心臓 瓢瓦 弥生土器	
47	前萩森	縄文	散布地	縄文土器(前・中期) 石器 石旗 舞具	
48	大平	縄文	散布地	縄文土器	
49	松山寺	中世	寺院跡	山廬	
50	小谷鶴	中世	城跡跡		
51	東刈除Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器	
52	西沢原Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器	
53	豆刈除	縄文・前期	散布地	縄文土器(前) 石器 石斧 石旗 備 ほか	
54	宮沢原	縄文	散布地	縄文土器(前中期) (石器) 石斧	
55	下庭合東	縄文	散布地	縄文土器(晚期) 石器 石斧 石旗 備 ほか	
56	下鹿台東Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器(晚期)	平成4新規
57	かごっしょ	縄文・古代	散布地	縄文土器 土器	平成4新規
58	門ヶ城	中世	城跡跡	三井	
59	中山	縄文	散布地	縄文土器(中・後期)	

高度な土木技術を我々に見せてくれた。中世から現代まで連綿と続いた重要な遺跡である。

これまでには胆沢扇状地内の遺跡調査が多かったが、胆沢ダム建設事業の進展に伴って、本遺跡周辺の遺跡の内容も徐々に明らかになってきている。ここでは、上記の遺跡と重複している遺跡もあるが、ダム建設関連で本調査が行われた遺跡を下記に示す。

調査時期	遺跡名	調査成果	備考
平成5～7年	下原前II遺跡	縄文時代中期後半、後期前葉の住居、配石造構を主体に弥生、古代、中・近世の遺物を出土	岩槻文252集
平成8年	下原前IV遺跡	縄文時代草創期～前期、弥生時代後期の土坑検出、近・現代の焼土、炭窯検出	岩槻文269集
平成9年	栗前IIA地区遺跡	縄文時代早期末～前期を含む、後期中葉主体の住居跡、集石を検出	岩槻文288集
平成10年	穴山塚遺跡	半埋跡、穴張跡、余水吐、石積・水門	岩槻文311集
平成11年	栗前IIB地区遺跡	縄文時代後期前葉主体とした住居跡を検出 前期、晚期の遺物も出土	岩槻文343集
平成12年	大清水遺跡	縄文時代前期前葉～晚期の遺物出土。縄文時代を主な時代とする狩場跡	岩槻文373集
平成15年	峰谷遺跡	近代の上坑を検出	岩槻文455集
平成12～16年	大清水上遺跡	大型住居を伴う、縄文時代前期後葉を中心とした大規模な環状集落跡	岩槻文475集
平成18～	大平野Ⅰ遺跡	縄文時代中～後期の住居、土坑を検出、有舌尖頭器、弥生土器出土	岩槻文略報 第524集
平成19～	下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡	旧石器出土、近世の建物跡および墓塚を検出	
平成19～	坪洞Ⅱ遺跡	縄文時代後晩期の住居、土坑、近世の墓壙出土	

注) ダム建設区内の遺跡については、県教育委員会生涯学習文化課による範囲確認調査によって範囲や遺跡名が変更になったものも多い。現在、上記の下原前II遺跡は、隣接するIII遺跡を統合して下原前I遺跡に、同様に下原前IV遺跡は、下原前II遺跡として登録されているが、一覧表への掲載はこれに従っている。

また、当遺跡を含む一帯は旧仙北街道筋にあたり、下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡から大平野遺跡一帯まで、下嵐江（東下嵐江）として古くから文献にも載っている地区である。この地域の屋敷数は、「安永風土記」には、水沢町を除いて街道筋中18軒と最も多く記されており、また大平野Ⅱ遺跡南方にある渋民沢遺跡には旧駒山跡があって、金山（カネヤマ）下嵐江銀山として中世から江戸にかけて栄えた。この頃には更に多くの人々が住み、職種も様々だったようである。後には胆沢ダム入り口の市野々に移ったが、一時は番所が置かれたこともある。下嵐江部落の南東にそびえる猿山には「於呂闇志神社」があり、集落の厚い信仰を集めた。その神社の別当は、下嵐江部落のトヤ（高橋家）が代々司り旧仙北街道の人馬繼立・物資の管理などをも勤めるなど、政治的にも経済的にも更には宗教的中心的な役割を担っており、この周辺が重要な場所であったことが言えよう。

この地区では、昭和中頃までは小学校の分校（愛宕小学校前川分校、同石淵分校、同分校下嵐江校）が造られるほどの人家があったようだが、かつての石淵ダム、現在の胆沢ダム建設という二度にわたる事業により、家屋は取り払われ人けも全くない。

3 基本層序

平成19年度調査では、調査区が現道により分断されていたため、便宜的に北側調査区と南側調査区と名付けて区別した。基本土層は、地形改変が少ない北側調査区道路側で確認したが、その層序は以下のとおりである。

- I a層：黒褐色土 現表土（現森林腐植土）小礫含
層厚10～20cm
- I b層：黒褐色土 旧耕作土および腐植土小礫含
層厚30～40cm
- II 層：黒色土 部分的に礫多い
北側調査区高位部で未発達
崖錐性堆積物含 層厚15～30cm
- III 層：暗褐色土 IV層の漸移層
崖錐性堆積物全体に含
層厚20～30cm 繩文遺物包含層
- IV 層：明黄褐色粘土 遺構検出面
崖錐性の礫（拳大、人頭大）含む
地山 層厚1m以上



第4図 基本層序

北側調査区は地形分類図でもわかるように中起伏地で、南側調査区よりも傾斜を増しており、表土（I層）を剥ぐとすぐにIV層が検出された。それに対して、南側調査区ではI層とII層が発達している。また南側調査区の南側（標高347m以下）では、北側調査区を中心に全体的に拡がっていた崖錐性堆積物が極めて少なくなっている。



第5図 遺跡周辺図

III 野外調査と室内整理の方法

1 野外調査

(1) グリッドの設定

調査グリッドは、平面直角座標第X系(世界測地系)の座標軸を基準として、まず $50 \times 50\text{m}$ の大グリッドを設定した。大グリッドは、東西方向を西から東にローマ数字の I、II・・・、南北方向を北から南に A、B・・・とし、小グリッドはその中を $5 \times 5\text{m}$ に分割、東西方向を算用数字 1~10、南北方向を a~j の10等分した。そして、グリッドの表記は「IA1a」「IB2b」などのように、大・小グリッドの組み合わせとした。

各基準点の成果値と杭高(標高=H)は次のとおりである。

基 1	X = - 99940.000, Y = 4030.000, H=353.470m
基 2	X = - 100025.000, Y = 4030.000, H=346.927m
補 1	X = - 99940.000, Y = 4055.000, H=351.509m
補 2	X = - 99940.000, Y = 4085.000, H=348.499m
補 3	X = - 100000.000, Y = 4030.000, H=347.879m
補 4	X = - 100000.000, Y = 4050.000, H=347.036m

(2) 試掘・表土除去

便宜的に北側調査区・南側調査区と名付けたことは先述のとおりだが、それぞれの調査区において地形の傾斜に応じて試掘トレンチを設定し、表土の厚さや遺物の有無を確認した。結果、調査区全域で崖錐性の疊が厚く堆積していることが判明、人力による遺構検出は不可能と判断し、表土およびその下の黒色土・漸移層については重機によって除去した。

この周辺に人家がなくなりてから40年以上経っていることもあるあって、調査区内にも大小さまざまな立木があったらしく、伐採終了後であっても広く根を張った木根が多く残されていた。木根の除去については、遺構に影響がありそうなものはそのまま残し人力で根の処理を行った。

(3) 遺構の検出と精査

表土除去後には遺構検出作業を行ったが、その最中に見つかった遺物はグリッドごとに取り上げた。縄文時代の遺構については、堅穴住居跡は十字になるようベルトを設け(4分法)埋土の断面実測を、土坑等は半裁(2分法)にして断面実測を行い、その後完掘→平面実測と進めた。近世墓壙は、明らかに改葬されているものは、平面とエレベーションのみ記録した。柱穴は、柱あたりが確認されないものは検出状態で土層を観察した後に掘り上げた。

遺構名については、野外調査では検出順に遺構ごとに連番で登録し、いずれの年度においても室内整理の段階で遺構名を変更した。遺構は種類ごとに三桁の数字で表したが、百の位は時期(1は縄文、2は近現代、3は時期不明)を、それ以下は種類ごとの連番となっている。

野外調査における平面図作製は、平成19年度は概ね光波トランシット測量、平成20年度は遺り方測量で行った。図面の縮尺は、全体図(調査区範囲・等高線含む)を除いて、住居内の炉を $1/10$

で記録した以外は1／20を基本とした。

写真撮影は、近世墓壙や柱穴を除いて精査の段階ごとに撮影した。記録保存用として、35mmカメラ（モノクローム・カラーリバーサル）をフィルムごと各1台使用し、主たる遺構については中判カメラ（6×7cm判モノクローム）での撮影も行った。また、調査過程や状況写真なども含めて、補助的な撮影はデジタルカメラも併用した。

遺跡全体および遺跡周辺の空撮は委託撮影とし、調査終盤に小型飛行機により（モノクローム・カラーリバーサル）での撮影を行った。

（4）調査経過

当該遺跡の調査は、2カ年にわたって行った。年度ごとの調査経過は下記のとおりである。

<平成19年度>

- 5月1日（火） 調査開始（資材搬入・環境整備）
- 5月11日（金） 業者による雑木撤去
- 5月30日（月） 基準点設置完了（（株）ランド技術設計）
- 6月11日（月） 終了確認
- 6月20日（水） 空撮（（株）東邦航空）
- 6月22日（金） 調査終了・資材撤去作業

<平成20年度>

- 4月11日（金） 調査開始（資材搬入・環境整備）
- 5月28日（水） 終了確認
- 5月29日（木） 調査終了

2 室内整理

野外調査時に作製した図面の点検、遺物洗浄、接合・復元、写真整理等は、原則として野外調査と並行して行った。

遺構図面は、点検後に第2原図を作成した。挿図の縮尺は仕上がり1／40を原則とし、それぞれ図版内にスケールを付した。なお、繰り返しになるが、室内整理時において時代ごとに遺構名を変更・再登録し、掲載にあたっては時代ごとおよび遺構種類ごととした。縄文時代の遺構には101号～、近世遺構には201号～、時期不明遺構には301号～の番号を付した。

遺物は洗浄後に点検し、遺構内外に分けて登録・重量測定後、注記・接合・復元を行った。その後、掲載遺物を選択し、実測・トレース・写真撮影・図版作成と作業を進めた。

報告書に掲載した遺物の選択基準は、土器は、遺構内出土のもので実測可能なものの全て（小破片資料が多い場合は文様の明瞭なもの）、遺構外では接合復元である程度実測可能になったもの（口縁部、文様明瞭のもの優先）である。陶磁器類については、墓壙内出土はもちろん遺構外の出土ではあっても、遺構の年代に関わるものは一部掲載した。石器は、加工痕を有するものは全て掲載した。

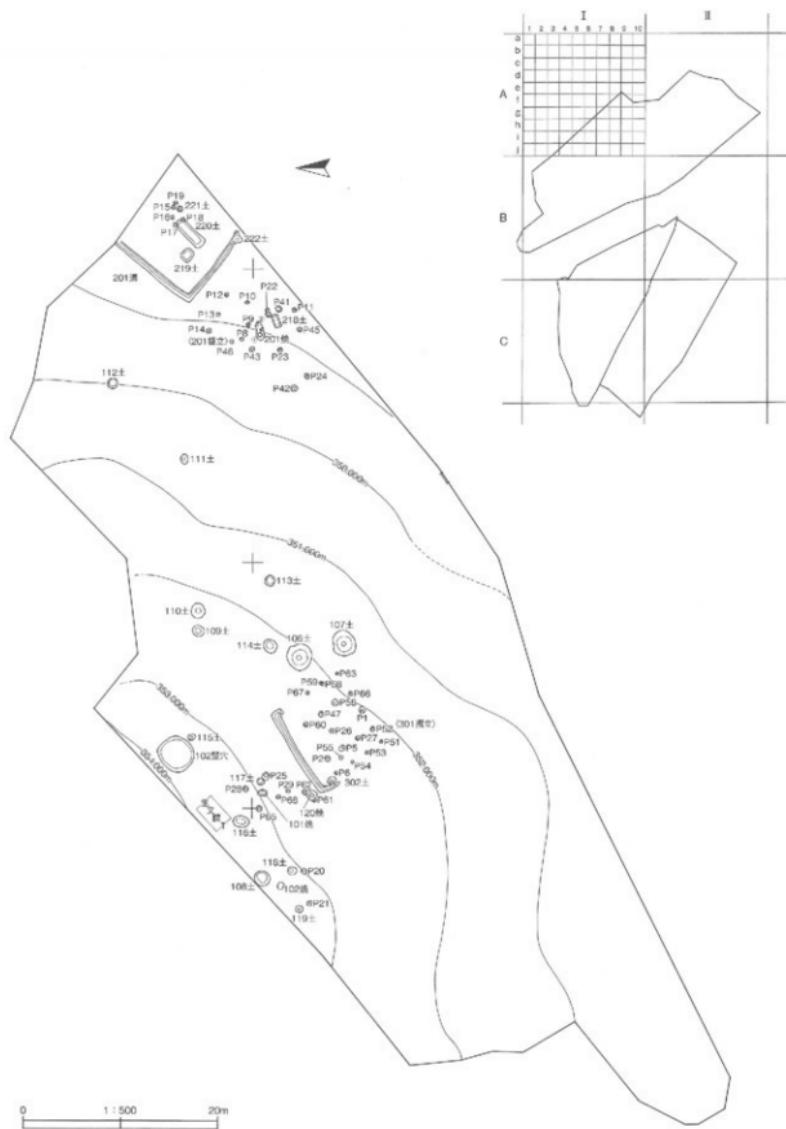
挿図中の縮尺は、土器類は1／3、石器類は1／2原則としているが、一部任意縮尺のものもある。

野外調査中に撮影した写真は、モノクロームはフィルムの規格ごとにネガアルバムに整理した。遺物は、報告書記載のもので立体遺物、陶磁器類、金属製品、石器は、キャノンEOS1D（1670万画素）で、土器破片資料はキャノンEOS5D（1280万画素）等を用いて、当センターの職員及び外注先の

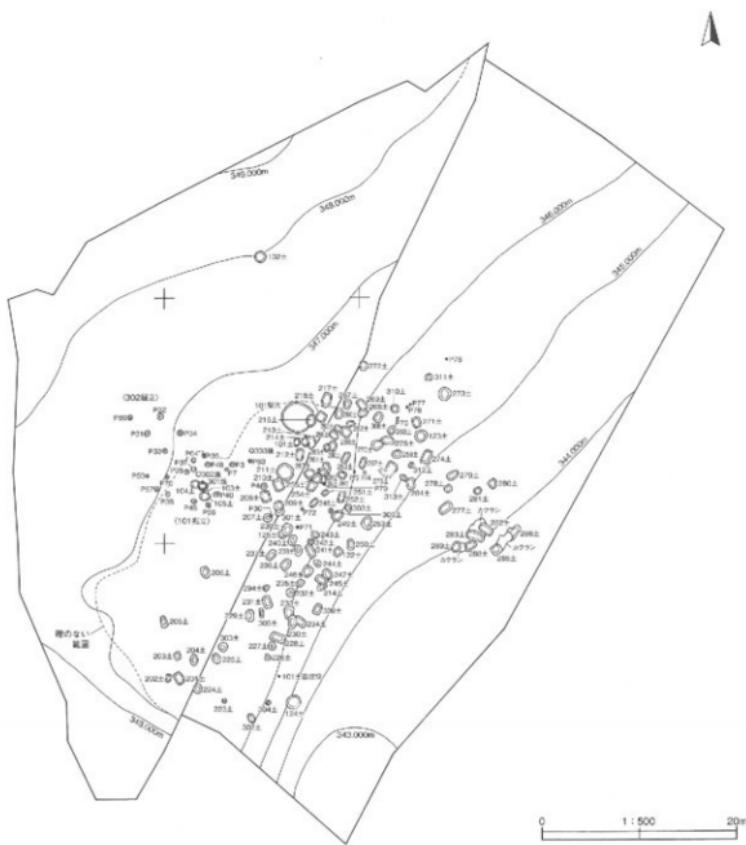
技術が撮影した。その際はRAWモード撮影を行い、当センター所有のハードディスクに遺跡名・遺構名・登録番号をつけ保存した。写真図版中の縮尺については、なるべく実測図版と同じになるようになしたが、小破片および大型製品については、見やすくするため任意の縮尺で掲載した。実測図版を参照していただきたい。なお、図版中の遺物番号と写真図版中の遺物番号は一致している。

参考文献・引用文献

- 岩手県教育委員会 2005 岩手県遺跡台帳（CD-ROM版）
- 胆沢町 1981 『胆沢町史Ⅰ 原始・古代編』
- 胆沢町 1982 『胆沢町史Ⅱ・Ⅲ 古代・中世編』
- 胆沢町 2000 『胆沢町史Ⅴ 近・現代編2』
- 胆沢町 2002 『胆沢町史VI 近・現代編1』
- 胆沢町 2004・2006 『胆沢町史Ⅶ 近・現代編2 前・中編』
- 岩手県教育委員会 1980 『岩手県「歴史の道」調査報告 船北街道』 岩手県文化財調査報告書第43集
- 宮城県 1970 『宮城縣史32』 資料編9
- 胆沢町教育委員会 1997 『安永風上記 記載百姓原數調べ』 胆沢町文化財調査報告書第19集
- 胆沢町教育委員会 1993 『胆沢グム建設に伴う緊急民族調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第14集
- 胆沢町教育委員会 1983 『胆沢古碑』
- 胆沢町教育委員会 2005 『胆沢町地名・歴史調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第32集
- 胆沢町教育委員会 1985 『大清水上遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第15集
- 胆沢町教育委員会 1988 『沢田遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第18集
- 胆沢町教育委員会 1995 『要害遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第26集
- 胆沢町教育委員会 1986 『宇南田遺跡剣玉報告書』 胆沢町文化財調査報告書第16集
- 胆沢町教育委員会 1981 『小十文字遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第11集
- 胆沢町教育委員会 1996 『石行遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第27集
- 胆沢町教育委員会 1991 『國分・芦の滝遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第21集
- 胆沢町教育委員会 1988 『浅野遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第17集
- 胆沢町教育委員会 1977 『徒町遺跡調査報告書』
- 胆沢町教育委員会 1984 『二木本遺跡調査報告書』 胆沢町文化財調査報告書第13集
- 胆沢町教育委員会 1992 『尼坂遺跡 - 第二次緊急発掘調査報告書 -』 胆沢町埋蔵文化財調査報告書第22集
- 胆沢町教育委員会 1993 『尼坂遺跡（東） - 第三次緊急発掘調査報告書 -』 胆沢町埋蔵文化財報告書第23集
- 胆沢町教育委員会 1993 『尼坂遺跡（西） - 第三次緊急発掘調査報告書 -』 胆沢町埋蔵文化財報告書第24集
- 胆沢町教育委員会 1994 『尼坂遺跡 - 第四次緊急発掘調査報告書 -』 胆沢町埋蔵文化財報告書第25集
- 高橋信雄・尾野清 1996 『日本の古代遺跡 51 岩手』 保育社
- (財) 岩桜文 1997 『下巻前Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第252集
- (財) 岩桜文 1998 『下巻前Ⅳ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第269集
- (財) 岩桜文 1999 『巻前II遺跡△地区発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第288集
- (財) 岩桜文 1999 『岩手県埋蔵文化財発掘調査報告書』 「穴山塙遺跡」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第311集
- (財) 岩桜文 2000 『巻前II遺跡B地区発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第343集
- (財) 岩桜文 2001 『大清水遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第373集
- (財) 岩桜文 2004 『岩手県埋蔵文化財発掘調査報告書』 「峰谷遺跡」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第455集
- (財) 岩桜文 2006 『大清水上遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第473集
- (財) 岩桜文 2008 『平成19年度発掘調査報告書 2008』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第524集



第6図 平成19年度北側調査区遺構配置図



第7図 平成19年度南側調査区・平成20年度調査区遺構配置図

IV 検出された遺構と遺物

1 検出遺構の内訳

平成19年度と平成20年度の2カ年の調査により検出された遺構数は、下表のとおりである。

遺構別	縄文時代					近世以降					時期不明				
	豊穴住居跡	掘立柱建物跡	土坑	焼土	柱穴状小土坑	掘立柱建物跡	土坑	墓壙	溝	焼土	柱穴状小土坑	掘立柱建物跡	土坑	焼土	柱穴状小土坑
平成19	2	2	21	2	5	1	4	18	1	1	15	2	1	3	11
平成20	0	0	4	0	0	0	0	72	0	0	0	0	13	0	9
合計	2	2	25	2	5	1	4	90	1	1	15	2	14	3	20

以下に年度別の調査結果を報告するが、いずれも遺構・遺物の順で記載する。

2 平成19年度調査

平成19年度の調査では、II-1「遺跡の位置と地理的環境」でも述べたように崖錐性堆積物（礫）が多く含まれており、特に北側調査区では一見遺構は確認できないかと思われたが、検出を重ねた結果、若干礫の少ない区域に遺構が構築されていることが判明した。いくつかの試掘トレンチをあけて土器や石器が出土した地点は、遺構の検出地点と一致している。南側調査区においては、礫の極めて少なくなる区域に並ぶように近世の墓壙やその他の遺構が造られ、いくつかの縄文時代の遺構を壊す状態で検出された。

前章で既述したが、以下に縄文時代の遺構は101号～、近世遺構は201号～、時期不明遺構は301号～で記述する。

(1) 遺構

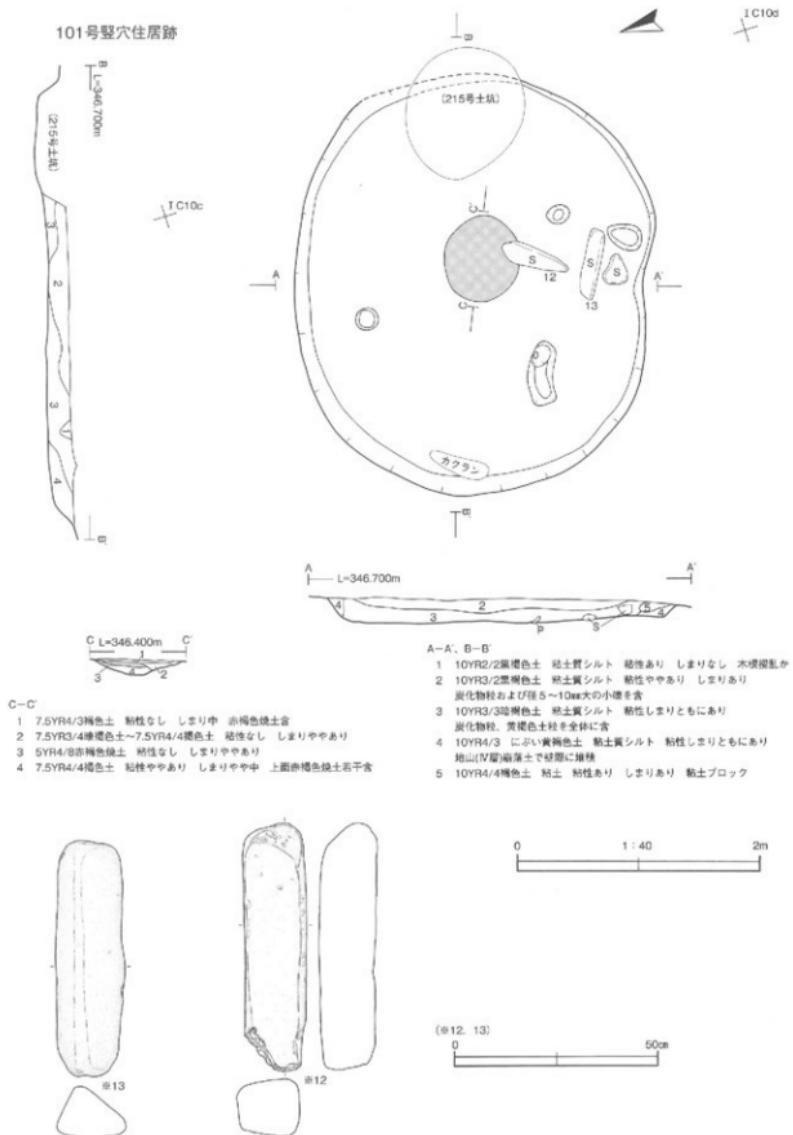
a 豊穴住居跡

調査区中央を横断する現道を挟んで、北側調査区最北と南側調査区最南に各1棟検出されている。

101号豊穴住居跡（第8図、写真図版3・4）

<位置> I C9c グリッド。

<概要> 南側調査区の礫の少ない区域より、暗褐色土の埋土の上面に炭化物や縄文土器片を含んで検出された。東南部において215号土坑（近世墓）と重複しており、擾乱を受ける。北西-東南方向に長軸があるやや楕円形を呈する。壁溝はなく、壁は緩やかに立ち上がる。やや東南寄りに地床炉があるが、焼土はさほど発達していない。床は締まり、凹凸は少ない。北-西-南に計4個の小柱穴があるが、東は上坑との重複部分にあたり確認できなかった。炉の南側の床面直上でやや平坦な自然礫とともに横位状態の石棒2点が出土している。いずれも、60cmほどの長さをもち、1辺15cm内外の柱状の自然礫である。奥羽山脈を産地とした安山岩で、22.6kg、16.5kgである。周辺にはこのような柱状



第8図 101号竪穴住居跡

の大型の自然礫はなく意図的に持ち込まれたものと判断した。2点のうち1点(12)は焼土の直上にあるものの被熱しておらず、もともとこの場所にあったものではない。立たせるとするならば支えや穴を掘る必要があるが、住居内ではそれらしいものは確認できなかった。縄文土器は小破片ばかりであるが、総出土量は1129.60gである。摩滅も著しく、縄文のみの地文がほとんどである。胎土や文様が卒うじて判断できる土器などから縄文時代後期中葉の可能性がある。

<規模>3.44×2.90m、壁高25cm、炉70×60cm(地床炉)、焼土厚12cm。

<柱穴>4個。<堆積土>4層 自然堆積。

<出土遺物>縄文土器(1~11)、石棒2点(12・13)。

<時期>出土遺物から、縄文時代後期中葉と思われる。

102号堅穴住居跡(第9図、写真図版4・5)

<位置>北側調査区IB7a・IB8aグリッド。

<概要>北側調査区の最も北端の緩斜面上に位置する。検出作業時は周辺と同様に礫が散在してはいたが、土器片が周辺よりも若干多く検出されたことにより遺構確認につながった。遺物出土は破片状態で埋土全体に見られたが、特に北西側で多く見られた。ほぼ円形を呈しており、壁の立ち上がりは垂直に近く全周に周溝を巡らせている。ほぼ中央に方形の石圓炉があり、長軸方向が2重となる。30cm前後の亜角礫を中心に、10cm前後の小亞角礫を配している。使用される回数が少なかったのか、焼土はほとんど見られない。焼土中からは遺物は出土していない。石圓炉の周辺には5個の主柱穴と見られる小土坑があり、南東には、出入口施設跡の柱穴と見られる小土坑が5個検出された。北側のみPP3・PP4と柱穴2個を確認しているが、その他の柱穴は単独であり、建て直し等も見られない。全体的に土器片が多く出土したが、当該遺構からの出土土器量は、総出土量の34%を超える割合で出土している。PP1付近からの出土が最も多く、ほとんどが深鉢である。石器は、床面直上よりやや上層であるが、PP3・PP4付近(北側)に多く見られた。同じ縦型の石匙であるが、形状の異なる石匙の他、39・41など石製品と思われるものも出土している。39は、他の場所からも見つかっているが、いずれも5cm以内で円柱状に一部調整した痕(擦り)がある。41は、明確な加工(調整)痕は見当らないが、自然に入るようなものではなく持ち込まれたものと見てよい。

<規模>3.56×3.45m、壁高24cm、炉75×65cm(右開か)、周溝幅約10cm・深さ12cm、主柱穴5個、出入口柱穴5個。

<堆積土>4層+1層(周溝)、自然堆積。

<出土遺物>縄文土器(14~34)、石器(35~41)。

<時期>20・26など出土遺物から縄文時代晚期後葉の土器が出土しており、同時代の遺構と考えられる。

b 挖立柱建物跡

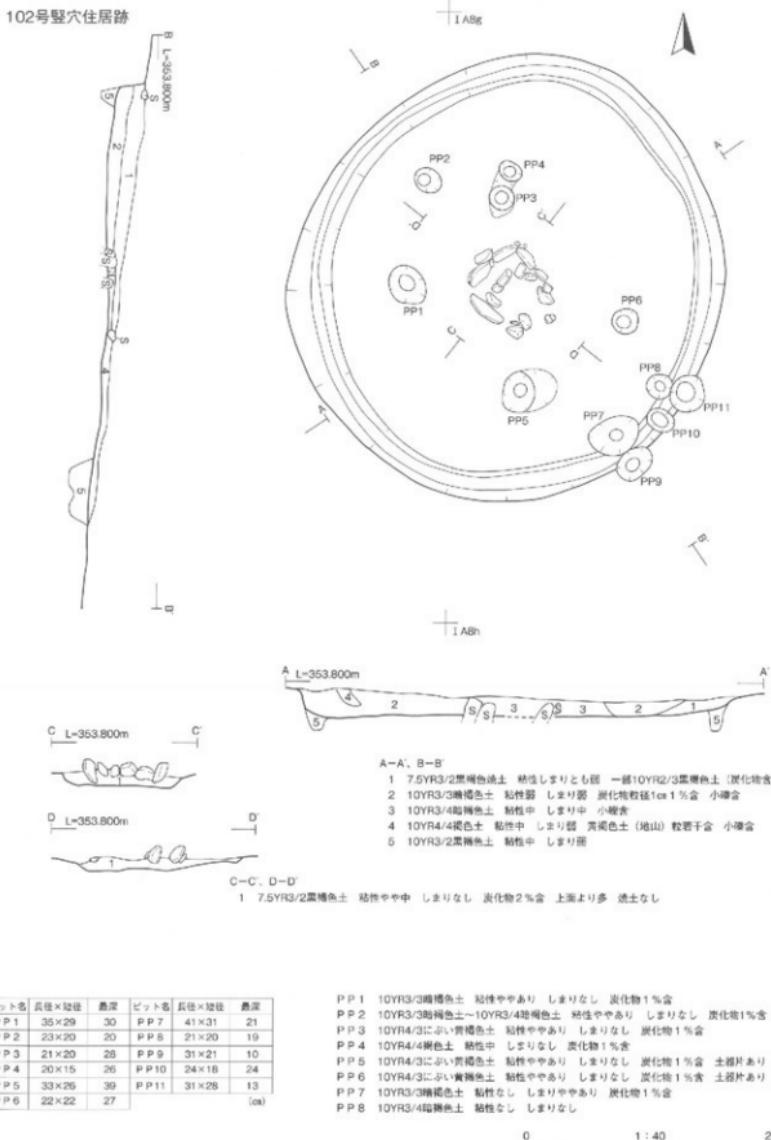
北側調査区に3棟、南側調査区に2棟検出された。時期は縄文時代と思われる2棟、近世と思われるもの1棟、時期不明のもの2棟である。

101号掘立柱建物跡(第10図、写真図版5)

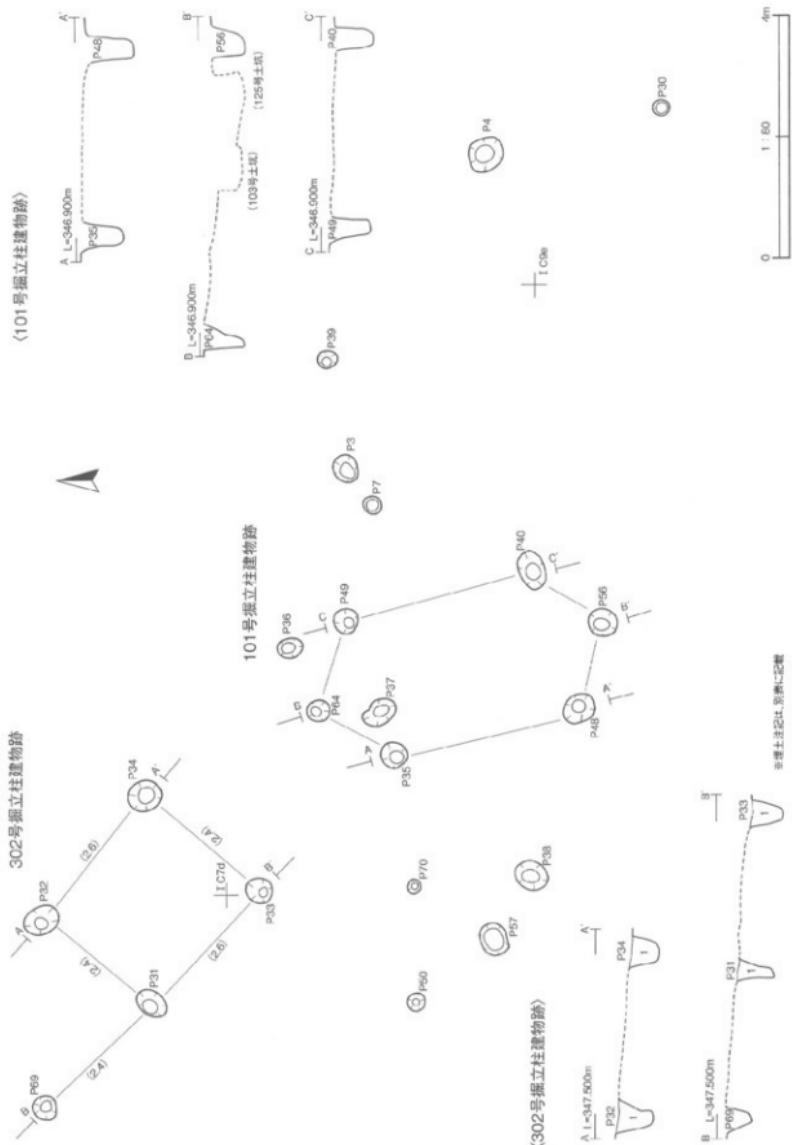
<位置>南側調査区IC7d・IC7eグリッド。

<概要>南側調査区のはば中央から検出された。ここは近世墓壙が全く検出されない場所で、周辺に

102号竪穴住居跡



第9図 102号竪穴住居跡



第10図 101・302号振立柱建物跡

縄文土器片が散在していた。また、P48は検出面に拳大の礫が数個かたまって見つかっており、礫を取り去り発見した柱穴である。北北西－南南東に長軸をもち、亀甲形に6本の柱を配する。使用される柱穴はP35・P40・P48・P49・P56・P64である。直径は38～65cmほどで、いずれも60cm以上の深さをもつ。P35では石器が、P48・49・56からは縄文土器片が出土している。P48出土の土器（44・45）は、磨消繩文が施されている。

＜規模＞ 長軸4m90cm、短軸2m30cm、亀甲形6本柱の建物跡。 ＜軸方向＞N-17°-W。

＜出土遺物＞縄文土器（42～47）。

＜時期＞遺物から縄文時代後期前葉と思われる。

102号掘立柱建物跡（第11図、写真図版5）

＜位置＞I B7c グリッド。

＜概要＞北側調査区の北西端での検出である。北北西－南南東を軸とする。使用される柱穴はP25・P28・P29・P65である。標高の高い位置にある2本の柱の径は50cm強で、2つの底面の標高値もほぼ同じであるが、P68は若干径が小さくなる。P25は径が70cmを超すが、117号土坑の重複が関係していると思われる。P25・P65からは土器片が出土している。

＜規模＞ 長軸2m50cm、短軸2m40cm、4本柱の建物跡。 ＜軸方向＞N-25°-W。

＜出土遺物＞縄文土器（48～52）。

＜時期＞出土遺物から縄文時代後期前葉～中葉と思われる。

201号掘立柱建物跡（第12図）

＜位置＞II B6b・6c・7b・7c グリッド。

＜概要＞北側調査区の南西、現道寄りにて検出された。使用される柱穴はP10・P12・P13・P14・P22・P43・P44・P46である。西北西－東南東を軸とする。北西側の間尺（北西15.7尺－南東15尺）が若干広がるが、同一建物の柱穴とした。南端の柱穴P22から60cmほど南に離れた所で新寛永通賀が出土した218号土坑が検出された。元の地権者の話によるとこの周辺に建物は一切なかったそうで、のことから218号墓壙よりも古い建物跡と判断した。

＜規模＞ 柁行2間×梁間2間。 ＜軸方向＞N-21°-E。 ＜出土遺物＞なし。

＜時期＞状況から近世以降と考えられる。

301号掘立柱建物跡（第13図、写真図版16）

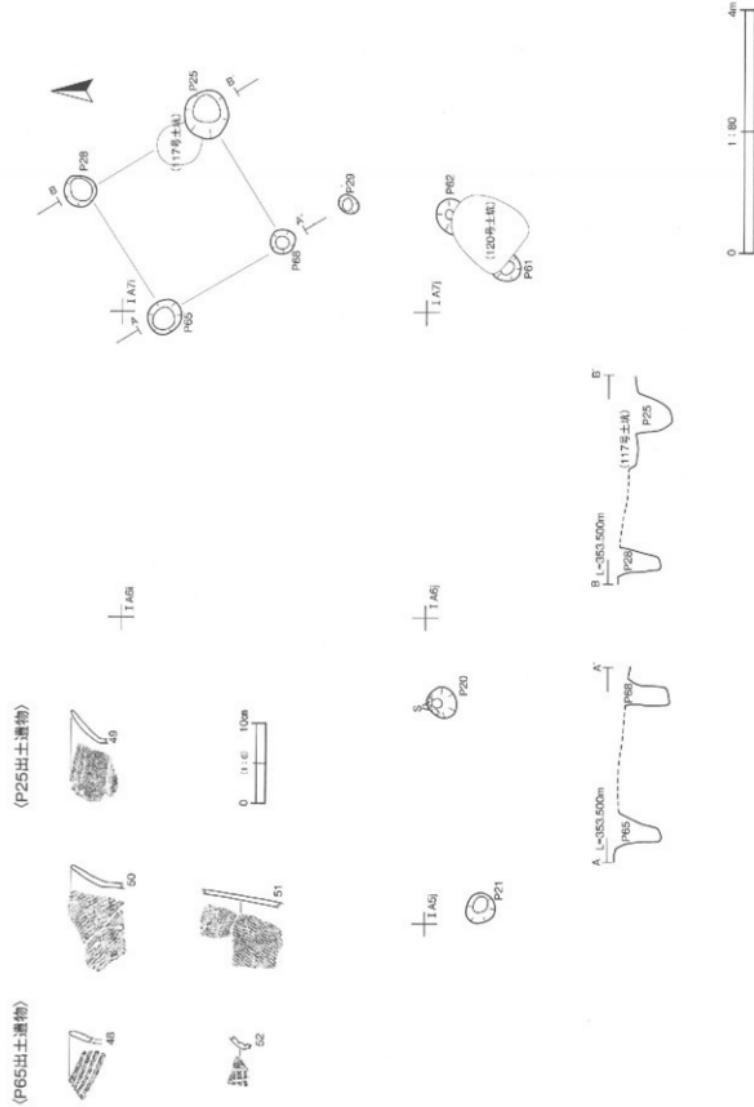
＜位置＞I B7d・8c・8d・8e・9d・9e グリッド。

＜概要＞北西－南東を軸とし、西側には庇をもつ。当初検出時には溝のみが見つかっていたが、後に柱穴群が伴うことが判明した。溝と建物の方向・規模などから、この溝は排水溝と考えた。また、主となる柱穴は大きめであるが、いずれにも柱痕跡は認められなかった。これらには円形のものとやや方形のものがある。P60では埋土上～中位に礎石のような平らな礫が確認された。調査時は、柱穴の規模から二面庇の可能性も想定したが、北端の柱穴は見つかなかった。付近には木根もあったため壊された可能性も否めないが、西側との間尺も大分異なることから庇ではないと判断した。

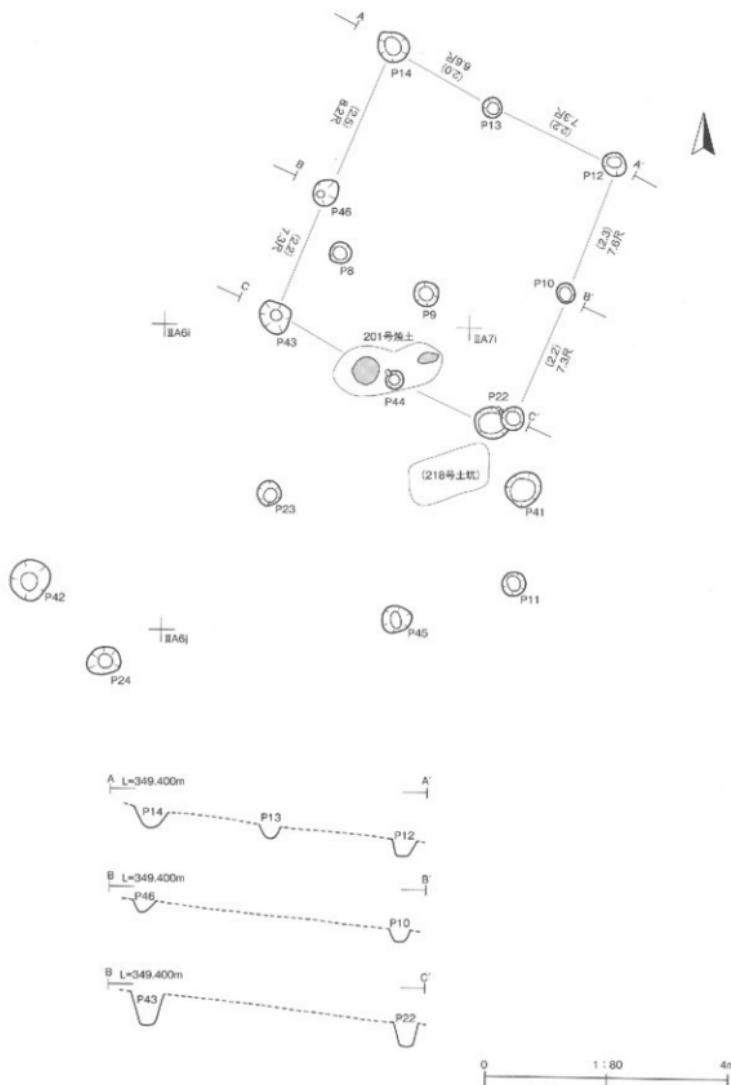
＜規模＞ 柁行3間（間尺18m）×梁間4間（2.1m、東部分2.5m）、底部1.7m。

＜軸方向＞N-32°-W。 ＜溝＞全長9m80cm、幅7.8cm、深さ30cm。

＜柱の堆積土＞近世遺構や縄文遺構の柱穴の埋土とは異なる。



第11図 102号据立柱建物跡



第12図 201号掘立柱建物跡

＜出土遺物＞柱穴の北側を巡る溝から縄文土器（53）や石器（54～58）が出土したが、これより傾斜の高い位置に縄文時代の遺構があることから、本遺構の時期を示す遺物ではないと判断した。

＜時期＞特定される遺物が伴わないので、時期は不明である。

302号掘立柱建物跡（第10図、写真図版6）

＜位置＞I C6c・7c・7dグリッド。

＜概要＞101号掘立柱建物跡よりも更に北側に位置する。北西－南東を軸方向とする。使用される柱穴はP31・P32・P33・P34・P69である。建物跡とするには柱穴数が少ないが、他に見つけることができなかった。

＜規模＞桁行2間（？）×梁間1間（？）。 ＜軸方向＞N-43°-W。

＜柱間＞北西－南東2.4、2.6m、北東－南西2.3m。

＜出土遺物＞P31より縄文土器の小破片が出土している。

＜時期＞縄文土器片が出土した柱穴はあるが、出土状況や埋土状の状況などから、当該時期のものとは言えず時期は不明である。

c 土坑

北側・南側の両調査区で確認された。縄文時代と思われる土坑が21基、近世土坑が4基（うち2基は墓壙の可能性もあり）、近世墓壙が18基、時期不明土坑が1基である。

101号土坑（第14図、写真図版6）

＜位置＞I C9c・9dグリッド内。

＜概要＞南側調査区の101号竪穴住居跡の南側に位置する。平面形は円形で、断面はややフ拉斯コ状である。埋土はほぼ単層だが、中位にわずかに焼土粒を含んだ層を有する。縄文土器片が出土しているが、小破片の上に摩滅しており時期は明確でない。

＜規模＞73×68cm、深さ23cm。 ＜堆積土＞2層に分層される。人為堆積か？。

＜出土遺物＞縄文土器（59・60）。

＜時期＞出土遺物や周辺の堆積土、形状などから縄文時代後期と思われる。

102号土坑（第14図、写真図版6）

＜位置＞I B8j・9jグリッド内。

＜概要＞南側調査区の中で最も北寄りから検出された遺構である。平面形は円形で、断面は鍋底状、底面に2個の小ピットを有する。埋土中位から縄文土器がまとまって出土している。

＜規模＞138×1.17m、深さ22cm、(P P 1)41×35cm、深さ8.7cm、(P P 2)32×27cm、深さ17.1cm。

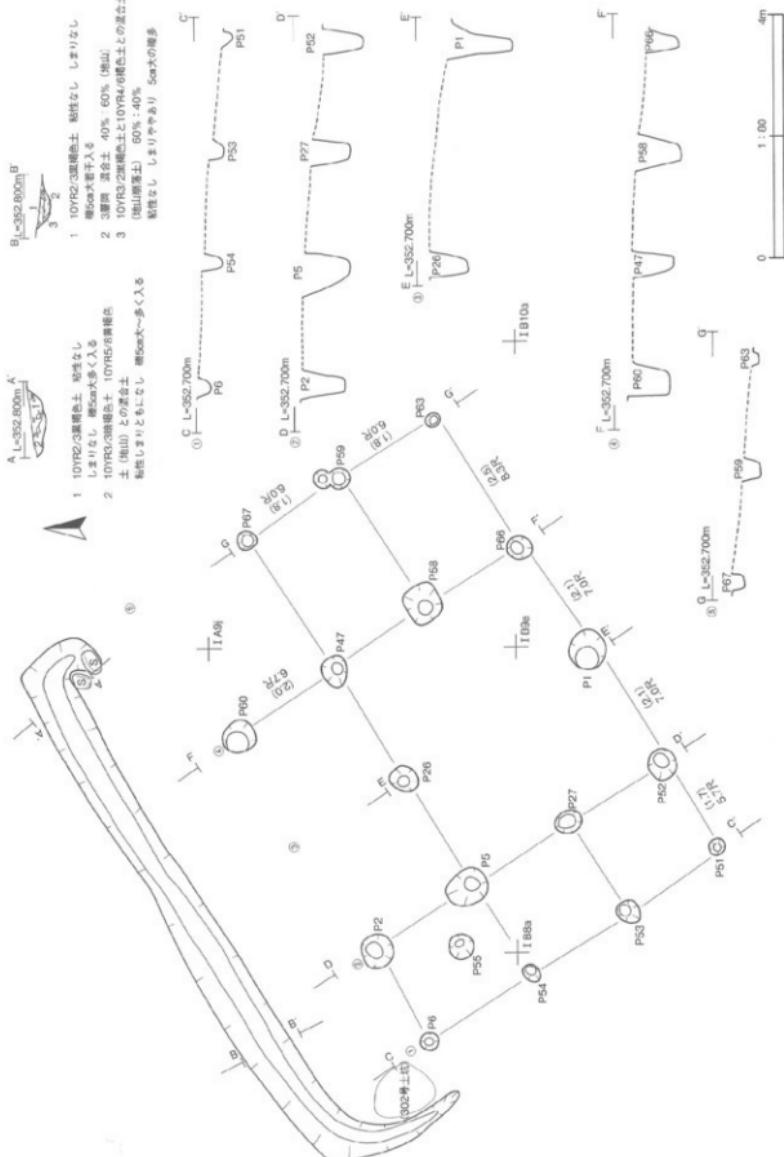
＜堆積土＞2層に分層される。人為堆積か？。 ＜出土遺物＞縄文土器（61～64）。

＜時期＞出土遺物から縄文時代後期か。

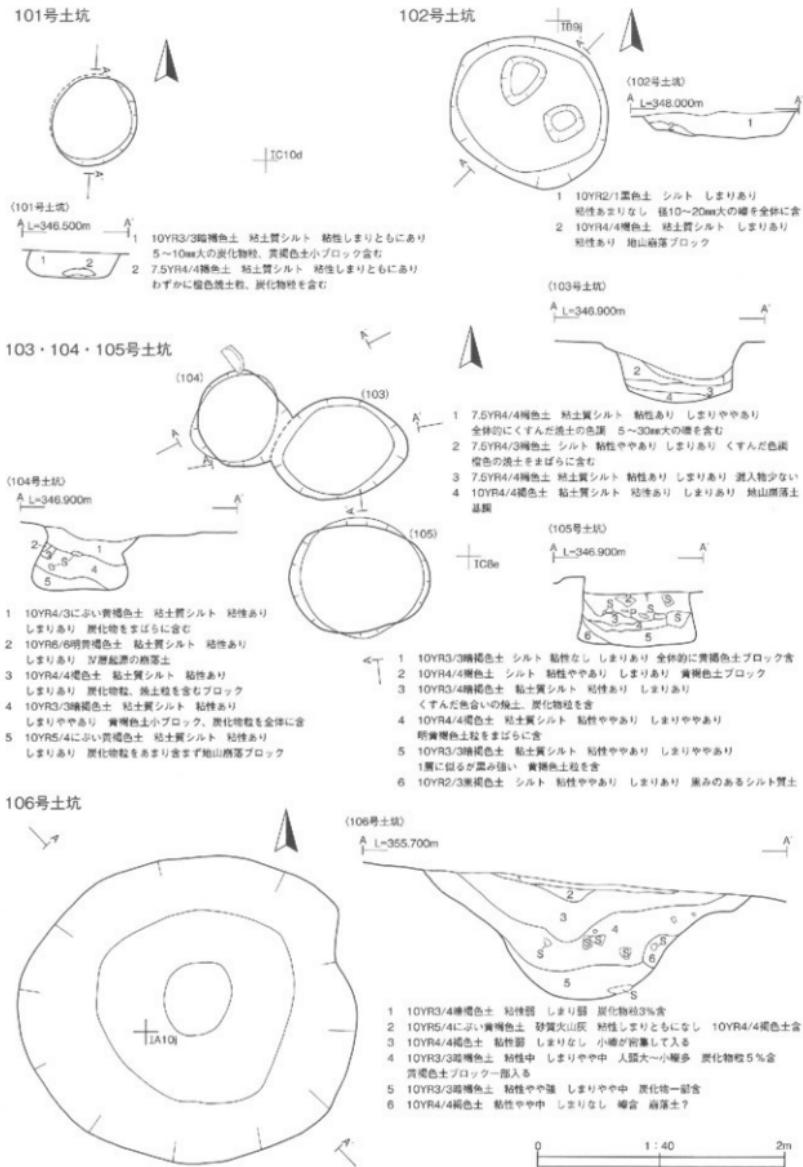
103号土坑（第14図、写真図版7）

＜位置＞I C7dグリッド。

＜概要＞南側調査区のほぼ中央に位置する。北東壁は104号土坑と重複し、当該遺構のほうが新しいと思われる。南には105号土坑がある。この遺構の検出前には301号焼土が上面を覆っており、その焼



第13図 301号掘立柱建物跡



第14図 101~106号土坑

土を掘り下げるところ見つかった土坑である。焼土との関わりははつきりしない。平面形は梢円形で、ピーカー状の断面である。縄文時代後期前葉の土器が出土している。

＜規模＞ $1.12 \times 0.82\text{m}$ 、深さ48cm。＜堆積土＞4層に分層される。

＜出土遺物＞縄文土器（65～67）、石器（68）。

＜時期＞検出面、埋土、周辺の出土遺物、遺構等から縄文時代後期と思われる。

104号土坑（第14図、写真図版7）

＜位置＞I C7d グリッド。

＜概要＞南側調査区のはば中央で103号土坑と重複している。当該遺構が古い。規模は103号土坑よりも小さい。平面形は円形、断面はフラスコ状を呈する。摩滅した縄文土器が出土している。70～72は同一個体の深鉢片である。

＜規模＞ $75 \times 70\text{cm}$ 、深さ52cm。

＜堆積土＞5層に分層されるがうち2層は壁の崩落土と見られる。人為堆積の可能性もある。

＜出土遺物＞縄文土器（69～72）。

＜時期＞遺構重複関係や遺物から縄文時代後期か。

105号土坑（第14図、写真図版8）

＜位置＞I C7d・8d グリッド内。

＜概要＞南側調査区のはば中央103号土坑の南側に位置する。平面形は円形、断面はフラスコ状を呈する。埋土から縄文時代中期末の土器（73-76）が出土しているが、流れ込みの可能性も否定できない。周辺の土坑や柱穴のいずれからも同様の時期の土器は見つかっていない。礫を多く含む。

＜規模＞ $1.14 \times 0.92\text{m}$ 、深さ54cm。＜堆積土＞6層に分層される。自然堆積か？。

＜出土遺物＞縄文土器（73～76）。

＜時期＞縄文時代中期末と断定できないが、周辺の遺構よりも古い可能性が高い。

106号土坑（第14図、写真図版7）

＜位置＞I B9c・9d・10c・10d グリッド。

＜概要＞検出時の規模から住居跡の可能性をもちながら精査をした土坑である。平面形は円形、断面形は壘鉢状である。2層目には火山灰が堆積していたが、分析の結果上和田a降下火山灰の可能性が示された。この火山灰は、当該遺構のほかに107号土坑の埋土、北側調査区南西部で確認されている。4層上面の北西壁際からは、略完形の深鉢形土器（83）が出土している。その他、口縁部に4条の平行沈線を巡らせているもの（80）や、口唇部に刻目をもつもの（77）なども出土している。また、南東壁際および床面で径が40cmほどの亜角礫が出土しているが、その出土状況から床面に据えられたものかどうかは疑問が残る。

＜規模＞ $2.76 \times 2.49\text{m}$ 、深さ1.03m。

＜堆積土＞6層に分層されるが、下位層の4・5層は人為的な可能性もある。

＜出土遺物＞縄文土器（77～83）、石匙（85）や4面に凹みを有する四石（84）など礫石器（86～88）も多く出土している。当該遺構の土器出土量は、総出土量の約11.7%を占める。

＜時期＞縄文時代晚期後葉と思われる。

107号土坑（第15図、写真図版8）

＜位置＞IB9eグリッド。

＜概要＞北側調査区、106号土坑の2m南側に位置する。106号土坑とほとんど同規模で、壁は当該遺構のほうがより鋭角に立ち上がる。

＜規模＞2.74×2.41m、深さ1.20m。

＜堆積土＞5層に分層したが、3層と4層は礫の入り具合で分けたもので、同一層と考えられる。これには人頭大の角縁を含み、その下からは小縁が組まれたような状態で出土している。106号土坑同様、堆積状況に一部人為的な様子が窺える。

＜出土遺物＞縄文土器の深鉢底部（90）と別個体の口縁部破片（89）、薄手の有茎石器（91）1点が出土している。

＜時期＞縄文時代晩期中葉か。

108号土坑（第15図、写真図版8）

＜位置＞IB5cグリッド。

＜概要＞北側調査区の北側から検出した。平面形は円形で、断面形はフラスコ状になると思われる。埋土上位には小縁が多く含まれているが、埋土中位から下位にかけては縄文土器片が多く出土した。3層には暗褐色土の焼土細粒が含まれている。

＜規模＞1.56×1.47m、深さ96cm。

＜堆積土＞5層に分層される。埋土下位については人為堆積の可能性がある。

＜出土遺物＞磨削縄文を特徴とする縄文時代後期前葉～中葉の土器片（92～101）や疊石器（102・103）が出土している。

＜時期＞縄文時代後期前葉～中葉。

109号土坑（第15図、写真図版8）

＜位置＞IB10aグリッド。

＜概要＞北側調査区での検出である。平面形はややいびつな楕円形で、底面は鍋底状である。2層上面には、10cm前後の礫とともに土器片がまとまって出土した。

＜規模＞1.34×1.09m、深さ46cm。

＜堆積土＞2層に分層され、2層目は人為堆積の可能性もある。

＜出土遺物＞深鉢の胴～底部の縄文土器片（104～106）で、時期が明確にわかるものはない。その他、磨石（107）と被熱した人頭大の縁（108）が出土している。

＜時期＞縄文時代。

110号土坑（第15図、写真図版9）

＜位置＞IB10bグリッド内。

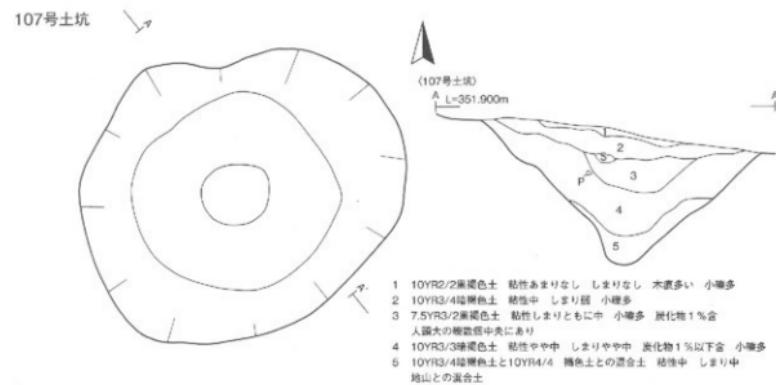
＜概要＞109号土坑から約40cm東で検出された土坑である。平面形は円形、断面形は擂鉢状である。

＜規模＞1.48×1.47m、深さ48cm。

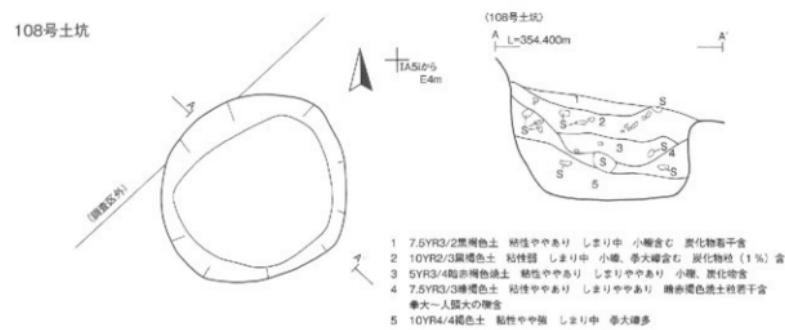
＜堆積土＞単層である。上位では10cm強の縁が入り込む。人為堆積の可能性もある。

＜出土遺物＞薄手の壺と見られる無文土器（110）が出土している。109は底部のみだが、胎土が似ていることから110の底部の可能性もある。

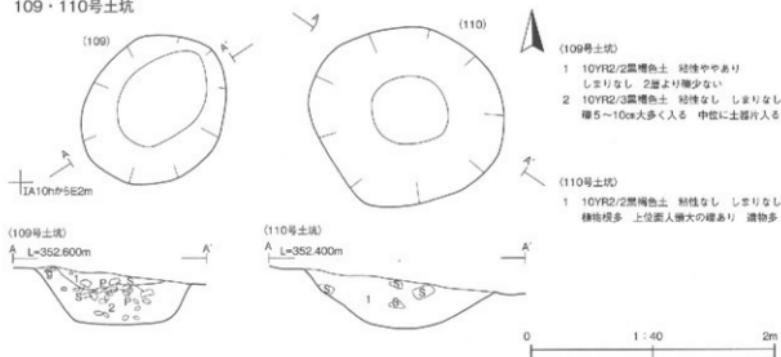
107号土坑



108号土坑



109・110号土坑



第15図 107～110号土坑

<時期>遺物から縄文時代晚期。

111号土坑（第16図、写真図版9）

<位置> II B4 a グリッド内。

<概要>検出時に遺構の中央部付近から土器片が出土している。平面形は橢円形、断面は壠り鉢状である。

<規模>97×69cm、深さ32cm。

<堆積土>単層である。上位には拳大の礫を含む。人為堆積かどうかは不明である。

<出土遺物>口唇部に刻目が施される地文のみの深鉢（111・112）が出土している。

<時期>遺物から縄文時代晚期後葉と思われる。

112号土坑（第16図、写真図版9）

<位置> II A5 j グリッド内。

<概要>北側調査区の最も西寄りで検出された土坑である。近くに南流する沢があり、その沢沿いに他にも遺構がありそうであったが、本遺構以外には確認できなかった。平面形はほぼ円形で、底部は鍋底状である。

<規模>1.05×0.88m、深さ40cm。

<堆積土>単層である。埋土中位からは拳大の礫が多く含まれる。

<出土遺物>摩滅した縄文土器の小片（113）が出土している。

<時期>縄文時代と思われるが詳細は不明である。

113号土坑（第16図、写真図版9）

<位置> II B1 c グリッド。

<概要>北側調査区114号土坑から東に5mほどのところで検出された。北側調査区において、本遺構よりも標高の低い場所では縄文時代の遺構は見つかっていない。平面形は円形で、断面形はビーカー状を呈する。

<規模>1.00×1.00m、深さ38cm。

<堆積土>3層に分層される。自然堆積と思われる。

<出土遺物>工字文が施された小型の土器（114）が出土している。

<時期>縄文時代晚期後葉と考えられる。

114号土坑（第16図、写真図版10）

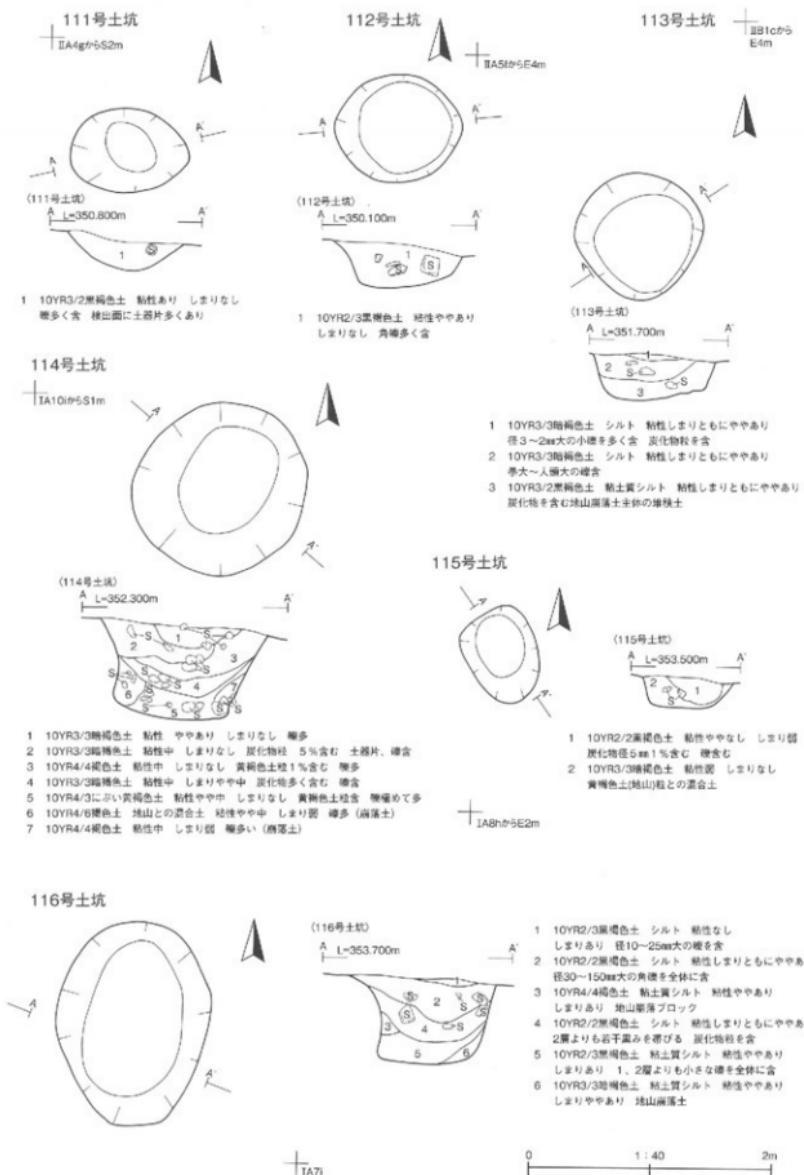
<位置> I B10 c グリッド。

<概要>北側調査区の壠鉢状の大甕土坑である106号土坑から約1m北東に位置する。平面形は円形、断面形はビーカー状を呈する。埋土上位から下位まで5cm内外の小礫を多く含み、埋土中位からは突起、刻目、段差のない磨消繩文が施された縄文土器（117～120）などが出土した。それらの土器の下層は炭化物を多く含む層が形成されていた。

<規模>1.44×1.37m、深さ84cm。<堆積土>7層に分層される。自然堆積と思われる。

<出土遺物>縄文土器（117～124）、打製石斧（125）

<時期>出土遺物から縄文時代晚期中葉と考えられる。



第16図 111~116号土坑

115号土坑（第16図、写真図版11）

＜位置＞IB8aグリッド内。

＜概要＞北側調査区の102号堅穴住居跡の南東に接するように検出された。平面形は楕円形、断面は鍋底状を呈している。

＜規模＞74×60cm、深さ26cm。

＜堆積土＞2層に分層される。全体に小礫が多く入り込む。人為堆積の可能性が高い。

＜出土遺物＞縄文時代晚期の土器片（126）が出土している。

＜時期＞出土遺物から縄文時代晚期中葉か。

116号土坑（第16図、写真図版10）

＜位置＞IB6bグリッド。

＜概要＞北側調査区の102号掘立柱建物跡の北西側に位置する。平面形は楕円形で、断面はビーカー状である。埋土上位～下位まで磨消縄文が施された縄文土器が出土した。

＜規模＞1.68×1.24m、深さ73cm。

＜堆積土＞6層に分層される。中位の2～4層までは、拳大の礫や5cm内外の小礫が含まれる。自然堆積と考えられる。

＜出土遺物＞128～131は、平行沈線と磨消縄文が施された波状口縁を持つ土器である。133は縦位の条線が描かれている。137・138は石製品であるが、ともに断面形が円形に近い。石棒に類するものであろうか。

＜時期＞縄文時代後期前葉。

117号土坑（第17図、写真図版10）

＜位置＞IB7cグリッド。

＜概要＞北側調査区の101号焼土のわざか50cm東に位置する。102号掘立柱建物跡のP25と重複関係にあり、当該遺構のはうが古い。平面形はほぼ円形、断面形は鉢鉢状になると思われる。

＜規模＞70×(68)cm、深さ28cm。

＜堆積土＞単層でしまりあまりなく、人為堆積の可能性がある。

＜出土遺物＞なし。

＜時期＞縄文時代後期中葉の土器片（49）が出土したP25（102号掘立柱建物跡）に壊されているため、それ以前の時期の可能性が高い。

118号土坑（第17図、写真図版10）

＜位置＞IB5cグリッド。

＜概要＞北側調査区108号土坑の2m南に位置する。埋土全体に小礫が含まれるが、上位にやや大きめの角礫が入り込む。5m東には102号掘立柱建物跡が、本遺構の1m北西側には7号焼土がある。

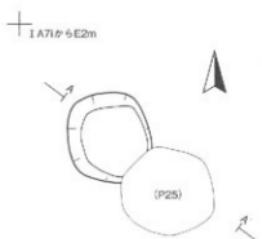
＜規模＞1.1×0.9m、深さ80cm。

＜堆積土＞2層に分層されるが、このうちの1層は崩落土であり、本来の堆積土は単層である。

＜出土遺物＞摩滅している土器片ばかりで、縄文が認められたのは1点（139）のみである。

＜時期＞縄文時代ではあるが、詳細は不明である。

117号土坑



(117号土坑)

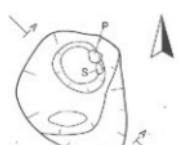
A L=353.300m

I A71からE2m

1 10YR4/4褐色土 粘性器 しまりやあり 小穂多く含

1 10YR4/4褐色土 粘性器 しまりやあり 小穂多く含

118号土坑



(118号土坑)

A L=353.600m

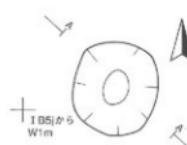
I A51からE4m

1 10YR3/3暗褐色土 粘性やや弱 しまり器 混化物1%

2 5~20cm大含

2 10YR5/8青褐色土 粘性器 しまりやあり 崩落土?

119号土坑



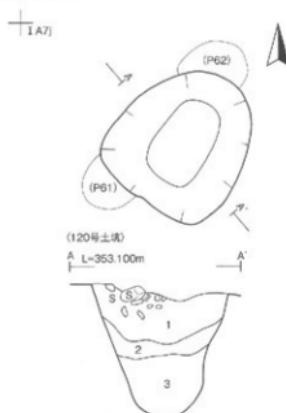
(119号土坑)

A L=353.700m

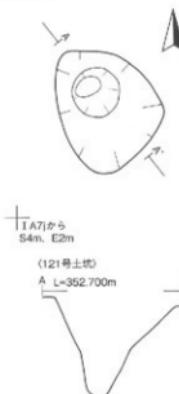
I B51からW1m

1 10YR3/3暗褐色土 粘性器 しまり器
2 5~20cm大含

120号土坑

1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり
径5~200mm大の大小繊を含2 10YR4/6褐色土 シルト 粘性しまりとともにややあり
径30~50mm前後の繊を含3 10YR4/4褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあまりなし
径30~200mm大の繊を全体に含 崩落土主体

121号土坑

I A71から
S4m, E2m

(121号土坑)

A L=352.700m

0 1:40 2m

第17図 117~121号土坑

119号土坑（第17図、写真図版11）

<位置> I B4c・4d グリッド。

<概要> 北側調査区の検出遺構の中で最も西側に位置する。平面形は円形、断面形は擂鉢状である。形状から柱穴状土坑の可能性もある。小礫が多く入り込む。

<規模> 77×69cm、深さ68cm。

<堆積土> 砂を含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物> 繩文土器と見られる土器片が数点出土したが、いずれも摩滅している。

<時期> 118号土坑と同様、縄文時代とは思われるが詳細は不明である。

120号土坑（第17図、写真図版11）

<位置> I B7d グリッド。

<概要> 北側調査区の301号掘立柱建物跡の北西に位置しているが、建物跡よりも一段高いところにある。2個（P61・P62）の柱穴状小土坑と重複しており、本遺構の方が新しい可能性が高い。平面形は略楕円形で、深さの割に底面は平らではなく擂鉢状を呈する。埋土上位に礫が多く入り込み、摩滅した縄文土器片を含む。

<規模> 12×1.1m、深さ110cm。

<堆積土> 3層に分層される。堆積状況は自然堆積とは言い難い。

<出土遺物> 119号土坑と同様、数点出土したが、いずれも摩滅している。

<時期> 縄文時代後期以降か。

121号土坑（第17図）

<位置> I B7d グリッド。

<概要> 北側調査区の301号掘立柱建物跡施設内にある土坑である。位置的に、掘立柱建物跡に付属するものとは捉えがたく、埋土の状況から縄文時代の遺構と判断した。断面形などから柱穴状小土坑の可能性も否めない。

<規模> 1.00×0.82m、深さ81cm。 <堆積土> 不明。

<出土遺物> 磨消繩文、入組文が施された縄文時代後期前葉の土器が出土している。（142・143）

<時期> 遺物から縄文時代後期前葉か。

201号土坑（第18図、写真図版11）

<位置> I C7h グリッド。

<概要> 南側調査区の南寄りでの検出である。周辺には202～205号土坑がある。平面形はやや楕円形に近い長方形で、断面形はビーカー状である。底面の中央あたりから古銭6枚と釘が出土している。形状、埋土、遺物から近世墓と判断した。埋土から改葬済みと思われるが、これらの遺物はその際に残されてしまったものと考えられる。

<規模> 1.29×0.98m、深さ44cm。 <長軸方向> N-30°-W。

<堆積土> 黄褐色土と褐色土との混合土の単層。

<出土遺物> 古寛永3枚、新寛永3枚（いずれも文銭）、釘。

<時期> 文銭が含まれることから、17世紀後半以降か。

202号土坑（第18図、写真図版11）

<位置> I C7h グリッド。

<概要>201号土坑の西隣にて検出された。底面付近から古銭6枚が出土している。また、凝灰岩製かと思われる摸造鏡らしきもの（156）が出土している。近世墓である。

<規模>79×54.3cm、深さ33cm。 <長軸方向> N - 20° - E。

<堆積土>2層に分層され、黒色土が底面より上面近くまで堆積している。埋土状況からこの遺構は未改葬と思われる。

<出土遺物>古寛永5枚、新寛永1枚（文鏡）、摸造鏡1枚。

<時期>文鏡が含まれることから、17世紀後半以降か。

203号土坑（第18図、写真図版12）

<位置> I C7h グリッド。

<概要>201号土坑の北側1mに位置する。埋土の上～中位にて古銭が出土している。平面形は正方形である。削平されているため浅い。

<規模>86×76cm、深さ28cm。 <長軸方向> N - 22° - W。

<堆積土>201号土坑や202号土坑とは異なる単層の埋土で、これらの土坑よりも古く感じられる。

<出土遺物>古寛永6枚、咸平元寶（北宋錢）1枚。

<時期>古寛永と渡来鏡のみということで、17世紀中頃以降か。

204号土坑（第18図、写真図版12）

<位置> I C7h グリッド。

<概要>203号土坑の東隣に位置する。楕円形を呈し、長軸は203号土坑と同じくする。出土遺物はないものの形状、検出位置から近世墓と思われる。

<規模>1.03×0.78m、深さ33cm。 <長軸方向> N - 19° - W。

<堆積土>単層で203号土坑と類似。

<出土遺物>なし。

<時期>近世以降だが、203号土坑と同時期の可能性が高い。

205号土坑（第18図、写真図版12）

<位置> I C6g・7g グリッド内。

<概要>南側調査区からの検出。底面より若干上から古銭、木櫛（164）、歯、小人骨片が出土した。平面形は長方形で、幅が狭い近世墓である。

<規模>1.21×0.56m、深さ38cm。 <長軸方向> N - 19° - W。

<堆積土>2層に分層される。1層中央部は改葬後に入れられたものか。

<出土遺物>古寛永3枚、新寛永（文鏡）2枚、天聖元寶（北宋錢）1枚、木櫛、歯、人骨片。

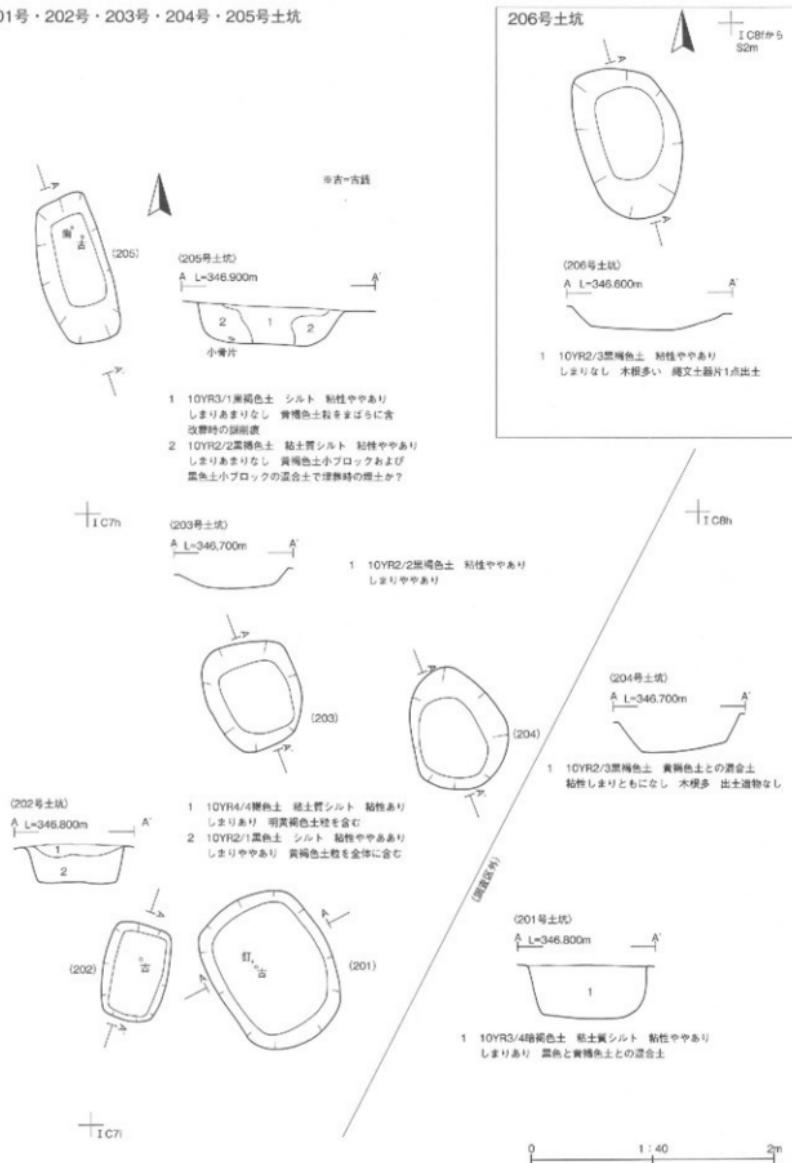
<時期>文鏡が含まれることから17世紀後半以降か。

206号土坑（第18図、写真図版12）

<位置> I C7f グリッド。

<概要>205号土坑と軸を同じにする。平面形はやや楕円形で、遺構上部が削平されているため浅い。

201号・202号・203号・204号・205号土坑



第18図 201～206号土坑

近世墓である。

＜規模＞ $1.28 \times 0.82\text{m}$ 、深さ20cm。 ＜長軸方向＞N-17°-W。

＜堆積土＞黒褐色土の単層。 ＜出土遺物＞なし。

＜時期＞近世以降。

207号土坑（第19図、写真図版12）

＜位置＞I C9e グリッド。

＜概要＞南側調査区で検出された近世墓である。平面形は円形で、P30に北東壁の一部を壊されている。埋土中位から古銭、煙管、和鉄等が出土している。

＜規模＞ $94 \times 90\text{cm}$ 、深さ55cm。

＜堆積土＞3層に分層される。埋土状況から改葬後の人為堆積と思われる。

＜出土遺物＞古寛永2枚、煙管片、毛抜き、和鉄、骨片、鉄釘。

＜時期＞改葬された状況が明瞭であることから、詳細な時期は不明とせざるを得ない。

208号土坑（第19図、写真図版12）

＜位置＞I C8d・9d・8e・9e グリッド内。

＜概要＞207号土坑の北1mに位置する。平面形は長方形で、これも深さがない。中央部に刃部先端がわずかに広がる山刀と思われる鉄製品（176）が出土した。また、古銭や18世紀前半と見られる煙管片なども出土した。

＜規模＞ $1.24 \times 0.92\text{m}$ 、深さ8cm。 ＜長軸方向＞N-15°-W。

＜堆積土＞黄褐色土粒を含む黒褐色土の単層。

＜出土遺物＞鉄製品（山刀）、古寛永2枚、新寛永（文銭）4枚、渡来銭（？）1枚、煙管、鉄釘。

＜時期＞無背文銭が含まれないため、18世紀まで下らないようにも思われるが、煙管の特徴からと18世紀初め頃か。

209号土坑（第19図、写真図版13）

＜位置＞I C9e グリッド。

＜概要＞南側調査区東南境に位置する。301号土坑と重複しているが、当該遺構の方が新しい。平面形は円形で、埋土の状況から改葬済みと思われる。底部から棺の一部と煙管片、古銭が底板に密着した状態で出土している。

＜規模＞ $91 \times 90\text{cm}$ 、深さ70cm。 ＜堆積土＞黒褐色土・黄褐色土等の混合土である。

＜出土遺物＞新寛永2枚、古銭（銭種不明）2枚、小刀状？鉄製品、齒、煙管片、棺材。

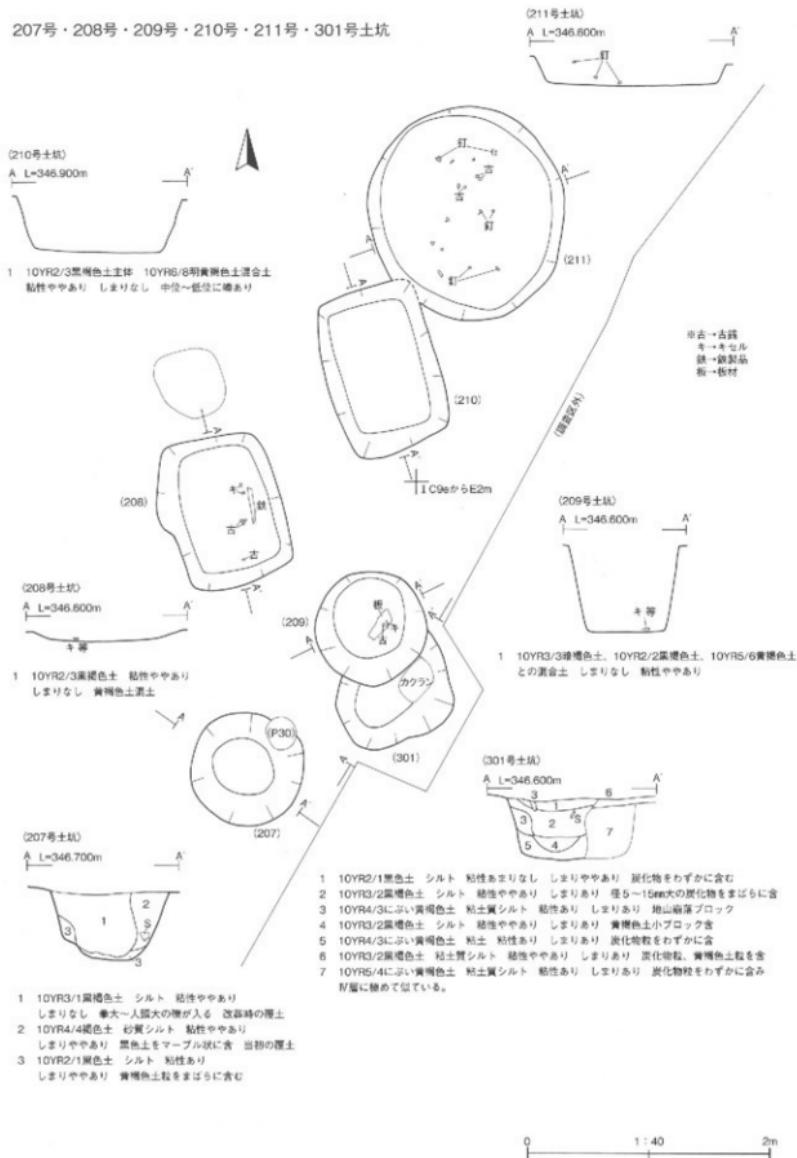
＜時期＞無背文の新寛永が出土していることから、18世紀前半以降か。

210号土坑（第20図、写真図版13）

＜位置＞I C9d グリッド。

＜概要＞208号土坑の北東側40cmに位置し、平面形は長方形で規模・軸方向とも208号土坑と類似する。埋葬時に混入混入したものか不明だが、埋土中位から石皿（191）が出土している。古銭は全部で7枚出土しているが、うち6枚は布に包まれ一括で見つかった。北東側隅で211号土坑と重複するが、当該遺構の方が新しい。

207号・208号・209号・210号・211号・301号土坑



第19図 207~211・301号土坑

<規模>1.36×0.94m、深さ47cm。<長軸方向>N-17°-W。

<堆積土>明黄褐色土と黒褐色土の混合土。

<出土遺物>古寛永2枚、新寛永5枚（文銭3枚、無背文銭2枚）、石皿。

<時期>出土遺物および遺構の重複関係から18世紀前半より以降のものと思われる。

211号土坑（第19図、写真図版14）

<位置> I C9d グリッド。

<概要>210号土坑の北東に重複しており、それよりも当該遺構のほうが古い。平面形は円形であったが、出土した鉄釘の位置から丸く掘りこんだ後に長方形の棺を納めていたことがわかった。棺は小振りである。棺の内側（北側）に集中して古銭8枚が出土した。

<規模>1.74×1.6m、深さ24cm（棺92×46cm）。<堆積土>単層か？。

<出土遺物>古寛永1枚、新寛永2枚（1枚は文銭）、渡来銭（至道元寶）4枚、不明1枚（渡来銭？）、鉄釘。

<時期>無背文銭が含まれることから18世紀前半以降か。

212号土坑（第20図、写真図版13）

<位置> I C9d グリッド。

<概要>南側調査区211号土坑の北東5mに位置する。平面形は長方形で南-北に長軸をもつ。南壁寄りから、鉄製品（リ子）、煙管片、紐で括られた9枚の古銭が出土している。

<規模>1.14×0.81m、深さ48cm。<長軸方向>N-4°-E。<堆積土>不明。

<出土遺物>刀子、煙管片2点（同一個体の可能性が高い）、古寛永2枚、新寛永6枚、渡来銭（元豊通寶）1枚。

<時期>無背文銭、煙管の特徴から18世紀前半以降と考えられる。

213号土坑（第20図、写真図版13）

<位置> I C9c・10c・9d・10d グリッド内。

<概要>212号土坑の北東70cmに位置する。214号土坑と西壁で重複するが、当該遺構が新しい。南壁は調査区外へ延びている。底面近くで古銭や煙管、鉄製品（和鍬・毛抜き）が出土している。

<規模>(1.24)×0.8m、深さ46cm。<長軸方向>N-21°-W。

<堆積土>黒褐色土と黄褐色土の混合土。

<出土遺物>古寛永1枚、新寛永5枚、不明古銭1枚、煙管は小破片であるが、火皿部（232）は大きく、212号土坑出土の208と同型と推測される。その他、和鍬、毛抜きが出土している。また、石器（磨石219）1点も出土している。

<時期>出土遺物から18世紀前半以降と考えられる。

214号土坑（第20図、写真図版13）

<位置> I C9c グリッド。

<概要>213号土坑と東側にて重複している。当該遺構のほうが古い。平面形は正方形で、上面は削平され浅い。出土遺物は鉄釘のみであるが、形状等から近世墓と考えた。底面で20cm大の扁平な円盤が1点出土した。南隅には柱穴状の小土坑が見られるが、これに伴うものではない。埋土中から縄文

時代の石器（磨石）2点が出土している。

＜規模＞(78)×75cm、深さ17cm。 ＜長軸方向＞N-55°-W。

＜堆積土＞炭化物粒を含む褐色土の単層。 ＜出土遺物＞鉄釘、石器（230・231）。

＜時期＞重複関係により18世紀より以前か。

215号土坑（第20図、写真図版14）

＜位置＞I C9e・10eグリッド内。

＜概要＞101号竪穴住居跡と南東側で重複しており、住居跡を切って造られている。平面形は卵形で削平なため深さがない。古銭5枚が重なった状態で出土している。

＜規模＞1.34×0.92m、深さ19cm。 ＜長軸方向＞N-8°-E。

＜堆積土＞黒褐色土が主体で、にぶい黄褐色土と褐色土が混じる。

＜出土遺物＞古寛永4枚、新寛永（文銭）1枚、煙管片（小片）。

＜時期＞文銭が含まれるため17世紀後半以降か。

216号土坑（第20図、写真図版14）

＜位置＞I C10eグリッド。

＜概要＞215号土坑の東隣に接するように位置する。平面形は正方形に近い。北西-南東に軸をもつ。縄文土器も出土したが、西側隅の底面から古銭等が出土しており、近世の墓壙とした。

＜規模＞1.09×0.99m、深さ37cm。 ＜長軸方向＞N-55°-W。

＜堆積土＞黒色土とにぶい黄褐色土の混合土で単層か。

＜出土遺物＞新寛永3枚、鉄銭3枚（241・242・342）、煙管、縄文土器（238）。

＜時期＞鉄銭が含まれることから18世紀中頃以降か。

217号土坑（第20図、写真図版14）

＜位置＞I C10d・10eグリッド。

＜概要＞216号土坑より北東40cmに位置し、平面形は片側が丸みをもった舟形である。上面を削平され浅い。埋土の状況から未改葬と思われる。西際中央から古銭等が出土した。

＜規模＞1.41×0.88m、深さ27cm。 ＜長軸方向＞N-8°-E。

＜堆積土＞礫を含む黒褐色土の単層である。

＜出土遺物＞古寛永1枚（258）、新寛永9枚はいずれも無背文銭である。246と247は接着しており断定できないが、字体から無背文銭と思われる。その他、煙管片、鉄製品、鉄釘、布片が出土した。布片は古銭を包んだもの可能性が高い。

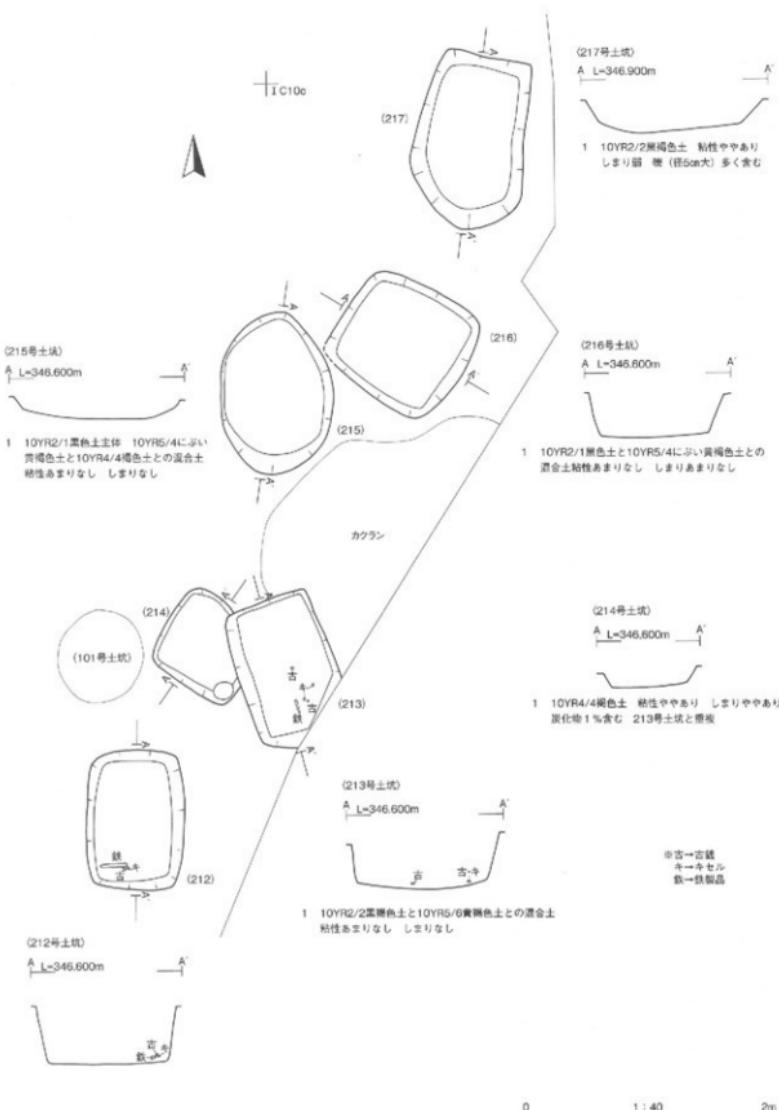
＜時期＞無背文銭の新寛永を含むことから、18世紀前半以降か。

218号土坑（第21図）

＜位置＞II B6c・7cグリッド内。

＜概要＞北側調査区の西側道路寄りからの検出である。周辺には近世以降の柱穴が見つかっているが、それよりも古い遺構と考えられる。平面形は長方形で削平が著しく、底面のみが残っている程度である。埋土中から古銭、傍から陶器片、東隅から笄（簪）（257）とみられる銅製品が出土している。また、この周辺を検出中に煙管片も見つかっている。

212号・213号・214号・215号・216号・217号土坑



第20図 212~217号土坑

<規模>1.35×0.73m、深さ10cm。<長軸方向>N-74°-E。

<堆積土>黒褐色土の単層。

<出土遺物>新寛永1枚、近世陶器碗（大堀相馬）破片、銅製品（笄？）破片。

<時期>検出状況などから18世紀前半までさかのぼるか。

219号土坑（第21図、写真図版14）

<位置>II B8 a グリッド。

<概要>北側調査区の最東部、201号溝によって埋まれた中に検出された。平面形は長方形でこれも遺構の上面は削平されている。腐食が著しく種類は不明だが、鉄製品が出土している。形状等から墓壙の可能性もある。

<規模>1.40×1.16m、深さ10cm。<長軸方向>N-47°-W。

<堆積土>黄褐色土・粘土粒・炭化物を含む暗褐色土の単層。

<出土遺物>鉄製品（259）。

<時期>近世以降。

220号土坑（第21図、写真図版14）

<位置>II B8 a グリッド。

<概要>219号土坑とは90度軸を変え、それを北東-南西方向とする墓壙である。長方形を呈し、東側の両隅でP17・18とそれぞれ重複する。新旧は不明であり一連の遺構である可能性もある。ここからは、202号土坑（近世墓壙）出土の模造錢？（156）と同様のもの（262）が出土した。

<規模>3.58×1.28～1.05m、深さ32cm。<長軸方向>N-43°-E。

<堆積土>焼土粒・炭化物を含む暗褐色土。

<出土遺物>模造錢？、鉄屑、近世陶磁器（灰釉陶器皿、染付？皿）。

<時期>近世以降。

221号土坑（第21図、写真図版14）

<位置>II B9 a グリッド。

<概要>北側調査区220号土坑の東隣での検出である。平面形は円形を呈し、ビーカー状の断面をしている。周辺と同様の埋土である。

<規模>62×60cm、深さ41cm。<堆積土>炭化物を含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>近世以降。

222号土坑（第21図、写真図版14）

<位置>II B8 b グリッド。

<概要>北側調査区201号溝の最南端部で重複する。新旧関係は明確ではないが、222号土坑の方が古い可能性が高い。201号溝により遺構の半分が攪乱を受けているため全容は不明である。

<規模>（100）×（70）cm、深さ（30）cm。<堆積土>礫を含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>埋土から近世以降と思われる。

301号土坑（第19図、写真図版13）

<位置> I C9e グリッド。

<概要>209号土坑と重複しており、当該遺構が古い。当該遺構内に柱穴状の搅乱がある。

<規模>99×53cm、深さ50cm。 <長軸方向> N-45°-E。

<堆積土>5層に分層される。自然堆積か。

<出土遺物>摩滅した縄文土器片が出土している。

<時期>重複関係から近世よりは古いと考えられるが、詳細な時期は不明である。

d 溝

溝状遺構自体は2条検出しているが、うち1条は301号掘立柱建物跡に付属する遺構としているため、単独の遺構は1条のみである。

201号溝（第21図、写真図版14）

<位置> II A7j・8j・II B7a・7b・8b グリッドに跨る。

<概要>北側調査区の最東部にて検出された。周辺に219・220・221・222号土坑、P15～19がある。この周辺は、当該遺構によって全体的に平坦になっており、その後に前述の遺構が造られているようである。この溝は水路や区画溝というよりも、斜面地形を普請したもののが可能性が高い。

<規模>全長9.60mで途中屈曲する。幅68～50cm、最深42cm。

<堆積土>小礫を含む暗褐色土の單層である。

<出土遺物>近世陶器（大堀相馬？碗ほか）2点（263・264）。

<時期>近世以降。

e 焼土

焼土は6基検出している。検出状況などから、縄文時代に属すると思われるものが2基、近世と思われるものが1基で、南側調査区から検出された3基はいずれも時期が不明である。

101号焼土（第22図、写真図版15）

<位置> I B7c グリッド。

<概要>北側調査区北寄りに位置し、102号掘立柱建物跡に隣まれるようにある。平面形は略円形。

<規模>63×53cm、厚さ20cm。

<焼土の状態>大きく二つに分けられ、上位中央部は焼けが良くない。下位は赤褐色の色調である。

<出土遺物>石器片が出土した。

<時期>縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。

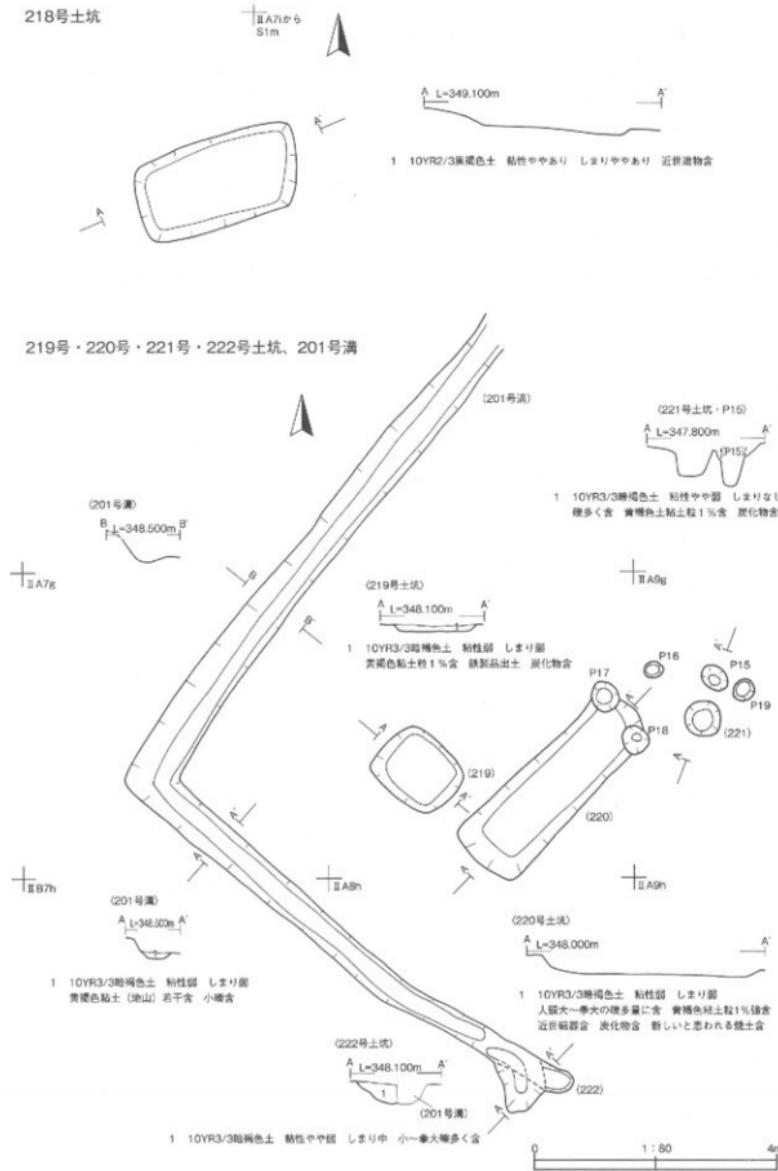
102号焼土（第22図、写真図版15）

<位置> I B5c グリッド。

<概要>北側調査区の北寄り、108号土坑の南西5mに位置する。

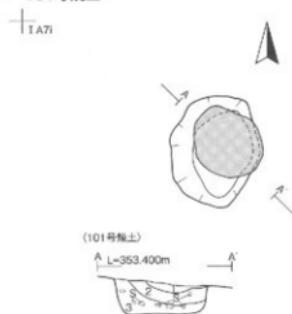
<規模>86×57cm、厚さ15cm。

<焼土の状態>礫を含むにぶい赤褐色の色調で、焼けはあまり良くない。この焼土下に炭化物を含む黒褐色土が入り土坑状にも見える。



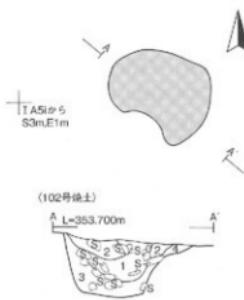
第21図 218~222号土坑、201号溝

101号焼土



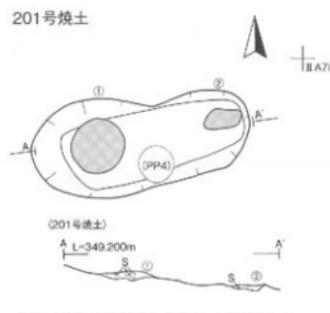
- 1 7.YR4/4褐色燒土 粘性なし しまりあり 赤褐色土粒多く含
- 2 SYR4/8赤褐色土 粘性なし しまりなし
- 3 7.YR4/4褐色土 粘性ややあり しまりややあり 5cm大礫含

102号焼土



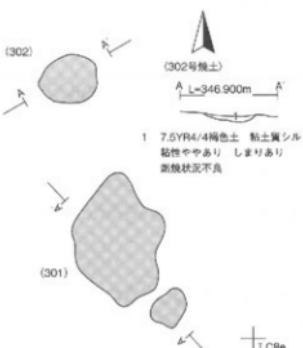
- 1 10YR2/2黒褐色土 粘性なし しまりなし 塗化物1%含
- 2 5YR4/4L.赤褐色土 粘性やや器 しまりなし 磨多く含
- 3 7.5YR4/4褐色土 粘性中 しまり中 小一拳大礫多く含
- 4 7.5YR4/4褐色土と10YR4/6褐色土との混合土 粘性やや中 しまり中 大の礫多く含 (浅山原土?)

201号焼土



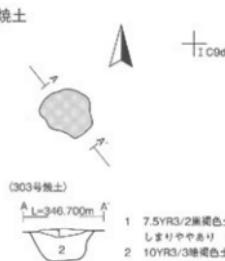
- ① 2.5YR3/4鉛赤褐色土 粘性なし しまりややあり
② 2.5YR3/4鉛赤褐色土と2.5YR2/2鉛赤褐色土との混合土
粘性ややあり しまりなし

301号・302号焼土



- 1 7.5YR4/4褐色土 粘土質シルト
粘性ややあり しまりあり 面積状況不良

303号焼土



- 1 7.5YR3/2黒褐色土 シルト 粘性ややあり
しまりややあり 面積不良
- 2 10YR3/3暗褐色土 粘土質シルト 粘性あり
しまりあり 塗化物含 20mm~の拳大の礫混入



- 1 7.5YR4/4褐色土 粘土質シルト 粘性ややあり
しまりあり 面積不良

0 1:40 2m

第22図 焼 土

<出土遺物>地文のみの縄文土器（265・266）と石器片が出土している。

<時期>出土遺物から縄文時代後期に属するものか。

201号焼土（第22図、写真図版15）

<位置>Ⅱ B6c グリッド。

<概要>南側調査区の201号掘立柱建物跡内に2基1対で検出した。一つの平面形は円形、もう一つは不整梢円形である。

<規模>①直径44cm、厚さ8cm。 ②32×13cm、厚さ4cm。

<焼土の状態>いずれも暗赤褐色土をなす。焼けは良くない。

<出土遺物>なし。

<時期>検出状況などから近世以降の焼土としておく。

301号焼土（第22図、写真図版15）

<位置>Ⅰ C7d グリッド。

<概要>南側調査区のほぼ中央、101号掘立柱建物跡の中央付近に検出された。当初は単独の大きく広がる焼土に見えたが、結局は単独の遺構2基の扱いとした。当該焼土の平面形は不整形である。これを精査中にこの真下から103号土坑を検出したが、これらが一連の遺構の可能性も皆無ではない。

<規模>1.2×0.80m、厚さ12cm。

<焼土の状態>焼けの悪い褐色土。 <出土遺物>なし。

<時期>不明。

302号焼土（第22図、写真図版16）

<位置>Ⅰ C7d グリッド。

<概要>南側調査区の301号焼土に隣接し、検出状況は上述のとおりである。平面形は略円形である。

<規模>48×40cm、厚さ4cm。

<焼土の状態>301号土坑同様、焼けの良くない褐色土である。 <出土遺物>なし。

<時期>不明。

303号焼土（第22図、写真図版16）

<位置>Ⅰ C8d グリッド。

<概要>近世と縄文時代の遺構の間に位置する。平面形は略円形である。

<規模>42×39cm、厚さ7cm。 <焼土の状態>焼けが極端に悪い。

<出土遺物>縄文土器片、石器（磨石）。

<時期>不明であるが、出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。

f 柱穴状小土坑

縄文時代に属すると思われるものは5個、近世は15個、時期不明は9個である。いずれも掘立柱建物跡などを構成しない。時期は、出土遺物や埋土の状況などから判断した。下表に一覧を掲載したので参照されたい。

第2表 柱穴及び柱穴状小土坑観察表

遺構名	グリッド	遺物名	長さ(m)	幅(m)	奥深さ(m)	水没箇所	埋 土
P 35	I C7d	101号掘立柱建物跡	43	42	66.9	346.119	
P 40	I C8d	101号掘立柱建物跡	65	41	61.0	346.050	10YR4/4 黒褐色 地性土 粘性やや中 しまり弱 灰化物1%含 10YR3/4 嫡褐色 地性土 粘性ややあり しまりなし 西邊に限あり 横断面に難ぐ あり 上部片含
P 48	I C7c	101号掘立柱建物跡	55	46	77.2	345.932	10YR3/4 嫡褐色 地性土 粘性ややあり しまりなし 西邊に限あり 横断面に難ぐ あり 上部片含
P 49	I C7c	101号掘立柱建物跡	41	40	69.5	346.082	10YR3/3 嫡褐色 地性土 粘性ややあり しまりややあり 灰化物粒1%含 土器片含
P 56	I C7e	101号掘立柱建物跡	48	43	56.5	346.129	10YR3/4 嫡褐色 地性土 粘性ややあり しまりややあり 灰化物粒1%含 上器あり
P 61	I C7d	101号掘立柱建物跡	28	31	67.4	346.166	10YR3/3 嫡褐色 地性土 粘性ややあり しまりややあり 灰化物1%含
P 25	I A7b	102号掘立柱建物跡	75	71	65.4	352.480	10YR2/3 黑褐色 地性土 粘性ややあり しまり強め弱 上面に織あり 39号土块切る
P 28	I A7b	102号掘立柱建物跡	52	50	100.0	352.640	10YR3/3 嫡褐色 地性土 粘性やや弱 しまり中 黄褐色土粒ややあり 灰化物粒1%含
P 65	I A6	102号掘立柱建物跡	58	52	76.0	352.630	10YR3/4 嫡褐色土～10YR4/4 黑褐色土との混合土 粘性ややあり しまりややあ り 上器片、灰化物含
P 68	I A7b	102号掘立柱建物跡	43	40	69.0	352.490	
P 10	II A7b	201号掘立柱建物跡	44	29	18.0	348.566	10YR2/3 黑褐色 地性土 粘性ややあり しまりなし 小埋(1～3cm) 含
P 12	II A7b	201号掘立柱建物跡	60	37	27.0	348.365	10YR2/2 黑褐色 地性土 粘性ややあり しまりなし 隆5cm大含
P 13	II A7b	201号掘立柱建物跡	34	30	21.0	348.610	10YR2/2 黑褐色 地性土 粘性ややあり しまりあり 小埋含
P 14	II A6b	201号掘立柱建物跡	52	48	36.5	348.770	10YR3/3 嫡褐色 地性土 粘性ややあり しまりなし 隆5cm大含
P 22	II A7	201号掘立柱建物跡	36	35	39.1	348.444	10YR3/4 嫡褐色 地性弱 しまり弱 上位小埋多く入る
P 43	II A6b	201号掘立柱建物跡	52	49	56.9	348.726	
P 46	II A6b	201号掘立柱建物跡	45	41	22.7	348.980	10YR3/2 黑褐色 地性弱 しまり弱 離が少ない
P 1	II A8a	301号掘立柱建物跡	62(49)	60(37)	103.0	351.000	10YR3/2 黑褐色 シルト 10YR3/1 嫡褐色土との混合土 粘性弱 しまり弱 小埋(5～10cm) 手でくもる
P 2	I A7	301号掘立柱建物跡	54	52	75.0	351.760	10YR3/4 嫡褐色 地性弱 しまり弱 奉大～人頭大的裸合
P 26	I A8j	301号掘立柱建物跡	46	40	64.0	351.730	10YR3/4 嫡褐色 地性中 しまり中 黄褐色土粒1%含 小埋～墓人多い
P 27	II A8a	301号掘立柱建物跡	41	35	66.0	351.640	10YR3/3 嫡褐色 地性中 しまり弱 素物根多い
P 47	I A8j	301号掘立柱建物跡	51	41	70.0	351.580	10YR3/4 嫡褐色 地性やや弱 しまり弱 小埋 上面多い
P 5	I A8j	301号掘立柱建物跡	20	56	77.0	351.670	10YR3/4 嫡褐色 地シルト 黄褐色土粒含 粘性なし しまり弱 3～50cm の小埋合
P 51	II A8a	301号掘立柱建物跡	26	25	16.0	351.940	10YR4/4 黑褐色 地性ややあり しまりなし
P 52	II A8a	301号掘立柱建物跡	52	43	65.0	351.140	10YR3/4 嫡褐色 地性ややあり しまりなし
P 53	II A8a	301号掘立柱建物跡	40	36	23.0	352.090	
P 54	II A7a	301号掘立柱建物跡	31	25	35.0	352.130	
P 6	I A7	301号掘立柱建物跡	31	30	23.5	352.330	
P 60	I A8j	301号掘立柱建物跡	53	50	56.5	351.800	10YR3/4 嫡褐色 地性ややあり しまりなし 鎌石?あり
P 63	I A9j	301号掘立柱建物跡	22	20	10.0	351.810	10YR4/4 黑褐色 地性なし しまりなし
P 66	I A9j	301号掘立柱建物跡	41	35	52.0	351.480	
P 67	I A9j	301号掘立柱建物跡	29	28	18.0	352.060	
P 58	I A9j	301号掘立柱建物跡	62	58	72.0	351.450	10YR3/4 嫡褐色 地性なし しまりなし 植物根多い
P 59	I A9j	301号掘立柱建物跡	33	32	28.0	351.790	
P 31	I C6c	302号掘立柱建物跡	53	49	60.4	346.676	10YR3/2 黑褐色 地シルト 粘性なし しまりややあり ふかふかやわらかい 離合ます
P 32	I C7c	302号掘立柱建物跡	62	42	61.8	346.620	10YR3/2 黑褐色 地シルト 粘性なし しまりややあり ふかふかやわらかい 離合ます
P 33	I C6d	302号掘立柱建物跡	45	42	55.2	346.525	10YR3/2 黑褐色 地シルト 粘性なし しまりややあり ふかふかやわらかい 離合ます
P 34	I C7e	302号掘立柱建物跡	56	50	51.7	346.530	10YR3/2 黑褐色 地シルト 粘性なし しまりややあり ふかふかやわらかい 離合ます
P 69	I C6c	302号掘立柱建物跡	50	35	39.0	347.653	
P 3	I C8d	46	40	163	346.529	10YR3/3 嫡褐色 地性中 しまり中 灰化物2%含 上方に織文上器あり	
P 4	I C8c	57	54	121	346.423	10YR2/2 黑褐色 地性ややあり しまり中 青字黒褐色十合	
P 7	I C8d	37	30	7.1	346.644		
P 8	II A6b	35	34	21.5	348.940	10YR3/2 黑褐色 地性ややあり しまりなし 隆5cm大含	
P 9	II A6b	38	38	34.0	348.675	10YR2/3 黑褐色 地性ややあり しまりなし 隆5cm大含	
P 11	II A7i	37	37	33.5	348.495	10YR2/3 黑褐色 地性ややあり しまりなし 隆(1～5cm) 含 横断面より キセル出土	
P 15	II A9g	45	37	66.7	347.029	10YR3/3 磷酸根土～10YR4/4 嫡褐色 地性やや弱 しまりなし 上位に織あり 木製多い	

遺跡名	グリッド	遺物名	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	測定箇所	解説
P 16	II A9g		30	25	16.6	347599	
P 17	II A8g		50	42	64.3	347166	
P 18	II A8g		43	40	41.6	347274	
P 19	II A9g		35	32	10.0	347500	10YR3/3 磨擦色土 粘性弱 しまり弱 植物模様多い
P 20	I A5g		51	46	41.6	353200	10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱 炭化物粒若干含む
P 21	I A5g		52	47	48.1	353345	10YR2/2 磨擦色土 粘性やや弱 しまり弱 十勝片あり
P 23	II A5g		39	38	48.0	348795	10YR3/3 磨擦色土 粘性弱 しまり弱 小理番下合
P 24	II A5g		55	44	47.0	348955	10YR2/3 黑褐色土 粘性弱 しまり弱 痕少ない
P 29	I A7i		30	28	30.4	352270	10YR2/3 磨擦色土 粘性やや弱 しまり中 黄褐色土粒若干入る 炭化物粒若干入る
P 30	I C9e		(25)	(24)	54.6	345927	207 号十坑と重複 上杭よりも新
P 36	I C7d		42	32	16.0	346710	
P 37	I C7d		56	39	43.3	346579	
P 38	I C7d		55	42	19.3	346713	
P 39	I C8d		31	29	43.6	346141	10YR3/4 磨擦色土 新たややあり しまり中 炭化物 1%含む
P 41	II A5i		57	53	44.6	348465	10YR3/2 黑褐色土～10YR3/3 磨擦色土 粘性弱 しまり弱 黄褐色土粒若干入る
P 42	II A5i		65	65	84.0	348740	10YR2/3 黑褐色土 粘性弱 しまり弱 小理多く入る
P 44	II A6		28	27	113.0	347840	10YR3/3 磨擦色土 粘性弱 しまり弱 炭化物粒若干入る 201 号土器と系縁 遠土より毛刷目
P 45	II A6		47	43	111.5	347860	10YR3/2 黑褐色土 粘性弱 しまり弱 痕が少ない
P 50	I C6d		30	29	17.5	346914	
P 55	I A8j		38	38	29.0	352190	
P 57	I C6d		52	45	23.5	346762	10YR3/3 磨擦色土 粘性ややあり しまりややあり 上部・右側あり
P 61	I A7i		(46)	(30)	G0150	352200	10YR3/4 磨擦色土 粘性ややあり しまりなし 120 号十坑と重複 上坑よりも細い
P 62	I A7i		(45)	(30)	G057	352018	10YR3/4 磨擦色土 粘性ややあり しまりなし 120 号十坑と重複 十汎よりも細い
P 70	I C7d		24	20	31.0	346695	10YR4/4 黄褐色土混じり 10YR3/4 磨擦色土 粘性ややあり しまり弱

(2) 遺 物

a 土器 (第 23 ~ 33、37 ~ 39 図、写真図版 18 ~ 23、25 ~ 27)

平成 19 年度の縄文土器の総出土量は、18.76kgである。そのうち、84%強が遺構内出土土器である。時期は縄文時代後期前～中葉、晚期中葉～後葉に属する土器がほとんどである。大まかに時期により I 群～V 群に分類した。最も出土の多かったⅢ群とⅣ群については、文様などから更に以下のように細分した。

I 群 南側調査区から同地点で出土した 289 ~ 292 の小破片 4 点は同一個体と見られる。いずれも縄維を含んでおり縄文時代前期と思われる土器である。調査区から唯一の出土である。

II 群 縄文時代中期末と思われる土器である。坪湖Ⅱ遺跡はもともと縄文時代中期の土器が出上する遺跡として知られていたが、本調査区からの出土量は数点のみで、105 号土坑から出土した 73・76だけである。なお、これらの土器は同一個体の可能性がある。

III 群 縄文時代後期に属する土器である。十腰内 I 式（最新）～新山権現社 1 式相当、加曾利 B 1 式に相当するものが多く見られる。

1 類は、十腰内 I の範疇に入る土器である。

1 a 類 廉消縄文が施され、縦位に展開される曲線が描かれるものがある（44・45）。

1 b 類 1 a 類に後続するもので、廉消縄文や入組文が施される土器である（142・143）。本調査区からはあまり出土していない。

1 c 類 磨消縄文が横位に展開し、口縁部に沿った平行沈線が描かれる（132・285）。波状口縁のもの（128～131）が多い。平行沈線が多条になるものも含まれる（273・274）。

1 d 類 平行沈線の間隔が短くなり、沈線の間に縄文が施されないもの (48・52)。

2 類は、後期中葉にあたるものである。

2 a 類 波状口縁で平行沈線が更に発展して、多条の平行沈線に交互に継位の弧線を入れ区画しているもの (3) がある。また朝顔状に大きく外反するもの、頂部端部に刻目が施されるものなどがある (49・96)。新山権現社 1 式にあたるものと思われる。

2 b 類 弧状の条線や刺突が施されるものが入る。(294・295)

2 c 類 2 a 類の朝顔状に大きく外反した口縁部がやや内湾するようになったもので、2 a 類に後続すると思われる土器である。293 は縁端部にのみ施文されている。

3 類は、地紋のみのものである。ただし小破片で他の文様が不明のものも含む。

4 類は、底部資料である。

IV群 縄文時代晩期に属する土器である。北側調査区の晩期造構内からの出土が多い。

1 類 大洞 C 2 式に相当するものである。浅鉢は、口縁部が「逆くの字」に屈曲し、屈曲部に刺突が施される。114 号土坑より出土した 117～120 は同一個体でこの類に属する。

2 類 大洞 A 式に相当するものである。鉢類では工字文が描かれるもの (26) や平行沈線が施され突起を持つもの (77)、小波状口縁になるもの (80) がある。頸部が無文帯となっているものが多い。31 は高台のみであるが、同類に含まれると思われる。

3 類 大洞 A' 式に相当するものである。113 号土坑より出土した 114 がこの類に属する。

4 類 深鉢で中葉から後葉にかけてのものと思われる土器で粗製なものが多い。

4 a 類 口唇部に刻目が施され、頸部に平行沈線が描かれる土器である (279)。

4 b 類 頸部が無文で、肩部から地文のみのもの (14・15・19 など) や口唇部に刻目を持つもの (111・123・284)、小波状口縁になるもの (20・22) が含まれる。

4 c 類 胎部～胴下部の破片資料で地文のみ施されている土器である。破片が多いため、見つかっていない部位に他の文様が施されている可能性もある。25・29・33 は 15 と同一個体の可能性が高い。

5 類 無文の土器である。106 号土坑から出土した 83 は、本調査区で唯一略完形に接合できた土器である。口縁部は一部欠損しているが、8 単位と思われる波状口縁で胴部はヘラ状のもので調整されて縄文はない。胴部にスヌが多量に付着しており、また、そのスヌをこすり取ったような痕も見られる。No110 は壺である。薄手で丁寧に作られたようだが、摩滅がひどい。

6 類 晩期と思われる底部資料である。

V群 縄文時代後～晩期の土器と思われるが、これまでのいずれの分類にも属しない一群である。

1 類は胴部破片資料、2 類は底部破片資料である。

前述したように、出土した土器はほとんどが縄文土器であるが、P 57 の埴土からの出土で縄文土器と胎土を異にする土器 275 がある。P 57 は、南側調査区の 302 号掘立柱建物跡寄りにて検出したものであるが、この柱穴状ピットの他にもいくつか検出されているがいずれも時期ははっきりしない。やや内湾する口縁で蓋付きの壺を想像させる明確な段を持っている。この類の土器はこの 1 点のみで詳細は不明である。

	遺構内出土		遺構外出土		計		種別	点数	率
北側調査区	67点	26.2%	112点	43.8%	179点	69.9%			
南側調査区	41点	16.0%	36点	14.1%	77点	30.1%	剥片石器	188点	73.4%
							砾石器	58点	22.7%
							石製品	10点	3.9%

石器の総出土数は256点で、内訳は剥片石器（フレイク等含む）が73.4%、砾石器が22.7%、石製品が3.9%である。また、遺構内出土も含めた北側調査区と南側調査区の出土割合は、前者が69.9%後者が30.1%となっている。剥片石器のほとんどが頁岩で、瑪瑙は全体の5%、黒曜石は数点のみである。このうち掲載したものは遺構内出土の石器類および遺構外出土の加工された石器・石製品の70点（27.3%）である。掲載している石器の産地は、立地の地域性がそのまま反映される奥羽山脈産が95.7%と大半を占める。

＜石鏃＞ 頁岩（赤色頁岩含む）3点、瑪瑙3点、黒曜石1点の7点が出土した。有茎の石鏃では、円基のものと平基のものがある。無茎では全て円基である。有茎の石鏃は、先端部に比べて茎の部分が長いものがある（300・301？・302）。

＜石匙＞ 6点出土している。いずれも縦型の石匙であるが、①細身長身で先端部が直線的なもの（306・304）、②長身だがやや幅広で先端部が尖っているもの（305）、③幅広で先端部が丸みを帯びているものの（35・86・306）の3種類に分けられる。

＜石錐＞ 1点のみで菱形のものである（329）。

＜石箋＞ 2点出土している。刃部の裏面が使用によるものか光沢がある。

＜削・搔器・不定形石器＞ 整形して縁辺に刃をつけたものを、削・搔器、整形せずに刃をつけたものを不定形石器とした。また不定形石器の中で細かい剥離を持って刃部として加工しているものを2次加工とし、刃部としての加工とは認めがたい剥離のあるものを微細剥離として表に掲載している。303の石器は、自然に摩耗したものか意図的なものか不明だが、一つ一つの剥離稜線が摩耗（？）している部分と摩耗していない部分とが混在している。使用当時に再加工された可能性もある。312のように、これらの石器の中には不掲載の石器も含めて、掌大の大きな剥片も含まれている。ほとんどが奥羽山脈系の頁岩であり、もともとは同一個体の石器であることが容易にわかるものがあることから、周辺に頁岩の採取地があったのかもしれない。

＜楔形石器＞ 1点のみの出土である。両極に細かい剥離が見られる。

＜石斧＞ 打製石斧が1点出土している。凹石などの砾石器や剥片石器に比べると極めて少ない。

＜磨石・凹石・敲石＞ 磨部だけのもの、凹みと磨部があるもの、磨部と敲部があるもの、全て見られるものの4種がある。凹石は、円形または楕円形で扁平なものは両面に凹み、厚みのある砾の凹みは2面以上に見られる。

＜石皿・台石＞ 石皿と判断できるものは2点出土し、台石としたものの中には、被熱を受けた痕が見られるものがある。

＜石製品＞ 10点掲載した。頁岩製で長さが3～4cm前後、断面が楕円形の円柱状石製品が目立った。いずれも欠損しており全容は不明だが、自然に削れたものとは判断しにくい。縄文時代晚期の代表的遺跡である北上市の九年橋遺跡でも、4次調査・5次調査で類似した円柱状の石製品が報告されている。41は、石剣を作ろうとしたのか、頭部と先端部に整形痕が認められるが未製品である。

＜その他＞ 108は、加工痕が見られず自然砾のようではあるが、被熱しているものである。

c 銭貨（第33～37、写真図版23～26・29・30）

銭貨は全部で96点出土し、うち92点は墓壙内からの出土である。内訳は、寛永3年（1626年）から寛文8年（1668年）の文錢鑄造が始まる以前の寛永通寶、いわゆる「古寛永」が32点、文錢以降の「新寛永」が43点、寛永通寶ではあるが時期が不明なもの2点、北宋錢などの渡来銭が8点、銅錢ではあるが腐食等により銭種不明なもの2点、鉄錢3点、材質不明の模造銭（？）が2点である。

208号土坑出土の179～184は、一緒に穿孔された木片（345）が出土している。209号土坑出土の187・210号土坑出土の一括6枚192～198・212号土坑出土の一括9枚210～218・215号土坑出土の一括5枚233～237などは、複数の銭を束ねたと思われる捩られた薫片や、銭を包んでいたと思われる布片が銭に付着した状態で見つかっている。

渡来銭は、南側調査区のI層から出土した永楽通寶以外は全て北宋銭である。211号土坑から8枚出土した銭貨のうち、6枚が渡来銭の「至道元寶」であったことは興味深い。

202号土坑と220号土坑からは、凝灰岩製の模造銭と思われるものが1枚ずつ出土した（156・262）。いずれも表面を平らにし、周辺を細かく磨き円形に整形している。一関市川崎町河崎の柵擬定地からは、凝灰岩製の模造銭が1点出土しているが、これは中央に四角の穿孔があるもので、形状から模造銭と判断されたものである。祭祀行為に使用された可能性が高く、時期は中世から近世初頭としている。本遺跡から出土した遺物は、河崎の柵擬定地出土のものとは異なるが、出土状況や形状から模造銭と判断した。

先述したが、208号土坑や211号土坑からは古銭とともに四角に穿孔された木片が出土している（345・346）。縁縄の固定のためのものとも考えられるが、217号土坑では布片が付着し、大きさや重量をほぼ同じくする円形の木片2点も見つかっている（347・348）。

平成4年に調査された北九州市の宋玄寺跡では、江戸時代後期以降と推定される肥前産の甕に埋葬された熟年男性の墓が調査されている。この463号墓からは、2振の木製儀刀や漆器椀、蓋付椀、袴の腰抜とともに円板の中央に孔を持つ木製の円板6枚が出土している。うち4枚は孔を四角に整えられ、6枚揃っていることから、調査担当者は一文銭を模した六道銭と判断している。また、金沢市の久昌寺遺跡では、19世紀代と思われる近世墓から5枚の木製模造銭が出土している。いずれも表面上に「寛永通寶」、裏面に「文」の墨書きがあり、文銭を模したものようである。今回出土した木片は、これらの木製模造銭には及ばない粗悪なもので模造銭とは言えないものだが、今後の参考資料として記載した。

d 煙管（第34～37図、写真図版24～26・29）

煙管は9点出土した。うち近世墓壙内から出土したものは8点である。遺構外から出土した325もその出土状況から、墓壙と推測される218号土坑に伴う可能性がある。

いずれも煙管の残存状態は極めて悪く、取り上げの際に壊れてしまうものが多くあったが、最も残りの良い煙管は、208号土坑から出土した177である。これは古泉氏の分類（1987「江戸の考古学」）に掲れば、河骨形で補強帯がなく吸口が一枚ものということから、Ⅲ段階もしくはⅣ段階（17世紀後半～18世紀前半）に属するようである。

209号土坑出土の185・186は、煙の漏れを防ぐためかあるいは副葬品とした時に煙管を保護したためか、和紙のようなものが巻かれた痕が見られる。北上市岩脇遺跡や一関市川崎町河崎の柵擬定地など、墓壙から多くの煙管が出土した遺跡にも、本体に布片を巻いてあるものが出土しているようである。

e 鉄製品（第 34・36～38 図、写真図版 23～26）

鉄製品には、和鉢 2 点、毛抜き 2 点、刃物類 4 点、鉄釘などがあり、いずれも近世墓壙もしくは墓壙の周辺から出土した。和鉢や毛抜きが出土した 207 号土坑と 213 号土坑からは刃物は出土しておらず、このことは埋葬された人物（性別）の違いを示しているのであろう。

江戸中期に書かれた『和漢三才図絵』では、「鎌」と書かれ、和名で「波奈介沼岐」いう名とのおり、もともとは白髪と鼻毛を抜くものだったようだ。「近世では顔面に眉以外に毛のあるものを好まない（訳注）」らしく、余分な毛を抜くことが当たり前の様で生活必需品であった。小型・薄型化している現代物よりも大振りである。

一般に小型の刃物については、短刀や小刀などと呼び方が様々ある。「短刀」は、一般的に長さ 1 尺以下の刀の総称で、用途や所持の仕方から様々な呼ばれかたをし、武器類に属するものである。これに対し、「小刀」は、古くは「刀子」と呼ばれた背の反りのない小型の刃物で、いずれにも船属しない万能工具に分類されるようである。当該遺跡出土の小型刃物の多くは、「小刀」として記載したが、176 については、先端がわずかに広がることから「小刀」ではなく、「山刀（ナタ）<剣鉈>」として報告した。薪などを割る際に見かける先端が角張ったものを「腰鉈」というのに対し、「山刀」は先端が鋭利なことが特徴のようである。207 は柄が残る小刀で、柄の部分は約 9cm、刃渡りは 11.9cm である。

f 近世陶磁器（写真図版 30）

登録したものは 8 点で、墓壙出土ものが 3 点、溝出土が 2 点、遺構外が 4 点である。350 は型紙摺絵で明治期、それ以外は明治以前と考えられる。大堀相馬産かと思われるもの（255・263）、肥前産陶器らしきもの（260）が出土しているが、いずれも小破片ではっきりしない。

g その他（写真図版 30）

352 は、小型のガラス瓶で「みや古染め」と見える。現在でも染色家や愛好家に昔ながらの染料として使用されているようだが、戦前は家庭用染色剤として一般的に利用されたようである。

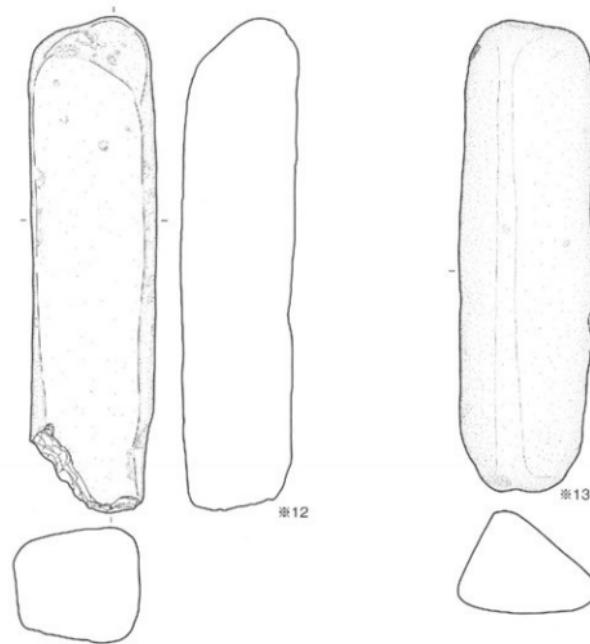
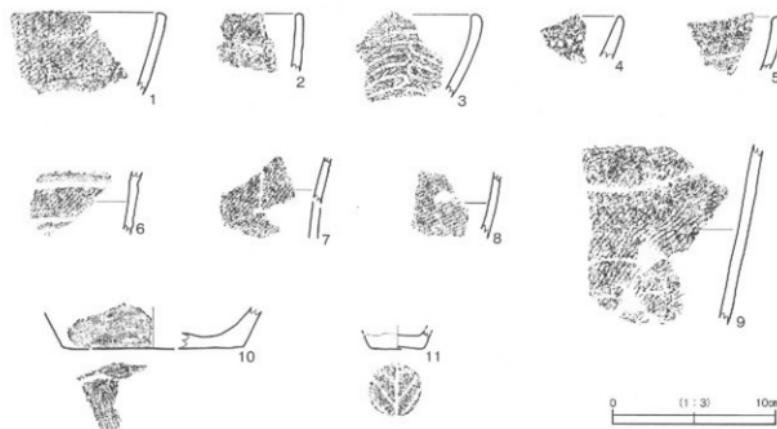
218 号土坑から出土した細長い銅製品は、欠損しているため全容は不明だが、形状から推測すると笄もしくは簪ではないかと思われる。笄は「髪をかきあげるのに用いる細長い具。箸に似て根もとが平たく先端は細くふつう銀や象牙で作る」とある。素材は異なるが、後世になるとさまざまなもので作られるようになるようである。前述した『和漢三才図絵』では、「櫛枝（こうがい）」という字で書かれ、「櫛枝とは髪を整えるための釦（かんざし）」という説明とともに絵も載っており、出土したものと類似している。

南側調査区外（調査区境）の表採品に、粘板岩製の基盤（353）と石臼（339）がある。基盤は 8.6 × 43cm の小片ではあるが、表面には 2cm 前後の区画が格子状に刻まれている。石臼は、粉挽き臼の下臼の部分で上面に目が刻まれており、下面にも摩耗した目がいくつか見られる。我が国では臼の目は 6 分画と 8 分画が主流のようだが、残存状況から溝の目は不整の 6 分画と思われる。

h 墓石（第 44～46 図、写真図版 16・17）

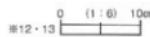
南側調査区近世墓壙群の近くに廃棄されていたもので、全部で 13 基見つかっている。この墓壙群は、およそ 40 年前に改葬されたことを元の地権者に聞いているが、その際に捨てられたものであろうか。自然礫を利用し、銘が刻まれているものが多いが、この他に墓石と思われる巨礫もあった。本書では、

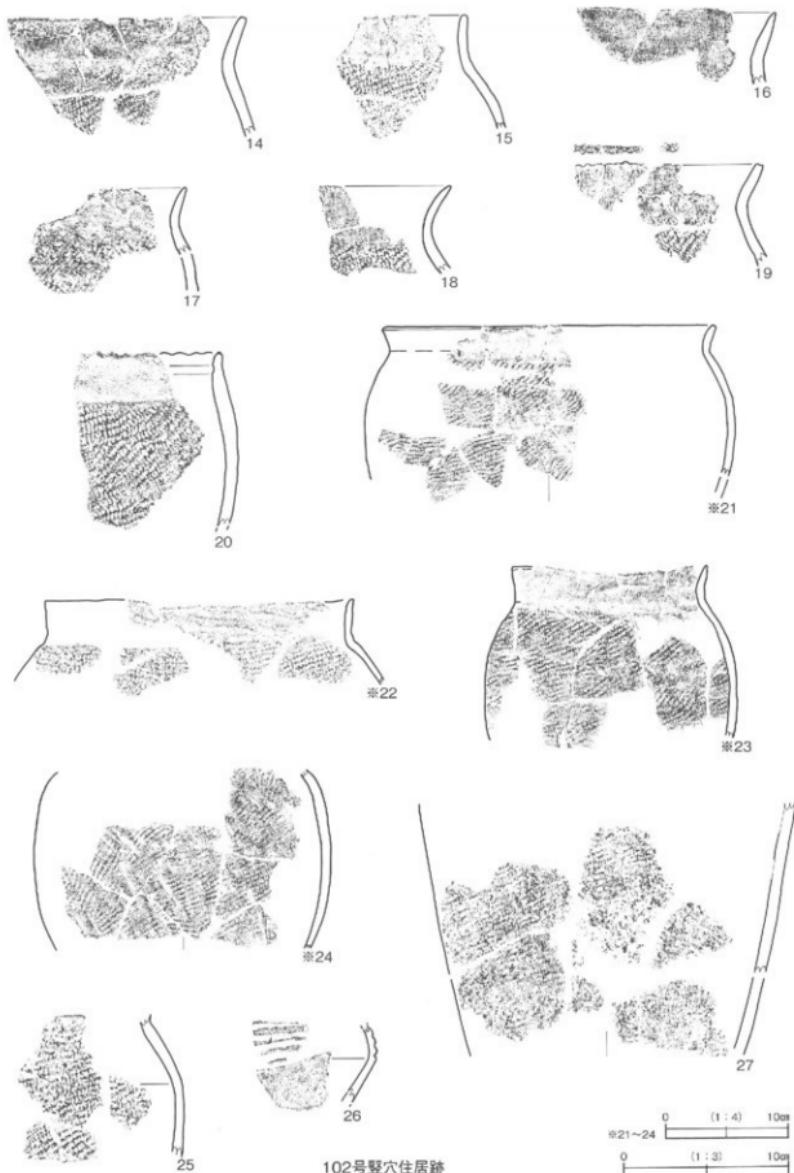
現場で採取した拓影図と墓石の写真を掲載した。一番古いもの（墓石－1）で「享保4（1719）年」で、新しいものは「明治34（1901）年」（墓石－11）である。上部に「○」の頭書があり、下部に蓮弁が刻まれることが多い。表面に女性像が刻まれている2基は他の墓石に比べ小振りの礫を使う。一つは横向きに立ち背中に赤子を背負う。足下には蓮弁が描かれている。もう一つは、正面を向きで同様に蓮が描かれている。文字などは確認できなかったが、水子地蔵などと同じような供養碑なのだろう。



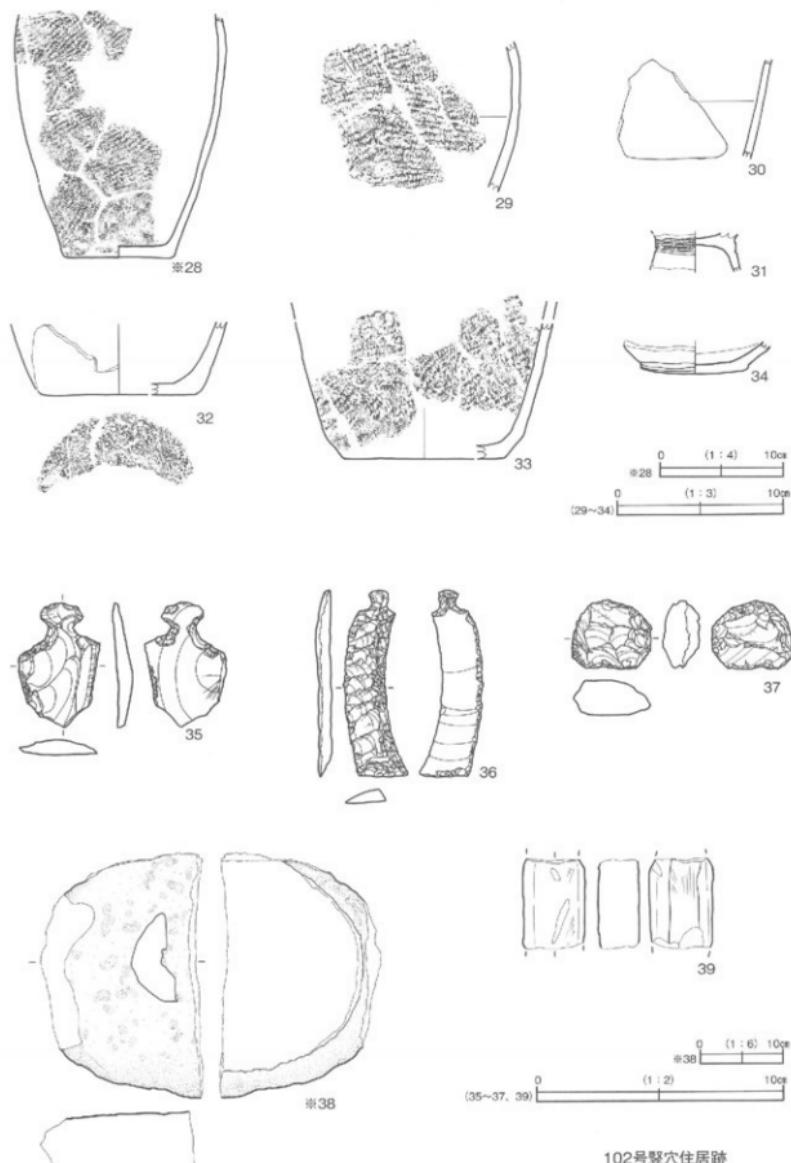
101号竪穴住居跡

第23図 遺構内出土遺物（1）

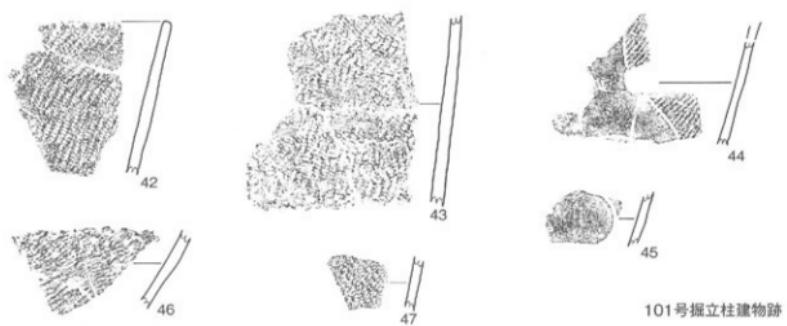
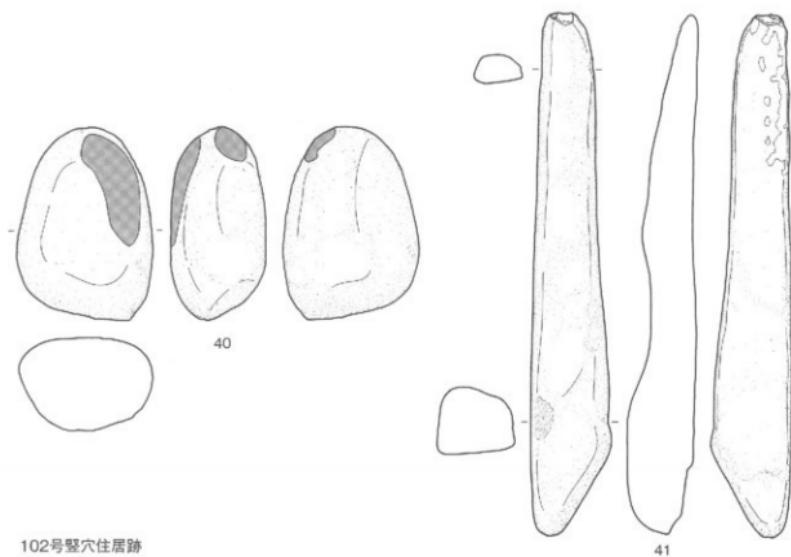




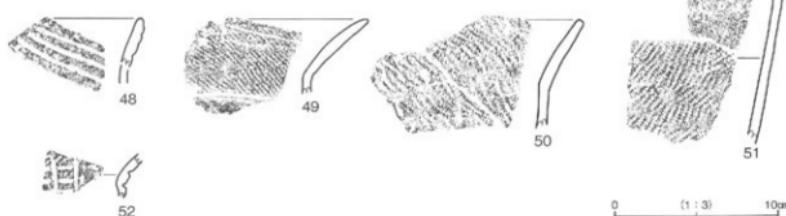
第24図 遺構内出土遺物（2）



第25図 遺構内出土遺物（3）



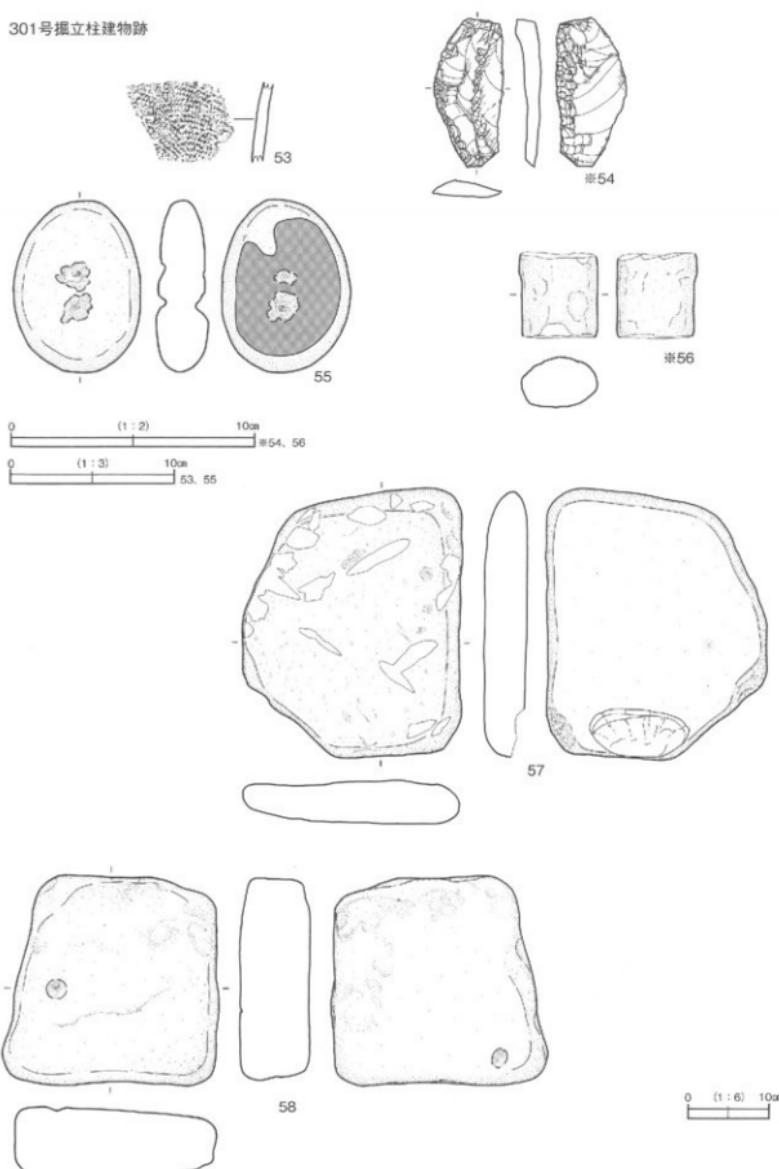
102号掘立柱建物跡



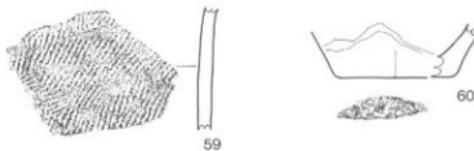
0 (1 : 3) 10cm

第26図 遺構内出土遺物（4）

301号掘立柱建物跡



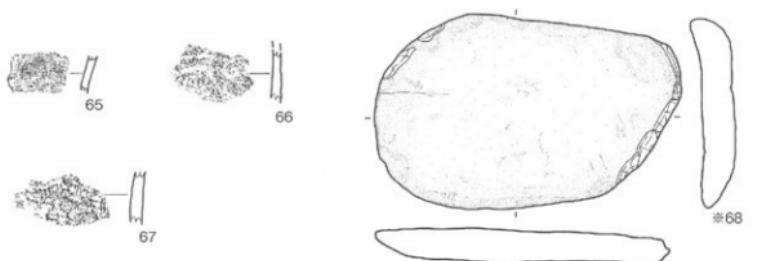
第27図 遺構内出土遺物（5）



101号土坑



102号土坑



103号土坑

0 (1 : 6) 10cm
#68



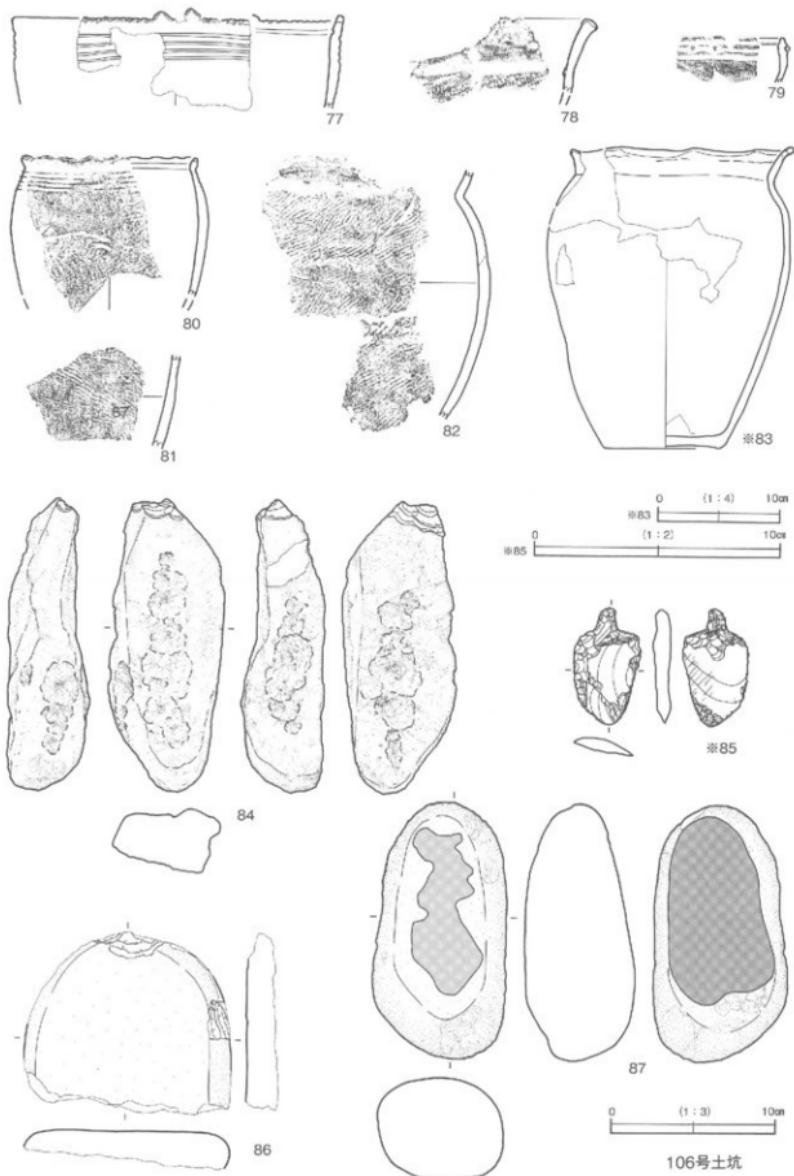
104号土坑



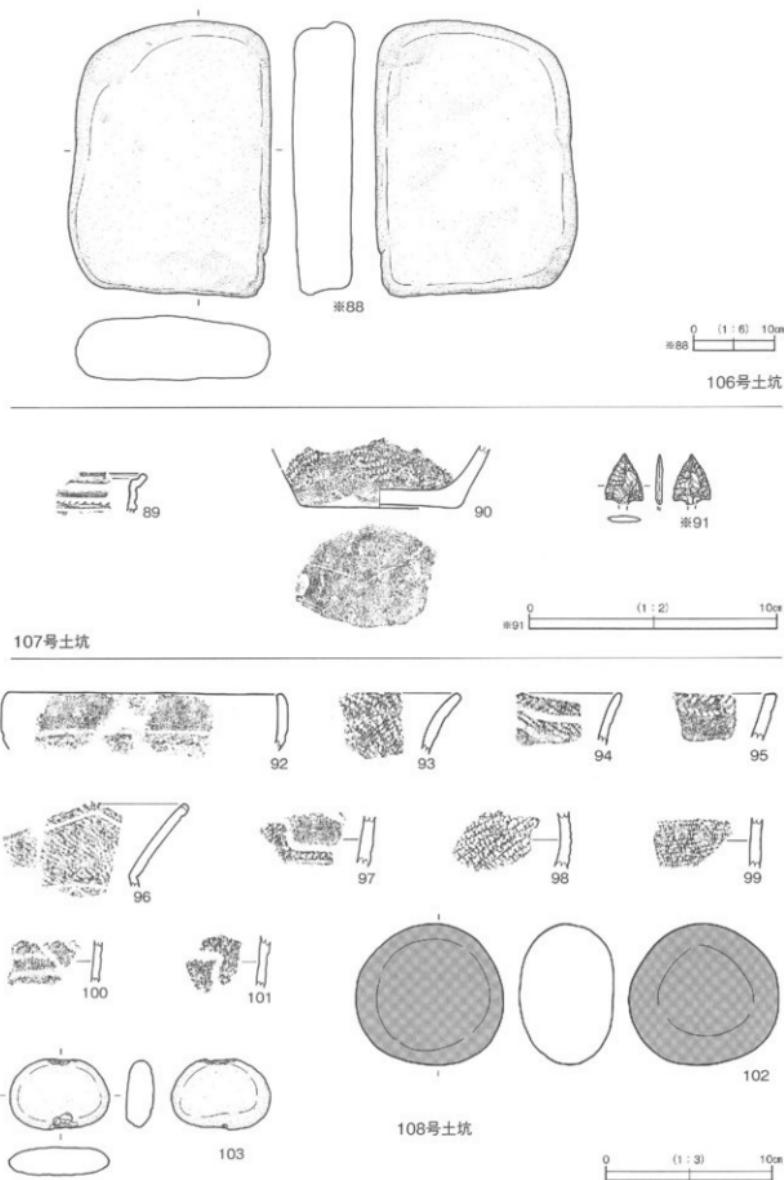
105号土坑

0 (1 : 3) 10cm

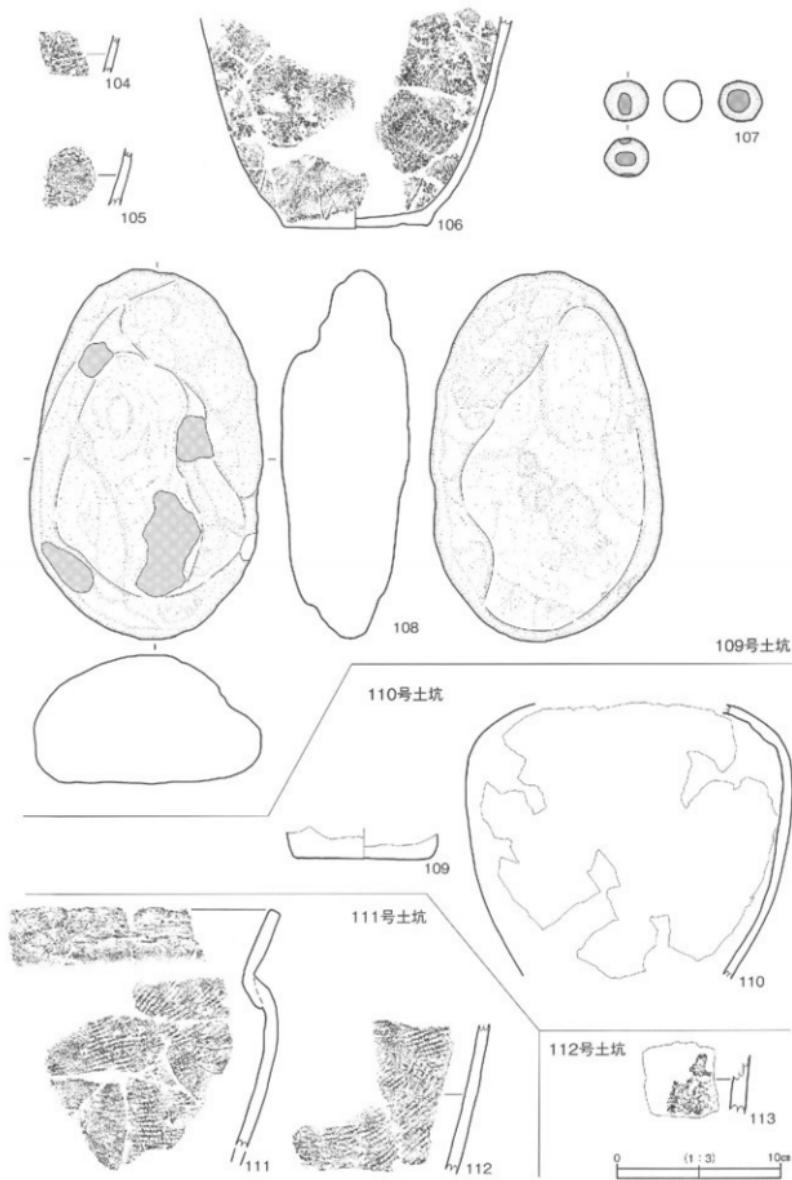
第28図 遺構内出土遺物（6）



第29図 遺構内出土遺物（7）



第30図 遺構内出土遺物（8）



第31図 遺構内出土遺物（9）



114



115



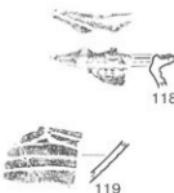
116

113号土坑

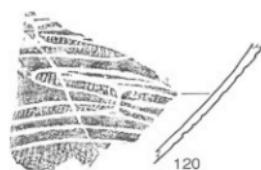
114号土坑



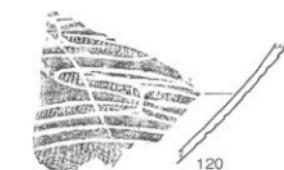
117



118



119



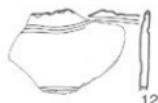
120



121



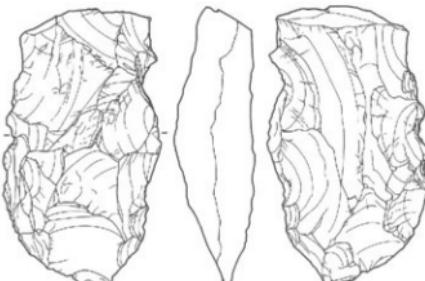
122



123



124



※125



126



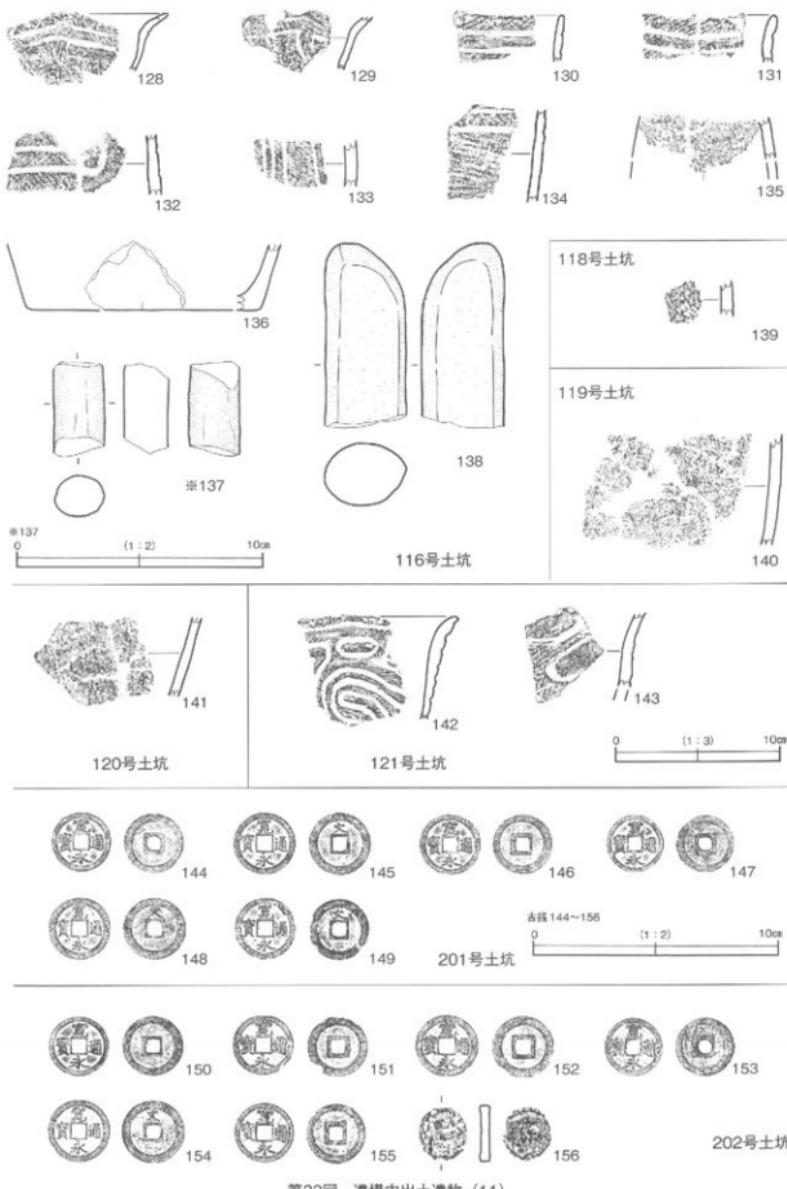
127

115号土坑

0 (1 : 2) 10cm

0 (1 : 3) 10cm

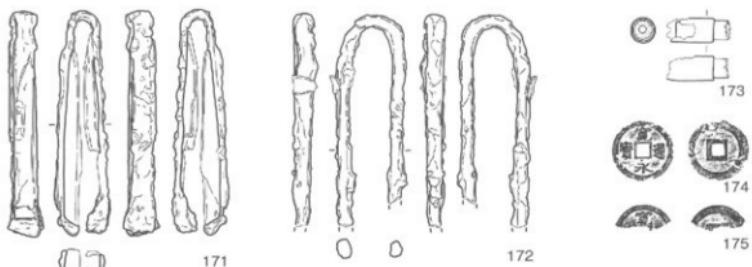
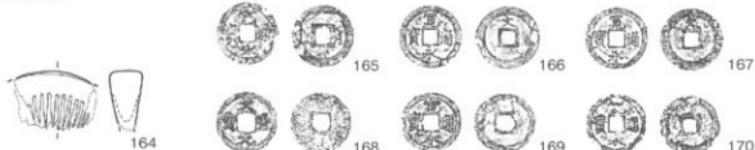
第32図 遺構内出土遺物 (10)



第33図 遺構内出土遺物 (11)

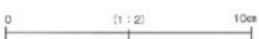
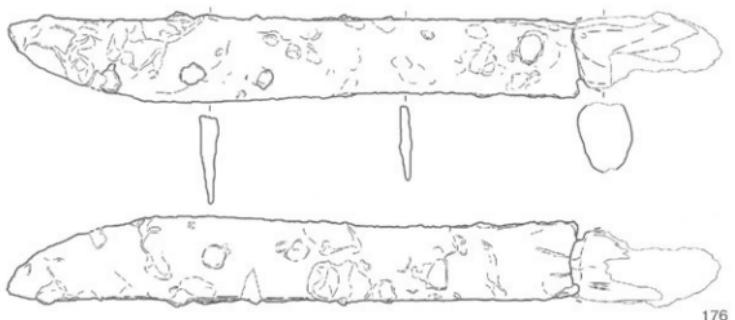


205号土坑

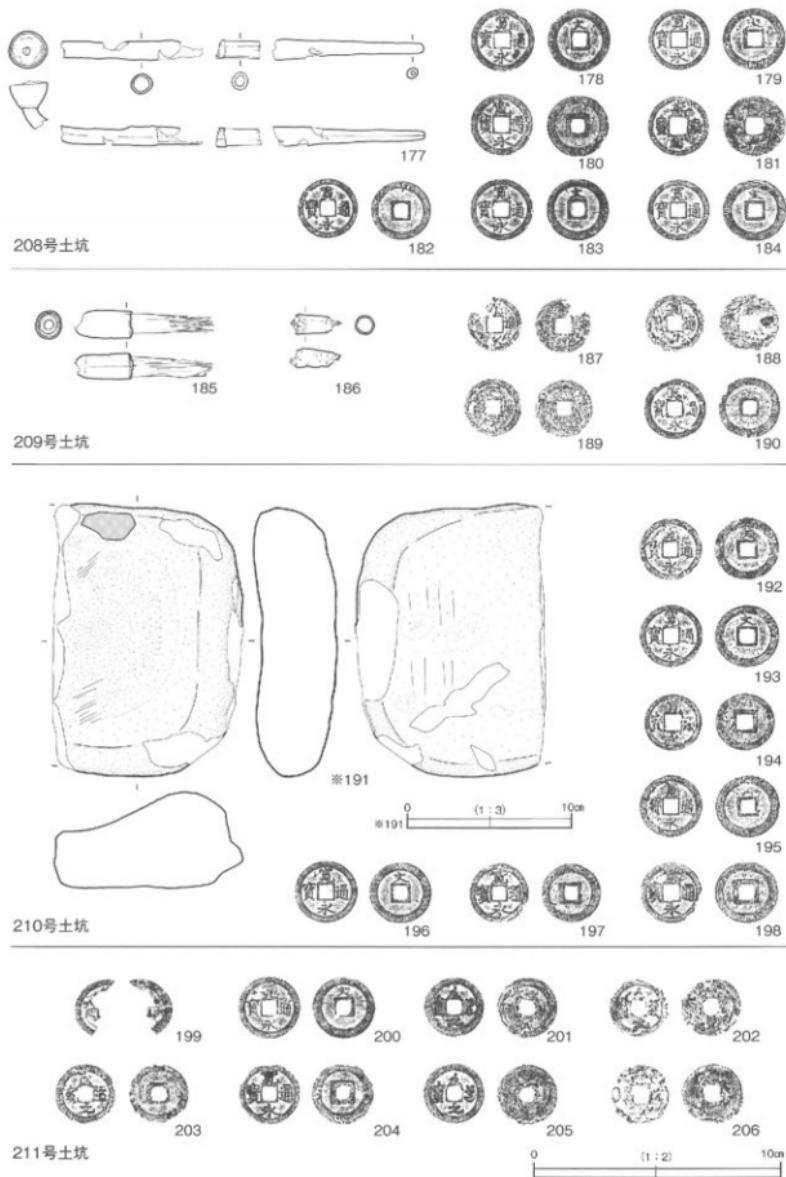


207号土坑

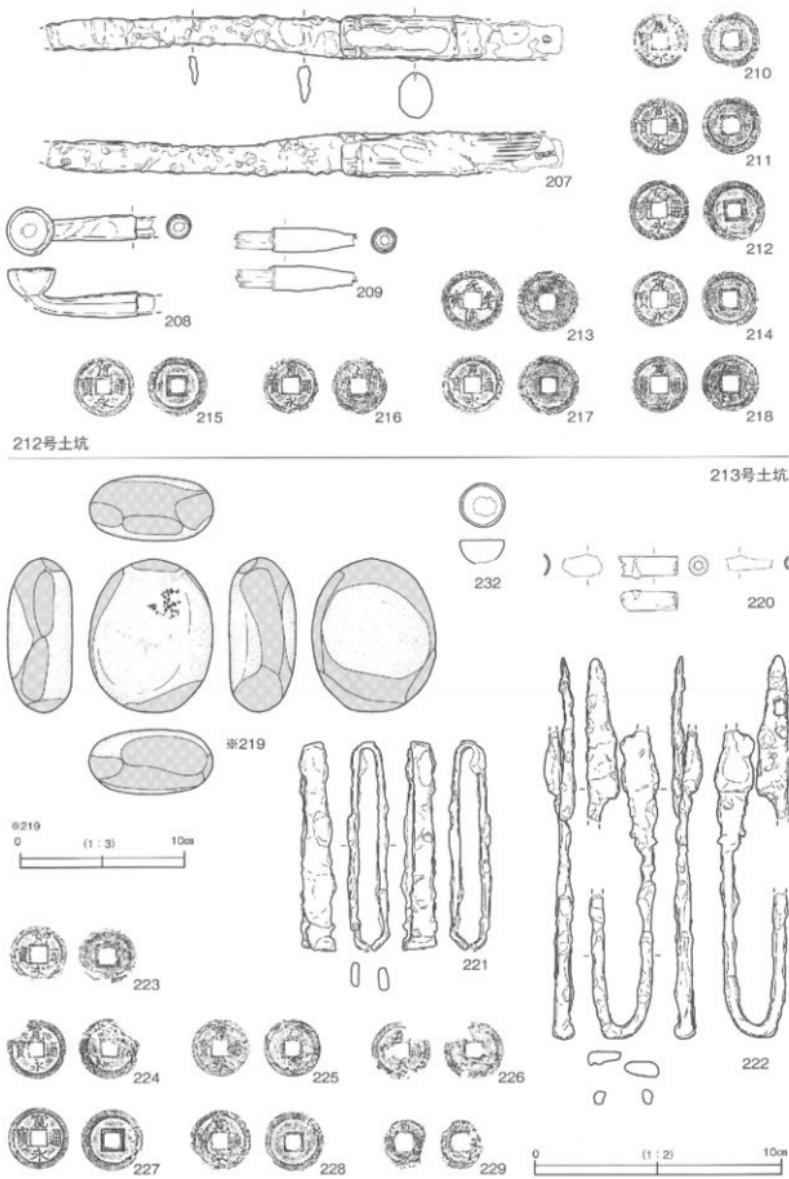
208号土坑



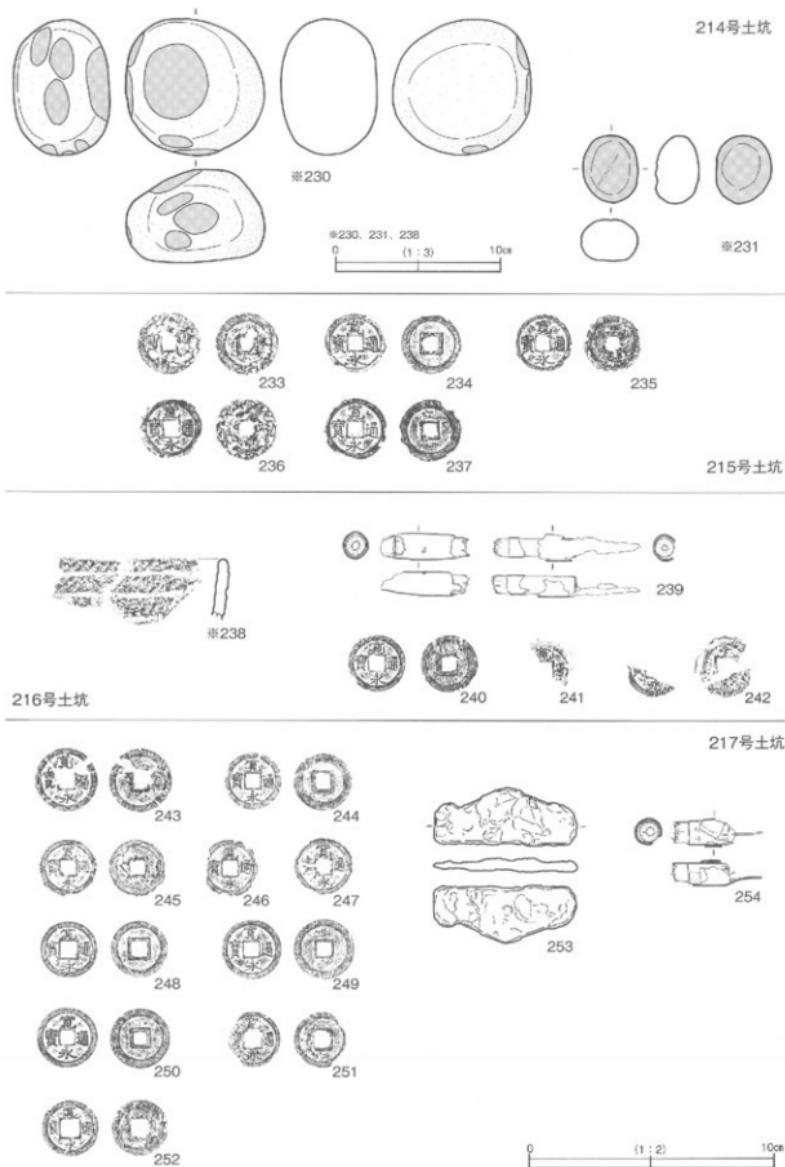
第34図 遺構内出土遺物 (12)



第35図 遺構内出土遺物 (13)



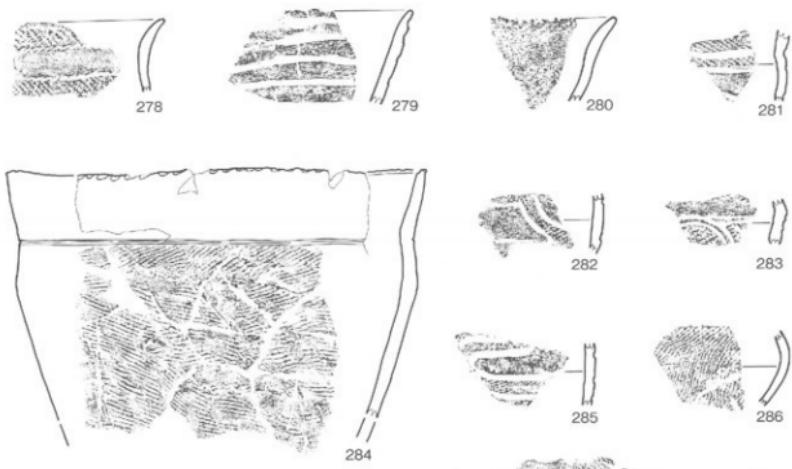
第36図 遺構内出土遺物 (14)



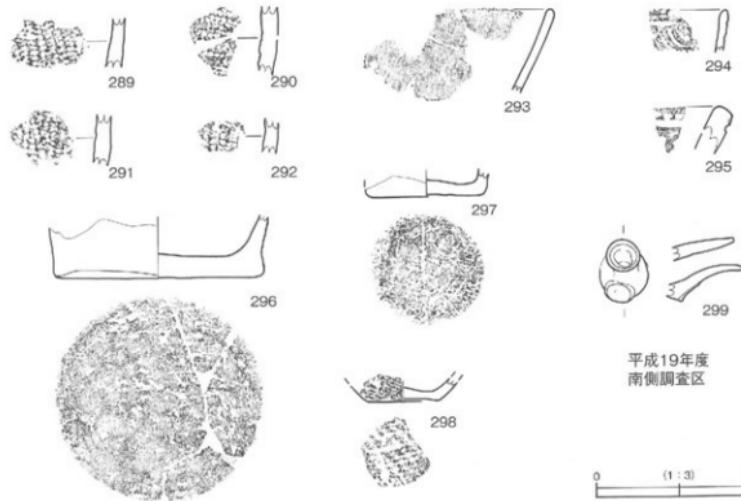
第37図 遺構内出土遺物 (15)



第38図 遺構内出土遺物 (16)

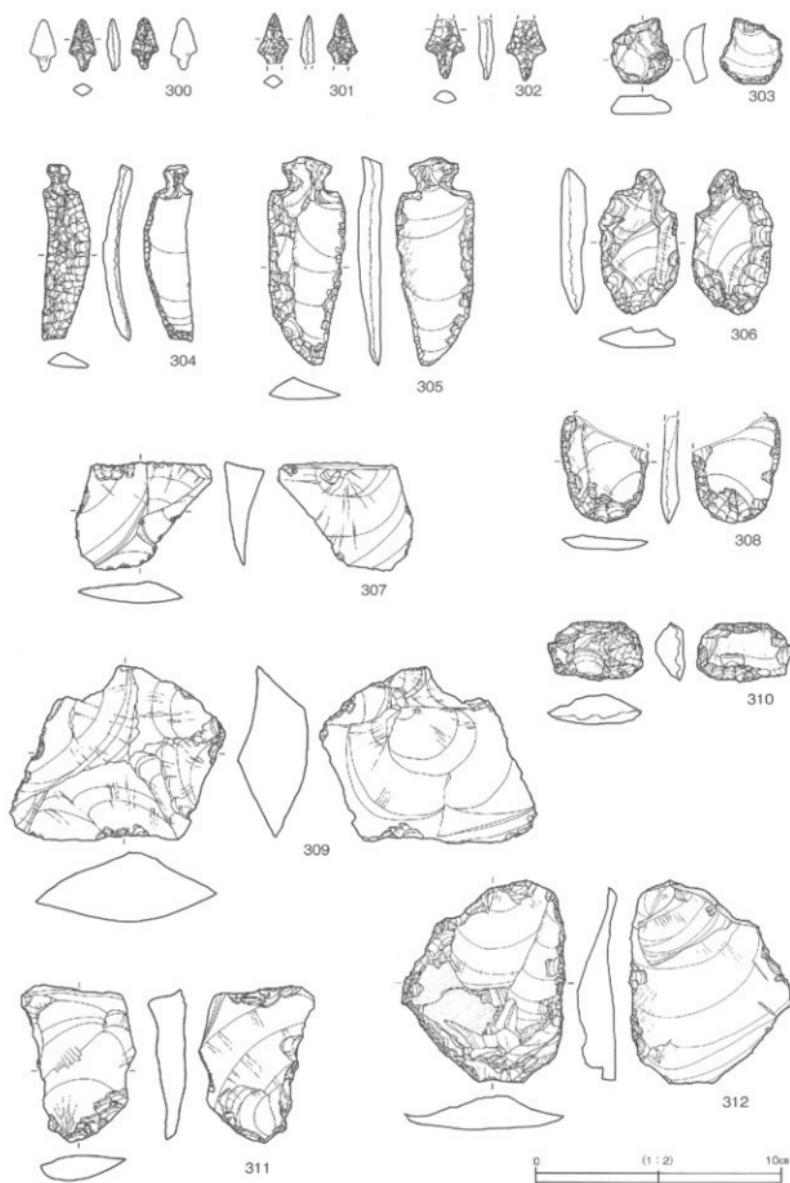


平成19年度
北側調査区

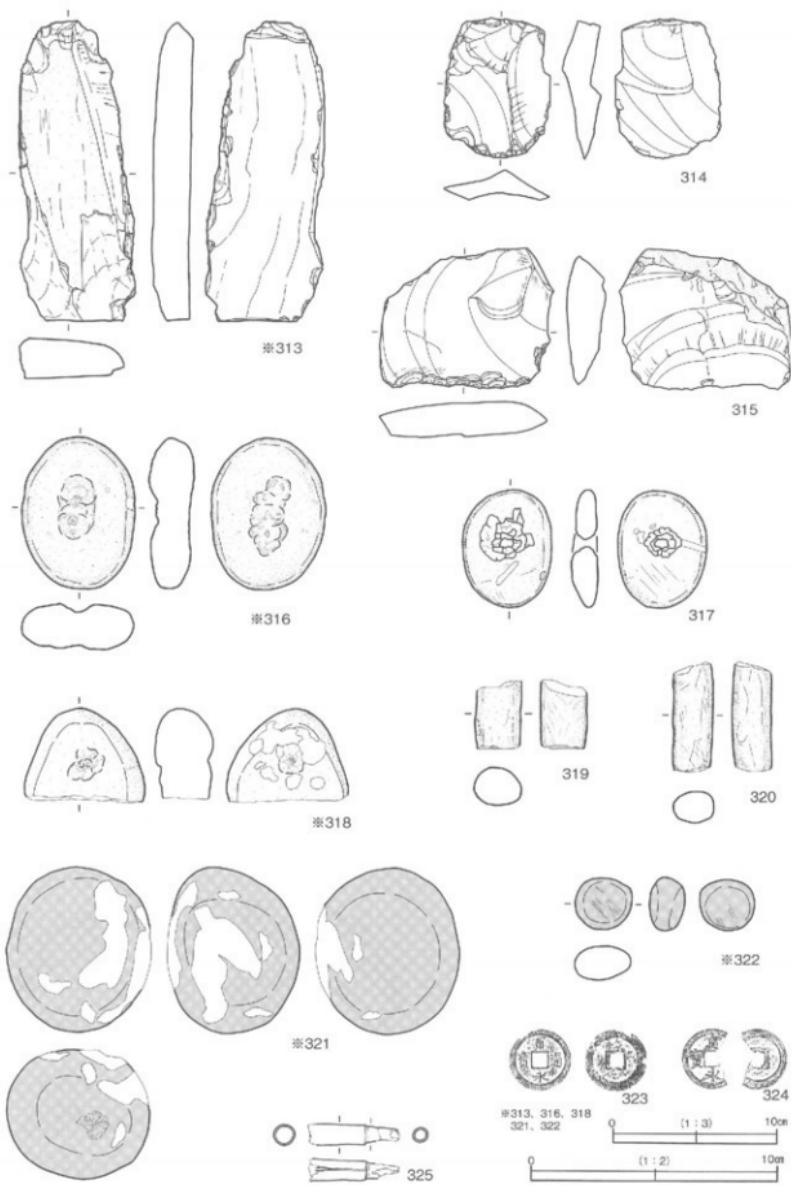


平成19年度
南側調査区

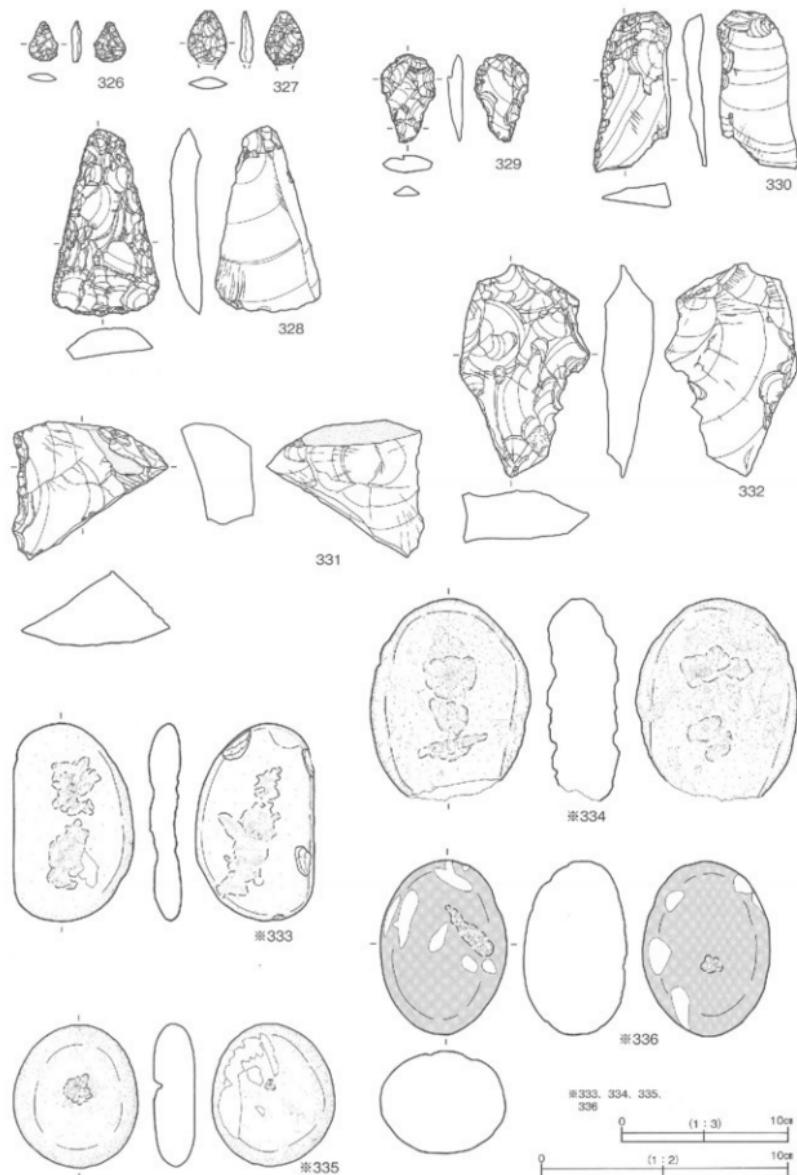
第39図 遺構外出土遺物 (1)



第40図 遺構外出土遺物（2）



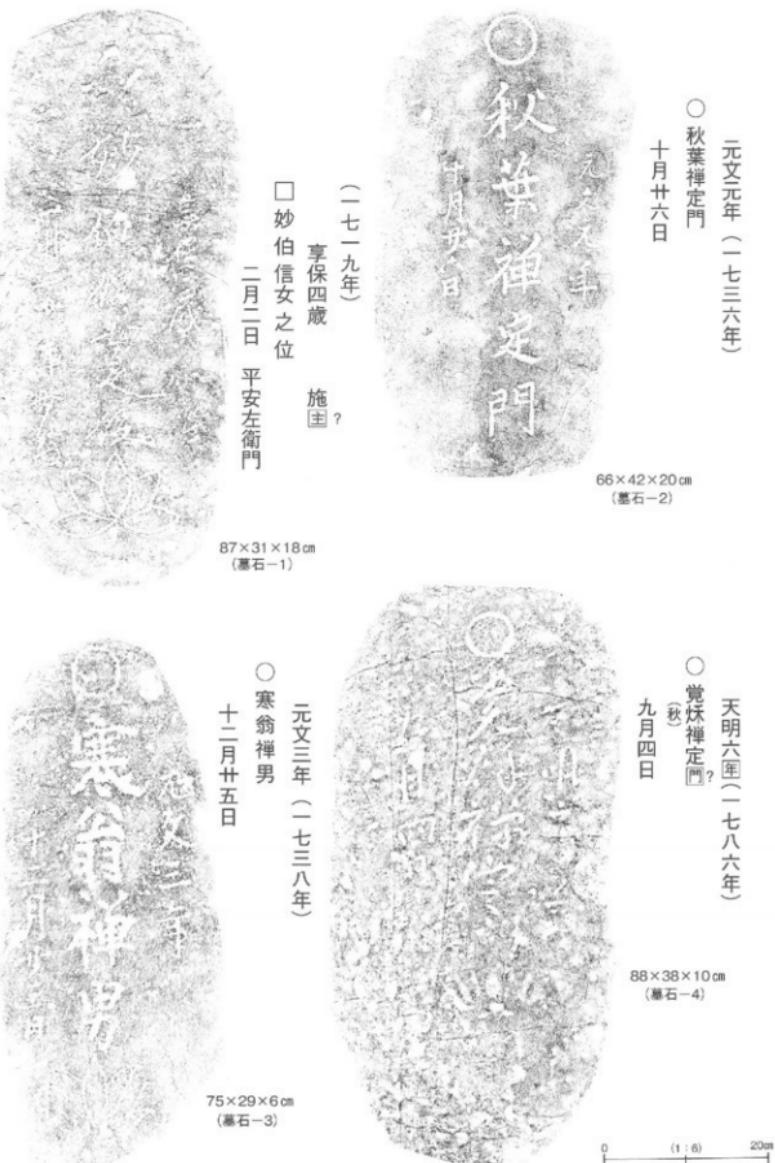
第41図 遺構外出土遺物（3）



第42図 遺構外出土遺物（4）



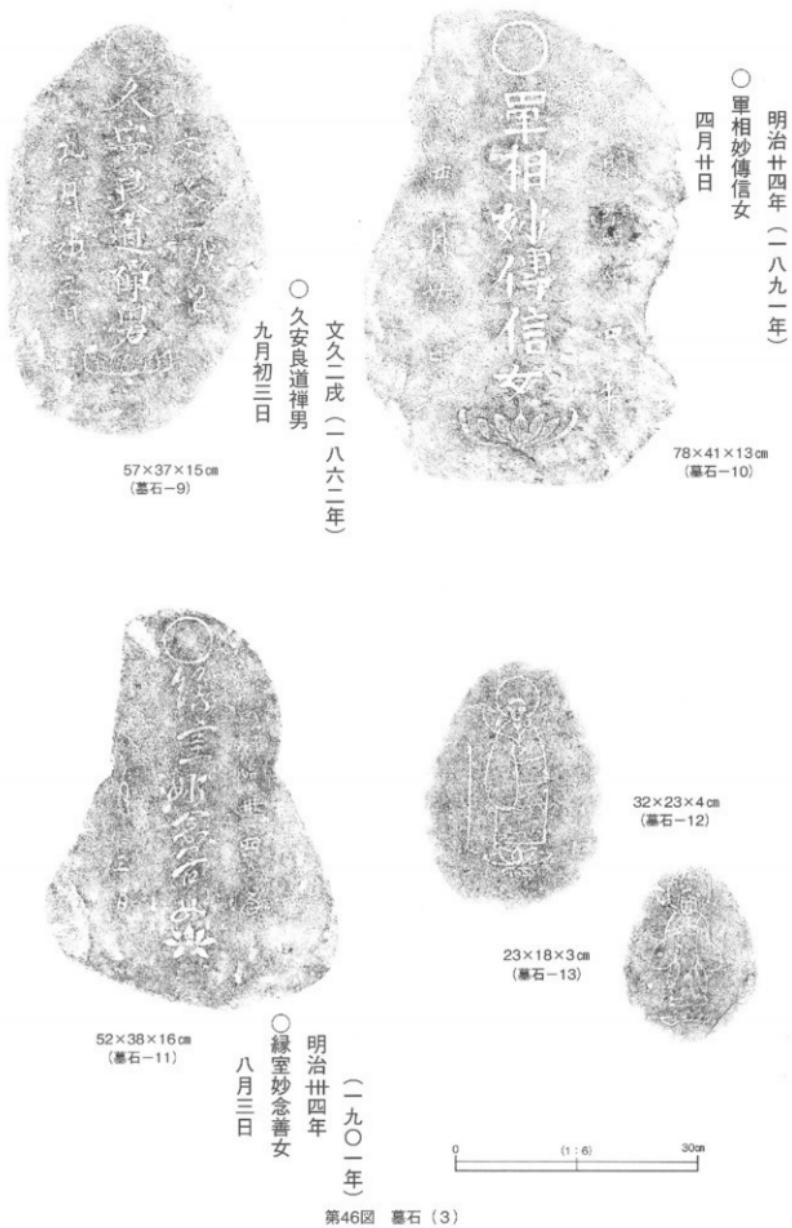
第43図 邊境外出土遺物（5）



第44図 墓石（1）



第45図 墓石（2）



第3表 平成19年度出土遺物類聚表(調査土器)

器種 部品 番号	出土地点	層位	口径	底径	部位	外観(文様、差施、施文、等)	内面	付着物	分類	その他
1 130 [10] 号令住居	土更裏	深井	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
2 131 [10] 号令住居	土更裏	深井	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
3 122 [10] 号令住居	河内西	深井	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
4 133 [10] 号令住居	土更裏	深井	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
5 134 [10] 号令住居	土更裏	深井	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
6 138 [10] 号令住居	土更裏	深井	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
7 139 [10] 号令住居	土更裏	深井	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
8 140 [10] 号令住居	土更裏	深井	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
9 141 [10] 号令住居	土更裏	深井	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
10 137 [10] 号令住居	土更裏	深井	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
11 1 140 号令住居	西側	深井	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
14 11 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
15 3 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
16 143 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
17 146 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
16 141 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
19 142 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
20 16 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
21 15 142 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
22 16 142 号令住居	Q 4	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
23 8 142 号令住居	Q 3	Q 4	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
24 9 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
25 4 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
26 149 142 号令住居	P 5	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
27 147 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
28 13 142 号令住居	Q 3	Q 4	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
29 5 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
30 17 142 号令住居	Q 3	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
31 19 142 142 号令住居	Q 3	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
32 14 142 号令住居	Q 3	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
33 7 142 号令住居	Q 1	一括	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
34 18 142 号令住居	Q 3	Q 4	山形25	山形25	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
42 98 101 142 号令住居	P 65	一面	深井	深井	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
43 97 101 142 号令住居	P 65	上面	深井	深井	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
44 95 101 142 号令住居	P 65	堆土	深井	深井	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
45 96 101 142 号令住居	P 65	堆土	深井	深井	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?
46 102 101 142 号令住居	P 56	堆土	深井	深井	内底	テテ(丁寧)	ナフ		質3	Nosと同一部位?

指標	番号	山上地名	所定	届け	届け	外附(文書・絵図、地図、図体)	内面	付物	分類	その他
47	99	101号施立地物附(1-4)	山上	届け	届け	R.L.? 游進 保持?	ナフ ナフ ナフ(1-76)	V1		
48	167	102号施立地物附(P-65)	山上	届け	届け	受取? 通行権 多条 通行権?	ナフ ナフ	II 1 d II 2 a	帶地	
49	92	102号施立地物附(P-25)	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3		
50	106	102号施立地物附(P-65)	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3	带地	
51	107	102号施立地物附(1-65)	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3		
52	166	102号施立地物附(1-65)	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III d		
53	52	103号施立地物附(1-65)	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 1	小畠多	
59	31	101号施立地物附(1-65)	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 1	小畠少	
60	32	101号施立地物附(1-65)	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 4	小畠多	
61	163	103号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3	No61-62-63と同 體作	
62	34	103号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3	No61-62-63と同 體作	
63	35	103号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3	No61-62-63と同 體作	
64	36	103号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3	No61-62-63と同 體作?	
65	172	103号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 1		
66	171	103号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 1 c		
67	173	103号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3		
69	46	104号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3		
70	47	104号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3	No70-72と同 體作	
71	48	104号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3	No70-72と同 體作	
72	49	104号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3	No70-72と同 體作	
73	164	105号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 2	No75と同 體作	
74	78	105号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3	No75と同 體作	
75	79	105号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3	No75と同 體作	
76	80	106号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 3	No73と同 體作	
77	24	106号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 2		
78	25	106号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	III 2		
79	26	106号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	IV 2		
80	23	106号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	IV 2		
81	27	106号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	IV 4 c		
82	22	106号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	IV 3		
83	21	106号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	IV 5	冲風	
89	28	107号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	IV 1	(上り) A.9	
90	29	107号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	IV 6	(下り) A.9	
92	151	108号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	IV 2 c	帶地ひい	
93	154	108号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	IV 3		
94	160	108号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	IV 1 c	冲風	
96	158	108号土坡	山上	届け	届け	「門柱」溝以「門柱」大矢立保 外反 R.1	ナフ ナフ	IV 2 a	带地	

用語	語彙	出土地点	発見	特徴	外観(文様・公式・地文・原体)	内面	骨董物	分類	その他
97	152 [16] 号土坑	1号	漆器	削詰	削詰 L.R	ナゲ ナゲ	スス(手創) スス	Ⅲ 1 c	掌鏡
98	155 [18] 号土坑	日母	漆器	削詰	削詰 0段多角?	ナゲ	スス スス	Ⅲ 3	
99	159 [18] 号土坑	日母	漆器	削詰	削詰 0段多角?	ナゲ	スス スス	Ⅲ 3	掌鏡
100	156 [18] 号土坑	日母	漆器	削詰	削詰 平行彎脚	ナゲ	スス スス	Ⅲ 3	掌鏡
101	157 [18] 号土坑	日母	漆器	削詰	削詰 平行彎脚	ナゲ	スス スス	Ⅲ 3	掌鏡
104	38 [19] 号土坑	日母	漆器	削詰	削詰 無地	ナゲ	スス スス	Ⅲ 1 c	掌鏡
105	39 [19] 号土坑	日母	漆器	削詰	削詰 無地	ナゲ	スス スス	Ⅲ 1	掌鏡
106	37 [19] 号土坑	日母	漆器	削詰	削詰 無地	ナゲ	スス スス	Ⅲ 1	掌鏡
109	67 [10] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 N.O.66 と同	ナゲ	スス スス	Ⅳ 6	
110	66 [10] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 N.O.66 と同	ナゲ	スス スス	Ⅳ 5	
111	44 [11] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ b	掌鏡
112	45 [11] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ b	掌鏡
113	43 [12] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ b	掌鏡
114	40 [13] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ b	掌鏡
115	41 [13] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ b	掌鏡
116	42 [13] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ b	掌鏡
117	51 [14] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
118	52 [14] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
119	54 [14] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
120	53 [14] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
121	55 [14] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
122	58 [14] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
123	57 [14] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
124	56 [14] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
126	61 [15] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
127	62 [15] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
128	66 [15] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
129	69 [16] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
130	71 [16] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
131	72 [16] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
132	73 [16] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
133	76 [16] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
134	74 [16] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 1	掌鏡
135	70 [16] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 2	掌鏡
136	77 [16] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅳ 3	掌鏡
139	175 [18] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅴ 1	掌鏡
140	65 [19] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅴ 1	掌鏡
141	166 [20] 号土坑	地土	漆器	削詰	削詰 口凹形目口	ナゲ	スス スス	Ⅴ 1	掌鏡

場所 令号	出土地点	層位	遺物	内面	付書物	分類	その他
142 81 121 19	井戸	井上	漆桶	山形部 少るい底板口部 漆器 漆桶	漆器 漆器 漆桶	スズ(少數) スズ(少數)	Ⅲ 1 b
143 82 121 19	井戸	井上	漆桶	漆器 漆桶	漆器	スズ多	Ⅲ 1 b
238 33 246 19	壁上上段	漆桶	漆桶	平行底 漆桶	漆桶	スズ多	Ⅲ c
265 87 102 19	壁下段	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ(1巻)	V 1
266 102 19	壁上中	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
268 86 303 令地土	塗十中~下段	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	V 1
269 89 P 3	壁土	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
270 88 P 3	壁上	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
271 90 P 3	井上	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
272 91 P 4	井上	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
273 103 P 5 0	塗十	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
274 101 P 5 0	壁土	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
275 103 P 7	塗十	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
277 104 P 11	壁土	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
278 111 A 9 水原中	裏骨	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ(1巻)	V 1
279 117 15 木原中	裏骨	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
280 113 115 水原中	裏骨	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ(1巻)	V 1
281 112 14 木原中	裏骨	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
282 114 13 区本郷中	裏骨	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
283 110 14 木原中	裏骨	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
284 116 15 26 木原中	裏骨	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
285 108 14 18 木原中	裏骨	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
286 118 15 26 木原中	裏骨	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
287 109 14 19 木原中	裏骨	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
288 115 14 木原中	裏骨	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
289 120 15 26 木原中	裏骨	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
290 125 15 8 e	井戸	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
291 128 15 8 e	井戸	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
292 129 15 8 e	井戸	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
293 168 14 20c	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
294 60 14 9 d	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
295 124 14 7 R	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
296 60 14 9 d	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
297 128 14 7 e	井戸	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
298 123 14 7 e	井戸	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶
299 93 14 8 e (P 14 9 四邊)	壁土	漆桶	漆桶	漆桶	漆桶	ナデ	漆瓶

第4表 平成19年度出土遺物観察表(石器・石製品)

編號 番号	資料 名	出土地點 名	層位	形態	體長(cm)×體幅(cm)		重量(g)	石質	時代	備考
					體長(cm)	體幅(cm)				
12	567 101 号型六方周 12	土壌	II帶	61.10	14.20	2260.00	青田石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀	
13	568 101 号型六方周 13	土壌	II帶	58.90	17.20	1650.00	安山岩	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀	
35	592 102 号型六方周 35	土壌	II帶	56.65	37.0	0.80	灰岩	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
36	396 102 号型六方周 36	土壌	II帶	7.60	26.0	0.70	93.0	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
37	319 102 号型六方周 37	土壌	II帶	3.20	29.0	1.50	13.60	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
38	569 102 号型六方周 38	土壌	II帶	36.40	19.90	7.80	719.00	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
39	399 102 号型六方周 39	土壌	II帶	3.20	21.0	1.65	21.20	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
40	503 102 号型六方周 40	石英石	II帶	11.90	8.30	5.70	719.50	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
41	594 102 号型六方周 41	石英石	II帶	32.00	1.80	4.20	616.70	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
54	596 103 1号型六方周 54	石英石	II帶	61.10	2.90	1.60	133.00	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
55	533 101 1号型六方周 55	石英石	II帶	110.00	7.70	3.20	319.90	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
56	530 101 分離式直邊形 56	石英石	II帶	63.90	13.0	2.10	28.20	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
57	572 101 分離式直邊形 57	石英石	II帶	26.90	5.50	0.90	610.00	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
58	573 101 分離式直邊形 58	石英石	II帶	26.00	26.50	8.90	1220.00	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
68	574 104 1号十字切面 68	石英石	II帶	26.20	37.00	4.10	490.00	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
81	511 106 1号十字切面 81	石英石	II帶	17.90	7.20	5.00	525.40	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
85	323 106 1号十字切面 85	石英石	II帶	4.70	2.70	0.70	8.00	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
86	569 106 1号十字切面 86	石英石	II帶	11.90	13.50	0.10	424.60	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
87	510 106 1号十字切面 87	石英石	II帶	15.65	8.20	6.65	1114.00	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
88	570 106 1号十字切面 88	石英石	II帶	34.20	25.00	8.00	1150.00	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
91	330 107 1号上端 91	石英石	II帶	2.06	1.50	0.25	0.60	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
102	516 108 1号下端 102	石英石	II帶	9.30	9.55	6.10	781.70	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
103	514 108 1号下端 103	石英石	II帶	4.30	6.00	1.70	9.00	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
107	522 108 1号下端 107	石英石	II帶	2.50	2.70	2.30	16.10	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
108	523 109 1号下端 108	石英石	II帶	22.00	14.10	7.90	334.00	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
125	347 111 1号下端 125	石英石	II帶	11.10	6.50	2.90	226.20	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
137	529 116 1号下端 137	石英石	II帶	0.90	2.10	1.80	19.80	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
138	528 116 1号下端 138	石英石	II帶	11.10	5.30	1.10	350.10	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
191	518 120 1号下端 191	石英石	II帶	16.40	11.35	4.65	1299.40	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
219	519 120 1号下端 219	石英石	II帶	9.40	7.50	4.00	372.10	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
249	520 121 1号下端 249	石英石	II帶	6.90	9.00	6.15	658.00	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
231	521 121 1号下端 231	石英石	II帶	4.10	3.35	2.50	35.60	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
267	513 130 1号下端 267	石英石	II帶	16.70	8.20	4.00	595.90	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
276	377 15 7	石英石	II帶	2.80	1.80	0.60	20.00	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
300	328 1A 105	石英石	II帶	2.10	1.10	0.60	0.90	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀
301	400 1A 148	石英石	II帶	2.05	1.20	0.50	0.80	禹州石 禹州石	新代後三紀 新代後三紀	新代後三紀

編號	名稱	出土地點	層位	標本	標本大體(目)	標本大體(目)	重量(g)	尺寸	時代	備考
302	442	II B 2b. 水根中	Ⅱ層	石塊	C 6b	1.60	1.40	Ø 7.5	更新世	八号有量 再生代新第三紀
303	500	II A 9c. 水根中	Ⅱ層	不定形石器	3.90	3.70	1.30	23.00	P1層	更新代新第三紀 再生代
304	446	I A 9. 水根中	Ⅱ層	石塊	7.20	2.00	0.60	8.50	Ⅳ層	更新代新第三紀 再生代
305	460	I B (区) 北側露頭(?)	Ⅱ層	石塊	8.50	3.20	0.90	22.00	P1層	更新代新第三紀 更新代
306	402	I A 9. 水根中	Ⅱ層	石塊	5.80	3.30	1.00	15.60	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
307	425	I B 2b. 水根中	Ⅱ層	不定形石器	4.40	5.55	1.60	21.30	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
308	443	I B 3a. 水根中	Ⅱ層	石塊	6.60	3.50	0.70	20.40	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
309	391	I A 12	Ⅰ層	不定形石器	7.10	8.70	2.60	124.50	Ⅳ層	更新代新第三紀 一次削 1.
310	403	I A 9. 水根中	Ⅱ層	石塊	3.60	5.70	1.90	34.00	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
311	413	I D 2b. 水根中	Ⅱ層	不定形石器	6.40	4.70	1.50	35.70	Ⅳ層	更新代新第三紀 一次削 1.
312	426	I B 2b. 水根中	Ⅱ層	石塊	1.10	1.30	2.30	223.10	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
313	536	I A 5.	Ⅱ層	不定形石器	18.30	7.00	2.40	201.00	Ⅳ層	更新代新第三紀 一次削 1.
314	437	I B 2b. 水根中	Ⅱ層	石塊	5.70	4.30	1.50	30.50	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
315	463	I 区 北側露頭(?)	Ⅱ層	石塊	5.70	7.10	1.50	89.90	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
316	540	I A 9. 水根中	Ⅱ層	石塊	9.20	6.90	2.70	225.80	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
317	553	I A 区	表土	有孔打孔器	4.80	3.60	1.00	20.30	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
318	539	I A 9. 水根中	Ⅱ層	凹石	6.20	6.90	0.60	199.50	安山岩	更新代新第三紀 更新代
319	537	I A 7. K	Ⅱ層	石製品	0.80	1.90	1.60	119.00	鷹羽山風	更新代新第三紀 更新代
320	555	I A 9. 水根中	Ⅱ層	石製品	0.40	1.00	1.30	13.60	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
321	542	I A 9. 水根中	Ⅱ層	骨・鱗片	10.10	8.75	7.90	941.00	安山岩	更新代新第三紀 更新代
322	556	I 区 水根中	Ⅱ層	石塊	2.10	3.40	2.20	27.60	海王岩	更新代新第三紀 更新代
326	498	I C 7. K	Ⅱ層	石塊	1.20	0.90	0.50	15.00	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
327	494	I C 7. K	Ⅱ層	石塊	0.20	1.60	0.50	1.50	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
328	495	I B (区) 南側露頭(?)	Ⅱ層	石塊	7.60	4.30	1.20	29.20	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
329	381	I C 7. d	Ⅰ層	石塊	3.00	2.10	0.70	4.50	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
330	392	I C 7. 露頭	Ⅰ層	解・結晶?	6.50	3.00	1.00	15.00	Ⅳ層	更新代新第三紀 一次加工
331	371	I C 7. e	Ⅱ層	不定形石器	6.35	5.70	2.30	67.90	Ⅳ層	更新代新第三紀 一次削 T.
332	487	I B (区) 南側露頭(?)	Ⅱ層	不定形石器	8.70	5.30	2.10	89.40	Ⅳ層	更新代新第三紀 更新代
333	564	I C 9. c	Ⅱ層	骨	1.30	7.80	2.00	253.40	海王岩	更新代新第三紀 更新代
334	565	海羽山風外	Ⅱ層	骨	0.20	9.70	4.40	567.50	海王岩	更新代新第三紀 更新代
335	548	I C 8. e	Ⅱ層	骨	0.70	7.60	2.50	196.10	海王岩	更新代新第三紀 更新代
336	562	海羽山風外	Ⅱ層	骨	10.70	7.60	6.20	650.10	安山岩	更新代新第三紀 更新代
337	535	I C 7. c	Ⅰ層	骨	14.40	11.30	7.30	355.10	安山岩	更新代新第三紀 更新代
338	560	海羽山風外	Ⅱ層	骨	11.40	8.70	5.90	695.50	海王岩	更新代新第三紀 更新代

第5表 平成19年度出土遺物観察表(鉢)

測量 番号	金目 番号	出土場所	層位	断片 種	幅 (cm)	縦 (cm)	標記	初期鉄器 時代	中期鉄器 時代	後期鉄器 時代	洋地	その他
141	601 201号土坑	灰面直上	層位	陶	2.10	3.16	寛永通寶 古	古	17c前	1653年	水田鏡	
145	602 201号土坑	灰面直上	層位	陶	2.05	3.49	寛永通寶 古	新	17c後	1698年	海白文	
146	603 201号土坑	灰面直上	層位	陶	2.50	3.65	寛永通寶 古	古	17c前	1653年	水田鏡	
147	604 201号土坑	灰面直上	層位	陶	2.30	2.95	寛永通寶 古	古	17c後	1637年	開山鏡?	
148	606 201号土坑	灰面直上	層位	陶	2.35	2.97	寛永通寶 新	新	17c後	1668年	正字文	
149	606 301号土坑	灰面直上	層位	陶	2.50	2.71	寛永通寶 新	新	17c後	1665年	通点文	
150	607 206号土坑	灰面直上	層位	陶	2.45	3.19	寛永通寶 古	古	17c前	1637年	水田、ひも出あり	
151	608 206号土坑	灰面直上	層位	陶	2.50	2.99	寛永通寶 古	古	17c中	1656年	無地鏡	
152	609 206号土坑	灰面直上	層位	陶	2.00	3.29	寛永通寶 古	古	17c中	1653年	無地鏡	
153	610 206号土坑	灰面直上	層位	陶	2.40	4.28	寛永通寶 古	古	17c前	1639年	無地鏡	
154	611 206号土坑	灰面直上	層位	陶	2.55	3.87	寛永通寶 新	新	17c後	1666年	通点文	
155	612 206号土坑	灰面直上	層位	陶	2.45	4.08	寛永通寶 古	古	17c中?	1656年?	無地鏡?	
156	609 206号土坑	灰面直上	層位	陶	2.00	3.05	11.12	不明	?	?	通点文?	
157	613 203号土坑	埴生上位	層位	陶	2.40	3.03	寛永通寶 古	古	17c前	1637年	水田鏡	
158	614 203号土坑	埴生上位	層位	陶	2.45	3.15	寛永通寶 古	古	17c前	1637年	正田鏡	
159	615 203号土坑	埴生上位	層位	陶	2.55	3.41	寛永通寶 新	新	17c中	1653年	無仁寺鏡	
160	616 203号土坑	埴生上位	層位	陶	2.45	2.44	寛永通寶 新	古	17c前	1639年	無仁寺鏡	
161	617 203号土坑	埴生上位	層位	陶	2.40	3.15	寛永通寶 古	古	17c前	1637年	田代鏡	
162	618 203号土坑	埴生上位	層位	陶	2.50	1.18	寛永通寶 古	古	17c中?	1656年?	無地鏡?	
163	619 203号土坑	青面	層位	陶	2.50	1.99	咸平元宝 新	新	998年?	元祐鏡	吉片あり	
165	620 203号土坑	埴生上位	層位	陶	2.50	2.07	寛永通寶 新	新	~17c中?	?	?	
166	621 206号土坑	埴生上位	層位	陶	2.60	2.96	寛永通寶 新	新	17c後	1666年	通点文	
167	622 206号土坑	埴生上位	層位	陶	2.55	2.26	寛永通寶 新	新	17c後	1668年	文漢	
168	623 206号土坑	埴生下位	層位	陶	2.50	3.14	光顯大鏡 北生火鏡	北生火鏡	1023年	1703年	北生火鏡	
169	624 206号土坑	埴生下位	層位	陶	2.45	2.91	寛永通寶 新	新	17c前	1637年	2丁目鏡	
170	625 206号土坑	埴生下位	層位	陶	2.40	2.39	寛永通寶 新	新	17c前	1637年?	開山鏡?	
174	626 207号土坑	男土1号	層位	陶	2.50	1.90	寛永通寶 新	新	17c前	1637年	無口鏡	
175	627 207号土坑	窓下	層位	陶	2.60	0.61	寛永通寶 新	新	~17c中?	?	鏡1/3	
178	628 208号土坑	廻り1号	層位	陶	2.60	1.97	寛永通寶 新	新	17c後	1668年	正字文	
179	630 206号土坑	出土	層位	陶	2.50	3.15	寛永通寶 新	新	17c後	1668年	文鏡	
180	629 206号土坑	廻り1号	層位	陶	2.50	2.94	寛永通寶 新	新	17c後	1668年	正字文	
181	631 206号土坑	廻り1号	層位	陶	2.50	2.94	不明	?	?	?	無地鏡?	
182	632 206号土坑	田土1号	層位	陶	2.40	2.22	寛永通寶 古?	?	~17c中?	1637年?	開山鏡?	-165
183	633 206号土坑	廻り1号	層位	陶	2.50	2.73	寛永通寶 新	新	17c後	1668年	正字文	
184	634 206号土坑	廻り1号	層位	陶	2.50	2.77	寛永通寶 新	新	17c後	1668年	正字文	

地番 (じばん) 番号 (ばんごう)	出土場所 (しゅっとうじょうしょ)	層位 (そうい)	測定 (そくtein)	傾倒 (けいとう)	相應 (あいのう) 年代 (ねんだい)	相應 (あいのう) 進化 (しんか)	その他
187 635 209 号土坑 a	a 亂面瓦上	1 瓦	2.20	1.05	瓦水道管 新	?	?
188 636 209 号土坑 b	b 亂面瓦上	1 瓦	2.35	1.59	瓦水道管 新	?	?
189 637 209 号土坑 c	c 扁土上位	1 瓦	2.30	1.96	瓦水道管 新	?	?
190 638 209 号土坑 d	d 扁土上位	1 瓦	2.50	2.27	瓦水道管 新	18c 前 17c 後~	瓦片 (瓦だらもの)
191 639 210 号土坑 e	e 扁土上位	1 瓦	2.50	1.97	瓦水道管 新	17c 後 1668 年	瓦片 (瓦だらもの)
192 641 210 号土坑 f	f 亂面瓦上	1 瓦	2.50	2.64	瓦水道管 新	17c 後 1668 年	瓦片 (瓦だらもの)
193 642 210 号土坑 g	g 亂面瓦上	1 瓦	2.50	2.86	瓦水道管 新	17c 後 1668 年	瓦片 (瓦だらもの)
194 643 210 号土坑 h	h 亂面瓦上	1 瓦	2.30	2.38	瓦水道管 新	18c 前 17c 後~	瓦片 (瓦だらもの)
195 644 210 号土坑 i	i 亂面瓦上	1 瓦	2.50	3.11	瓦水道管 新	18c 前 1711 年?	瓦片 (瓦だらもの)
197 640 210 号土坑 j	j 亂面瓦上	1 瓦	2.40	2.80	重土通路 古	17c 後 1637 年	吉田 (よしだ) 族
198 645 210 号土坑 k	k 亂面瓦上	1 瓦	2.50	2.22	瓦水道管 古	17c 中 1633 年	吉田 (よしだ) 族
199 646 211 号土坑 l	l 亂面瓦上	1 瓦	0.22	0.22	瓦水道管 瓦	17c 後 1668 年以前	瓦片 (瓦だらもの)
200 647 211 号土坑 m	m 亂面瓦上	1 瓦	2.50	1.43	瓦水道管 瓦	17c 後 1668 年	瓦片 (瓦だらもの)
201 648 211 号土坑 n	n 亂面瓦上	1 瓦	2.45	2.34	半深元管 北朝 (ほくしやう)	995 年 995 年	瓦片 (瓦だらもの)
202 649 211 号土坑 o	o 亂面瓦上	1 瓦	2.40	1.42	半深元管 北朝 (ほくしやう)	996 年 996 年	瓦片 (瓦だらもの)
203 650 211 号土坑 p	p 亂面瓦上	1 瓦	2.50	2.59	半深元管 北朝 (ほくしやう)	995 年 995 年	瓦片 (瓦だらもの)
204 651 211 号土坑 q	q 亂面瓦上	1 瓦	2.50	2.73	瓦水道管 古	17c 後 1657 年	山川 (さんせん) 族
205 652 211 号土坑 r	r 亂面瓦上	1 瓦	2.50	3.21	半深元管 北朝 (ほくしやう)	995 年 995 年	瓦片 (瓦だらもの)
206 653 211 号土坑 s	s 亂面瓦上	1 瓦	2.40	1.93	半深元管 北朝 (ほくしやう)	995 年?	瓦片 (瓦だらもの)
210 654 212 号土坑 a	a 亂面瓦上	1 瓦	2.30	2.87	瓦水道管 新	17c 後~ 1767 年	瓦片 (瓦だらもの)
211 655 212 号土坑 b	b 亂面瓦上	1 瓦	2.40	2.35	瓦水道管 新	18c 後 1767 年	瓦片 (瓦だらもの)
212 656 212 号土坑 c	c 亂面瓦上	1 瓦	2.50	2.37	瓦水道管 古	17c 後 1767 年?	瓦片 (瓦だらもの)
213 657 212 号土坑 d	d 亂面瓦上	1 瓦	2.50	2.57	瓦水道管 新	17c 後~ 1708 年	瓦片 (瓦だらもの)
214 658 212 号土坑 e	e 亂面瓦上	1 瓦	2.30	3.01	瓦水道管 新	18c 後 1708 年	瓦片 (瓦だらもの)
215 659 212 号土坑 f	f 亂面瓦上	1 瓦	2.50	2.07	瓦水道管 古	17c 後 1635 年	瓦片 (瓦だらもの)
216 660 212 号土坑 g	g 亂面瓦上	1 瓦	2.30	2.94	瓦水道管 新	18c 後 1708 年	瓦片 (瓦だらもの)
217 661 212 号土坑 h	h 亂面瓦上	1 瓦	2.15	2.67	瓦水道管 新	18c 後~ 1728 年	瓦片 (瓦だらもの)
218 662 212 号土坑 i	i 亂面瓦上	1 瓦	2.30	1.86	瓦水道管 新	18c 後~ 1728 年	瓦片 (瓦だらもの)
223 663 213 号土坑 j	j 地土	1 地土	2.35	1.65	瓦水道管 新	17c 後 1728 年	瓦片 (瓦だらもの)
224 664 213 号土坑 k	k 地土	1 地土	2.50	1.83	瓦水道管 新	18c 前 1728 年	瓦片 (瓦だらもの)
225 665 213 号土坑 l	l 地土	1 地土	2.35	1.86	瓦水道管 新	18c 前 1728 年	瓦片 (瓦だらもの)
226 666 213 号土坑 m	m 地土	1 地土	2.40	2.64	瓦水道管 新	18c 前 1728 年	瓦片 (瓦だらもの)
227 668 213 号土坑 n	n 地土	1 地土	2.50	1.57	瓦水道管 古	17c 中 1633 年	瓦片 (瓦だらもの)
228 669 213 号土坑 o	o 地土	1 地土	2.50	2.66	瓦水道管 新	18c 前? 1728 年?	瓦片 (瓦だらもの)
229 666 213 号土坑 p	p 地土	1 地土	—	1.63	瓦水道管 新	17c 後~ 1728 年?	瓦片 (瓦だらもの)
233 669 215 号土坑 q	q 多子中位	1 多子中位	2.35	2.33	瓦水道管 古	17c 後~ 1728 年?	瓦片 (瓦だらもの)
234 670 215 号土坑 r	r 地土中位 s	1 地土中位	2.45	2.63	瓦水道管 古	17c 後 1635 年	水口 (みなくち)

地番	登記 番号	出土地点	施設	本村 径 (m)	本量 (t)	標別	初期造営年	終期造営年	地盤	地質	その他
285	671 215 土坑 c	中央	河上十位	渠	2.40	1.92	渠水通貫	占	17c 前	1653 年	水戸地
296	672 215 土坑 中央 d	中央	河中十位	渠	2.50	3.00	渠水通貫	占	17c 中	1653 年	築堤今根
237	673 215 土坑 中央 e	中央	河中十位	渠	2.50	2.97	渠水通貫	新	17c 後	1668 年	文武
240	674 216 土坑 亂礁渠上	乱礁渠上	渠	2.30	2.27	渠水通貫	新	17c 前	1736 年	渠水通貫?	水戸とともに港井
241	688 216 土坑	亂礁渠上	渠	—	—	渠水通貫	新	17c 後~	2	?	水戸とともに港井
242	689 216 土坑 沖開渠上	沖開渠上	渠	—	—	渠水通貫	新	17c 後~	3	?	水戸とともに港井
342	690 216 土坑 沖開渠上	沖開渠上	渠	2.80	3.69	小明	?	?	3	?	港戸要しい
243	675 217 土坑 西側	河上十位	渠	2.50	1.56	渠水通貫	新	18c 前?	1774 年?	未確認?	
244	676 217 土坑 ①	渠中十位	渠	2.35	0.94	渠水通貫	新	18c 前?	1736 年	渠水通貫?	水戸港水(十萬石)?
250	677 217 土坑 ②	渠中十位	渠	2.45	2.76	渠水通貫	古	17c 前	1637 年	未確認?	
251	679 217 土坑 ③	渠中十位	渠	2.30	0.77	渠水通貫	新	17c 後~	?	?	未確認?
246	680 a 217 土坑 a ④	渠中十位	渠	2.35	—	渠水通貫	新	18c 前	1738 年	未確認入字	
247	680 b 217 土坑 a ⑤	渠中十位	渠	—	—	渠水通貫	新	18c 前	1738 年	未確認入字	
248	680 c 217 土坑 a ⑤	渠中十位	渠	—	—	渠水通貫	新	18c 前	1738 年	未確認入字	
252	681 217 土坑 b	渠中十位	渠	2.30	1.35	渠水通貫	新	18c 前	1739 年	未確認(未出字)	
258	682 217 土坑 c	渠中十位	渠	2.30	1.75	渠水通貫	新	18c 前	1736 年	渠水通貫(十萬石)?	
249	683 217 土坑 d	渠中十位	渠	2.50	1.74	渠水通貫	新	17c 後	1668 年?	未確認?	
258	684 215 土坑 南†	河上十位	渠	—	0.57	渠水通貫	新	17c 後~	?	?	未確認?
262	694 228 土坑	河上	小明	2.10	7.49	不明	?	?	?	?	港戸要?
340	695 1-C-h	1層	渠	2.50	1.62	渠水通貫	新	2008 年	1908 年	港戸要?	
323	696 II-A-h (301 号添付)	III-1-管	渠	2.55	1.77	渠水通貫	新	17c 後	1668 年?	未確認?	
324	697 II-A-hg (P 19 図註)	II管	渠	2.50	1.62	渠水通貫	古	17c 中	1666 年?	未確認?	
341	692 1-C-7 h	1層	土壟	2.23	0.94	土壟	?	1911 年	1941 年	昭和 15 年頃	

第6表 平成19年度出土遺物観察表(陶器)

編號 番号	出土地点 遺跡名	層位	材質	断面	記述	口径 (cm)	底径 (cm)	壁厚 (cm)	重量 (g)	外観 (施薬・詰付)	所持	年代	その他
265 265	[001] 21号土坑 施工	施工上位	陶器	筒	第一底盤	—	(3.1)	0.65	7.20	二重さび	人泡明馬	J.前	
266 266	[002] 25号土坑 施工	施工中	陶器	筒	第二底盤	—	—	—	4.5	弧輪	人泡明馬?	小明	
267 267	[003] 25号土坑 施工	施工中	陶器	筒	第三底盤	—	—	—	3.5	突起?	人泡明馬?	小明	
268 268	[004] 20号土坑 施工	筒	陶器	筒	第一底盤	—	—	—	1.27	側面状態	こじりび	人泡明馬?	
269 269	[005] 20号土坑 施工	筒	陶器	筒	第二底盤	—	—	—	3.4	鉢形	人泡明馬?	小明	
270 270	[006] 1.八? 7	筒	陶器	筒	第三底盤	—	—	—	5.0	側面切端	透明釉	人泡明馬?	
271 271	[A] A.81	筒	陶器	筒	第四底盤	—	—	—	3.62	底輪 2巻	在施	角井	
272 272	[008] 開削跡外	底盤	陶器	柱	第五底盤	—	—	—	21.5	合計 厚度 6.65	合計 重さ 2.65	人泡明馬?	

第7表 平成19年度出土遺物観察表(焼物)

編號 番号	出土地点 遺跡名	層位	種類	断面	素材	高さ (cm)	横幅 (cm)	深幅 (cm)	重量 (g)	特徴等	所持	年代	その他
173 173	202.20号土坑 N.O.3	地下下位	灰陶	筒	筒	0.60	1.50	1.00	1.00	1.58	人泡明馬?	J.前	直腹盆?
177 177	203.20号土坑 N.O.3	地下下位	灰陶	筒	筒	0.50	1.10	0.10	2.00	5.08	人泡明馬?	J.前	直腹盆?
185 185	204.20号土坑	底盤	陶器	筒	筒	0.70	1.10	0.10	2.00	6.08	人泡明馬?	J.前	直腹盆?
186 186	205.20号土坑	底盤	陶器	筒	筒	0.50	0.90	0.10	0.90	1.97	人泡明馬?	J.前	直腹盆?
208 208	206.21号土坑	底盤	陶器	筒	筒	0.50	0.90	0.10	0.90	1.97	人泡明馬?	J.前	直腹盆?
209 209	207.21号土坑	底盤	陶器	筒	筒	0.50	0.90	0.10	0.90	1.97	人泡明馬?	J.前	直腹盆?
210 210	208.21号土坑	底盤	陶器	筒	筒	0.50	0.90	0.10	0.90	1.97	人泡明馬?	J.前	直腹盆?
211 211	209.21号土坑 N.O.2	底盤	陶器	筒	筒	0.50	0.90	0.10	0.90	1.97	人泡明馬?	J.前	直腹盆?
212 212	210.21号土坑 N.O.3	底盤	陶器	筒	筒	0.50	0.90	0.10	0.90	1.97	人泡明馬?	J.前	直腹盆?
213 213	210.20号土坑	底盤	陶器	筒	筒	0.50	0.90	0.10	0.90	1.97	人泡明馬?	J.前	直腹盆?
214 214	211.20号土坑 中段	底盤	陶器	筒	筒	0.50	0.90	0.10	0.90	1.97	人泡明馬?	J.前	直腹盆?
215 215	214. P. 1	底盤	陶器	筒	筒	0.50	0.90	0.10	0.90	1.97	人泡明馬?	J.前	直腹盆?

第8表 平成19年度出土遺物観察表(漆製品)

編號 番号	出土地所	層位	種類	部位	木材	高さ (cm)	横幅 (cm)	総幅 (cm)	重量 (g)	特徴等	所持	年代	その他
111 111	803.30号土坑	施工上位	漆器	丸	丸	0.20	1.45	1.43	—	その他の	3	出土物 b と付合	
112 112	804.30号土坑 N.O.4	施工上位	漆器	丸	丸	0.30	1.00	1.32	—	出土物 a と付合	b	出土物 a と付合	
175 175	808.25号土坑	底盤	漆器	丸	丸	—	3.70	2.20	57.05	先端部少々破損	3	出土物 a と付合	
207 207	819.21号土坑	底盤	漆器	丸	丸	0.90	1.30	3.49	59.00	先端部少々破損	3	出土物 a と付合	
222 222	820.21号土坑 N.O.5	底盤	漆器	丸	丸	0.90	1.20	17.20	—	その他の	a	—	
223 223	821.21号土坑 中段	底盤	漆器	丸	丸	0.90	1.25	11.54	63.00	先端部少々破損	b	—	
226 226	825.21号土坑	底盤	漆器	丸	丸	0.90	1.25	13.09	—	その他の	a	—	
259 259	826.21号土坑	底盤	漆器	丸	丸	0.90	1.45	7.60	—	その他の	b	—	

第9表 平成19年度出土遺物観察表（その他）

所蔵 番号	登録 番号	出土場所	層位	性質	部位	材質	形状(㎜)	底厚(㎜)	重量(㎏)	特徴等	その他
257	821	18号「松」 溝中	壁上部 表面	漆器	漆器底	漆	65.65	0.70	0.27		
164	962	236号「土瓶」 溝中	底面	漆器	漆器底	漆	65.50	0.50	1.30	5.61 特徴?	

第10表 平成19年度出土遺物観察表（参考）

所蔵 番号	登録 番号	出土場所	層位	性質	部位	材質	形状(㎜)	底厚(㎜)	重量(㎏)	特徴等	その他
343	407	33号「刀子」 溝中	漆器底	漆器	漆器底	漆	3.50	2.20	0.15	1.05 特徴?	漆真のみ
344	613	33号「土瓶」 溝中	底面	漆器	漆器底	漆	3.50	2.70	0.40	0.64 不完全 底厚約0.7mm	漆真のみ
345	659	33号「刀子」 溝中	刀身	漆器	漆器底	漆	3.50	2.10	0.50	0.67 底厚約0.7mm	漆真のみ
346	647	11号「土瓶」 溝中	底面	漆器	漆器底	漆	2.30	2.05	0.10	0.21 大変薄い、小片であります	漆真のみ
347	678	237号「土瓶」 溝中	底面	漆器	漆器底	漆	2.30	2.10	0.40	0.60 漆付	漆真のみ
348	679	237号「土瓶」 溝中	底面	漆器	漆器底	漆	2.55	1.90	0.40	0.64 漆付	漆真のみ

第11表 平成19年度出土遺物観察表（表面特異品）

所蔵 番号	登録 番号	出土場所	層位	性質	部位	材質	形状(㎜)	底厚(㎜)	重量(㎏)	特徴	時代
339	575	236号「金文刀子」 溝中	衣冠 表面	竹刀子(B)	刀身	竹	1.2	3.00	0.50	12.50 アサイ	石工山腹 北上山地
363	188	236号「金文刀子」 溝中	衣冠 表面	竹刀子(B)	刀身	竹	0.60	0.30	0.90	- 先風器	石工山腹 北上山地
所蔵 番号	登録 番号	出土場所	層位	性質	部位	材質	形状(㎜)	底厚(㎜)	重量(㎏)	内・外因 彩色(付)	時代
352	1009	C-7 b	1編	ガラス	小點瓶	美形	21.0	4.0	3.15	353.00 「みやび呑」	漆真のみ

3 平成20年度調査

(1) 遺 勉

a 土器埋設遺構

平成20年度調査でのみ1基検出された。埋設された土器から、時期は縄文時代中期後半と考えられる。

101号土器埋設遺構（第47図、写真図版52）

＜位置＞IC9 h グリッドの南西隅寄りで確認された。本遺構の南側約2mに124号土坑がある。

＜概要＞墓壙が集中する平坦部から東側へ下る斜面肩部付近に位置する。埋設された土器の掘り方は明瞭でない。この周辺に柱穴などは見つかず、遺構間の重複もない。

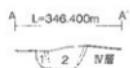
＜規模＞土器の直径15cm。一部深さ10cm程度の掘り方を有する。底部が残っており、正立状態で埋められたものだが、遺構の上部は検出時かそれ以前に失われたと思われる。

＜出土遺物＞深鉢形土器の胴部から底部（354）。

土器内部には暗褐色土が入っていた。

＜時期＞出土遺物から縄文時代中期後半の遺構としておく。詳細な時期は不明である。

101号土器埋設遺構



- | | | | | |
|---|-------------|-----|--------|---------|
| 1 | 10YR3/2黒褐色土 | シルト | 粘性やあり | しまりあり |
| 2 | 10YR2/2黒褐色土 | シルト | 粘性ややあり | しまりややあり |
| | 土器内の土 | | | |

第47図 101号土器埋設遺構

b 土坑

平成20年度の調査では89基検出された。その内訳は、縄文時代に属する土坑が4基、近世以降の墓壙が72基、時期不明の土坑が13基である。近世以降に属する墓壙のうち、副葬品に明治・大正および昭和期の錢貨が納められていたものは9基見つかった。これらの墓壙は基本的に改葬されており、埋葬時の墓の形状や副葬品がそのまま留められているものは少ない。近世以降の墓壙とした根拠は、副葬品または人骨を伴っていることに依ったが、中にはその平面形状等から判断したものもある。

なお、墓壙から出土した人骨は、委託者を通じ奥州市胆沢総合支所胆沢ダム振興室の担当者と前地権者との協議を経て、後日「市野々公葬地」に埋葬された。

122号土坑（第48図、写真図版31）

＜位置＞IC10 f グリッド内。

＜概要＞平面形は不整な円形で、断面形は浅皿状である。底面は波打つ。重複は認められない。

＜規模＞107×90cm、深さ8cm。

＜堆積土＞にぶい黄褐色土の単層で炭化物を含む。

＜出土遺物＞縄文土器（355）と石器剥片2点35g。

＜時期＞出土した遺物から縄文時代に属する遺構である。詳細な時期は不明である。

123号土坑（第48図、写真図版31）

＜位置＞II C2c グリッド内。

＜概要＞平面形は不整な円形で、断面形は逆台形状である。底面は平坦で、他の造構との重複はない。

＜規模＞125×116cm、深さ46cm。 ＜堆積土＞黒褐色土の単層で黄褐色土粒を含む。

＜出土遺物＞土器片15点179.1g。

＜時期＞遺物から縄文時代に属する造構である。出土遺物がわずかであり、詳細な時期は不明である。

124号土坑（第48図、写真図版31）

＜位置＞I C9i グリッド内、1号土器埋設造構の南側約3mに位置する。

＜概要＞平面形はほぼ円形で、断面形は浅皿状である。底面は斜面下側が凹む。他造構との重複は認められない。 ＜規模＞137×?cm、深さ29cm。

＜堆積土＞上位は土器片を含む黒褐色土、下位は砾を含む暗褐色土である。自然堆積と思われる。

＜出土遺物＞縄文土器（356・357）と土器片7点43.3g。

＜時期＞出土した遺物から縄文時代に属する造構である。土器の器形などから後・晩期に所属するものと思われる。

125号土坑（第48図、写真図版31）

＜位置＞I C9e グリッド南側にある。

＜概要＞平面形は梢円形状と思われる。断面形は浅皿状である。本造構の東側で近世墓壙の239号土坑と重複する。 ＜規模＞86×?cm、深さ19cm。

＜堆積土＞4層に分層される。最上位は炭化物を含む黒色土、中位は投げ込まれたかのような焼けの悪い焼土、下位は黒褐色土と焼土粒を含む暗褐色土からなる。人為堆積の様相である。

＜出土遺物＞縄文土器の胴部（358）と土器片15点153.0g。

＜時期＞出土した遺物から縄文時代に属する造構であるが、詳細な時期は不明である。

223号土坑（第49図、写真図版32）

＜位置＞調査区南端のI C8i グリッド内

＜概要＞平面形はほぼ円形で、浅皿状の断面である。 ＜規模＞54×53cm、深さ5cm。

＜堆積土＞暗褐色土の単層である。

＜出土遺物＞古窓水1枚（359）と骨片少々。

＜時期＞出土遺物から17世紀前半以降の墓壙としておく。

224号土坑（第49図、写真図版32）

＜位置＞平成19年度南側調査区東端との境界付近、I C7h・I C7i グリッドに跨る。

＜概要＞平面形は不整な円形で、浅皿状の断面である。底面は大きい凹凸が見られる。他の造構との重複はない。

＜規模＞94×86cm、深さ10cm。 ＜長軸方向＞N-34°-W。

＜堆積土＞黄褐色土ブロックを含む暗褐色土の単層である。

＜出土遺物＞焼骨片がわずかに出土した。

＜時期＞近世以降の墓壙と思われるが、詳細は不明である。

225号土坑（第49図、写真図版32）

＜位置＞224号土坑の北東約3.5mに位置し、I C7h・I C8hグリッドに跨る。

＜概要＞平面形は不整な梢円形、断面形は長方形である。底面には小さな凹凸がある。重複はない。

＜規模＞108×97cm、深さ29cm。 ＜長軸方向＞N-40°-W。

＜堆積土＞炭化物を多く含む黒褐色土を主体とする。

＜出土遺物＞煙管1セツ（360）、小柄1点（361）、古寛永6枚、釘3点26.0g、焼骨片。

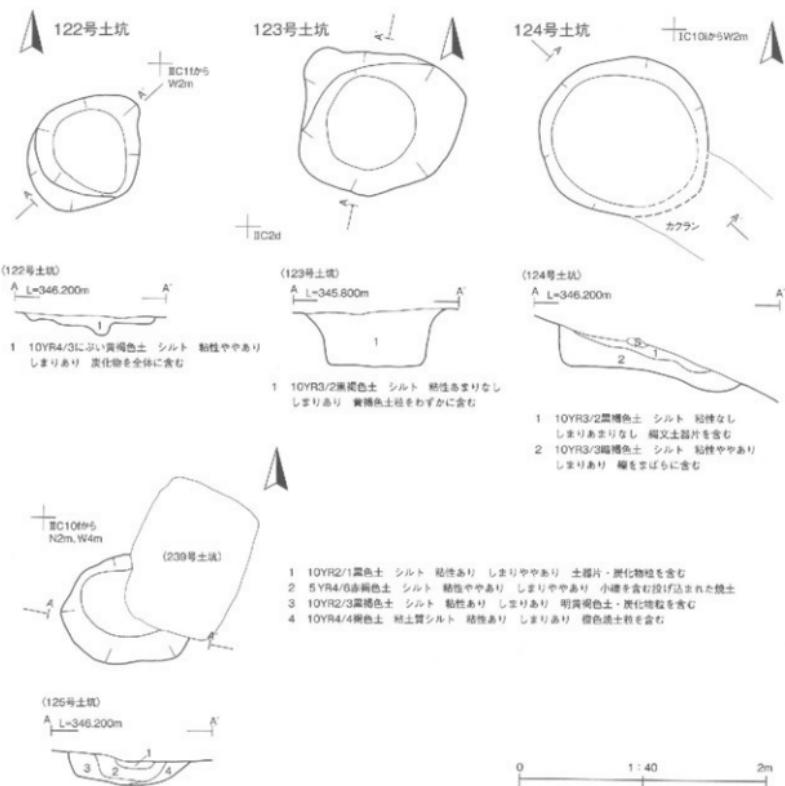
＜時期＞副葬品の銭貨が古寛永のみであることから、17世紀前半以降の墓壙と判断される。

226号土坑（第49図、写真図版32）

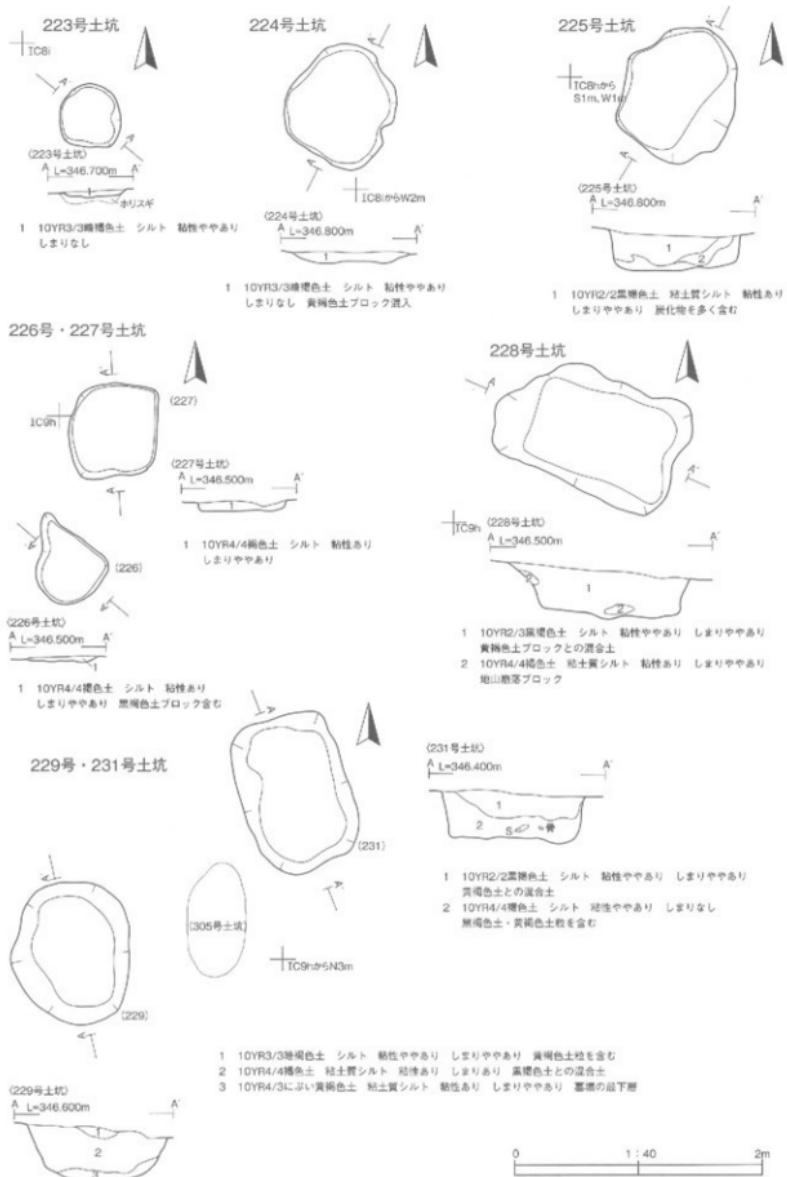
＜位置＞調査区南側のI C9hグリッド内。

＜概要＞平面形は不整形で、断面形はごく浅い皿状である。 ＜規模＞70×54cm、深さ7cm。

＜長軸方向＞N-19°-W。 ＜堆積土＞褐色土の単層で黒褐色土のブロックを含む。



第48図 122～125号土坑



第49図 223～229・231号土坑

<出土遺物>焼骨片少々。

<時期>近世以降の墓壙と思われるが、詳細な時期は不明である。

227号土坑（第49図、写真図版33）

<位置> I C9 h グリッドの北西隅に位置する。

<概要>平面形は隅丸方形で、断面形は浅皿状である。 <規模>75×72cm、深さ8cm。

<長軸方向> N - 5° - E。 <堆積土>褐色土の単層。 <出土遺物>焼骨片。

<時期>近世以降の墓壙と思われるが、詳細な時期は不明である。

228号土坑（第49図、写真図版33）

<位置> I C9 h・I C9 g グリッドに跨る。227号土坑の北側に接する。

<概要>平面形は不整な長方形で、断面形は逆台形状である。 <規模>150×93cm、深さ38cm。

<長軸方向> N - 69° - W。 <堆積土>地山崩落ブロックを含む黒褐色土の単層。

<出土遺物>煙管の吸口1点（368）、古寛永2枚、元豊通寶1枚のはか、焼骨片少々。

<時期>出土遺物から17世紀前半以降の墓壙とする。

229号土坑（第49図、写真図版33）

<位置> I C8 g グリッドに位置する。305号土坑の西側に隣接する。

<概要>平面形は梢円形で、断面形は逆台形状である。

<規模>118×100cm、深さ44cm。 <長軸方向> N - 9° - W。

<堆積土>3層に分層された。褐色土を主体とし、最下部には粘性のあるぶい黄褐色土が堆積する。

<出土遺物>四肢骨かと思われる人骨。

<時期>近世以降と思われるが詳細な時期は不明である。

230号土坑（第50図、写真図版33）

<位置> I C9 g グリッドのほぼ中央にある。

<概要>北側で233号土坑、西側で234号土坑と重複し、本遺構が最も新しい。平面形は不整な長方形である。断面形は逆台形状である。 <規模>143×86cm、深さ65cm。

<長軸方向> N - 4° - E。 <堆積土>にぶい黄褐色土の単層である。

<出土遺物>煙管1セット（372）、古寛永・新寛永併せて2枚、鉄錢数枚24.5g、釘2点2.5g。

<時期>出土した遺物から18世紀中頃以降の墓壙とする。

231号土坑（第49図、写真図版34）

<位置> I C9 g グリッド北西端に位置する。

<概要>平面形は長方形で、断面形は逆台形状である。 <規模>128×87cm、深さ40cm。

<長軸方向> N - 17° - W。 <堆積土>2層に分層され上位は黒褐色土、下位は褐色土からなる。

<出土遺物>煙管1セット（373）、刀子1点（376）、和鉄2点（374・375）、火打金2点（377・378）、棒状製品2点（379・380）、柄鏡1点（388）、寶永通寶1枚、古寛永・新寛永併せて5枚、判読不能の銭貨1枚、漆器の漆膜、焼骨片や四肢骨と思われる人骨が出土した。

<時期>出土遺物から18世紀前半以降の墓壙であろう。

232号土坑（第50図、写真図版34）

＜位置＞I C9 f・9 g グリッドに跨る。

＜概要＞平面形は円形で、断面形は深バケツ形である。他遺構との重複はない。人骨の残存状況から未改葬の墓と思われる。 ＜規模＞ $81 \times 81\text{cm}$ 、深さ78cm。

＜堆積土＞黄褐色土粒を含むにぶい黄褐色土の単層。

＜出土遺物＞古寛永・新寛永あわせて5枚、判読不能の錢貨1枚、棺の底板のほか、頭蓋骨を含む人骨片多数。

＜時期＞18世紀前半以降と思われる未改葬の墓壙である。

233号土坑（第50図、写真図版33・34）

＜位置＞I C9 g グリッド中央部。

＜概要＞平面形は長方形と思われ、断面形は逆台形状である。230号土坑と重複するが本遺構のほうが古い。 ＜規模＞ $90 \times ?\text{cm}$ 、深さ47cm。 ＜長軸方向＞N-12°-W。

＜堆積土＞にぶい黄褐色土の単層。

＜出土遺物＞煙管1セット（395）と古寛永・新寛永併せて7枚。

＜時期＞18世紀前半以降の墓壙とする。

234号土坑（第50図、写真図版33・34）

＜位置＞I C9 g グリッド中央部。

＜概要＞平面形は不整長方形で、断面形は皿状。230号土坑と重複するが本遺構のほうが古い。233号土坑との新旧完形は不明である。

＜規模＞ $77 \times ?\text{cm}$ 、深さ27cm。 ＜長軸方向＞N-52°-W。 ＜堆積土＞にぶい黄褐色土の単層。

＜出土遺物＞煙管2セット（404・405）と吸口1点（406）、肥前産陶器碗の高台部破片（403）古寛永・新寛永併せて10枚、鉄銭1枚4.5g、釘1点13.0gが出土した。

＜時期＞18世紀前半以降の墓壙である。

235号土坑（第50図、写真図版34）

＜位置＞I C9 f グリッド南東端に位置する。

＜概要＞平面形は円形で、断面形はバケツ形である。他遺構との重複はない。

＜規模＞ $83 \times 79\text{cm}$ 、深さ65cm。

＜堆積土＞上位から中位は粘性の乏しい黒褐色土、下位はにぶい黄褐色土の2層からなる。

＜出土遺物＞四肢骨と思われる人骨。

＜時期＞近世以降の墓壙と思われるが、詳細な時期は不明である。

236号土坑（第51図、写真図版35）

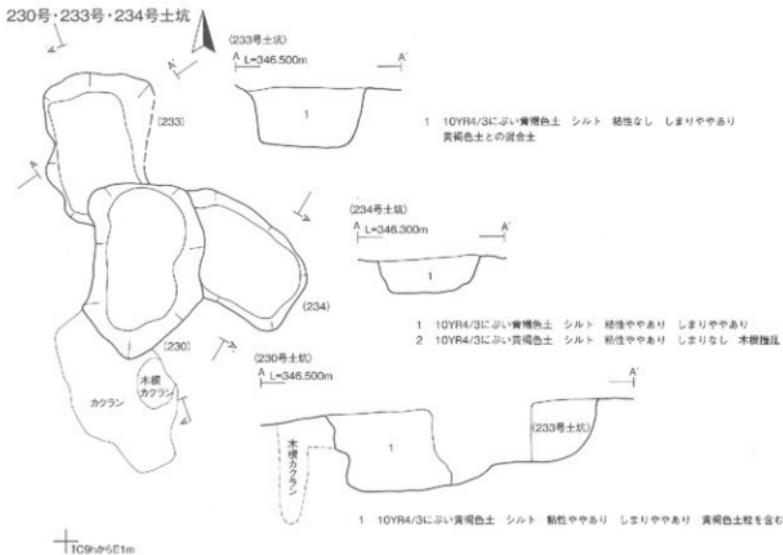
＜位置＞I C9 f グリッド中央に位置する。

＜概要＞平面形は長方形を基調とし、断面形は逆台形状である。他遺構との重複はない。

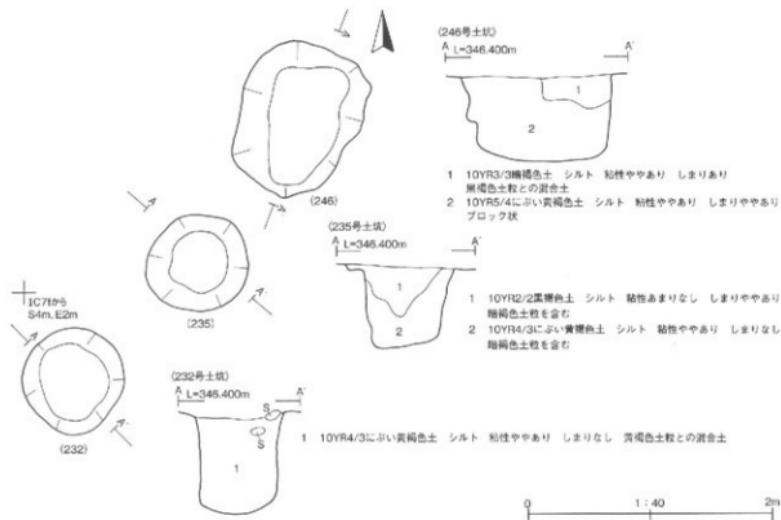
＜規模＞ $116 \times 85\text{cm}$ 、深さ40cm。 ＜長軸方向＞N-43°-E。

＜堆積土＞褐色土粒を含む黒褐色土の単層で疊を含む。

＜出土遺物＞煙管1セット（417）、鏡背に草花が描かれた納鏡1点（424）、古寛永・新寛永併せて6枚、



232号・235号・246号土坑



第50図 230・232~235・246号土坑

和鉄、棺の金具、不明鉄製品 17.1 g のほか、頭蓋骨と思われる人骨数片。

＜時期＞18世紀前半以降の墓壙である。

237号土坑（第51図、写真図版35）

＜位置＞ I C9 f グリッドの北西隅、236号土坑の北西側 1 m に長軸を同じくして位置する。

＜概要＞平面形は不整長方形、断面形は逆台形状である。重複はない。

＜規模＞109 × 73cm、深さ 35cm。 ＜長軸方向＞N - 35° - E。

＜堆積土＞3 層に分層した。埋め戻された黒褐色土・褐色土が主体である。

＜出土遺物＞煙管 1 セット（425）、古寛永・新寛永通寶併せて 3 枚、釘 10 点 17.6 g が出土した。

＜時期＞18世紀前半以降の墓壙である。

238号土坑（第51図、写真図版35）

＜位置＞ I C9 f グリッドの北東側、240号土坑に近接する。

＜概要＞平面形は長方形、断面形は逆台形状である。重複はない。

＜規模＞102 × 70cm、深さ 44cm。 ＜長軸方向＞N - 10° - W。

＜堆積土＞黒褐色土と褐色土の小ブロックを含む暗褐色土の単層。

＜出土遺物＞煙管 1 セット（429）、新寛永 3 枚。

＜時期＞18世紀前半以降の墓壙である。

239号土坑（第51図、写真図版35）

＜位置＞ I C9 e グリッドの南寄りに位置する。

＜概要＞平面形は長方形、断面形は浅皿状。縄文時代に属する 125 号土坑と重複している。

＜規模＞112 × 93cm、深さ 8 cm。 ＜長軸方向＞N - 23° - E。

＜堆積土＞褐色土を全体に含む黒褐色土の単層である。

＜出土遺物＞煙管 1 セット（433）、文鏡 4 枚を含む新寛永 5 枚と古寛永 1 枚、寛永通寶と思われる銭貨 3 枚、縄文時代の土器片 5 点 36.9 g、不明鉄製品 1 点 2.8 g。

＜時期＞文鏡が出土していることから、17世紀後半以降の墓壙としておく。

240号土坑（第51図、写真図版36）

＜位置＞ I C9 e グリッドの南東側に位置する。239号土坑と近接する。

＜概要＞平面形は不整な長方形、断面形は浅皿状である。

＜規模＞92 × 65cm、深さ 29cm。 ＜長軸方向＞N - 43° - E。

＜堆積土＞黒褐色土粒や褐色土ブロックを含む黒褐色土の単層。

＜出土遺物＞古寛永・新寛永併せて 5 枚、縄文時代の土器片 3 点 28.2 g。

＜時期＞17世紀後半以降の墓壙とする。

241号土坑（第52図、写真図版36）

＜位置＞ I C9 f - 10 f グリッドに跨ってあり、遺構北側の隅が 242 号土坑とわずかに重複する。

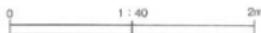
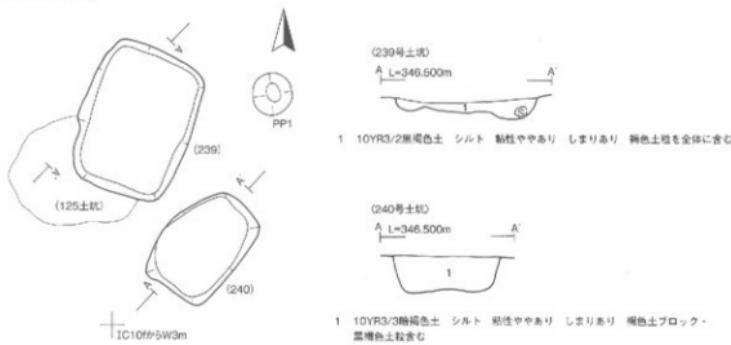
＜概要＞平面形は長方形、断面形は逆台形状である。両者の新旧関係は不明である。

＜規模＞131 × 82cm、深さ 38cm。 ＜長軸方向＞N - 30° - W。

236号・237号・238号土坑



239号・240号土坑



第51図 236~240号土坑

<堆積土>3層に分層される。上位から黒褐色土・黄褐色土・暗褐色土の順である。

<出土遺物>花模様の細工がある煙管1セット(448)、刀子の細片、和鉄(449)、棒状の鉄製品3点19.9g、新吉の判断が付かない寛永通寶1枚が出土した。

<時期>17世紀後半以降の墓壙とする。

242号土坑（第52図、写真図版36）

<位置>I C9e グリッドの南東端にあり、243号土坑と近接する。

<概要>平面形は円形、断面形はバケツ形である。

<規模>73×67cm、深さ59cm。

<堆積土>にぶい黄褐色土の単層からなるが、黒褐色土や地山崩落土のブロックを含んでいる。

<出土遺物>煙管1セット(451)、硯(452)、古寛永・新寛永併せて6枚、棺の木片、漆膜。

<時期>18世紀前半以降の墓壙である。

243号土坑（第52図、写真図版36）

<位置>I C9e・10e グリッドに跨る。

<概要>平面形は不整な円形、断面形はバケツ形である。重複は認められない。

<規模>87×70cm、深さ53cm。<長軸方向>N-50°-W。

<堆積土>上位は暗褐色土、下位は黄褐色土の2層に分層される。

<出土遺物>煙管1セット(459)、刀子などの刃物と思われる先端2点(460・461)、家紋が描かれた方形鏡1点(466)、古寛永3枚、木櫛の一部1点、布片、木片、焼骨片。

<時期>古寛永の年代から17世紀前半以降の墓壙とした。

244号土坑（第52図、写真図版37）

<位置>I C10e グリッド西側。

<概要>平面形は梢円形、断面形は浅皿状である。重複は認められない。

<規模>88×56cm、深さ6cm。<長軸方向>N-42°-W。

<堆積土>炭化物を含む黒褐色土の単層。<出土遺物>古寛永6枚と漆器の漆膜。

<時期>出土した錢貨がすべて古寛永であることから、17世紀後半以降の墓壙とした。

245号土坑（第52図、写真図版37）

<位置>I C10f グリッド南西隅に位置する。

<概要>平面形は長方形、断面形は浅いビーカー状である。315号土坑と遺構の南隅で重複し、本遺構のほうが新しい。北東側に近接する246号土坑とは、からうじて重複しない。

<規模>124×84cm、深さ38cm。<長軸方向>N-56°-W。

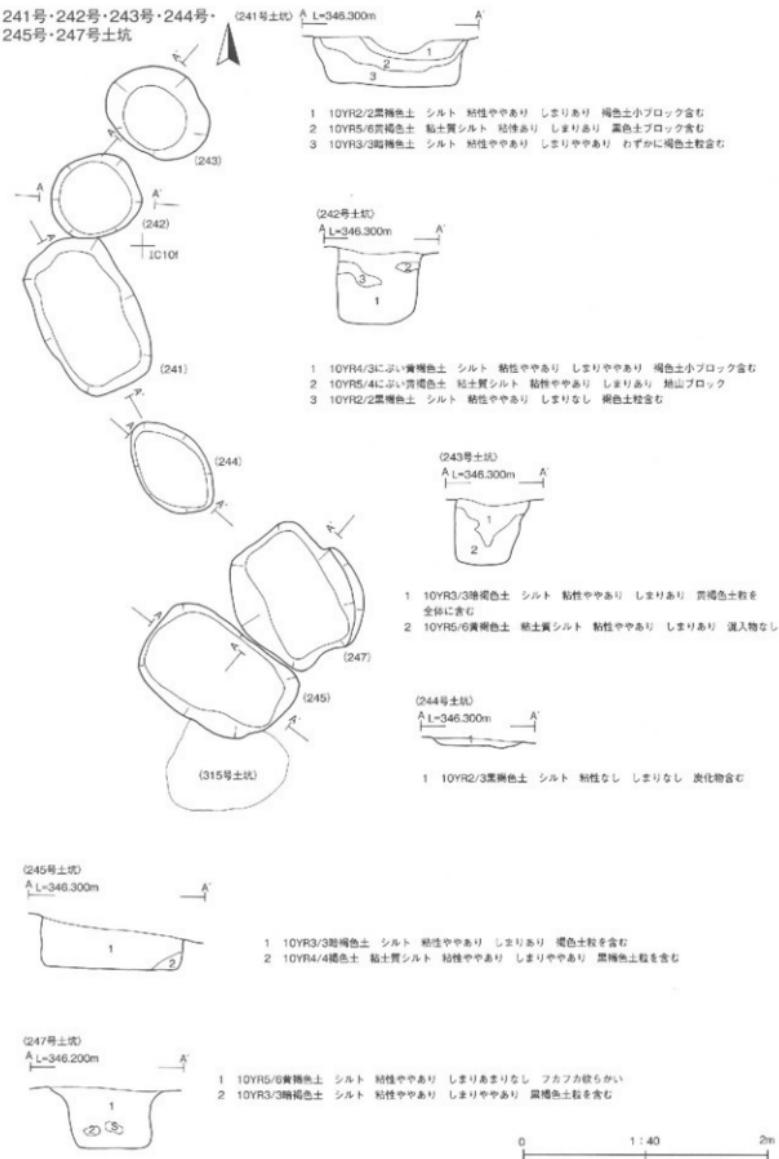
<堆積土>2層に分層され、暗褐色土と地山の崩落ブロックからなる。前者が主体である。

<出土遺物>刀子1点(473)、和鉄1点(475)、鉄製品2点7.7g、新寛永8枚、人骨少量。

<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙と思われる。

246号土坑（第50図、写真図版37）

<位置>I C9f グリッド東側に位置する。



第52図 241～245・247号土坑

＜概要＞平面形は不整な楕円形、断面形は浅いビーカー状である。235号土坑の北東側で隣接する。

＜規模＞ $109 \times 102\text{cm}$ 、深さ49cm。 ＜長軸方向＞N-14°-E。

＜堆積土＞にぶい黄褐色土が主体で、暗褐色土のブロックを含んでいる。

＜出土遺物＞煙管1セット(484)、古寛永・新寛永併せて10枚と不明の錢貨が2枚のほか、土器1点8.6gと人骨片少量が出土している。

＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙としておく。

247号土坑（第52図、写真図版37）

＜位置＞I C 10 f グリッド南西隅に位置する。

＜概要＞平面形は長方形、断面形は浅いビーカー状である。315号土坑と遺構の南隅で重複し、本遺構のほうが新しい。北東側に近接する246号土坑とは、重複しない。

＜規模＞ $124 \times 84\text{cm}$ 、深さ38cm。 ＜長軸方向＞N-32°-W。

＜堆積土＞フカフカと軟らかい黄褐色土の単層で、暗褐色土の小ブロックを含む。

＜出土遺物＞煙管1セット(497)、不明鉄製品1点(498)、鏡背に雀と竹などが描かれる円鏡（紐鏡）1点(506)、木節1点(499)、古寛永・新寛永併せて6枚、人骨片。

＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙と思われる。

248号土坑（第53図、写真図版38）

＜位置＞I C 9 e - 10 e グリッドに跨る。

＜概要＞平面形は楕円形、断面形は浅皿状である。他遺構との重複はない。

＜規模＞ $109 \times 63\text{cm}$ 、深さ15cm。 ＜長軸方向＞N-35°-E。

＜堆積土＞褐色土ブロックを含む黒褐色土の単層である。

＜出土遺物＞壓首1点(248)、寛永通寶17枚の銅錢58.1g（写真図版56に掲載）と漆器の漆膜。

＜時期＞錢種から18世紀前半以降の墓壙としておく。

249号土坑（第53図、写真図版38）

＜位置＞I C 10 e グリッド中央に位置する。306号土坑と北西側で近接するが重複はない。

＜概要＞平面形は長方形で隅丸に近い。断面形は浅いビーカー状である。

＜規模＞ $117 \times 93\text{cm}$ 、深さ61cm。 ＜長軸方向＞N-39°-E。

＜堆積土＞3層に分層される。上位はにぶい黄褐色土、中位は褐色土、下位はフカフカとしまりのない褐色土からなる。全体に黄褐色土粒を含む。

＜出土遺物＞古寛永・新寛永併せて5枚と銭種不明1枚。

＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙と思われる。

250号土坑（第53図、写真図版38）

＜位置＞I C 10 e - 10 f グリッドに跨る。

＜概要＞平面形は不整な長方形で、断面形は浅いビーカー状である。遺構間の重複はない。

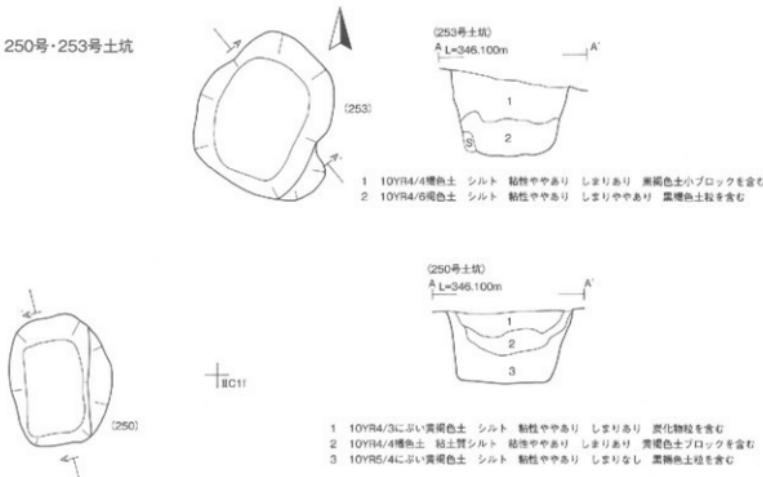
＜規模＞ $105 \times 83\text{cm}$ 、深さ46cm。 ＜長軸方向＞N-8°-W。

＜堆積土＞3層に分層された。上位は炭化物粒を含むにぶい黄褐色土、中位は褐色土、下位はにぶい黄褐色土である。

248号・249号・251号・252号土坑



250号・253号土坑



第53図 248~253号土坑

0 1:40 2m

＜出土遺物＞煙管1セット（514）、肥前産陶器の小坏（515）、古寛永・新寛永併せて4枚と銭種不明2枚。

＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

251号土坑（第53図、写真図版38）

＜位置＞I C10dグリッドの南西端にある。

＜概要＞平面形は不整な長方形で、断面形は浅皿状である。遺構間の重複はない。

＜規模＞63×47cm、深さ7cm。 ＜長軸方向＞N-50°-E。

＜堆積土＞暗褐色土の単層である。混入物もない。

＜出土遺物＞煙管1セット（522）、火打金1点（523）、新寛永のみ5枚、釘1点2.9gが出土した。

＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

252号土坑（第53図、写真図版39）

＜位置＞I C9e・10eグリッドに跨る。本遺構の東側には他の遺構が広がらない。

＜概要＞平面形は長方形で、断面形は皿状である。

＜規模＞115×65cm、深さ25cm。 ＜長軸方向＞N-15°-W。

＜堆積土＞黄褐色土粒を含む暗褐色土の単層である。

＜出土遺物＞煙管の細片、「人見藤原重次」と銘がある柄鏡1点（539）、不明鉄製品2点23.9g、釘9点23.1g、古寛永・新寛永併せて7枚と銭種不明3枚が出土している。

＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

253号土坑（第53図、写真図版39）

＜位置＞II C1eグリッドの西側中央に位置する。本遺構の西側にしか他の墓壙は広がっていない。

＜概要＞平面形は輪円形基調、断面形はバケツ形である。

＜規模＞128×101cm、深さ63cm。 ＜長軸方向＞N-30°-W。

＜堆積土＞2層に分けられ上位・下位とも褐色土からなるが、上位には黒褐色土のブロックが日立つ。

＜出土遺物＞古寛永と思われるもの1枚のみ出土した。

＜時期＞18世紀前半以降の墓壙としておく。

254号土坑（第54図、写真図版39）

＜位置＞I C9d・10dグリッドに跨る。本遺構のすぐ北側には4基の墓壙群がある。

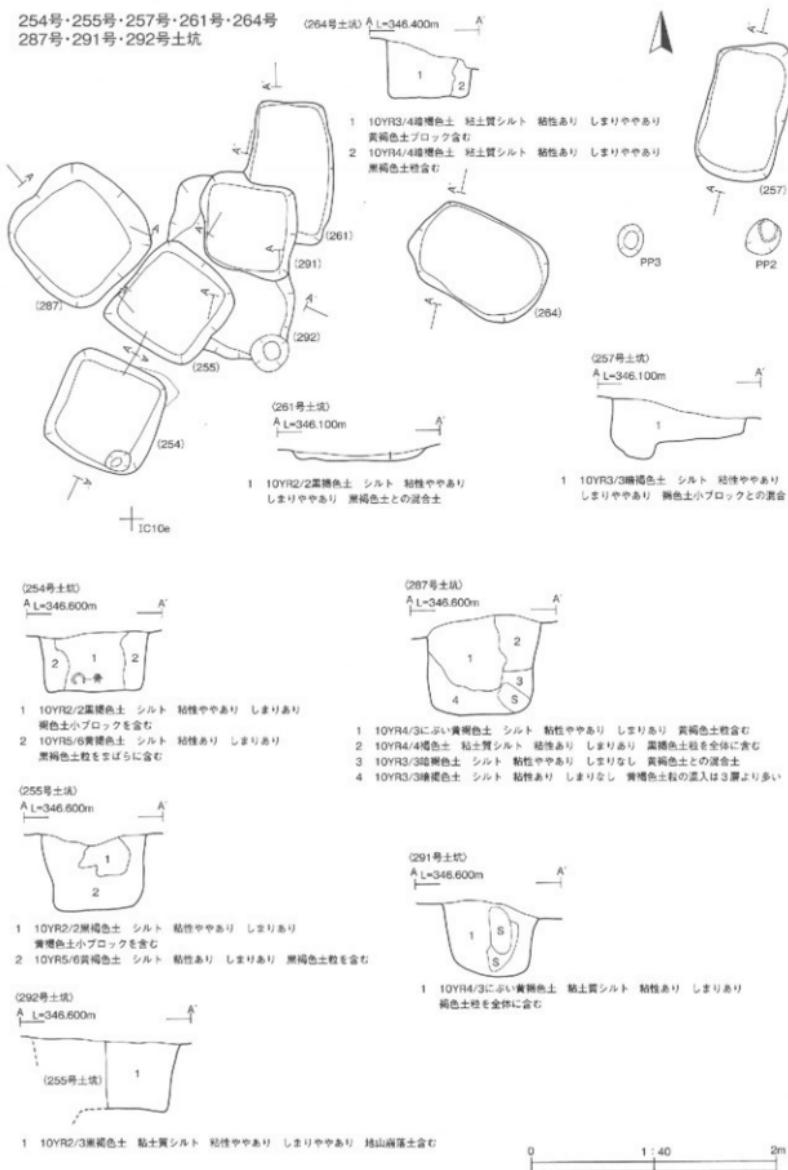
＜概要＞平面形は方形で南隅に小ビットを有する。断面形は浅いビーカー状である。他遺構との重複は認められない。 ＜規模＞89×87cm、深さ48cm。

＜堆積土＞改葬時に墓の中央部だけが掘られている。中央部は黒褐色土、崖際は元々の堆積土である黄褐色土が残っている。

＜出土遺物＞大堀・相馬産餌猪口（餌入れ）1点（541）、簪の欠損品1点（542）、古寛永・新寛永併せて4枚と銭種不明2枚、一錢ほか明治期以降の硬貨6枚、棺の木片と人骨が多数出土している。未改葬か。

＜時期＞近代（明治期以降）の墓壙である。

254号・255号・257号・261号・264号
287号・291号・292号土坑



第54図 254・255・257・261・264・287・291・292号土坑

255号土坑（第54図、写真図版39）

＜位置＞ I C 10 e グリッド南西隅、 I C 9 e ・ 10 e グリッドに跨っている。
＜概要＞平面形は方形、断面形はビーカー状である。292号土坑と重複するが本遺構のほうが新しい。
291号・287号土坑とは切り合わない。
＜規模＞85×80cm、深さ62cm。
＜堆積土＞黒褐色土粒を含む黄褐色土が主体で、黒褐色土のブロックを層上部に含む。
＜出土遺物＞煙管の雁首 1 点（555）、環状鉄製品 1 点（556）、不明鉄製品 2 点、鉄錢 5 点、釘 29.1 g が出土した。
＜時期＞鉄錢が出土していることから、18世紀前半以降の墓壙としておく。

256号土坑（第55図、写真図版40）

＜位置＞ I C 10 c グリッド南側にあり、6基の墓壙群の中央に位置する。
＜概要＞平面形は方形、断面形は浅いビーカー状である。他の遺構とは重複しない。
＜規模＞96×83cm、深さ33cm。
＜堆積土＞上位はフカフカとやわらかい暗褐色土、下位は黄褐色土の2層に分層される。
＜出土遺物＞細工のある煙管 1 セット（557）、簪 4 点（559～562）、笄 1 点（558）、鉄製品 1 点、古寛永・新寛永併せて16枚、錢種不明10枚、鉄錢40枚前後60.2 g、釘 21 点 51.2 g。
＜時期＞鉄錢が出土していることから、18世紀中頃以降の墓壙と思われる。被葬者は女性であろう。

257号土坑（第54図、写真図版40）

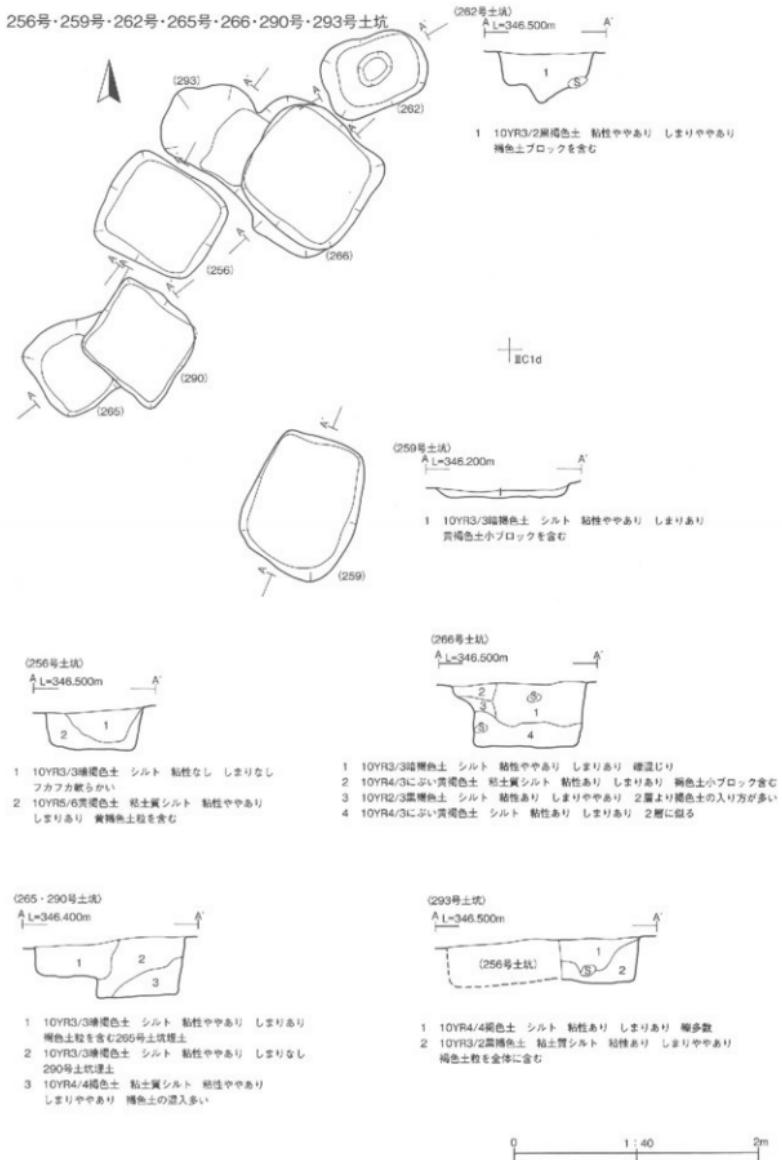
＜位置＞ II C 1 d グリッド西側に位置し、すぐ南側には P P 4 がある。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は浅皿状で、底面は波打つ。他の遺構との重複はない。
＜規模＞84×68cm、深さ 6 cm。 ＜長軸方向＞N - 13° - E。
＜堆積土＞褐色土小ブロックを含む暗褐色土の単層。
＜出土遺物＞雁首 1 点（589）、小柄 1 点（590）、古寛永・新寛永併せて 5 枚と錢種不明 1 枚。
＜時期＞新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙と思われる。

258号土坑（第57図、写真図版41）

＜位置＞ II C 1 d グリッドの北東側に位置する。
＜概要＞平面形は円形、断面形はバケツ形である。改葬された状況が明瞭な断面が残る。他の遺構との重複は認められない。
＜規模＞98×94cm、深さ57cm。
＜堆積土＞上位から中位はにぶい黄褐色土・褐色土・黒褐色土からなり、下位は褐色土粒を含む暗褐色土が埋め戻される。
＜出土遺物＞古寛永・新寛永併せて 6 枚と錢種不明 1 枚のほか、人骨片少々。
＜時期＞新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

259号土坑（第55図、写真図版41）

＜位置＞ I C 10 d グリッドの北東側。
＜概要＞平面形は不整長方形、断面形は浅い皿状である。底面は緩く波打つ。遺構間の重複はない。



第55図 256・259・262・265・266・290・293号土坑

＜規模＞126×89cm、深さ6cm。 ＜長軸方向＞N-22°-E。

＜堆積土＞黄褐色土小ブロックを含む暗褐色土の単層。

＜出土遺物＞煙管の雁首1点(603)、古寛永1枚・新寛永3枚の併せて4枚出土した。

＜時期＞新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

260号土坑（第56図、写真図版41）

＜位置＞I C10c グリッドの中央北側にある。

＜概要＞平面形は楕円形、断面形は浅皿状である。底面はほぼ平坦である。遺構間の重複なし。

＜規模＞118×77cm、深さ9cm。 ＜長軸方向＞N-21°-E。

＜堆積土＞小礫含む褐色土の単層である。

＜出土遺物＞煙管の細片2点、寛永通寶1枚と銭種不明2枚、釘6点7.2g。

＜時期＞寛永通寶の年代から、18世紀前半以降の墓壙としておく。

261号土坑（第54図、写真図版39・40）

＜位置＞I C10d グリッド中央付近の墓壙6基が密集する地点にある。

＜概要＞平面形は長方形、断面形は皿状であるが、底面は一部分が大きく凹む。第291号土坑と重複するが、検出状況から本遺構の方が旧い。

＜規模＞117×71cm、深さ29cm。 ＜長軸方向＞N-8°-E。

＜堆積土＞小礫含む褐色土の単層である。

＜出土遺物＞鍔管の細片1点、羅字3点、簪1点(610)、古寛永1枚・新寛永1枚、棺の金具5点179.1g、木片と銭貨が接着したもの1点3.2g、釘3点8.5gが出土した。

＜時期＞寛永通寶の年代から、18世紀前半以降の墓壙としておく。

262号土坑（第55図、写真図版41）

＜位置＞I C10c グリッド東寄りの墓壙群内にあり、その中では最も北側に位置する。

＜概要＞平面形は長方形で、底面は中央部が窪んでいる。266号土坑との重複はない。

＜規模＞85×60cm、深さ27cm。 ＜長軸方向＞N-72°-E。

＜堆積土＞褐色土ブロックを含む黒褐色土の単層である。

＜出土遺物＞乳児用の玩具のほか、一錢3枚と釘6点7.2gが出土した。

＜時期＞近代（明治期以降）の墓壙である。被葬者は幼子と思われる。

263号土坑（第58図、写真図版42）

＜位置＞II C1c グリッド南東寄りにある。

＜概要＞平面形は不整長方形、断面形は逆台形状である。本遺構の南西側で276号土坑と近接するが、重複はない。

＜規模＞91×60cm、深さ27cm。 ＜長軸方向＞N-46°-E。

＜堆積土＞黒褐色土粒を含む褐色土が主体であり、最下部には黄褐色土が薄く堆積する。

＜出土遺物＞碁石状の砾1点(616)と新寛永6枚。

＜時期＞新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

264号土坑（第54図、写真図版42）

＜位置＞ I C 10 d グリッド中央やや南東寄り。

＜概要＞平面形は楕円形、断面形は浅いビーカー状である。本遺構の西側には方形の土坑群が近接。

＜規模＞112×75cm、深さ47cm。 ＜長軸方向＞N-59°-W。

＜堆積土＞黄褐色土：ブロックを含む暗褐色土が主体で、人为的に埋め戻されている様子が明瞭である。

＜出土遺物＞煙管の雁首の破片1点、羅字1点、古寛永・新寛永併せて4枚と破片1点。

＜時期＞新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

265号土坑（第55図、写真図版42）

＜位置＞ I C 10 d グリッドの北西にあり、そこから北東方向に延びる墓壙群の南端に位置する。

＜概要＞平面形は不整な長方形をなす。断面形は浅いビーカー状である。近代墓壙と思われる290号土坑と重複するが、堆積土の状況から本遺構のほうが新しい。

＜規模＞74×?cm、深さ26cm。 ＜長軸方向＞重複のため不明。

＜堆積土＞褐色土粒を含む暗褐色土の単層である。

＜出土遺物＞煙管1セット(627)と新寛永4枚（うち文銭2枚）、鉄一文銭数枚41.5g 一銭10枚、二銭2枚、五銭1枚の各硬貨のほか、布が付着する硬貨1枚2.8g（写真図版56掲載）。

＜時期＞大正期の銭貨が出土していることから、近代（大正期以降）の墓壙である。

266号土坑（第55図、写真図版42）

＜位置＞ I C 10 c グリッドの南東隅寄りに位置する6基の墓壙群の中の1つである。

＜概要＞平面形は方形、断面形は浅いビーカー状である。底面は平坦である。293号土坑と重複するが、本遺構のほうが新しい。＜規模＞112×107cm、深さ40cm。

＜堆積土＞4層に分層した。改葬時に新たに埋められた暗褐色土と、元の堆積土と思われる黒褐色土・にぶい黄褐色土からなる。

＜出土遺物＞煙管1セット(645)とその破片2点、何らかの金具2点(646・647)、不明鉄製品1点2.1g、釘28点78.2g、ボタン1点、ガラス瓶1点。銭貨は出土していない。

＜時期＞煙管の形状など、出土遺物の特徴から近代の墓壙と思われる。

267号土坑（第56図、写真図版43）

＜位置＞ I C 10 c グリッドの北東隅にある。

＜概要＞平面形は長方形、断面形は台形状をなす。260号土坑と両西側で近接するが重複しない。

＜規模＞107×70cm、深さ34cm。 ＜長軸方向＞N-12°-E。

＜堆積土＞改葬時のものと思われる暗褐色土と、元の堆積土である黒褐色土からなる。

＜出土遺物＞小柄の一部(648)と毛抜き(649)がそれぞれ1点ずつ出土した。

＜時期＞出土した特徴から、近代の墓壙と考えられる。

268号土坑（第56図、写真図版43）

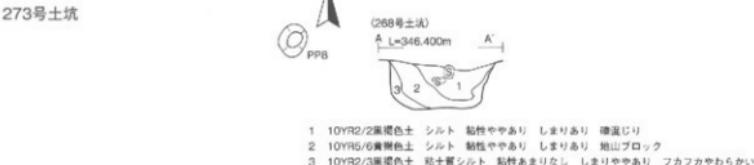
＜位置＞ I C 10 c ・ II C 1 c グリッドに跨る。

＜概要＞平面形は円形、断面形は浅いビーカー状をなす。北側で269号土坑と切り合うが、本遺構のほうが新しい。底面は中央部がわずかに盛り上がる。

260号・267号・268号・269号土坑



273号土坑



+ E2cからE2m



- 1 10YR4/3に少い黒褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり 始褐色土性と黒褐色土含む
2 10YR4/2灰青褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり 黄褐色土性をまばらに含む

0 1:40 2m

第56図 260・267~269・273号土坑

<規模>92×90cm、深さ37cm。

<堆積土>3層に分けられた。疎混じりの黒褐色土・地山主体の黄褐色土・しまりのない黒褐色土からなる。

<出土遺物>古寛永・新寛永含めて4枚出土した。人骨は出土していない。

<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

269号土坑（第56図、写真図版43）

<位置>I C10c・II C1c グリッドに跨り、上述した268号土坑で記載の重複関係にある。

<概要>平面形は長方形、断面形は逆台形状である。底面はほぼ平坦である。

<規模>113×79cm、深さ31cm。 <長軸方向>N-37°-W。

<堆積土>改葬時のものと思われる黒褐色土と、元々の堆積土であるにぶい黄褐色土の2層からなる。

<出土遺物>焼管の雁首の細片1点（654）と、古寛永・新寛永含めて7枚出土した。

<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

270号土坑（第58図、写真図版43）

<位置>II C1c・II C1d グリッドに跨る。

<概要>平面形は円形、断面形はビーカー状である。底面はほぼ平坦である。本遺構の北西側で276号土坑と重複するが、新旧は摺めなかった。

<規模>113×110cm、深さ65cm。

<堆積土>改葬時のものと思われる黒褐色土・にぶい黄褐色土と、元々の堆積土であるにぶい黄褐色土からなる。

<出土遺物>新寛永（文銭）1枚のみ出土。

<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙としておく。

271号土坑（第58図、写真図版44）

<位置>II C2c グリッド西側に位置する。

<概要>平面形は長方形、断面形は逆台形状をなす。本遺構の南側に122号土坑が近接する。

<規模>110×85cm、深さ30cm。 <長軸方向>N-10°-W。

<堆積土>暗褐色土の單層である。

<出土遺物>古寛永4枚、新寛永（文銭2枚含む）3枚、釘11点59.3g、繩文土器3点35.0gのほか、焼骨片が出土している。

<時期>出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓壙としておく。

272号土坑（第59図、写真図版44）

<位置>II C1b グリッド西側の平成19年度調査区との境にあり、確認された近世以降の墓壙群の最も北側に位置する。

<概要>平面形は不整橢円形、断面形は皿状をなし底面は波打つ。本遺構に近接する遺構はない。

<規模>97×79cm、深さ8cm。 <長軸方向>N-43°-E。

<堆積土>小礫を含む黒褐色土の单層である。

<出土遺物>古寛永・新寛永（文銭1枚）併せて3枚と釘1点0.6gである。

<時期>出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓壙としておく。

273号土坑（第56図、写真図版44）

<位置> II C2b・2c グリッドの東寄りで跨る。

<概要>平面形は方形で、北西壁を失っているため断面形は不明である。重複する遺構はない。

<規模>117×102cm、深さ21cm。

<堆積土>上位がにぶい黄褐色土、下位が灰黄褐色土の2層に分層された。

<出土遺物>煙管の細片1点、羅宇1点、古寛永1枚である。

<時期>出土した新寛永の年代から、17世紀前半を含むそれ以降の墓壙としておく。

274号土坑（第57図、写真図版44）

<位置> II C2d グリッドの中央からやや北西寄りにある。

<概要>平面形は不整な長方形で、断面形はバケツ形である。312号土坑とは南西方向に70cmの距離を置く。

<規模>144×85cm、深さ56cm。 <長軸方向> N-23°-E。

<堆積土>標を多数含む暗褐色土の単層で、改葬後であることが明瞭である。

<出土遺物>煙管1セット（674）と吸口1点（675）、銭貨は北宋錢（初鑄1039年）の皇宋元寶1枚、古寛永・新寛永併せて2枚である。

<時期>出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓壙としておく。

275号土坑（第57図、写真図版45）

<位置> II C1d グリッドの中央からやや東寄りにある。

<概要>遺構の南西側を大きくが平面形は長方形と思われる。断面形は逆台形状である。遺構の欠損は後世の搅乱による。 <規模>106×58cm、深さ30cm。 <長軸方向> N-63°-W。

<堆積土>炭化物粒をまばらに含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物>煙管の吸口1点（675）、新寛永4枚のほか、四肢骨及び頭蓋骨片が出土した。

<時期>出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓壙としておく。

276号土坑（第58図、写真図版45）

<位置> II C1c グリッドの南側にあり、II C1d グリッドにわずかに跨る。

<概要>平面形は不整な円形で、断面形は浅いビーカー状である。本遺構の南西側で270号土坑と重複する。前述のとおり新旧は不明である。

<規模>113×104cm、深さ32cm。

<堆積土>改葬時のものと思われる暗褐色土、元々の堆積土である黒褐色土の2層からなる。

<出土遺物>棺の金具1点、新寛永5枚と銭貨の細片1点、釘6点89.7g、石器剥片1点(2.3g)、繩文土器1点(11.4g)。

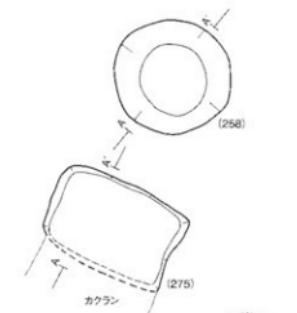
<時期>出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙としておく。

277号土坑（第57図、写真図版45）

<位置> II C2e グリッドの北東寄りに位置し、北側80cmに278号土坑がある。

258号・274号・275号・284号土坑

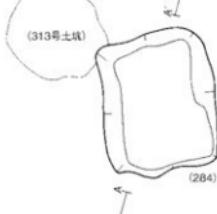
+ EC2d



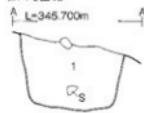
(312号土坑)



(313号土坑)

(258号土坑)
A L=346.000m

(274号土坑)

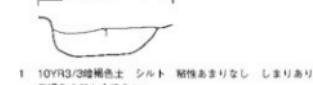


(284号土坑)

(275号土坑)
A L=345.800m1 10YR4/4暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり
炭化物粒をまばらに含む

0 1 40 2m

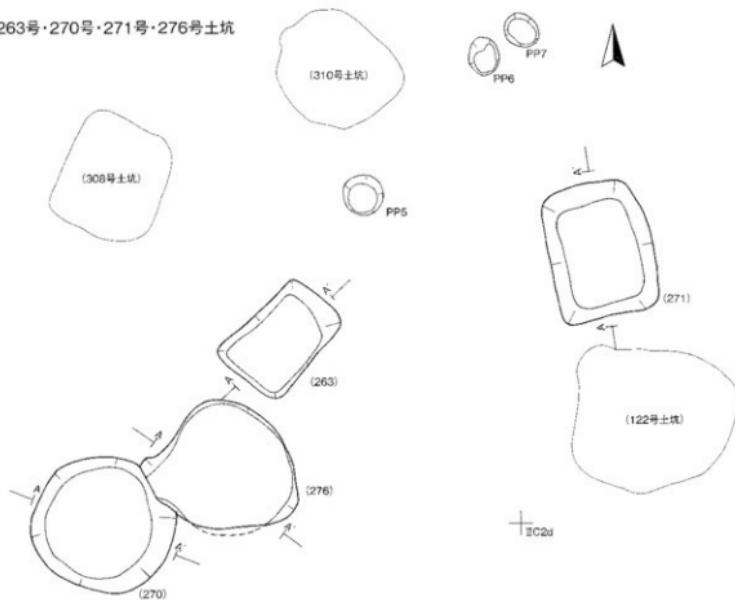
277号土坑

(277号土坑)
A L=344.700m

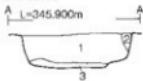
第57図 258・274・275・277・284号土坑

3 平成 20 年度調査

263号・270号・271号・276号土坑

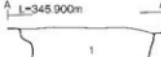


(263号土坑)



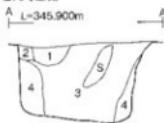
- 1 10YR4/4褐色土 シルト 粘性あり しまりややあり 黒褐色土粒を含む
- 2 10YR5/4黄褐色土 シルト 粘性あり しまりあり 地山に似る
- 3 10YR5/6黄褐色土 シルト 粘性あり しまりあり 黑褐色土粒をわずかに含む

(271号土坑)



- 1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり 黑褐色土と黄褐色土の混合

(270号土坑)



- 1 10YR3/2暗褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり 黑褐色土粒含む
- 2 10YR5/4にびい黄褐色土 砂質シルト 粘性なし しまりややあり 地山崩落ブロック含む
- 3 10YR2/2黄褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり 褐色物なし
- 4 10YR4/3にびい黄褐色土 シルト 粘性あり しまりややあり 黑褐色土粒を全体に含む

(276号土坑)



- 1 10YR3/3暗褐色土 シルト 粘性あり しまりあり 黑褐色土小ブロックを含む
- 2 10YR3/2暗褐色土 シルト 粘性あり しまりややあり 1層よりも黒味が強い

0 1 : 40 2m

第58図 263・270・271・276号土坑

<概要>平面形は長方形で、断面形は浅皿状である。重複する遺構はない。

<規模>137×98cm、深さ28cm。<長軸方向>N-52°-E。

<堆積土>黄褐色土粒と小礫を含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物>煙管2セット(689・690)、古窓永・新窓永併せて21枚と鉄一文銭90枚あまり281.7g、釘2点6.5gのほか、部位不明の人骨片が出土した。

<時期>出土遺物に大量の鉄銭が認められることから、18世紀中頃以降の墓壙と思われる。墓は未改葬の可能性が高い。

278号土坑（第59図、写真図版45）

<位置>II C2d グリッドの南東隅に位置する。北側50cmほどに279号土坑がある。

<概要>平面形は方形、断面形は浅皿状である。重複する遺構はない。

<規模>80×77cm、深さ22cm。

<堆積土>にぶい黄褐色土の単層で、部分的に黒褐色土を含む。

<出土遺物>煙管1セット(712)と鉄銭5枚14.9g、不明鉄製品1点。人骨は四肢骨片と焼骨などが出土した。

<時期>鉄銭が出土したことから、18世紀中頃としておく。

279号土坑（第59図、写真図版46）

<位置>II C2d グリッドの南東隅にあり、上述のとおりの位置関係である。

<概要>平面形は長方形、断面形は浅いビーカー状である。重複する遺構はない。

<規模>114×75cm、深さ37cm。<長軸方向>N-59°-E。

<堆積土>2層に分層される。上位は黒色土などを含む褐色土、下位は暗褐色土からなる。

<出土遺物>掲載した遺物はないが、不明鉄製品1点と鉄一文銭が5点26.9g出土している。

<時期>鉄銭が出土したことから、18世紀中頃前半以降の墓壙としておく。

280号土坑（第59図、写真図版46）

<位置>II C3d グリッドの南東側にあり、281号土坑とは南西方向に1mの距離を置く。

<概要>平面形は不整な方形で、断面形はビーカー状である。重複する遺構はない。

<規模>98×86cm、深さ61cm。<長軸方向>N-46°-E。

<堆積土>小礫と黄褐色土粒を含む暗褐色土の単層。

<出土遺物>釘6点31.3gと頭蓋骨片が出土した。

<時期>出土した釘などから、近代の墓壙と思われるが詳細は不明である。

281号土坑（第59図、写真図版46）

<位置>II C3d・3e グリッドに跨る。

<概要>平面形は方形で、断面形は浅いビーカー状である。重複する遺構はない。

<規模>80×68cm、深さ50cm。<長軸方向>N-45°-E。

<堆積土>小礫を全体に含む暗褐色土の単層。

<出土遺物>煙管1セット(713)、鉄銭2点10.3g、釘9点49.4g、人骨片1点。

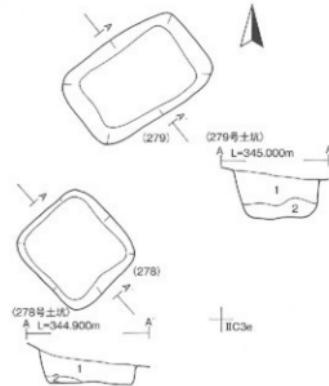
<時期>鉄銭が出土していることなどから、18世紀前半以降の墓壙と考えられる。

272号土坑



1 10YR3/2黒褐色土 シルト 粘性なし しまりなし 小礫多い

278号・279号土坑



278号土坑

- 1 10YR4/3にぶい黄褐色土 シルト 粘性なし しまりややあり 黄褐色土粒細小ブロック含む
- 2 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性ややあり しまりあり 黑褐色土小ブロック含む

279号土坑

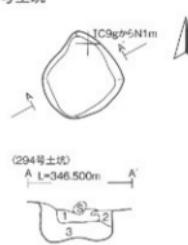
- 1 10YR4/6褐色土 粘土質シルト 粘性あまりなし しまりややあり 褐色土・褐色土を含む
- 2 10YR3/3褐色土 粘土質シルト 粘性あまりなし しまりややあり

280号・281号土坑



- 1 10YR3/3黒褐色土 シルト 粘性ややあり しまりややあり 小礫・黄褐色土粒を含む

294号土坑



- 1 10YR3/3黒褐色土 シルト 粘性あり しまりなし 黒褐色土と黒褐色土の混合
- 2 10YR4/4褐色土 シルト 粘性あり しまりややあり 黑褐色土との混合
- 3 10YR2/2黒褐色土 シルト 粘性あり しまりややあり 黃褐色土粒を全体に含む



第59図 272・278~281・294号土坑

282号土坑（第60図、写真図版46）

＜位置＞II C3e グリッド中央南寄りにある。

＜概要＞平面形は不整な長方形で、断面形は浅いバケツ形である。283号土坑と隣り合うが、重複していない。この2基はあわせて改葬され、両方が同時に埋め戻されたようである。

＜規模＞ $142 \times 92\text{cm}$ 、深さ 56cm 。 ＜長軸方向＞N-65°-W。

＜堆積土＞改葬時最初に埋め戻された黒褐色土とその後の暗褐色土からなる。

＜出土遺物＞十銭硬貨1枚、石器剥片1点（13.7g）、釘1点2.2gが出土した。

＜時期＞十銭の年号が判読できることから、明治期の墓壙としておく。

283号土坑（第60図、写真図版46・47）

＜位置＞II C3e グリッド南西寄りにある。

＜概要＞平面形は不整な長方形で、断面形は浅いバケツ形である。

＜規模＞ $193 \times 95\text{cm}$ 、深さ 68cm 。 ＜長軸方向＞N-72°-W。

＜堆積土＞元々の埋土である黒褐色土と改葬時に戻された暗褐色土の2層からなる。

＜出土遺物＞大正期の一銭硬貨1枚、昭和の一銭硬貨3枚、昭和の年号がある十銭硬貨2枚のほか、木片やセルロイド製の髪留め（716）が出土した。

＜時期＞出土した銭貨から、昭和期の墓壙である。

284号土坑（第60図、写真図版47）

＜位置＞II C1d・2d グリッドの南側で跨っている。

＜概要＞平面形は長方形で、断面形は浅皿状である。313号土坑と切り合うが、重複部がわずかであり新旧は掴めなかった。 ＜規模＞ $112 \times 91\text{cm}$ 、深さ 22cm 。 ＜長軸方向＞N-10°-W。

＜堆積土＞疊混じりの暗褐色土の単層である。

＜出土遺物＞煙管1セット（723）、古寛永・新寛永（文銭1枚）併せて8枚と銭種不明1枚、人骨片などが出土した。

＜時期＞出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓壙と思われる。

285号土坑（第60図、写真図版47）

＜位置＞II C3f グリッド北東寄りにある。

＜概要＞平面形は長方形で、断面形は浅い皿状である。他の遺構との重複はないが、北東方向 1.5m にある286号土坑とともに小型の重機により改葬されたような状況である。

＜規模＞ $108 \times 89\text{cm}$ 、深さ 43cm 。 ＜長軸方向＞N-54°-E。

＜堆積土＞暗褐色土の単層である。 ＜出土遺物＞頭蓋骨片。

＜時期＞人骨以外に副葬品が見られないが、近代の墓壙と思われる。

286号土坑（第60図、写真図版47）

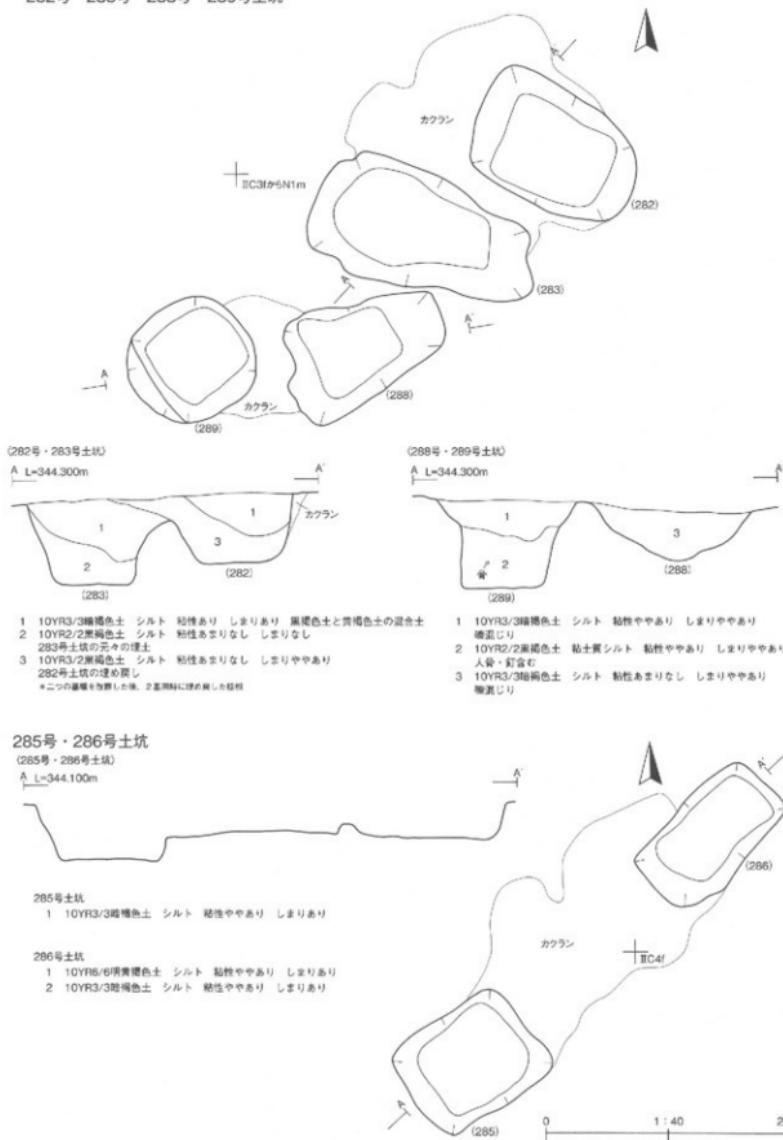
＜位置＞II C4e グリッド南西隅にある。

＜概要＞平面形は長方形で、断面形はごく浅い皿状である。 ＜規模＞ $124 \times 68\text{cm}$ 、深さ 30cm 。

＜長軸方向＞N-48°-W。 ＜堆積土＞暗褐色土と明黄褐色土からなる。

＜出土遺物＞昭和22年の50銭硬貨1枚と模造銭かと思われるもの1枚1.9g。

282号・283号・288号・289号土坑



第60図 282・283・285・286・288・289号土坑

<時期>出土した錢貨から、近代の墓壙である。

287号土坑（第54図、写真図版48）

<位置> I C9 d・10 d グリッドに跨ってあり、このグリッドに位置する4基の墓壙が重複する箇所の西側に接する。

<概要>平面形は方形で、断面形はビーカー状。底面は平坦である。他の造構との重複はない。

<規模>108×89cm、深さ43cm。

<堆積土>3層に分層した。2・3層は元の堆積土である暗褐色土で、1層は改葬時に埋められたにぶい黄褐色土である。のことから、その際の掘削は造構の下面には及んでいないようである。

<出土遺物>雁首・吸口に細工が施される煙管1セット（734）と明治期の一銭硬貨が5枚、釘19点187.5gと四肢骨・頭蓋骨片が出土した。

<時期>出土した錢貨から、近代の墓壙である。

288号土坑（第60図、写真図版48）

<位置> II C3 f グリッドの北西隅にあり、西側に289号土坑がつながるようにある。

<概要>平面形は不整な長方形で、断面形は皿状である。重複する造構はない。

<規模>140×78cm、深さ39cm。<長軸方向>N-68°-E。

<堆積土>疊混じりの暗褐色土の単層。

<出土遺物>釣具のビーズ玉様のもの4ヶと釘2点3.4g。

<時期>近代の墓壙と思われる。

289号土坑（第60図、写真図版48）

<位置> II C2 f グリッドの北東隅にある。

<概要>平面形は方形、断面形はビーカー状である。重複する造構はない。

<規模>102×96cm、深さ72cm。

<堆積土>2層に分層される。上位は疊混じりの暗褐色土、中位以下は人骨を含む黒褐色土である。

<出土遺物>四肢骨片と石器剥片2.4g、釘など。

<時期>棺の釘と思われる遺物が出土していることから、近代の墓壙と思われる。

290号土坑（第55図、写真図版42・48）

<位置> I C10 c・10 d グリッドに跨る。本造構の北東に延びる墓壙群の南側に位置する。

<概要>平面形は不整な方形、断面形はバケツ形と思われる。近代墓壙の265号土坑に切られる。

<規模>80×78cm、深さ48cm。

<堆積土>2層に分けられ、改葬前の褐色土とその後の暗褐色土からなる。

<出土遺物>明治期の一銭1枚、大正期の一銭9枚、年号が不明の一銭1枚、計11枚。

<時期>大正期の錢貨が出土していることから、近代（大正期以降）の墓壙である。

291号土坑（第54図、写真図版39・40）

<位置> I C10 d グリッド中央やや西寄りの墓壙6基が集中する箇所にある。

<概要>平面形は不整方形、断面形はバケツ形である。底面はやわざかに丸みをもつ。261号土坑と

重複するが、本遺構の方が新しい。 <規模> 76×73cm、深さ53cm。

<堆積土>褐色土粒及び大形の礫を含むにぶい黄褐色土の単層である。

<出土遺物>明治期の一銭硬貨2枚、半銭3枚、古寛永・新寛永があわせて29枚出土した。

<時期>明治期の銭貨を含むことから、近代の墓壙としておく。

292号土坑（第54図、写真図版39・40）

<位置>これも I C 10 d グリッド中央やや西寄りの墓壙6基が集中する箇所にある。

<概要>遺構の南西側が255号土坑に、北東側が291号土坑に、南東側はP P 9に切られている。

そのため平面形は定かでないが、方形か長方形と思われる。断面形はバケツ形か。

<規模>深さ55cm。 <長軸方向> N - 9° - E。

<堆積土>地山崩落土を含む黒褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>形状から近世以降の墓壙としておく。時期は不明である。

293号土坑（第55図、写真図版49）

<位置> I C 10 c グリッドの南西隅にある。

<概要>平面形は266号土坑と重複するため不明、断面形は浅いビーカー状である。本遺構のほうが古い。 <規模> 72×?cm、深さ36cm。

<堆積土>上位が褐色土、下位が褐色土粒を含む黒褐色土の2層からなる。

<出土遺物>なし。

<時期>形状などから近世以降の墓壙とした。時期は不明確である。

294号土坑（第59図、写真図版49）

<位置> I C 9 f グリッドの南西隅にある。

<概要>平面形は不整形、断面形は浅いビーカー状である。

<規模> 63×56cm、深さ30cm。

<堆積土>暗褐色土、褐色土、黄褐色土粒を含む黒褐色土の3層からなり人為的に埋め戻されている。

<出土遺物>なし。

<時期>形状などから近世以降の墓壙とする。

302号土坑（第61図、写真図版49）

<位置> I C 8 i グリッドの中央やや東寄りにある。

<概要>平面形は不整長方形、断面形は浅皿状である。他の遺構との重複は認められない。

<規模> 90×56cm、深さ9cm。 <長軸方向> N - 20° - W。

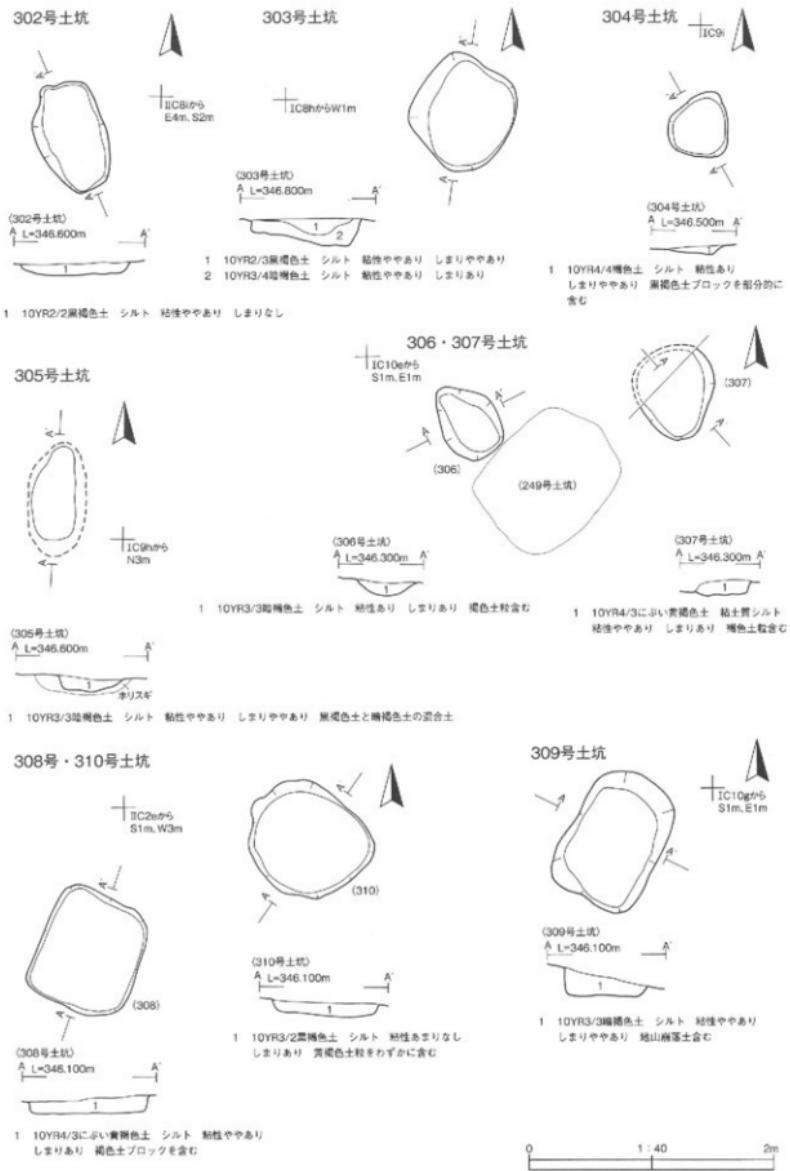
<堆積土>黒褐色土の単層である。 <出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

303号土坑（第61図、写真図版49）

<位置> I C 8 f グリッド北西端、225号土坑の北東側3mほどにある。

<概要>平面形は不整円形、断面形は皿状である。他の遺構との重複は認められない。



第61図 302～310号土坑

<規模>82×82cm、深さ22cm。 <長軸方向>N-20°-E。

<堆積土>中央部は黒褐色土、その周りと下位にかけては暗褐色土が堆積する。

<出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

304号土坑（第61図、写真図版50）

<位置> I C9 i グリッド北西端付近にある。

<概要>平面形は不整形、断面形はごく浅い皿状である。他の遺構との重複は認められない。

<規模>51×51cm、深さ7cm。

<堆積土>黒褐色土ブロックを部分的に含む褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

305号土坑（第61図、写真図版50）

<位置> I C8 g グリッド西端にある。

<概要>平面形は不整形、断面形は浅い皿状である。他の遺構との重複は認められない。遺構の上部を掘りすぎたため、全体の規模は不明である。

<規模>深さ9cm。 <長軸方向>N-9°-E。

<堆積土>暗褐色土の単層である。 <出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

306号土坑（第61図、写真図版50）

<位置> I C10 e グリッド中央からやや北西寄りにある。

<概要>平面形は不整形、断面形は浅い皿状である。249号土坑と近接する。

<規模>66×48cm、深さ9cm。 <長軸方向>N-37°-W。

<堆積土>褐色土粒を含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

307号土坑（第61図、写真図版50）

<位置> I C10 e グリッドの北東寄りにある。

<概要>平面形は不整形、断面形は浅い皿状である。遺構の北西側を掘りすぎたため、全体規模が不明である。 <規模>69×?cm、深さ11cm。

<堆積土>褐色土粒を含む黄褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

308号土坑（第61図、写真図版51）

<概要>平面形は方形、断面形は浅皿状である。遺構間の重複はない。

<規模>96×72cm、深さ12cm。 <長軸方向>N-25°-E。

<堆積土>褐色土・ブロックを含むにぶい黄褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

309号土坑（第61図、写真図版51）

<位置> I C 10 g グリッド北西寄りに位置する。

<概要>平面形は長方形、断面形は浅皿状である。遺構間の重複はない。

<規模>105×75cm、深さ21cm。<長軸方向>N-26°-E。

<堆積土>地山崩落土を含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

310号土坑（第61図、写真図版51）

<位置> II C 1 c グリッド北東寄りに位置する。

<概要>平面形は不整円形、断面形は浅い皿状である。遺構間の重複はない。

<規模>100×87cm、深さ11cm。

<堆積土>黄褐色土粒を含む黒褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

311号土坑（第62図、写真図版51）

<位置> II C 2 b グリッド中央わずかに南西寄りにある。

<概要>平面形は不整円形、断面形は浅いビーカー状である。重複はない。

<規模>74×72cm、深さ34cm。

<堆積土>黄褐色土粒を含む黒褐色土の単層である。

<出土遺物>石器剥片1点15.9g。

<時期>縄文時代に属するかと思われる剥片が1点出土したが、時期不明とした。

312号土坑（第62図、写真図版52）

<位置> II C 1 d · 2 d グリッドに跨る。

<概要>平面形は円形、断面形は皿状で、重複はない。

<規模>63×62cm、深さ20cm。

<堆積土>炭化物粒を含む暗褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

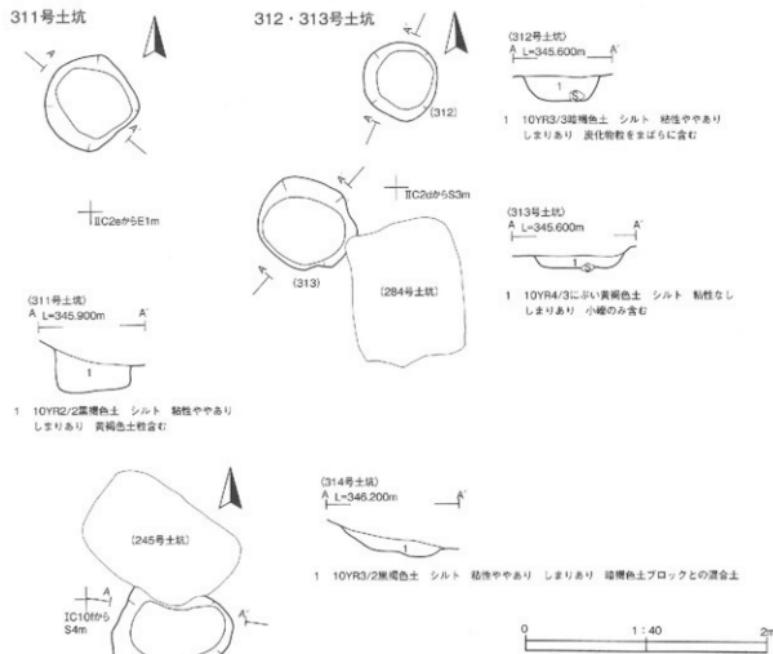
<時期>時期不明の土坑である。

313号土坑（第62図、写真図版52）

<位置> II C 1 d グリッド南東側に跨る。

<概要>平面形は円形、断面形は皿状である。重複はない。

<規模>83×72cm、深さ10cm。



第62図 311～314号土坑

<堆積上>小礫含むにぶい黄褐色土の単層である。

<出土遺物>なし。

<時期>時期不明の土坑である。

314号土坑（第62図、写真図版52）

<位置> IC10 f グリッド南西隅にある。

<概要>平面形は不整梢円形、断面形は浅皿状である。底面は波打つ。245号土坑と重複するが、本遺構のほうが古い。

<規模> ? × 102cm、深さ14cm。 <長軸方向> N - 84° - E。

<堆積上>暗褐色土ブロックと黒褐色土の混合土である。

<出土遺物>縄文土器3点10.1g出土した。

<時期>縄文時代の土器片が1点出土しているが、時期不明の土坑とした。

c 柱穴状小土坑

墓壙群の中を主体として9個検出された。いずれも出土遺物がなく、また掘立柱建物を構成する配置のものもない。規模等の詳細は一覧表にいっさいを記載した。

第12表 柱穴状小土坑観察表

遺構名	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底部標高(m)	埋 土
P71	I C 9 e	35	33		10YR4/3	にぶい黄褐色土 粘性やや有 しまり有 黄褐色土粒含む
P72	I C 9 e	27	25	427	10YR3/3	暗褐色土 粘性やや有 しまり有
P73	I C 10 d	25	22	379	345.641	10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有 しまり有
P74	II C 1 d	30	26		10YR3/2	黒褐色土 粘性やや有 しまりあり 岩化物粒含む
P75	II C 1 c	34	32	191	345.725	10YR3/2 黑褐色土 粘性やや有 しまりあり
P76	II C 1 c	34	23	225	345.652	10YR3/2 黑褐色土 粘性やや有 しまりあり
P77	II C 1 c	31	26	222	345.648	10YR3/2 黑褐色土 粘性やや有 しまりあり
P78	II C 2 b	25	22	124	345.585	10YR3/2 黑褐色土 粘性やや有 しまりあり
P79	I C 10 d	32	30	63.2	345.790	

(2) 遺 物

平成20年度調査で出土した遺物は、当センター収納用中コンテナ（容量28%）3箱である。内訳は、繩文土器2袋およそ1,500g、石器剥片11点68.8g、副葬鉢373枚と100枚を超える鐵錢（寛永通寶）、錢貨・釘類を除く簪や和銅などの金属製品32点、棺の金具や鉄釘類894.4g、漆器の漆膜、玩具、ボタン、ビーズ玉などで、この他墓壙内に残された人骨が中コンテナ2箱分出土した。

以下に主要な遺物の詳細を記す。

a 錢貨（第63～77図、写真図版57～62）

掲載した355枚の錢種には、渡米錢である北宋錢2枚、（元豊通寶：初鑄1078年、皇宋通寶：初鑄1039年各1枚ずつ）、国内錢では寛永通寶銀一文錢272枚（「古寛永」147枚、文錢以降の「新寛永」が58枚、いずれか不明のもの67枚）、それ以外の近世の国内錢である寶永通寶1枚、二錢や五錢、十錢などの明治以降の硬貨52枚、明治期以降に属さない錢種不明の錢貨28枚がある。また、写真掲載したものは、寛永通寶銀一文錢と思われる100枚前後468.3gの一部、寛永通寶17枚からなる緞錢1本58.1g、ガーゼのような布が付着する硬貨1枚2.8gがある。さらに、材質不明の摸造錢かと思われるものが1点1.9g、採拓出来ない錢貨の細片が18.5g出土した。

出土した錢貨の種類を検討することは、被葬者が埋葬された年代を決定する根拠となるが、今回の調査では改葬、未改葬のものが混在しており、全体として墓壙の年代観を明確に示すことは不可能である。だが、墓壙の形状なども加えて考察することで、「近世に属する墓壙」と「明治期以降に属する墓壙」程度の大まかな分類は可能となろうが、これについては後述する。

なお、錢貨が認められた墓壙は72基中58基（80%）で、当時の習俗として錢貨の埋納は当然のごく行われてきたものであることがわかる。

b 煙管（第63～76図、写真図版53～56）

掲載した煙管は64点で、いずれも雁首と吸口が竹製の縦字で繋がる羅字煙管と思われるものである。そのうち、雁首と吸口がセットで出土しているものが27組あり、副葬品の残存状況は良好と言えよう。また、煙管が副葬されていた墓壙は72基中33基（46%）で、当時の喫煙習慣の一端が窺える。19年度同様、今回出土した煙管を古泉氏の分類に照らしてみれば、いずれも雁首の補強体が明瞭でないことから、Ⅳ段階18世紀後半を主体として、V段階19世紀に属するものが多いようである。特徴的な煙管としては、372・429・448・557・734などのように、幾何学的な模様の細工が入るものが挙げられる。

c 金属製品（第63～73図、写真図版53～56）

銭貨や釘類を除く金属製品32点のうち、鉄製品は17点である。内訳は和銛4点（374・375・449・475）、毛抜き1点（649）、刀子などの刃物類4点（376・460・461・473）、火打金3点（377・378・523）、環状製品1点（556）、棒状のもの含む不明鉄製品4点などである。この他に、それぞれの墓壙から出土した指の鉄釘と金具類があるが、これらは重量計測だけを行い本書には掲載しなかった。鉄釘は木質部が取り付いているものが多く、角釘・頭折釘などがあった。

銅製品には、柄鏡3枚、方形鏡1枚、円形鏡（紐鏡）1枚、小柄3点の計8点がある。方形鏡（466）には上下2箇所、円形鏡（506）には中央部に1箇所、紐を通す箇所があり、いずれも年代的には柄鏡よりも旧い形態とされている。

銀製品は簪6点（542・559～562・610）と笄1点（558）の計7点で、560は耳かきが残る。いずれにもぶい色合いである。

d 陶磁器（第65・69・70図、写真図版54・55）

墓壙の副葬品である3点のみ掲載した。近代以降の陶磁器については掲載していない。

403は234号土坑出土の肥前産陶器碗の底部破片である。年代は18世紀代か。515も肥前産陶器で器種は小壺、250号土坑から出土した。草花文が描かれるが、年代は403よりは古く17世紀中頃か。541は254号土坑から出土した餌猪口とも呼ばれる餌入れである。大堀・相馬産、19世紀前半から中頃のものである。

e 木製品（第67・69図、写真図版54・55）

木櫛の一部が2点（462・499）出土した。被葬者を女性とする根拠と出来るか。樹種は不明である。

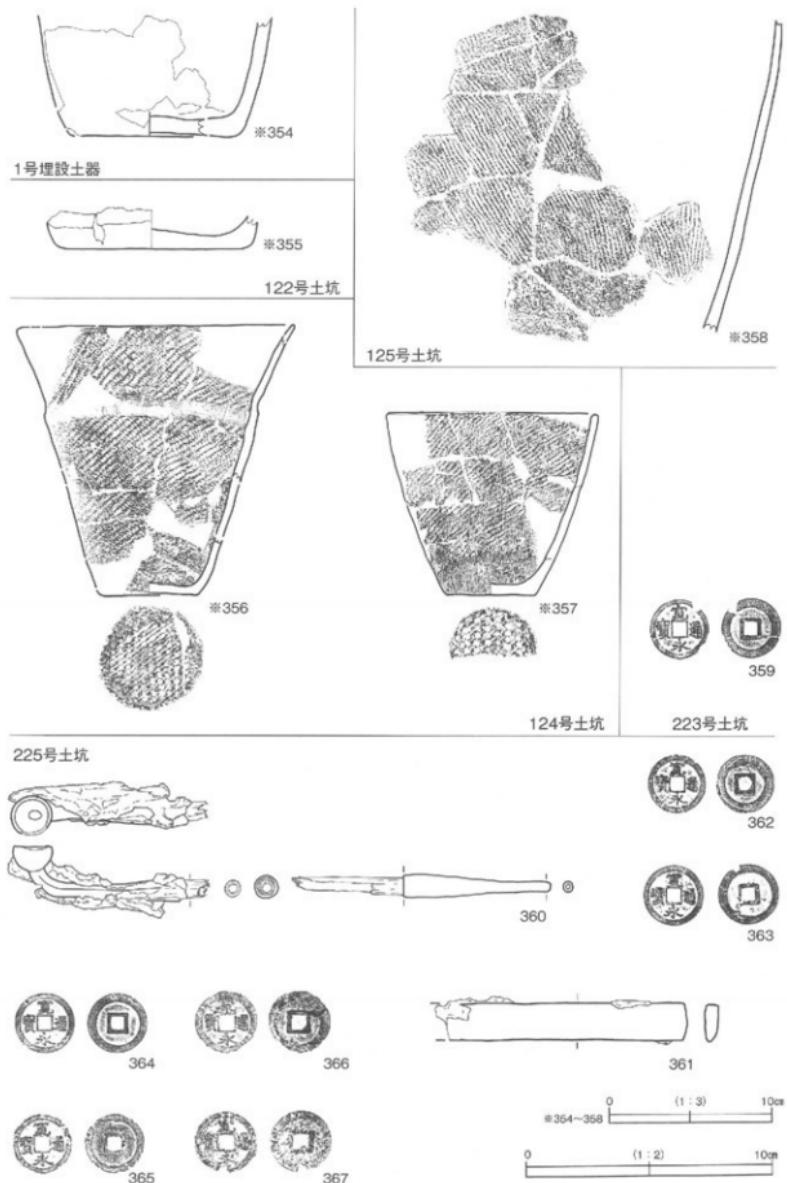
f 石製品（第67・72図、写真図版54・56）

使い込まれた硯1点（452）と碁石状の砾（616）が1点出土した。

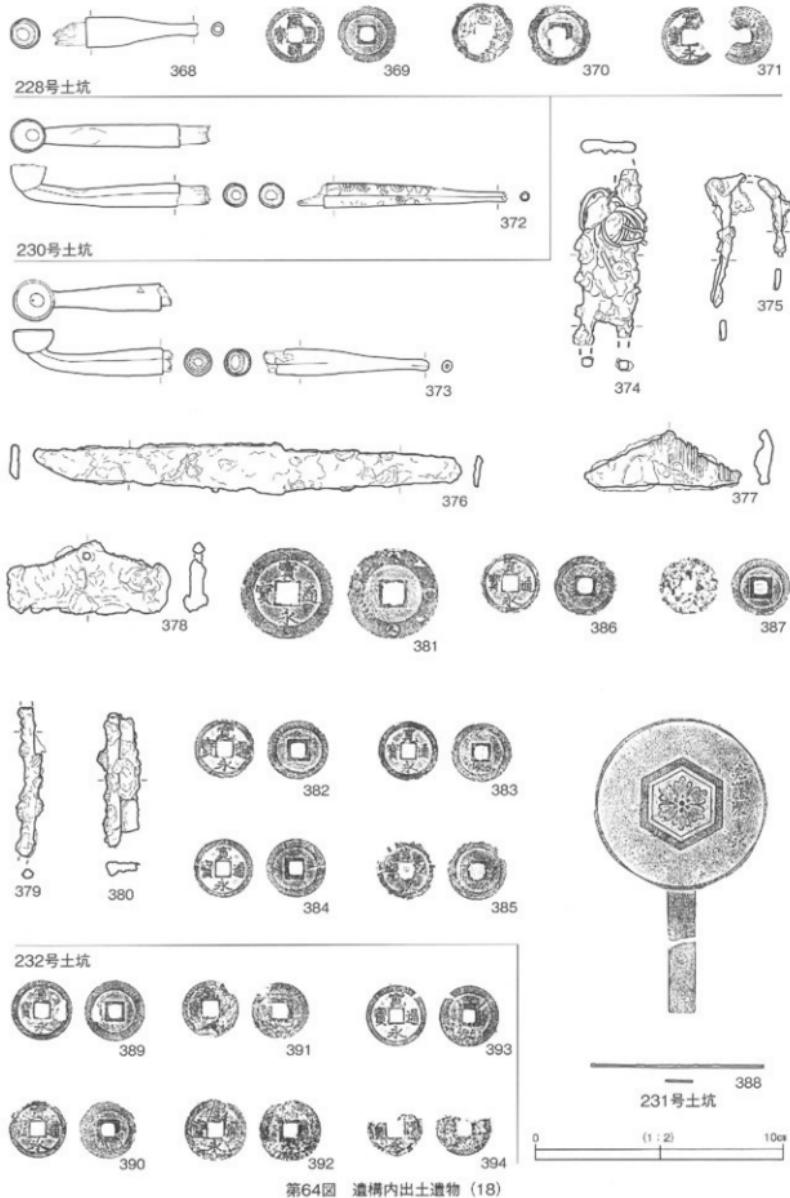
g その他（第75図、写真図版56）

上記以外の副葬品を挙げてみる。釣具にあるような赤いビーズ玉4点1例、いわゆる「ガラガラ」と呼ばれる玩具1点1例、Yシャツのボタン1点1例、ガラス瓶1点1例、セルロイド製の髪留め1点1例（716）。このことから、被葬者は子供や女性であったことがわかる。改葬され残ったものか、あるいはお骨だけが拾われたものか。

なお、調査の際に出土した人骨は、当センターの中コンテナ（容量28㍑）2箱ほどになったが、調査後には人骨の鑑定等は行わず、野外調査中に筆者が部位等を記録したものである。その後の人骨の取扱いについては、既述のとおりである。

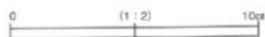
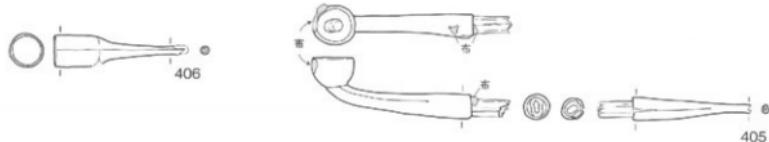


第63図 遺構内出土遺物 (17)

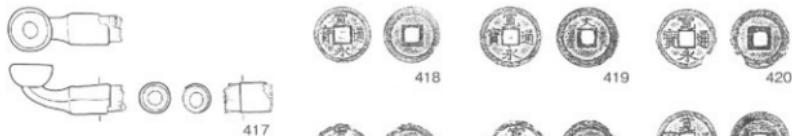




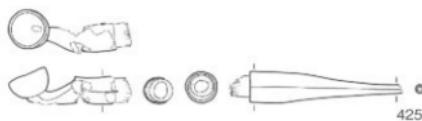
233号土坑



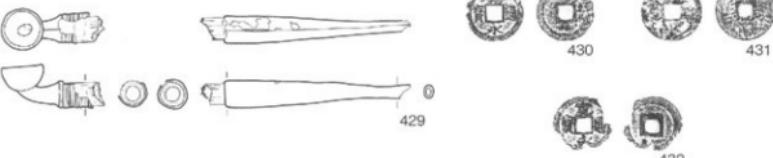
第65図 遺構内出土遺物 (19)



236号土坑



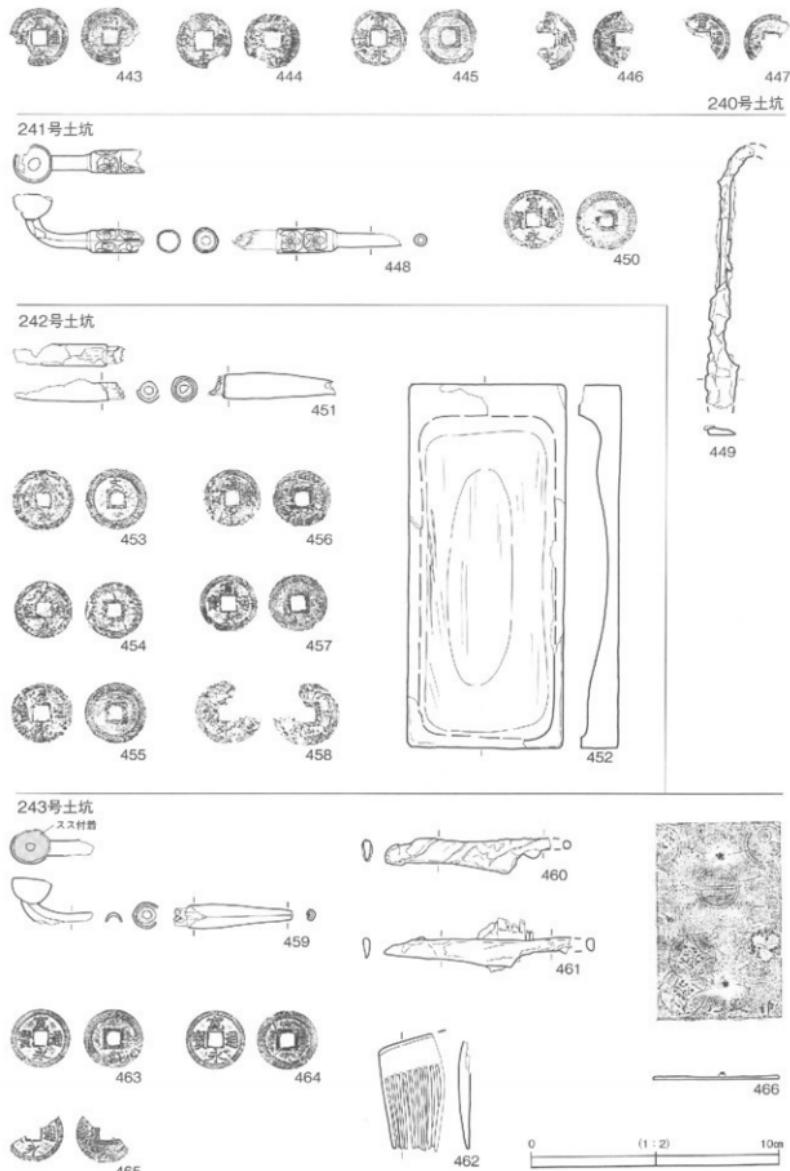
237号土坑



238号土坑



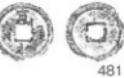
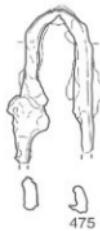
第66図 漢構内出土遺物 (20)



第67図 遺構内出土遺物 (21)

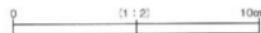
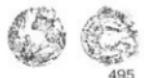


244号土坑



245号土坑

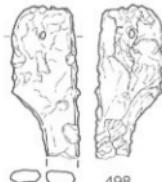
246号土坑



第68図 遺構内出土遺物 (22)



497



498



500



501



502



503



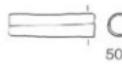
504



505



499



507

248号土坑



508



509



510



511



512



513

249号土坑



506

247号土坑



514



516



517

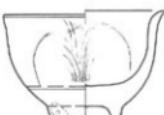


518



519

250号土坑



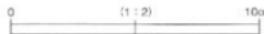
515



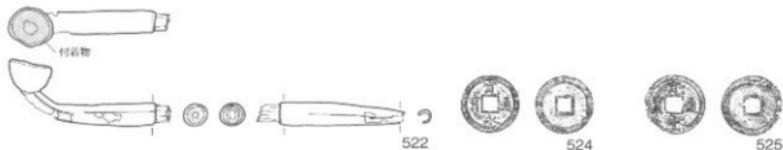
520



521

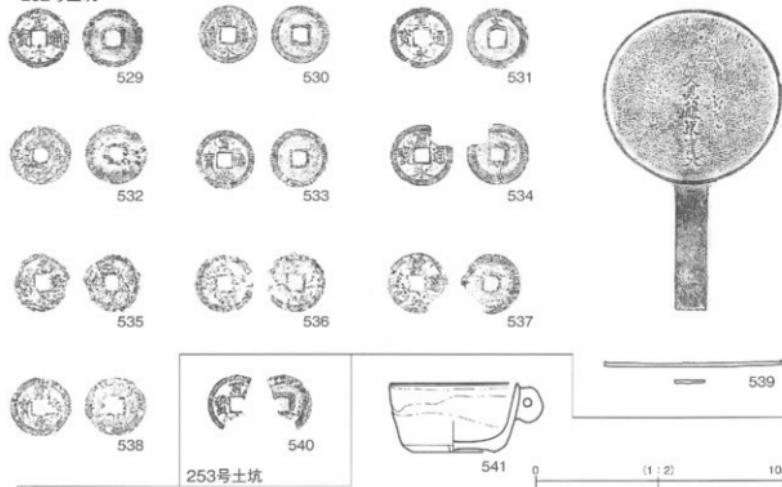


第69図 遺構内出土遺物 (23)

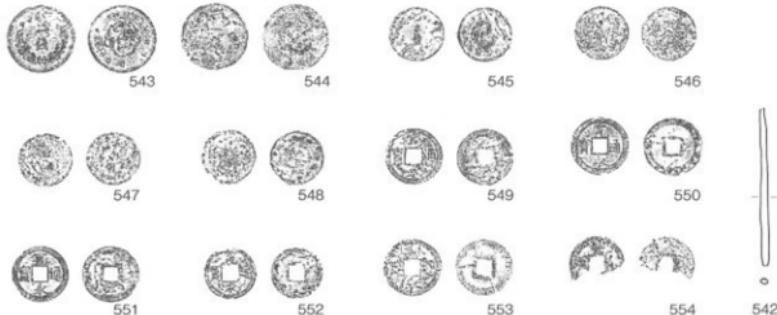


251号土坑

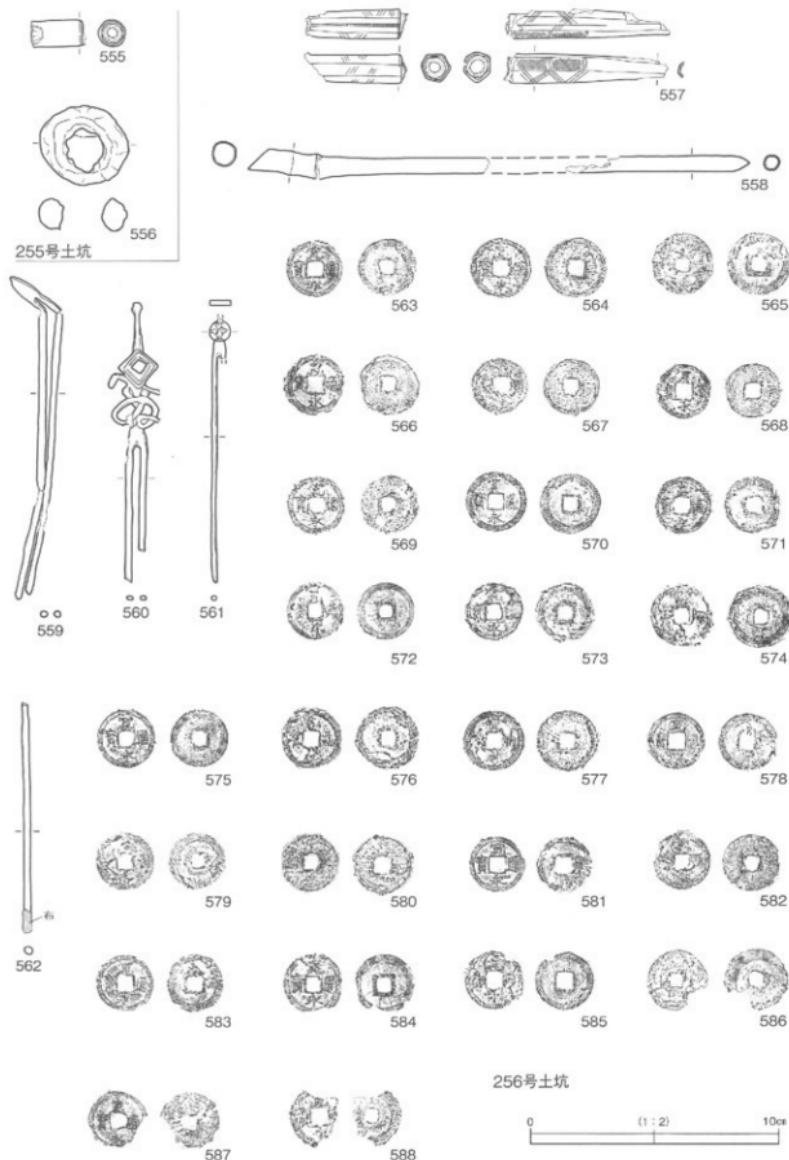
252号土坑



254号土坑



第70図 遷構内出土遺物 (24)



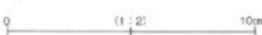
第71図 遺構内出土遺物 (25)

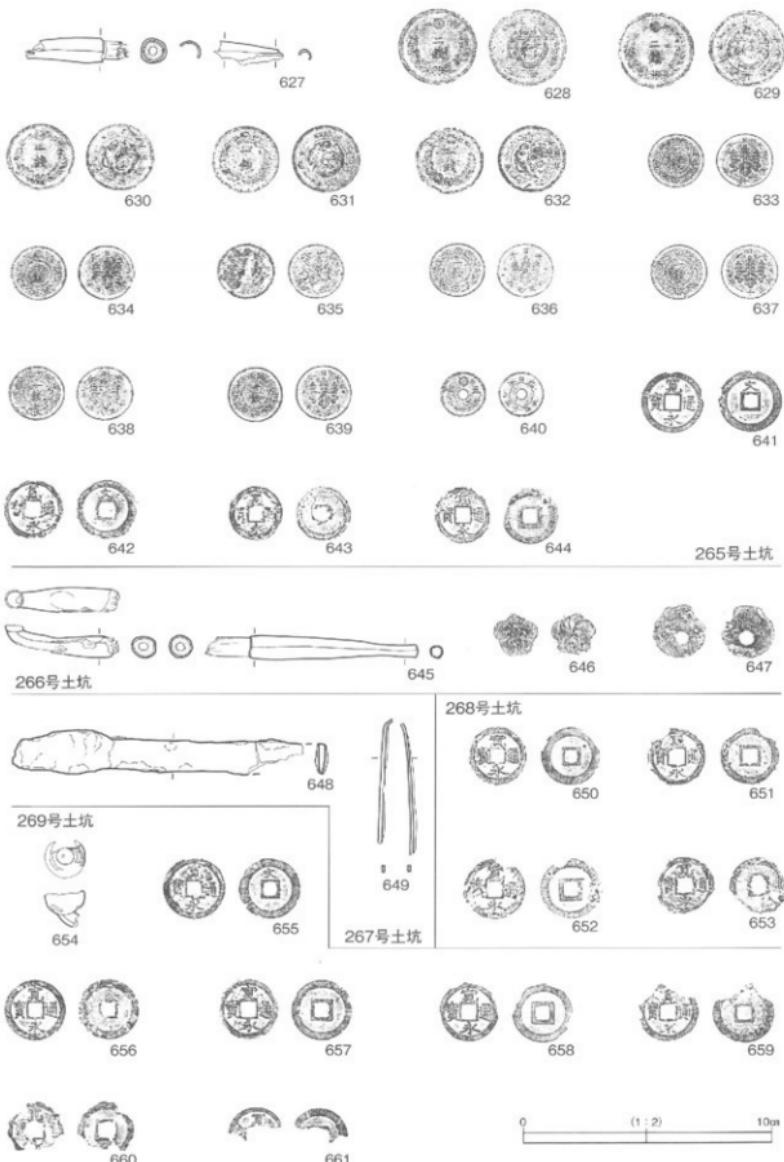


257号土坑

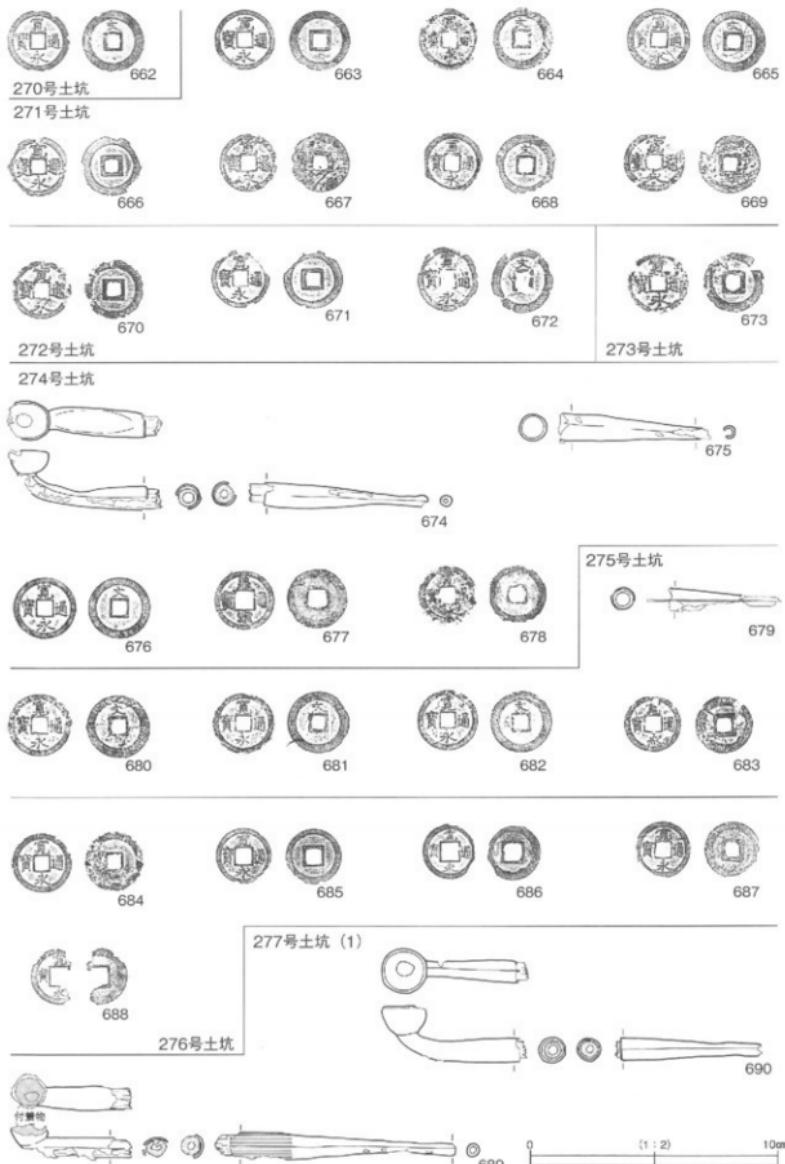


第72号 濠構内出土遺物 (26)

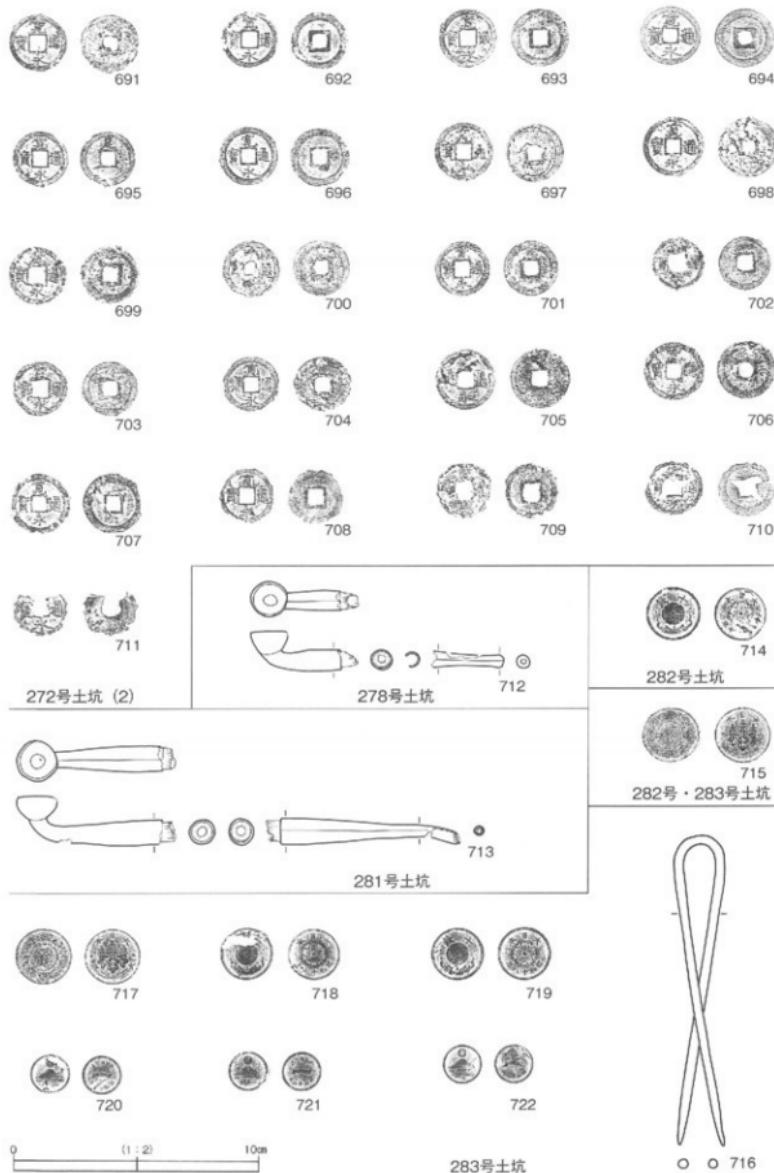




第73図 遺構内出土遺物 (27)



第74図 遺構内出土遺物 (28)



第75図 遺構内出土遺物 (29)



284号土坑



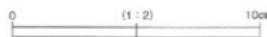
287号土坑



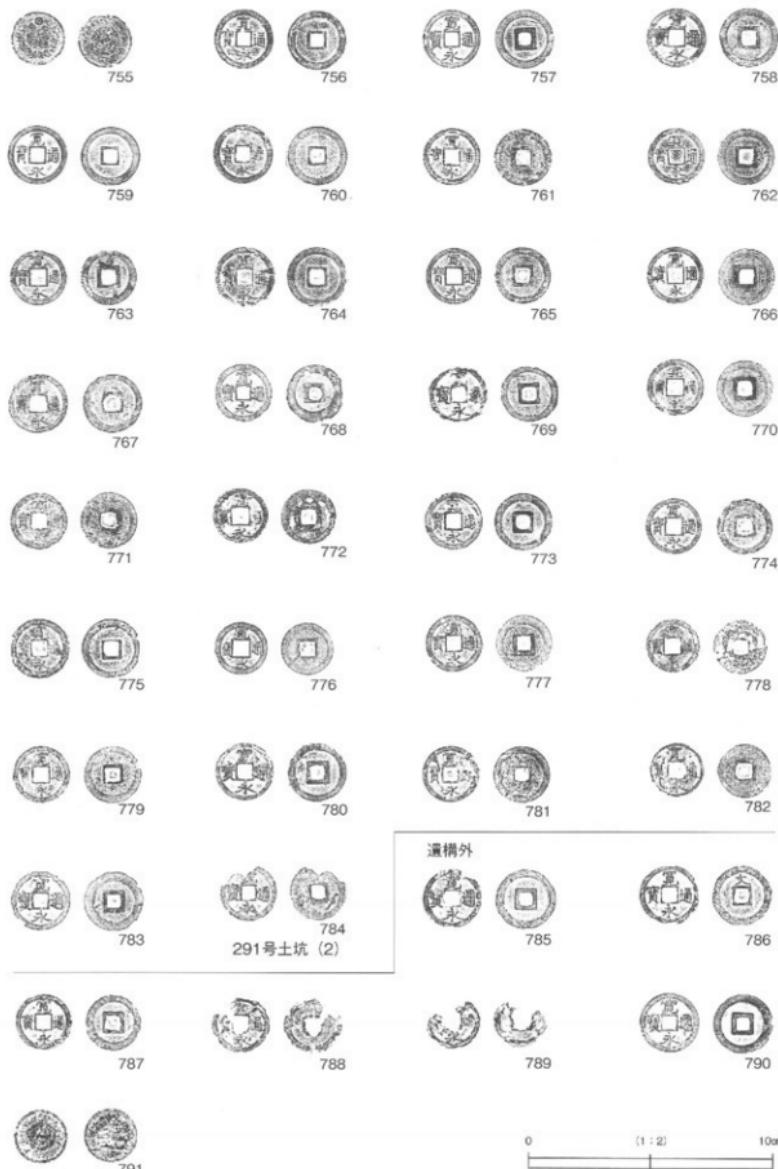
290号土坑



291号土坑 (1)



第76図 遺構内出土遺物 (30)



第77図 遺構内出土遺物（31）・遺構外出土銭貨

第13表 平成20年度出土遺物観察表（彌文時代）

拓番 番号	登 録 番 号	出土地点	層位	備 査	部位	外觀(文様・装飾・施文・刷体)	内面	付着物	分類	その他
354	791	弓子廻縄設置場	土壌	深 度	底 部	無文	無文	ナフ	表面に削り痕等なし	
355	80122号土坑		土壌	深 度	底 部	無文	無文	ナフ	底面に削り痕等なし	
356	82124号土坑	周上	洋 外	口～底部	上縁と脚部焼け	0段多糸 (L.F.) 断代瓶	ミガキ	内外面又々		
357	81125号土坑	周上	洋 外	口～底部	0段多糸 (L.F.) 断代瓶	ミガキ	内外面又々			
358	83125号土坑	周上	洋 外	口～底部	脚部	無文	ミガキ	ナフ		

第14表 平成20年度出土遺物観察表（錢鏡）

拓鏡 番号	登 録 番 号	出土地点	層位	材 料	径 (cm)	重量 (g)	種類	相模近年代	その他
S59	2-1	222号土坑	周上	陶	2.40	2.40	實心鏡	古?	17世紀前
262	4-1	225号土坑	周上	陶	2.40	2.90	實心鏡	古?	17世紀前
363	4-2	225号土坑	周上	陶	2.15	3.10	實心鏡	古?	17世紀前
364	4-3	225号土坑	周上	陶	2.40	3.40	實心鏡	古?	17世紀前
265	4-4	225号土坑	周上	陶	2.40	2.30	實心鏡	古?	17世紀前
366	4-5	225号土坑	周上	陶	2.90	3.00	實心鏡	古?	17世紀前
367	4-6	225号土坑	周上	陶	2.50	2.10	實心鏡	古?	17世紀前
369	9-1	228号土坑	周上	陶	2.30	3.00	元永通鑄	古?	11世紀後
270	9-2	228号土坑	周上	陶	2.50	2.10	實心鏡	古?	17世紀前
371	9-3	228号土坑	周上	陶	2.35	1.20	實心鏡	古?	17世紀前
381	13-1	231号土坑	周上	陶	3.70	8.20	實心鏡	古?	18世紀前
382	13-2	231号土坑	周上	陶	2.40	2.70	實心鏡	古?	17世紀前
383	13-3	231号土坑	周上	陶	2.40	3.20	實心鏡	古?	18世紀前
384	13-4	231号土坑	周上	陶	2.35	2.60	實心鏡	古?	18世紀前
385	13-5	231号土坑	周上	陶	2.40	1.90	實心鏡	新?古?	18世紀前
386	13-6	231号土坑	周上	陶	2.40	2.40	實心鏡	新?	18世紀前
387	13-7	231号土坑	周上	陶	2.40	2.40	實心鏡	新?	18世紀前
389	14-1	232号土坑	周上	陶	2.15	2.70	實心鏡	新?	18世紀前
390	14-2	232号土坑	周上	陶	2.30	2.90	實心鏡	古?	17世紀前
391	14-3	232号土坑	周上	陶	2.30	2.70	實心鏡	古?	17世紀前
392	14-4	232号土坑	周上	陶	2.40	2.00	實心鏡	古?	17世紀前
393	14-5	232号土坑	周上	陶	2.25	0.90	實心鏡	新?	17世紀前
394	14-6	232号土坑	周上	陶	2.30	2.80	實心鏡	新?	18世紀前
395	15-1	233号土坑	周上	陶	2.40	2.80	實心鏡	新?	17世紀前
397	15-2	233号土坑	周上	陶	2.30	2.50	實心鏡	新?	18世紀中
398	15-3	233号土坑	周上	陶	2.30	1.80	實心鏡	新?	18世紀前
399	15-4	233号土坑	周上	陶	2.00	1.60	實心鏡	古?	17世紀前
400	15-5	233号土坑	周上	陶	2.35	2.40	實心鏡	古?	17世紀前
401	15-6	233号土坑	周上	陶	2.10	1.10	實心鏡	新?	17世紀後
402	15-7	233号土坑	周上	陶	2.10	1.10	實心鏡	新?	17世紀後

編號	登録番号	出土施設	層位	素材	径 (cm)	重量 (g)	種別	初動発年代	その他
407	16.1 231号・坑	埋土	鉢	陶	2.50	3.30	甕水道管	新	17世紀後
408	16.2 234号・坑	埋土	鉢	陶	2.30	2.30	甕水道管	新	18世紀後
409	16.3 234号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	2.40	甕水道管	新	17世紀後
410	16.4 234号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	3.40	甕水道管	新	18世紀前
411	16.5 231号・坑	埋土	鉢	陶	2.30	1.90	甕水道管	新	17世紀後
412	16.6 234号・坑	埋土	鉢	陶	2.30	3.80	甕水道管	古？新？	17世紀後
413	16.7 234号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	3.30	甕水道管	古？新？	17世紀後
414	16.8 234号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	2.60	甕水道管	新？	17世紀後
415	16.9 234号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	3.10	甕水道管	古	18世紀前
416	16.10 234号・坑	埋土	鉢	陶	2.30	3.80	甕水道管	古？	18世紀前
418	18.1 236号・坑	埋土	鉢	陶	2.30	2.60	甕水道管	新	18世紀前
419	18.2 236号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	3.90	甕水道管	新	17世紀後
420	18.3 236号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	3.90	甕水道管	古	17世紀後
421	18.4 236号・坑	埋土	鉢	陶	2.30	2.30	甕水道管	新	17世紀後
422	18.5 236号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	2.00	甕水道管	古	17世紀後
423	18.6 236号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	2.00	甕水道管	新	18世紀前
426	19.1 25号・坑	埋土	鉢	陶	2.25	2.10	甕水道管	新	18世紀前
427	19.2 237号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	1.80	甕水道管	古？新？	17世紀後
428	19.3 237号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	1.80	甕水道管	新	17世紀後
430	20.1 28号・坑	埋土	鉢	陶	2.30	1.50	甕水道管	新	18世紀前
431	20.2 28号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	2.50	甕水道管	古？新？	17世紀後
432	20.3 28号・坑	埋土	鉢	陶	2.10	1.60	甕水道管	古？	17世紀後
434	21.1 29号・坑	埋土	鉢	陶	2.45	3.00	甕水道管	古	17世紀中
435	21.2 239号・坑	埋土	鉢	陶	2.50	3.40	甕水道管	新	17世紀後
436	21.3 239号・坑	埋土	鉢	陶	2.50	2.90	甕水道管	新	17世紀後
437	21.4 239号・坑	埋土	鉢	陶	2.50	3.10	甕水道管	古	17世紀後
438	21.5 239号・坑	埋土	鉢	陶	2.50	2.70	甕水道管	新	17世紀後
439	21.6 239号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	2.10	甕水道管	新	17世紀後
440	21.7 239号・坑	埋土	鉢	陶	2	0.90	甕水道管	古？新？	17世紀後
441	21.8 239号・坑	埋土	鉢	陶	2.30	1.50	甕水道管	古？新？	17世紀後
442	21.9 239号・坑	埋土	鉢	陶	2.50	1.10	甕水道管	古？	17世紀後
443	22.1 240号・坑	埋土	鉢	陶	2.30	2.00	甕水道管	新	17世紀後
444	22.2 240号・坑	埋土	鉢	陶	2.20	1.90	甕水道管	古？新？	17世紀後
445	22.3 240号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	1.80	甕水道管	古	17世紀後
446	22.4 240号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	1.30	甕水道管	新	17世紀後
447	22.5 249号・坑	埋土	鉢	陶	2.30	0.70	甕水道管	新	17世紀後
450	23.1 241号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	2.00	甕水道管	古	17世紀後
453	24.1 21号・坑	埋土	鉢	陶	2.15	2.70	甕水道管	新	17世紀後
454	24.2 242号・坑	埋土	鉢	陶	2.30	1.90	甕水道管	新	17世紀後
455	24.3 242号・坑	埋土	鉢	陶	2.40	2.80	甕水道管	古？新？	17世紀後
456	24.4 224号・坑	埋土	鉢	陶	2.55	1.90	甕水道管	古？	17世紀後

測量 番号	部類	基点 番号	基点場所	層位	断材	径 (cm)	重量 (kg)	種別	初期年代	その他
457	24.6	2425	土塙	埋土	鉤	2.30	2.10	見水道質	新	18世紀前
458	24.6	2424	土塙	埋土	鉤	2.60	2.20	見水道質	古	17世紀後
463	25.1	2434	土塙	埋土	鉤	2.40	1.70	見水道質	古	17世紀後
464	25.2	2438	土塙	埋土	鉤	2.40	1.70	見水道質	古	17世紀後
465	25.3	2431	土塙	埋土	鉤	2.40	1.20	見水道質	古?	17世紀後
467	26.1	2441	土塙	埋土	鉤	2.40	3.80	見水道質	古	17世紀後
468	26.2	2449	土塙	埋土	鉤	2.45	2.60	見水道質	古	17世紀後
469	26.3	2444	土塙	埋土	鉤	2.40	3.10	見水道質	古	17世紀後
470	26.4	2442	土塙	埋土	鉤	2.40	3.50	見水道質	古	17世紀後
471	26.5	2445	土塙	埋土	鉤	2.40	2.90	見水道質	古	17世紀後
472	26.6	2446	土塙	埋土	鉤	2.35	2.20	見水道質	古	17世紀後
476	27.1	2457	土塙	埋土	鉤	2.30	2.90	見水道質	新	17世紀後
477	27.2	2456	土塙	埋土	鉤	2.30	2.50	見水道質	新	17世紀後
478	27.3	2453	土塙	埋土	鉤	2.30	2.50	見水道質	新	17世紀後
479	27.4	2455	土塙	埋土	鉤	2.30	2.80	見水道質	新	18世紀前
480	27.5	2452	土塙	埋土	鉤	2.20	2.50	見水道質	古	18世紀前
481	27.6	2454	土塙	埋土	鉤	2.15	2.90	見水道質	新	17世紀後
482	27.7	2459	土塙	埋土	鉤	2.20	1.20	見水道質	新	17世紀後
483	27.8	2458	土塙	埋土	鉤	2.20	1.40	見水道質	新	17世紀後
485	28.1	2461	土塙	埋土	鉤	2.40	3.50	見水道質	古	17世紀前
486	28.2	2464	土塙	埋土	鉤	2.30	1.70	見水道質	古	18世紀後
487	28.3	2468	土塙	埋土	鉤	2.20	1.60	見水道質	新	18世紀前
488	28.4	2465	土塙	埋土	鉤	2.20	2.10	見水道質	新	17世紀後
489	28.5	2466	土塙	埋土	鉤	2.25	3.00	見水道質	新	17世紀後
490	28.6	2467	土塙	埋土	鉤	2.40	3.00	見水道質	古	17世紀後
491	28.7	2465	土塙	埋土	鉤	2.25	2.10	見水道質	新	18世紀前
492	28.8	2463	土塙	埋土	鉤	2.30	2.10	見水道質	新	18世紀後
493	28.9	2469	土塙	埋土	鉤	2.40	3.30	見水道質	古	18世紀前
494	28.10	2466	土塙	埋土	鉤	2.25	1.80	見水道質	新	18世紀前
495	28.11	2465	土塙	埋土	鉤	2.30	1.70	見水道質	古?	17世紀後
496	28.12	2465	土塙	埋土	鉤	2.30	1.60	見水道質	古?	17世紀後
500	29.1	2476	土塙	埋土	鉤	2.40	3.20	見水道質	古	18世紀前
501	29.2	2472	土塙	埋土	鉤	2.40	3.30	見水道質	古	17世紀後
502	29.3	2474	土塙	埋土	鉤	2.40	3.40	見水道質	古	18世紀後
503	29.4	2475	土塙	埋土	鉤	2.50	3.80	見水道質	古?	18世紀後
504	29.5	2477	土塙	埋土	鉤	2.20	2.10	見水道質	古?	18世紀後
505	29.6	2478	土塙	埋土	鉤	2.40	2.20	見水道質	古?	18世紀後
506	29.7	2475	土塙	埋土	鉤	2.50	3.20	見水道質	古?	18世紀後
509	30.2	2493	土塙	埋土	鉤	2.40	4.00	見水道質	古?	18世紀後
510	32.3	2499	土塙	埋土	鉤	2.40	3.00	見水道質	古?	18世紀後?
511	34.1	2497	土塙	埋土	鉤	2.30	3.00	見水道質	古?	18世紀後?

編號	登錄番号	出土地点	地盤	素材	径(cm)	重計(g)	種別	初期造年代	その他
512	365	269号土坑	埋上	銅	2.40	260	寛永通寶	新?	17世紀後
513	326	249号+瓦	埋土	銅	2.40	260	寛永通寶	新?	18世紀前
516	342	250号上坑	埋土	銅	2.30	2.80	寛永通寶	新?	17世紀前
517	343	250号+瓦	埋土	銅	2.35	260	寛永通寶	新?	17世紀前
518	343	260号+瓦	埋土	銅	2.20	1.60	寛永通寶	古?	17世紀前
519	345	230号+瓦	埋土	銅	2.35	2.90	寛永通寶	古?	17世紀前
520	346	250号+瓦	埋土	銅	2.30	2.50	寛永通寶	古?	18世紀前
521	346	250号+瓦	埋土	銅	2.25	1.50	寛永通寶	古?	17世紀前
524	351	231号上坑	埋土	銅	2.00	2.80	寛永通寶	新?	18世紀前
525	352	231号上坑	埋土	銅	2.40	3.80	寛永通寶	新?	18世紀前
526	353	261号上坑	埋土	銅	2.00	3.10	寛永通寶	新?	18世紀前
527	354	231号上坑	埋土	銅	2.35	2.10	寛永通寶	新?	17世紀後
528	355	251号+瓦	埋土	銅	2.25	1.80	寛永通寶	新?	18世紀前
529	361	252号上坑	埋土	銅	2.00	3.00	寛永通寶	古?	17世紀前
530	362	252号+瓦	埋土	銅	2.00	2.90	寛永通寶	新?	18世紀前
531	363	252号上坑	埋土	銅	2.50	2.50	寛永通寶	新?	17世紀後
532	364	252号+瓦	埋土	銅	2.40	2.50	寛永通寶	新?	17世紀後
533	365	252号+瓦	埋土	銅	2.40	1.60	寛永通寶	新?	17世紀後
534	366	252号+瓦	埋土	銅	2.50	2.10	寛永通寶	古?	17世紀前
535	367	222号+瓦	埋土	銅	2.40	1.40	寛永通寶	古?	17世紀前
536	368	232号上坑	埋土	銅	2.40	1.20	寛永通寶	古?	17世紀後
537	369	232号+瓦	埋土	銅	2.00	1.30	寛永通寶	古?	17世紀後
538	370	222号+瓦	埋土	銅	2.50	1.50	寛永通寶	新?	17世紀後
540	371	233号土坑	埋土	銅	2.40	1.10	寛永通寶	A.?	財治10年
543	381	254号+瓦	埋土	銅	2.70	5.80	—生	財治10年	財治10年
544	382	254号+瓦	埋土	銅	2.70	5.90	—熟	—	—
545	383	254号+瓦	埋土	銅	2.20	2.90	明治開	—	—
546	384	254号+瓦	埋土	銅	2.20	2.60	明治開	—	—
547	385	254号+瓦	埋土	銅	2.20	2.90	明治開	—	—
548	386	254号+瓦	埋土	銅	2.20	2.90	明治開	新?	18世紀前
549	387	254号+瓦	埋土	銅	2.30	1.40	寛永通寶	新?	18世紀前
550	388	254号+瓦	埋土	銅	2.30	2.10	寛永通寶	古?	18世紀前
551	389	234号+瓦	埋土	銅	2.30	1.90	寛永通寶	古?	18世紀前
552	390	234号+瓦	埋土	銅	2.10	1.30	寛永通寶	古?	18世紀前
553	3811	254号+瓦	埋土	銅	2.30	1.50	寛永通寶	?	—
554	3812	254号+瓦	埋土	銅	2.25	1.10	寛永通寶	新?	18世紀後
563	411	266号+瓦	埋土	銅	2.30	2.80	寛永通寶	新?	18世紀後
564	412	266号+瓦	埋土	銅	2.45	2.90	寛永通寶	古?	—
565	413	256号+瓦	埋土	銅	2.50	4.10	寛永通寶	?	17世紀後
566	414	266号+瓦	埋土	銅	2.40	2.50	寛永通寶	新?	17世紀後
567	415	256号+瓦	埋土	銅	2.30	3.50	寛永通寶	?	—

編號	登録番号	出土場所	層位	木材	径 (cm)	重量 (g)	種別	初期造年代	その他
568	416 266号+灰	埋土	陶	2.20	210	瓦水道管	古? 新?	17世紀後	
569	417 266号+灰	埋土	陶	2.25	230	瓦水道管	新	17世紀後	
570	418 266号+灰	埋土	陶	2.40	290	瓦水道管	古? 新?	17世紀後	
571	419 266号+灰	埋土	陶	2.50	180	瓦水道管	古? 新?	17世紀後	
572	410 266号+灰	埋土	陶	2.30	280	瓦水道管	古? 新?	17世紀後	
573	411 266号+灰	埋土	陶	2.35	260	瓦水道管	古? 新?	17世紀後	
574	412 266号+灰	埋土	陶	2.40	310	瓦水道管	新	17世紀後	
575	413 266号+灰	埋土	陶	2.30	240	瓦水道管	新	17世紀後	
576	414 266号+灰	埋土	陶	2.40	400	瓦水道管	新	17世紀後	
577	415 266号+灰	埋土	陶	2.40	360	瓦水道管	新	17世紀後	
578	416 266号+灰	埋土	陶	2.30	230	瓦水道管	新	17世紀後	
579	417 266号+灰	埋土	陶	2.30	250	瓦水道管	新	17世紀後	
580	418 266号+灰	埋土	陶	2.35	400	瓦水道管	新	17世紀後	
581	419 266号+灰	埋土	陶	2.25	150	瓦水道管	新	17世紀後	
582	413 266号+灰	埋土	陶	2.30	280	瓦水道管	新	17世紀後	
583	412 266号+灰	埋土	陶	2.30	240	瓦水道管	新	17世紀後	
584	413 266号+灰	埋土	陶	2.40	260	瓦水道管	新?	17世紀後	
585	415 266号+灰	埋土	陶	2.40	210	瓦水道管	古? 新?	17世紀後	
586	414 266号+灰	埋土	陶	2.50	340	瓦水道管	古? 新?	17世紀後	
587	412 266号+灰	埋土	陶	2.30	170	瓦水道管	古? 新?	17世紀後	
588	413 266号+灰	埋土	陶	2.35	150	瓦水道管	古? 新?	17世紀後	
591	411 257号+灰	埋土	陶	2.25	380	瓦水道管	古? 新?	17世紀後	
592	422 257号+灰	埋土	陶	2.35	230	瓦水道管	古?	17世紀後	
593	423 257号+灰	埋土	陶	2.40	230	瓦水道管	古	17世紀後	
594	424 257号+灰	埋土	陶	2.30	170	瓦水道管	新	17世紀後	
595	425 257号+灰	埋土	陶	2.30	110	瓦水道管	新	17世紀後	
596	431 258号+灰	埋土	陶	2.30	180	瓦水道管	新?	17世紀後	
597	432 258号+灰	埋土	陶	2.30	190	瓦水道管	新?	17世紀後	
598	433 258号+灰	埋土	陶	2.30	210	瓦水道管	新	17世紀後	
599	434 258号+灰	埋土	陶	2.40	390	瓦水道管	古	17世紀後	
600	425 258号+灰	埋土	陶	2.30	220	瓦水道管	新?	17世紀後	
601	435 258号+灰	埋土	陶	2.50	260	瓦水道管	新	17世紀後	
602	437 258号+灰	埋土	陶	2.50	210	瓦水道管	古	17世紀後	
604	441 259号+灰	埋土	陶	2.40	290	瓦水道管	新	17世紀後	
605	442 259号+灰	埋土	陶	2.30	240	瓦水道管	新	17世紀後	
606	443 259号+灰	埋土	陶	2.35	120	瓦水道管	古	17世紀後	
607	444 259号+灰	埋土	陶	-	660	瓦水道管	新	17世紀後	
608	461 260号+灰	埋土	陶	2.50	150	瓦水道管	古? 新?	17世紀後	
609	462 260号+灰	埋土	陶	-	850	瓦水道管	古?	17世紀後	
611	471 261号+灰	埋土	陶	2.30	230	瓦水道管	占	17世紀後	
612	472 261号+灰	埋土	陶	2.50	190	瓦水道管	新	17世紀後	

件数	登録番号	出土地点	層位	素材	径 (cm)	重量 (g)	種別	制作時代	その他
613	481-262号+灰	埋土	陶土	陶	2.30	310	一端	創治十年 新和〇年	
614	482-262号+灰	埋土	陶土	陶	2.30	310	一端	人正十一年 新和〇年	
615	483-262号+灰	埋土	陶土	陶	2.30	300	一端	18世紀前	
617	481-263号+灰	埋土	陶土	陶	2.30	220	窓水道管	新	
618	482-263号+灰	埋土	陶土	陶	2.30	260	窓水道管	新	
619	483-263号+灰	埋土	陶土	陶	2.25	240	窓水道管	新	
620	484-263号+灰	埋土	陶土	陶	2.30	210	窓水道管	新	
621	485-263号+灰	埋土	陶土	陶	2.30	190	窓水道管	新	
622	486-263号+灰	埋土	陶土	陶	2.40	250	窓水道管	△? 新?	
623	51.1-264号+灰	埋土	陶土	陶	2.40	190	窓水道管	△? 新?	17世紀後
624	51.2-266号+灰	埋土	陶土	陶	2.40	150	窓水道管	新	17世紀後
625	51.3-264号+灰	埋土	陶土	陶	2.40	150	窓水道管	古	17世紀中
626	51.4-264号+灰	埋土	陶土	陶	2.20	120	窓水道管	新	18世紀前
628	52.1-265号+灰	埋土	陶土	陶	3.15	1320	一端		
629	52.2-265号+灰	埋土	陶土	陶	3.10	1220	二端		
630	52.3-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.75	650	一端	治治十年 新和〇年	
631	52.4-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.70	680	一端	治治十四年 明和〇年	
632	52.5-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.75	620	一端	明和〇年	
633	52.6-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.20	370	一端	大正〇年 大正八年	
634	52.7-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.25	340	一端		
635	52.8-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.20	250	一端		?
636	52.9-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.25	350	一端	大正九年 人正十一年	
637	52.10-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.25	360	一端	人正十一年 大正八年	
638	52.11-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.20	360	一端		
639	52.12-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.25	350	一端		
640	52.13-265号+灰	埋土	陶土	陶	1.85	250	窓水道管	新	
641	52.14-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.50	260	窓水道管	新	17世紀後
642	52.15-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.30	240	窓水道管	新	17世紀後
643	52.16-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.15	260	窓水道管	新	17世紀後
644	52.17-265号+灰	埋土	陶土	陶	2.20	150	窓水道管	新	18世紀前
650	56.1-268号+灰	陶土	陶土	陶	2.30	220	窓水道管	古	
651	56.2-268号+灰	陶土	陶土	陶	2.30	220	窓水道管	古	18世紀前
652	56.3-268号+灰	陶土	陶土	陶	2.50	180	窓水道管	古	18世紀前
653	56.4-268号+灰	陶土	陶土	陶	2.30	200	窓水道管	新	17世紀後
655	56.1-269号+灰	陶土	陶土	陶	2.50	250	窓水道管	新	17世紀後
656	56.2-269号+灰	陶土	陶土	陶	2.40	220	窓水道管	新	18世紀前
657	56.3-269号+灰	陶土	陶土	陶	2.50	280	窓水道管	古	17世紀前
658	56.4-269号+灰	陶土	陶土	陶	2.40	250	窓水道管	古	17世紀前
659	56.5-269号+灰	陶土	陶土	陶	2.40	170	窓水道管	新	17世紀後
660	56.6-269号+灰	陶土	陶土	陶	2.25	900	窓水道管	新?	
661	56.7-269号+灰	陶土	陶土	陶	-	700	窓水道管	新	17世紀後

編號	登録番号	出土場所	断面	木材	径 (cm)	重量 (kg)	種別	初期急速化	その他
602	571 270号+真	匣土	鉢	2.45	2.70	寛永油漆	新	17世紀後	
663	581 271号+真	匣土	鉢	2.40	1.90	寛永油漆	古	17世紀前	
664	582 271号+真	匣土	鉢	2.15	2.30	寛永油漆	新	17世紀後	
665	583 271号+真	匣土	鉢	2.50	2.20	寛永油漆	新	17世紀後	
666	584 271号+真	匣土	鉢	2.40	2.10	寛永油漆	古	17世紀前	
667	585 271号+真	匣土	鉢	2.30	2.00	寛永油漆	古?	17世紀後	
668	586 271号+真	匣土	鉢	2.40	2.00	寛永油漆	古	17世紀前	
669	587 271号+真	匣土	鉢	2.50	1.80	寛永油漆	古	17世紀前	
670	61.1 272号+真	匣土	鉢	2.30	2.30	寛永油漆	古	17世紀中	
671	61.2 272号+真	匣土	鉢	2.35	1.90	寛永油漆	古	17世紀後	
672	61.3 272号+真	匣土	鉢	2.40	1.20	寛永油漆	新	17世紀後	
673	63.1 273号+真	匣土	鉢	2.40	2.10	寛永油漆	古	17世紀前	
676	64.1 274号+真	匣土	鉢	2.50	2.00	寛永油漆	新	17世紀後	
677	64.2 274号+真	匣土	鉢	2.40	2.00	寛永油漆	古?	11世紀前	
678	64.3 274号+真	匣土	鉢	2.25	1.80	寛永油漆	古? 新?	17世紀前	
680	66.1 275号+真	匣土	鉢	2.50	2.20	寛永油漆	新	17世紀後	
681	66.2 275号+真	匣土	鉢	2.50	2.50	寛永油漆	新	17世紀後	
682	66.3 275号+真	匣土	鉢	2.45	2.10	寛永油漆	新	17世紀後	
683	66.4 275号+真	匣土	鉢	2.25	1.60	寛永油漆	新	17世紀後	
684	67.1 276号+真	匣土	鉢	2.40	2.90	寛永油漆	新	18世紀前	
685	67.2 276号+真	匣土	鉢	2.25	1.70	寛永油漆	新	18世紀前	
686	67.3 276号+真	匣土	鉢	2.20	1.70	寛永油漆	新	18世紀前	
687	67.4 276号+真	匣土	鉢	2.25	2.20	寛永油漆	新	18世紀前	
688	67.5 276号+真	匣土	鉢	2.25	0.90	寛永油漆	新	18世紀前	
691	68.1 277号+真	匣土	鉢	2.30	2.90	寛永油漆	新	18世紀前	
692	69.2 277号+真	匣土	鉢	2.30	2.50	寛永油漆	新	18世紀前	
693	69.3 277号+真	匣土	鉢	2.30	2.20	寛永油漆	新	17世紀後	
694	69.4 277号+真	匣土	鉢	2.40	3.30	寛永油漆	古	17世紀前	
695	69.5 277号+真	匣土	鉢	2.20	1.90	寛永油漆	新	18世紀前	
696	69.6 277号+真	匣土	鉢	2.35	2.50	寛永油漆	古?	18世紀前	
697	69.7 277号+真	匣土	鉢	2.35	2.80	寛永油漆	古?	18世紀前	
698	69.8 277号+真	匣土	鉢	2.40	3.90	寛永油漆	古?	18世紀前	
699	69.9 277号+真	匣土	鉢	2.30	3.30	寛永油漆	古?	17世紀後	
700	69.10 277号+真	匣土	鉢	2.30	2.90	寛永油漆	古?	17世紀後	
701	69.11 277号+真	匣土	鉢	2.25	2.40	寛永油漆	古?	17世紀後	
702	69.12 277号+真	匣土	鉢	2.15	2.10	寛永油漆	古?	17世紀後	
703	69.13 277号+真	匣土	鉢	2.20	2.20	寛永油漆	古?	17世紀後	
704	69.14 277号+真	匣土	鉢	2.30	2.00	寛永油漆	新	18世紀前	
705	69.15 277号+真	匣土	鉢	2.40	3.20	寛永油漆	古?	17世紀後	
706	69.16 277号+真	匣土	鉢	2.40	2.40	寛永油漆	新	17世紀後	
707	69.17 277号+真	匣土	鉢	2.40	2.60	寛永油漆	新	18世紀前	

埋蔵 番号	金種	出土場所	層位	素材	径 (cm)	重量 (g)	種別	初期造営年代
708	69.8	277号土坑	地上	銅	2.95	150	鏡水道鏡	新 18世紀前
709	69.19	277号土坑	地上	銅	2.25	230	鏡水道鏡	?
710	69.21	277号土坑	出土	銅	2.20	1.40	鏡水道鏡	古? 新?
711	71.4	284号土坑	地上	銅	2.20	1.20	鏡水道鏡	古? 新?
715	71.75	282号土坑	地上	銅	2.10	1.20	十枚	?
717	73.1	283号土坑	地上	銅	2.20	3.50	一枚	人正〇年 正十二年
718	73.2	283号土坑	地上	銅	2.05	3.60	一枚	貞和十七年 和和八年
719	73.3	283号土坑	出土	銅	2.10	1.10	十枚	?
720	73.4	283号土坑	出土	アルミニウム	1.55	6.00	一枚	和和十八年 元和十〇年
721	75.5	283号土坑	地上	アルミニウム	1.55	0.60	一枚	弘治十六年 嘉慶十九年
722	76.6	283号土坑	出土	アルミニウム	1.55	0.60	一枚	?
724	76.1	284号土坑	出土	銅	2.30	1.60	鏡水道鏡	古?
725	76.2	284号土坑	出土	銅	2.25	2.80	鏡水道鏡	古? 新?
726	76.3	284号土坑	出土	銅	2.30	2.30	鏡水道鏡	新 17世紀後
727	76.4	284号土坑	出土	銅	2.50	2.60	鏡水道鏡	古? 新?
728	76.5	284号土坑	出土	銅	2.15	2.90	鏡水道鏡	17世紀後
729	76.6	284号土坑	出土	銅	2.50	2.80	鏡水道鏡	新 17世紀後
730	76.7	284号土坑	出土	銅	2.25	1.60	鏡水道鏡	古?
731	76.8	284号土坑	出土	銅	2.50	1.40	鏡水道鏡	古?
732	76.9	284号土坑	出土	銅	2.25	1.40	?	17世紀後
733	78.1	296号土坑	地上	赤銅	1.80	2.40	50枚	昭和 1~7年 明治七年
735	80.1	287号土坑	地上	銅	2.70	6.00	一枚	?
736	80.2	287号土坑	出土	銅	2.70	6.60	一枚	?
737	80.3	287号土坑	出土	銅	2.70	5.90	一枚	?
738	80.4	287号土坑	出土	銅	2.70	5.70	一枚	?
739	80.5	287号土坑	出土	銅	2.10	2.80	一枚	?
740	81.4	290号土坑	出土	銅	2.75	6.40	一枚	?
741	81.8	290号土坑	出土	銅	2.20	3.30	一枚	?
742	84.3	240号土坑	出土	銅	2.30	3.60	一枚	人正九年 人正九年
743	84.4	230号土坑	出土	銅	2.30	3.40	一枚	大正九年 大正九年
744	84.5	230号土坑	出土	銅	2.20	3.20	一枚	人正九年 人正九年
745	84.6	230号土坑	出土	銅	2.25	3.70	一枚	人正九年 人正九年
746	84.7	230号土坑	出土	銅	2.25	3.50	一枚	大正七年 大正七年
747	84.8	230号土坑	出土	銅	2.25	3.80	一枚	?
748	84.9	230号土坑	出土	銅	2.20	3.70	一枚	大正七年 大正七年
749	84.10	230号土坑	出土	銅	2.25	3.10	一枚	大正一年 ?
750	84.11	230号土坑	出土	銅	2.20	3.60	一枚	明治二年 明治二年
751	85.1	291号土坑	出土	銅	2.75	6.00	一枚	明治八年 明治八年
752	85.2	291号土坑	出土	銅	2.70	5.90	一枚	?
753	85.3	291号土坑	出土	銅	2.15	3.10	一枚	明治二年 ?

地番	駅名	出土地点	層位	素材	径 (mm)	重量 (g)	焼削	初燃時代	その他
番号									
754	85.4 29号土坑	埋土	鉄	2.15	260	平?			
755	85.5 29号土坑	埋土	鉄	2.15	300	平? 鋼		明治〇年 昭和中期生	
756	85.6 29号土坑	埋土	鉄	2.40	260	電水道管	新	18世紀後	
757	85.7 29号土坑	埋土	鉄	2.30	270	電水道管	古?	17世紀前	
758	85.8 29号土坑	埋土	鉄	2.40	250	電水道管	古?	17世紀前	
759	85.9 29号土坑	埋土	鉄	2.40	320	電水道管	新	16世紀前	
760	85.10 29号土坑	埋土	鉄	2.40	220	電水道管	新?		
761	85.11 29号土坑	埋土	鉄	2.30	220	電水道管	新?		
762	85.12 29号土坑	埋土	鉄	2.30	160	電水道管	新	18世紀前	
763	85.13 29号土坑	埋土	鉄	2.30	310	電水道管	新	18世紀前	
764	85.14 29号土坑	埋土	鉄	2.40	190	電水道管	新	18世紀前	
765	85.15 29号土坑	埋土	鉄	2.25	210	電水道管	新	18世紀前	
766	85.16 29号土坑	埋土	鉄	2.30	190	電水道管	新	18世紀前	
767	85.17 29号土坑	埋土	鉄	2.40	220	電水道管	新	18世紀前	
768	85.18 29号土坑	埋土	鉄	2.30	230	電水道管	古?	17世紀中	
769	85.19 29号土坑	埋土	鉄	2.30	230	電水道管	古?		
770	85.20 29号土坑	埋土	鉄	2.30	260	電水道管	新?		
771	85.21 29号土坑	埋土	鉄	2.30	190	電水道管	古? 新?		
772	85.22 29号土坑	埋土	鉄	2.25	290	電水道管	新	17世紀後	
773	85.23 29号土坑	埋土	鉄	2.30	320	電水道管	新	18世紀前	
774	85.24 29号土坑	埋土	鉄	2.25	200	電水道管	新	18世紀前	
775	85.25 29号土坑	埋土	鉄	2.35	210	電水道管	新	18世紀前	
776	85.26 29号土坑	埋土	鉄	2.10	210	電水道管	新	18世紀前	
777	85.27 29号土坑	埋土	鉄	2.20	220	電水道管	新	18世紀前	
778	85.28 29号土坑	埋土	鉄	2.15	150	電水道管	古? 新?		
779	85.29 29号土坑	埋土	鉄	2.30	260	電水道管	新	18世紀前	
780	85.30 29号土坑	埋土	鉄	2.40	240	電水道管	古?	17世紀中	
781	85.31 29号土坑	埋土	鉄	2.30	200	電水道管	新	18世紀前	
782	85.32 29号土坑	埋土	鉄	2.20	180	電水道管	新	17世紀後	
783	85.33 29号土坑	埋土	鉄	2.40	240	電水道管	古?	17世紀中	
784	85.34 29号土坑	埋土	鉄	2.30	170	電水道管	古?	17世紀中	
785	外-1 道床外		鉄	2.35	340	電水道管	古?	17世紀中	
786	外-2 道床外		鉄	2.40	320	電水道管	新	17世紀後	
787	外-3 道床外		鉄	2.30	230	電水道管	新	18世紀前	
788	外-4 道床外		鉄	2.35	150	電水道管	古?	17世紀中	
789	外-5 道床外		鉄	2.20	110	電水道管	古? 新?		
790	外-6 道床外		鉄	2.40	290	電水道管	古?	17世紀前	
791	外-7 道床外		鉄	2.15	290				

第15表 平成20年度出土遺物観察表(陶磁器)

遺物登録番号	出土場所	層位	材質	形状	部位	口径(cm)	落高(cm)	底径(cm)	重量(g)	内外面(釉面・素面)	产地	年代	その他
403	45・23号土坑	埋土	陶器	罐	底部	-	(2.0)	5.0	12.3		肥前	18世紀	
515	56・25号土坑	埋土	陶器	小口壺	口～底部	6.5	4.5	3.8	67.6	单(文)	肥前	17世紀中	
541	58・25号土坑	埋土	陶器	瓶	口～底部	5.2	2.8	3.4	28.5	内面に6種類 把手2孔	大垣信馬	18世紀前半	

第16表 平成20年度出土遺物観察表(漆器)

遺物登録番号	旧蔵者名	新蔵者名	層位	性状	深さ	直径(cm)	底径(cm)	重量(g)	外装等	分類	時間	残存率	
360	14号土坑	225号土坑	埋土	漆器	刷毛形	a (8.0)	a (1.5)	a (1.5)	11.60		N	18世紀以降	100%
368	2号土坑	228号土坑	埋土	漆器	刷毛形	b (10.5)	b (0.9)	b (0.9)	6.10	金糸縫合	N?	18世紀以降?	50%
372	3号土坑	230号土坑	埋土	漆器	刷毛形	a (8.15)	a (1.75)	a (1.75)	15.30	赤口子領(紹和)	V	19世紀以降	100%
373	4・13号土坑	231号土坑	埋土	漆器	刷毛形	a (6.50)	a (1.60)	a (1.60)	13.10		W	18世紀以降	100%
395	5号土坑	233号土坑	埋土	漆器	刷毛形	b (6.7)	b (1.30)	b (1.30)	13.10		W	18世紀以降	100%
404	7・16号土坑	234号土坑	埋土	漆器	刷毛形	a (7.15)	a (1.80)	a (1.80)	19.80	全体にAめ 屋根に黒い模	W? 木合?	18世紀以降	100%
405	6・16号土坑	231号土坑	埋土	漆器	刷毛形	b (7.65)	b (1.60)	b (1.60)	13.80	火薙から黒返しの漆塗り	N	18世紀以降	100%
406	8・16号土坑	234号土坑	埋土	漆器	刷毛形	b (6.90)	b (1.30)	b (1.30)	11.30		N	18世紀以降	100%
417	9・15号土坑	236号土坑	埋土	漆器	刷毛形	b (7.60)	b (1.20)	b (1.20)	13.20	小口切妻大底	N?	18世紀以降?	50%
435	10・19号土坑	233号土坑	埋土	漆器	刷毛形	a (5.05)	a (1.80)	a (1.80)	7.50	圓器取	N?	18世紀以降?	65%
429	11・20号土坑	238号土坑	埋土	漆器	刷毛形	b (7.10)	b (1.25)	b (1.25)	11.90	圓器取	N	18世紀以降	80%
433	12・21号土坑	239号土坑	埋土	漆器	刷毛形	a (4.20)	a (1.70)	a (1.70)	11.10	圓器取	N?	19世紀以降?	100%
448	13・25号土坑	241号土坑	埋土	漆器	刷毛形	a (6.35)	a (1.30)	a (1.30)	6.30		N?	18世紀以降?	70%
451	14・24号土坑	242号土坑	埋土	漆器	刷毛形	b (6.90)	b (0.90)	b (0.90)	8.00	圓器 壁面に光面の刷毛	N?	18世紀以降?	80%
459	15・22号土坑	243号土坑	埋土	漆器	刷毛形	b (5.20)	b (1.10)	b (1.10)	5.30	大底穴開	N?	18世紀以降?	70%
484	16・28号土坑	246号土坑	埋土	漆器	刷毛形	a (6.60)	a (1.65)	a (1.65)	12.40		N	18世紀以降	65%

監督	監督番号	出港船名	係船系名	船位	種類	船籍	基点	航長(m)	航速(m/s)	航向(度)	航時(分)	時間	発着率	
菅原	497	17 29号土丸	267号土丸	沖上	漁船	定期	a (370)	a 1.50	a 1.20	8.90	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	507	18 31号土丸	248号土丸	沖上	漁船	定期	b (470)	b 1.20	b 1.20	8.90	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	514	19 34号土丸	250号土丸	沖上	漁船	不定形	a (550)	a 1.00	a (180)	a 1.50	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	522	20 35号土丸	251号土丸	沖上	漁船	不定形	b (560)	a 1.50	b (80)	b 1.00	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	555	21 38号土丸	255号土丸	沖上	漁船	不定形	b (600)	b 1.00	b 0.90	11.20	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	557	22 39号土丸	256号土丸	沖上	漁船	不定形	a (410)	a 1.20	a 1.10	8.40	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	V	19時迄以降	100%
菅原	569	23 41号土丸	257号土丸	沖上	漁船	不定形	b (670)	b 1.20	b 1.20	8.40	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	V	19時迄以降	100%
菅原	603	24 42号土丸	258号土丸	沖上	漁船	不定形	a (590)	a 1.00	a (160)	a 1.00	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	V	19時迄以降	100%
菅原	627	25 45号土丸	265号土丸	沖上	漁船	不定形	a (420)	a 1.10	a 1.00	2.60	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	V	19時迄以降	100%
菅原	645	26 53号土丸	266号土丸	沖上	漁船	不定形	b (280)	b 0.80	b 0.70	2.60	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	V	19時迄以降	100%
菅原	646	27 53号土丸	268号土丸	沖上	漁船	不定形	a (460)	a 1.10	a 1.00	8.60	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	654	27 56号土丸	269号土丸	沖上	漁船	不定形	b (860)	b 1.00	b 0.90	1.30	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	674	28 64号土丸	270号土丸	沖上	漁船	不定形	a (590)	a 1.50	a 1.00	1.70	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	675	29 64号土丸	271号土丸	沖上	漁船	不定形	b (730)	b 1.00	b 1.00	11.30	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	679	30 66号土丸	275号土丸	沖上	漁船	不定形	b (230)	b 1.00	b 1.00	5.50	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	689	31 69号土丸	277号土丸	沖上	漁船	不定形	a (590)	a 1.40	a 0.80	11.90	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	V	19時迄以降	100%
菅原	690	32 69号土丸	277号土丸	沖上	漁船	不定形	a (630)	a 1.80	a 1.00	6.60	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	712	33 70号土丸	278号土丸	沖上	漁船	不定形	a (440)	a 1.50	a 1.70	3.30	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	713	34 72号土丸	281号土丸	沖上	漁船	不定形	b (290)	b 0.75	b 0.60	12.80	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	723	35 76号土丸	284号土丸	沖上	漁船	不定形	a (730)	a 1.20	a 1.20	5.40	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	IV	18時迄以降	100%
菅原	734	36 80号土丸	287号土丸	沖上	漁船	不定形	b (930)	b 1.10	b 1.10	28.40	北西～東北と北東偏に北西、 東北と北東偏に北西、 北東偏に北東	V	19時迄以降	100%

第7表 平成20年度出土遺物觀察表（金属製品）

備考	分類	品名	旧通称名	資源地名	種別	形状	長さ(cm)	横幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)	特徴等	分類	時間	その他
361	37号上坑	225号土坑	土	小柄	直・彎?	鉢	(66)	1.59	0.59	2970				
371	38号上坑	231号土坑	土	壺	直	鉢	(65)	2.59	0.59	1410				
375	39号上坑	231号土坑	土	壺	直	鉢	(6.39)	0.58	0.89	8.29				
376	40号上坑	231号土坑	土	壺	直	鉢	17.50	2.15	0.69	26.60				
377	44号上坑	231号土坑	土	壺	直	鉢	2.50	0.49	0.71	11.10				
378	43号上坑	231号土坑	土	壺	直	鉢	3.10	0.79	1.00	37.50				
379	41号上坑	231号土坑	土	壺	直	鉢	(6.19)	1.29	0.69	5.00				
380	40号上坑	231号土坑	土	壺	直	鉢	(6.69)	1.80	0.69	7.30	体積の2.4倍合?			
388	72号上坑	231号土坑	土	壺	直	鉢	12.00	7.00	0.12	28.30				
424	73号上坑	236号土坑	土	壺	直	鉢	11.15	6.45	0.20	49.80				
449	46号土坑	241号土坑	土	壺	直	鉢	(10.89)	1.90	0.31	12.29				
460	36号土坑	243号土坑	土	壺	直	鉢	(6.59)	1.90	0.31	4.70				
461	49号土坑	243号土坑	土	壺	直	鉢	(6.70)	2.20	0.39	5.00				
466	74号上坑	243号土坑	土	壺	直	鉢	8.20	5.15	0.39	28.80	方形			
473	51号土坑	245号土坑	土	壺	直	鉢	(6.39)	1.60	0.41	6.10				
474	52号土坑	245号土坑	土	壺	直	鉢	(4.45)	1.49	0.33	3.30				
475	53号土坑	245号土坑	土	壺	直	鉢	(6.26)	1.09	0.40	16.00				
498	51号土坑	247号土坑	土	壺	直	鉢	(6.29)	2.70	0.69	23.60	7孔一面所			
506	75号土坑	247号土坑	土	壺	直	鉢	8.85	8.80	0.45	99.80				
523	57号土坑	251号土坑	土	壺	直	鉢	2.55	6.80	0.80	10.80				
539	76号土坑	252号土坑	土	壺	直	鉢	12.45	7.25	0.25	43.90				
542	60号土坑	254号土坑	土	壺	直	鉢	(6.26)	0.38	0.20	1.80				
556	59号土坑	255号土坑	土	壺	直	鉢	3.39	3.60	1.25	8.10				
558	63号土坑	256号土坑	土	壺	直	鉢	(43.39)	0.90	0.39	7.60				
560	61号土坑	256号土坑	土	壺	直	鉢	(41.59)	1.90	0.20	8.80	H小2付			
561	64号土坑	256号土坑	土	壺	直	鉢	(40.89)	0.90	0.20	3.60				
562	62号土坑	256号土坑	土	壺	直	鉢	(6.49)	0.30	0.30	4.10	(弓削を?)			
558	65号土坑	256号土坑	土	壺	直	鉢	(47.80)	1.05	1.00	9.50	中央欠損			
590	66号土坑	257号土坑	土	壺	直	鉢	(7.49)	(4.45)	(0.59)	13.70				
610	70号土坑	261号土坑	土	壺	直	鉢	15.00	1.10	0.20	9.10				
618	68号土坑	267号土坑	土	壺	直	鉢	(11.85)	1.85	0.55	14.30				
640	69号土坑	267号土坑	土	壺	直	鉢	(6.48)	1.40	0.20	1.80				

第18表 平成20年度出土遺物観察表（木製品）

測定 番号	目録番号	出土場所	種類	断面	直径 (cm)	木村	直径 (cm)	輪郭 (cm)	最厚 (cm)	重量 (g)	分類	年期	その他
462	48-25号土坑	243号土坑 廻十	圓	木	2.60	14.80	0.50	1.80					
492	55-29号土坑	247号土坑 廻上	扁	木	4.98	6.00	0.50	3.30					

第19表 平成20年度出土遺物観察表（石製品・その他）

測定 番号	目録番号	出土場所	種類	断面	鷹形	馬頭形	木村	直径 (cm)	輪郭 (cm)	最厚 (cm)	重量(g)	石質	産地	時代	備考
652	47-24号土坑	新造古谷	灰土	亂		鷹形		14.90	6.40	1.70	262.10				
616	67-49号土坑	262号土坑	廻土	骨石?		元形		2.9	2.80	1.10	12.40				
716	71-75号土坑	283号土坑	廻土	骨	元形	元形		15.00	1.10	0.20	9.10				
*					他形	劍形		9.15	2.05	0.60	11.40	JP霞色岩	奥羽山脈	新代萬葉三紀	

V 自然科学的分析

1 はじめに

東北地方岩手県域には、岩手、秋田駒ヶ岳、焼石、栗駒、鳴子、鬼首、尉折、十和田など岩手県域とその周辺の火山のほか、洞爺、阿蘇、姶良など北海道や九州など遠方の火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な土層やテフラが認められた奥州市胆沢区坪潤町遺跡においても、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、火山ガラスの屈折率測定を加えたテフラ組成分析を行って指標テフラの検出同定を実施し、遺跡の土層の層位や年代に関する資料を収集することになった。測定分析の対象となった試料は、試料1と試料2の2点（表1）である。

2 テフラ組成分析

（1）分析方法

分析対象となった2試料について、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を実施して、試料に含まれる火山ガラスの形態色別組成や、重鉱物の組み合わせについて調べた。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料1について7g、試料2について11gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で試料を観察。
- 5) 分析籠により1/4 ~ 1/8mmの粒子を篩別。
- 6) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別比率を求める（火山ガラス比分析）。
- 7) 偏光顕微鏡下で重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を求める（重鉱物組成分析）。

（2）分析結果

テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして図1に、火山ガラス比と重鉱物組成の内訳を表2と表3に示す。ここでは、いずれの試料からも火山ガラスを検出できた。試料1には、少量の火山ガラスが含まれている（3.2%）。火山ガラスは、比率が高い順に纖維束状に発泡した軽石型（1.6%）、スボンジ状に発泡した軽石型（1.2%）、分厚い中間型（0.4%）である。火山ガラス比分析の際に認められた火山ガラスは、無色透明あるいは白色であった。重鉱物としては、比率が高い順に斜方輝石（49.2%）、单斜輝石（20.0%）、磁鐵鉱（15.6%）が認められる。

試料2には比較的多くの火山ガラスが含まれている（33.2%）。火山ガラスは、量が多い順に纖維束状に発泡した軽石型（15.6%）、スボンジ状に発泡した軽石型（15.2%）、中間型（0.8%）、透明のバブル型（1.6%）である。火山ガラスの色調としては、白色や無色透明それにごくわずかに褐色の中間型ガラスも認められる。重鉱物としては、比率が高い順に斜方輝石（37.6%）、磁鐵鉱（31.2%）、单斜輝石（15.2%）が認められる。

3 火山ガラスの屈折率測定

(1) 測 定 方 法

テフラ組成分析では、火山ガラスの色調形態別比率や重鉱物組成上の特徴を把握することはできるが、よほどそれらに特徴があるテフラでない限り、起源を明確にすることは困難である。実際、日本列島とその周辺における主要な指標テフラの年代や分布さらに岩石記載的な特徴を明らかにしたテフラ・カタログ（町田・新井, 1992, 2003）では、指標テフラとの同定精度の向上のために、火山ガラスや鉱物の屈折率や、データは多くないものの火山ガラスの主成分化学組成などが掲載されている。

そこで、今回は2試料に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製MAIOT）により、屈折率（n）の測定を合わせて実施した。

(2) 測 定 結 果

試料1に含まれる火山ガラス（32粒子）の屈折率（n）は、1.497（3粒子）、1.499-1.501（5粒子）、1.510-1.514（24粒子）で、trimodalであった。一方、試料2に含まれる火山ガラス（31粒子）の屈折率（n）はほぼ同一rangeに入り、その値は1.496-1.502であった。

4 考 察

分析対象のうち、試料2については、送付された写真を見る限り、比較的純度が高い試料のようで、これはテフラ組成分析の結果からも指示されよう。実際には、現地における分析者による土層断面観察が必要ではあるが、軽石型ガラスに富む火山ガラスの形態別組成、両輝石（斜方輝石および単斜輝石）に富む重鉱物組成、そして火山ガラスの屈折率などを合わせて考慮すると、試料2に含まれるテフラ粒子については、915年に噴出したと考えられている十和田aテフラ（To-a, 大池, 1972, 町田ほか, 1981, 町田・新井, 1992, 2003）に由来すると考えられる。したがって、試料2が採取された土層については、To-aの可能性が考えられよう。このことから、北側調査区106号土坑はTo-aより下位にある可能性が高いと推定される。

一方、屈折率特性がtrimodalな試料1に含まれるテフラ粒子については、火山ガラスの比率も高くないことを合わせると、複数のテフラに由来するものと思われる。火山ガラスの形態や屈折率などから、起源として考えられるテフラとしては、胆沢扇状地周辺におけるテフラの調査成果などから（早田, 1989, 未公表資料, 渡辺, 1996など）、後期更新世以降のテフラだけでも、起源の候補として、鳴子湯沼上原テフラ（Nr-KU, 約1～2万年前¹, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003, n: 1.492-1.500）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP, n: 1.501-1.505, 約1.3～1.4万年前¹, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003）およびそれに関係するテフラ、肘折尾花沢テフラ（Hj-O, 約1.1～1.2万年前¹, n: 1.499-1.504, 米地・菊池, 1966, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003）、十和田中源テフラ（To-Cu, 約5,500年前¹, n: 1.508-1.512, 大池ほか, 1966, 早川, 1983, 町田・新井, 1992, 2003）、To-aなどがあげられる。

それらの中で、試料1にもっとも多く含まれる火山ガラス（n: 1.510-1.514）については、To-Cuに由来する可能性が高いようにも思える。そうすれば、試料1については、To-Cu降灰後に形成された土層から採取されたことになる。ただ、現段階での信頼度の高い同定は困難なことから、今後さらに信頼度の高いEPMAを利用した火山ガラスの主成分化学組成分析などにより、同定精度の向上が図られることが期待される。

5 まとめ

奥州市胆沢区坪測Ⅱ遺跡で採取された2試料を対象に、テフラ組成分析を行った。その結果、十和田a火山灰(To-a, 915年) のほか、さまざまなテフラに由来する可能性のある火山ガラスが検出された。

¹⁾ 放射性炭素(¹⁴C)年代、As-YPとTo-Cuの曆年校正年代については、約1.5～1.65万年前および約6,000年前と考えられている(町田・新井, 2003)。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部の第四紀編年、群馬大学紀要自然科学編、10, p.1-79.
- 福田友之(1986)考古学からみた「中瀬軽石」の層年代、弘前大学考古学研究、3, p.4-15.
- 早川山紀夫(1983)十和田火山中揮テフラ層の分布、粒度組成、年代、火山、第2集、28, p.263-273.
- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰—姶良Tn火山灰の発見とその意義一、科学、46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス、東京大学出版会、276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス、東京大学出版会、336p.
- 大池昭二(1972)十和田火山東麓における完新世テフラの羅年、第四紀研究、11, p.232-233.
- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之(1966)馬瀬川中・下流沿岸の段丘と火山灰、第四紀 研究、5, p.29-35.
- 早田 勉(1989)テフラクロノロジーによる前期旧石器時代遺物包含層の検討、第四紀研究、28, p.269-282.
- 波辺廣久(1996)胆沢台地の広域テフラ、日本第四紀学会編「第四紀露頭集—日本のテフラ」, p.45.
- 米地文夫・菊池強一(1966)尾花沢軽石について、東北地理、18, p.23-27.

表1 テフラ分析試料採取地点

分析試料	採取地点
試料1	北側調査区最西端
試料2	北側調査区106号土坑ベルト

表2 火山ガラス比分析結果

試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	その他	合計
1	0	0	0	1	3	4	242	250
2	4	0	0	2	38	39	167	250

数字は粒子数。bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状。

表3 重鉱物組成分析

試料	ol	opx	cpx	ho	bi	mt	その他	合計
1	0	123	50	0	0	39	38	250
2	0	94	38	0	0	78	40	250

数字は粒子数。ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 角閃石, bi: 雲母, mt: 磁鐵鉱。

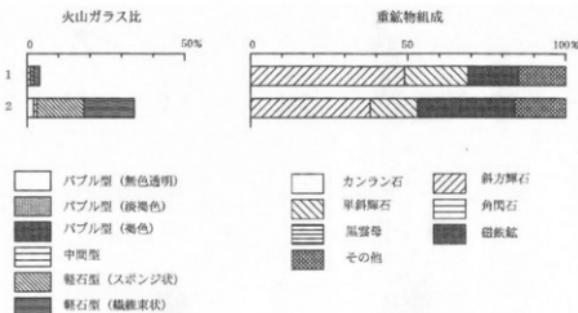


図1 坪測II遺跡のテフラ組成ダイヤグラム

VII まとめ

1 縄文時代の遺構について

平成19年度調査では、竪穴住居跡が2棟検出されている。1棟は縄文時代後期中葉、もう1棟は縄文時代晚期後葉である。今回確認された縄文時代の遺構の配置を見てみると、北側調査区の北側境に検出された後者の竪穴住居跡を境に、東側斜面では縄文時代晚期の遺構が、西側斜面では縄文時代後期の遺構が広がる様相が窺える。北側調査区中腹から現道を含む調査区中央部は、近・現代まで生活が営まれた場所で、その際の造成等のためか、縄文時代の遺構がほとんど確認されない。

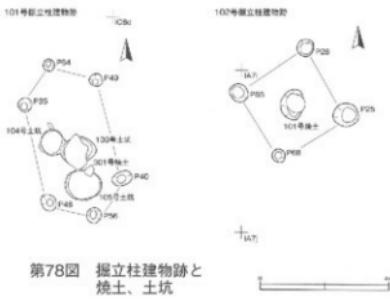
次に縄文時代中・後期を中心として検出される掘立柱建物跡についてであるが、本遺跡でも第78図に示したように北側調査区と南側調査区からそれぞれ1棟ずつ、計2棟確認された。前者では4本柱（102号掘立柱建物跡）のものが、後者では亀甲型の6本柱（101号掘立柱建物跡）のものが検出され、それぞれ柱穴から出土した遺物から縄文時代後期に位置づけた。この2棟の建物跡には、いずれも中央付近に焼土が確認されているが、次に両者の関連について見てみる。

北上市の上川岸Ⅱ遺跡では、6本柱（長方形）で構成された掘立柱建物跡と同一の検出面で、ほぼ中央に土坑が検出されているが、どちらの遺構からも縄文時代後期の遺物が出土し、これらは別々の遺構として報告されている。この上川岸Ⅱ遺跡の例もそうであるが、縄文時代の掘立柱建物跡の中央部に何らかの付属施設をもつような報告はない。

今回、遺構の重複が少ない中で2棟の掘立柱建物跡に、いずれもそれに伴うような焼土が確認されたことは、もしそれが事実であれば縄文時代の掘立柱建物跡の性格を再検討すべき問題となろう。

2 「寺屋敷」と時期不明掘立柱建物跡について

「坪潤」という遺跡名ではあるが、この名称は元々坪潤Ⅰ遺跡付近の低湿地のことを呼んだ地名のようである。現在の字名にも見られるように、この付近は「追分」と呼ばれ、江戸時代に十数軒あった下嵐江屋敷の東半分を示す字名「東下嵐江」に対し、西半分を指した字名である。「旧仙北街道の野がしらにある追分石（道標一仙北街道と下嵐江金山との分岐点を指すもの）にちなんだ（「胆沢町地名・屋号調査報告書」胆沢町教委）、ともされている。下嵐江屋敷は、旧仙北街道の岩手側の山麓最後の集落であり、「東下嵐江」から「追分」を過ぎ、ここから本格的な山道となる。現下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡から坪潤Ⅱ遺跡まではそうした藩境の重要地点であった。藩政時代から下嵐江屋敷と引っ包めて呼ばれている中で、別の呼び名で「寺屋敷」ということばが文献等に出てくるが、このことば（地名）は、追分（坪潤）に住んだことのある方によると、追分全体ではなくとも畠地だった周辺（今回の調査区付近）をあらわしたものらしい。屋敷といつても「寺があった所」の意味のようで、『安永風土記』（若柳村安永五年風土記御用書出）に見られる「龍澤寺跡」と考えられている。元々金山のあつ



第78図 掘立柱建物跡と
焼土、土坑

た渋民沢付近にあったものが、「異教徒（キリストン）に利用されることを逃れてこの地に移った（「水沢市史」）」「鉱山が衰えてから下嵐江部落にうつり政府から潰された（「胆沢町史 中世編」）」など謂がある。下記のように『安永風土記』が書かれた18世紀後半ごろには既に畠地になっていたようで、いつ移ったのかも不明である。

一 明藏山龍澤寺之跡

當郡永徳寺村曹洞宗報恩山永徳寺之由御座候處退轉仕當時ハ寺跡斗相殘中候
右退轉之年月相知不申候當時畠ニ罷成居候事 『安永風土記』より

今回の調査はこれらの伝承も踏まえて行ったが、掘立柱建物跡が検出されたものの、寺跡とみられるような建物跡にはならなかった。

3 近世以降の墓壙について

今回2カ年の調査によって、近世から近代にかけての墓壙が多数確認され、その数は90基を上回った。これらの詳細は次の第20表に示したとおりだが、ここではこれまで県内で報告された近世墓壙の調査成果を2例挙げ、さらに本遺跡での墓壙群の内容について述べる。

当センターが平成6年度に調査した北上市岩脇遺跡では、近世墓壙の平面形状と年代について「長方形から方形へ」という傾向を示し、その変化は江戸時代中期の18世紀前半から始まるとした。方形のものは、座棺が埋められるために深さがあることや、他遺跡での長方形墓壙の年代観がその根拠として挙げられている。同じく、平成15年度以降数年にわたり調査が行われた一関市川崎町河崎の攝羅定地では、220基を超える近世墓が確認され平面形を6種に分類している。それによると、およそ半数の90基が橢円形をなすもので、次に円形50基、方形34基となり、長方形のものは11基と最も少ない。ここでも改葬されたものは平面形が不整形をなしているという。これらの年代は、17世紀～19世紀末までと年代幅がある。

一方、坪潤Ⅱ遺跡の墓壙の埋葬時刻は、出土した副葬銭の年代から17世紀中葉～昭和期という結果となった。平面形は、長方形・橢円形・方形・円形の概ね4種が確認できたが、改葬されて本来の形状をとどめていないと思われるものも多い。数少ない重複関係から判断して、「長方形→方形」という傾向は本遺跡でも認められ、また方形の墓壙が深いことも確かめられた。形状から見れば、大まかに近世墓は長方形主体、明治以降近代の墓は方形が主体と言えよう。本遺跡における遺構の内容は、北上市岩脇遺跡のその傾向に似ているが、遺物に目を向けると埋葬銭のひとつである鉄銭の埋葬量の違いや、岩脇遺跡で多く認められる「仙臺通寶」が全く出土していないなど、両者には地域的あるいは年代的な差異が存在するものと思われる。

最後に、今回副葬銭に「至道元寶」「元豐通寶」などの北宋銭が含まれていた墓壙が5基（203号・211号・212号・228号・274号土坑）あったが、いずれも寛永通寶とともに出土しており、埋葬された年代がそこまで遡るものではない。また、この周辺に廃棄されていた墓石であるが全部で13基確認された。これらに記された年号をみると、年代は18世紀前半（1719年）～20世紀初頭（1901年）と判断でき、検出された墓壙群の中のいずれかに据えられていたものと考えられる。繰り返しになるが、いずれも改葬時にまとめて放置されたものであろう。

（木戸口・濱田）

第20表 基礎眼察表

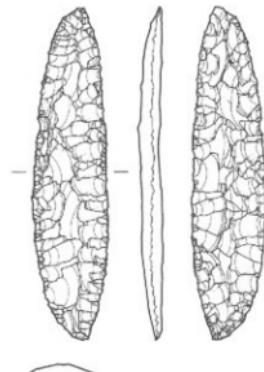
品番	通称名	種類	平面形	側面 （mm）	深さ （mm）	眼十進物						人骨（頭皮）	
						頭骨	骨	筋	脂肪	脂肪	筋膜	筋	
201号	基盤	基盤	真方形	55×125	45	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
202号	基盤	基盤	正方形	51×79	53	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
203号	基盤	基盤	正方形	76×86	28	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
204号	基盤	基盤	正方形	73×103	33	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
205号	基盤	基盤	正方形	56×123	38	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
206号	基盤	基盤	正方形	82×128	20	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
207号	基盤	基盤	正方形	90×126	55	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
208号	基盤	基盤	正方形	92×125	8	白筋水、筋膜水、(皮脂)	頭口1						
209号	基盤	基盤	正方形	90×91	70	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
210号	基盤	基盤	正方形	94×136	47	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
211号	基盤	基盤	正方形	100×174	24	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
212号	基盤	基盤	正方形	81×115	38	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
213号	基盤	基盤	正方形	81×125	45	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
214号	基盤	基盤	正方形	75×76	19	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
215号	基盤	基盤	正方形	75×76	19	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
216号	基盤	基盤	正方形	99×136	19	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
217号	基盤	基盤	正方形	99×108	37	白筋水、筋膜水、(皮脂)	セツ1						
218号	基盤	基盤	正方形	68×141	27	白筋水、筋膜水、(皮脂)	頭口1						
219号	基盤	基盤	正方形	73×136	10	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
220号	基盤	基盤	正方形	106×146	10	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
221号	基盤	基盤	正方形	106×146	22	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
222号	基盤	基盤	正方形	138×54	5	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
223号	基盤	基盤	正方形	138×91	10	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
224号	基盤	基盤	正方形	106×91	10	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
225号	基盤	基盤	正方形	97×108	29	白筋水、筋膜水、(皮脂)	セツ1						
226号	基盤	基盤	正方形	97×108	30	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
227号	基盤	基盤	正方形	72×75	8	白筋水、筋膜水、(皮脂)	頭口1						
228号	基盤	基盤	正方形	63×138	38	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
229号	基盤	基盤	正方形	102×126	44	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
230号	基盤	基盤	正方形	69×132	45	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
231号	基盤	基盤	正方形	67×132	45	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
232号	基盤	基盤	正方形	63×51	78	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
233号	基盤	基盤	正方形	90×90	67	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
234号	基盤	基盤	正方形	77×75	27	白筋水、筋膜水、(皮脂)	頭口2						
235号	基盤	基盤	正方形	79×83	65	白筋水、筋膜水、(皮脂)	頭口1						
236号	基盤	基盤	正方形	65×138	49	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
237号	基盤	基盤	正方形	73×106	35	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
238号	基盤	基盤	正方形	70×102	41	白筋水、筋膜水、(皮脂)	セツ1						
239号	基盤	基盤	正方形	93×111	8	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
240号	基盤	基盤	正方形	65×92	29	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
241号	基盤	基盤	正方形	82×113	38	白筋水、筋膜水、(皮脂)	セツ1						
242号	基盤	基盤	正方形	62×73	59	白筋水、筋膜水、(皮脂)	頭口3						
243号	基盤	基盤	正方形	70×87	53	白筋水、筋膜水、(皮脂)	セツ1						
244号	基盤	基盤	正方形	56×189	6	白筋水、筋膜水、(皮脂)	頭口1						
245号	基盤	基盤	正方形	81×126	38	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
246号	基盤	基盤	正方形	102×216	49	白筋水、筋膜水、(皮脂)	セツ1						
247号	基盤	基盤	正方形	96×128	15	白筋水、筋膜水、(皮脂)	頭口1						
248号	基盤	基盤	正方形	63×106	15	白筋水、筋膜水、(皮脂)	頭口1						
249号	基盤	基盤	正方形	93×117	61	白筋水、筋膜水、(皮脂)							
250号	基盤	基盤	正方形	80×110	46	白筋水、筋膜水、(皮脂)	セツ1						
251号	基盤	基盤	正方形	47×63	7	白筋水、筋膜水、(皮脂)	セツ1						
252号	基盤	基盤	正方形	101×126	63	白筋水、筋膜水、(皮脂)							

4 表面採集遺物

右図の遺物は、平成20年度調査の際に調査区外から採集された珪質頁岩製の槍先形尖頭器である。最大長9.15cm、最大幅2.05cm、最大厚0.6cm、重さ11.4gを計り、柳葉形をなす。形態から、縄文時代草創期に属するものと思われるが他に当該期の遺物がなく、また採取した地点の周辺を踏査したが他に遺物は発見されなかった。

5 総 括

今回の調査により、本遺跡は縄文時代後期（前～中葉）・晩期（中～後葉）を主体とし、近世以降は墓域として利用されていたことが判明した。現在、胆沢ダム建設に伴う発掘調査が進み、周辺の遺跡の様子も次第に明らかになってきた。下嵐江I・II遺跡では後期旧石器時代の遺物が7,000点あまり出土し、大平野II遺跡では、縄文時代中・後期の集落跡の他、縄文時代早期や弥生時代後期の土器が出土するなど、各遺跡において断続的な生活の痕跡が認められている。のことにより、かつて仙北街道の拠点としてにぎわった頃の集落の様子だけではなく、ここに生活した人々の歴史は、縄文時代以前に遡ることができそうである。今後それぞれの調査報告がまとめられることにより、この地域における先史時代の人々の動静を知る手がかりが見えてくるものと思われる。



槍先形尖頭器 (S-3/4)

参考文献・引用文献

- 佐々木勝 1994 「岩手県における縄文時代の掘立柱建物跡について」『岩手県立博物館研究報告第12号』岩手県立博物館
- 斎藤邦雄・酒井宗孝 1994 「岩手県の縄文期墓葬遺構について」『北奥古代文化』第23号 北奥古代文化研究会
- 中村 大 2000 「土器の出土状態からみた土壙墓の認定について—縄文時代の北日本を中心として—」『國學院大學考古学資料紀要』第16輯 國學院大學考古学資料館
- 金子昭彦 2001 「亀ヶ岡文化の住居類型」『亀ヶ岡文化—集落とその実体—晩期遺構集成Ⅰ』
- 日本考古学協会2001年度盛岡大会研究発表資料集
- 金子昭彦 2003 「墓と捨て場から見た東北縄文晚期の居住様式」『縄文時代』14号 縄文時代文化研究会
- 金子昭彦 2004 「東北縄文晚期における葬廟品の意味（予察）—階層化社会を読みとることができるか—」『縄文時代』15号 縄文時代文科研究会
- 中村 大 2007 「亀ヶ岡文化の葬廟」『縄文時代の考古学⑨ 死と弔い—葬廟—』（株）同成社
- 秋田県教育委員会 1994 「東北横断自転車道秋田線発掘調査報告書X VI 上谷地遺跡」秋田県文化財調査報告書第241集
- 秋田県教育委員会 1994 「東北横断自転車道秋田線発掘調査報告書X VIII 小田IV遺跡」秋田県文化財調査報告書第243集
- 秋田県教育委員会 1998 「東北横断自転車道秋田線発掘調査報告書XXX III 蟹内I遺跡」秋田県文化財調査報告書第274集
- 岩手県教育委員会 1966 「岩手の民俗資料 昭和38年民俗資料緊急調査報告」文化財調査報告第16集
- 胆沢町史刊行会 1982 「胆沢町史Ⅲ『古代中世編』」胆沢町史刊行会
- 宮城縣 1970 「宮城縣史32」（資料篇9「風土記御用書出 寫本 譲澤郡上諂澤着柳村」）（財）宮城縣史刊行会
- 胆沢町教育委員会 1997 「安永風土記 記載百姓屋敷調べ—220年前の散居の復元—」胆沢町文化財調査報告書第19集
- 胆沢町教育委員会 2005 「胆沢町地名・屋号調査報告書」胆沢町文化財調査報告書第32集

- (財) 岩理文 2008 「平成19年度墓掘調査報告書 2008」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第524集
- (財) 岩理文 1991 「上川岸Ⅱ遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第153集
- (財) 岩理文 1996 「岩舘遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第235集
- (財) 岩理文 2006 「河崎の櫛掘塗地発掘調査報告書(第2分冊)」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第474集

写 真 図 版



調査区遠景（平成19年 西から）



調査区近景（平成19年 直上から 上が南）

写真図版1 航空写真



平成19年 調査前風景（1）



平成19年 調査前風景（2）



平成19年 調査前風景（3）



平成19年 基本層序（北側調査区）



平成20年 作業風景（1）



平成20年 作業風景（1）

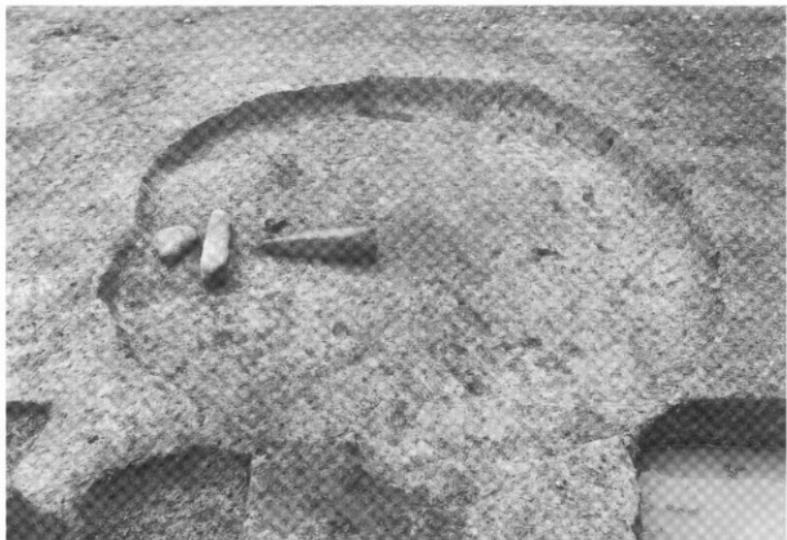


平成20年 調査前風景（1）

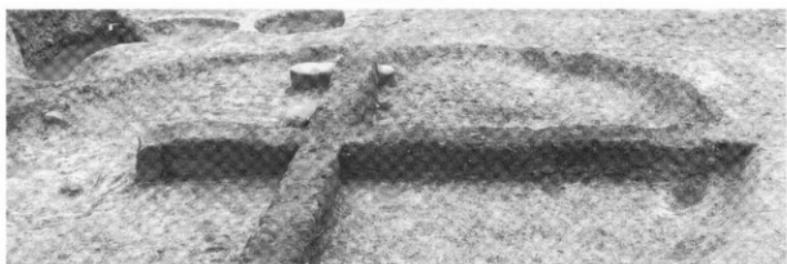


平成20年 調査区全景

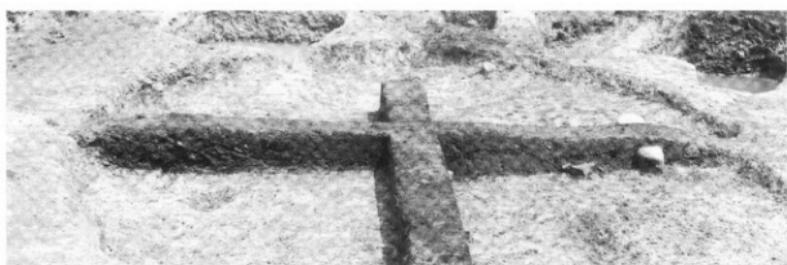
写真図版2 調査前風景、基本層序、調査区全景



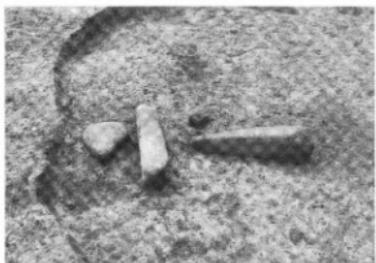
完掘（東南→）



東西ベルト



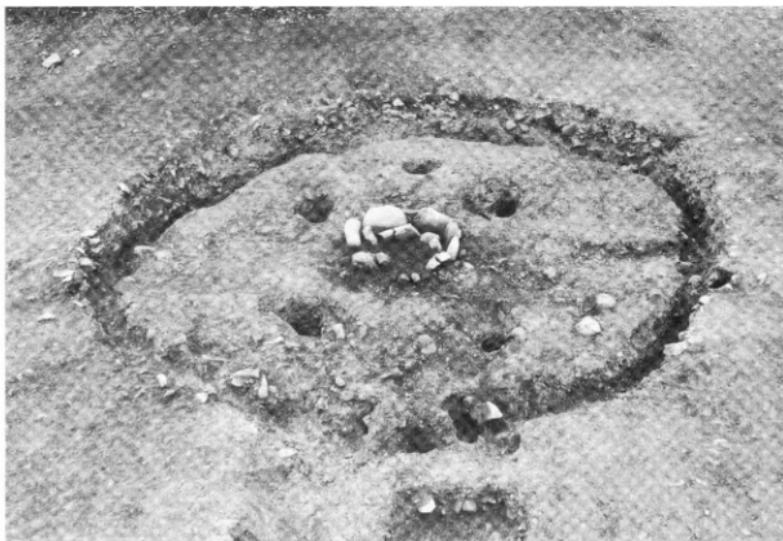
南北ベルト



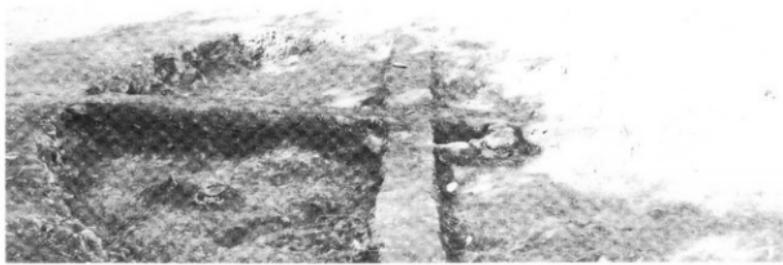
101号竪穴住居内出土遺物



101号竪穴住居跡精査状況



102号竪穴住居跡実掘（東南→）



102号竪穴住居跡 北西—南東ベルト

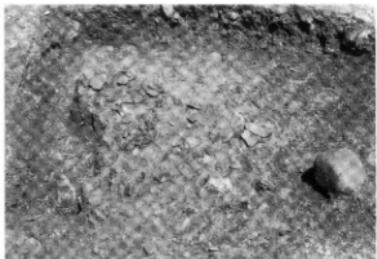
写真図版 4 101・102号竪穴住居跡



102号竪穴住居跡 南西→北東ベルト



102号竪穴住居内炉



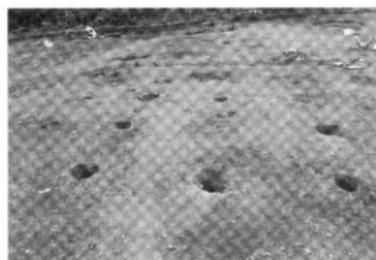
102号竪穴住居内遺物出土状況



101号掘立柱建物跡 (南→)



102号掘立柱建物跡 (南東→)



301号掘立柱建物跡 (南東→)



301号掘立柱建物跡 (P1)

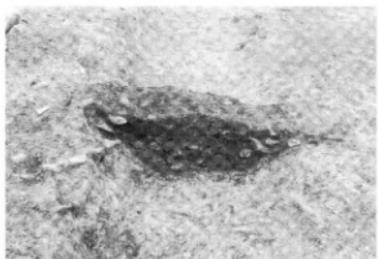
写真図版5 102号竪穴住居跡、101・102・301号掘立柱建物跡



301号掘立柱建物跡 (P5)



301号掘立柱建物跡 (溝A-A')



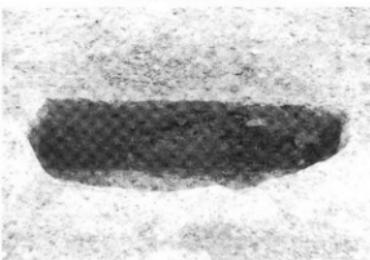
301号掘立柱建物跡 (溝B-B')



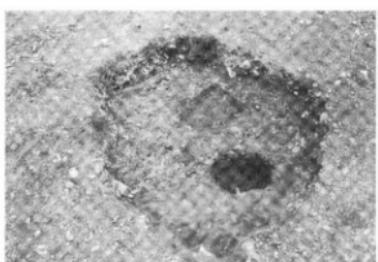
302号掘立柱建物跡 (南東→)



101号土坑完掘



101号土坑断面



102号土坑完掘

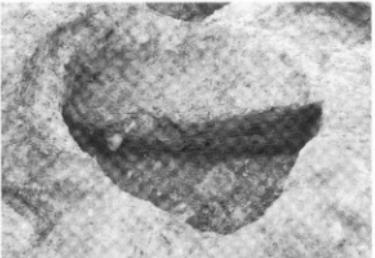


102号土坑断面

写真図版6 301・302号掘立柱建物跡、101・102号土坑



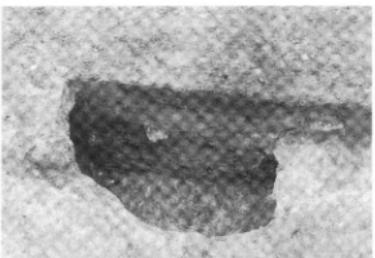
103号土坑完掘



103号土坑断面



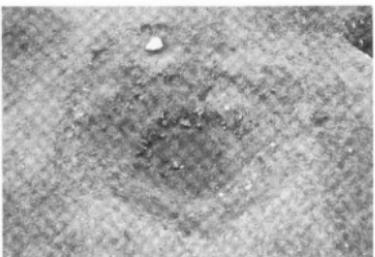
104号土坑完掘



104号土坑断面



103 - 104号土坑重複状况



106号土坑完掘



106号土坑遗物出土状况

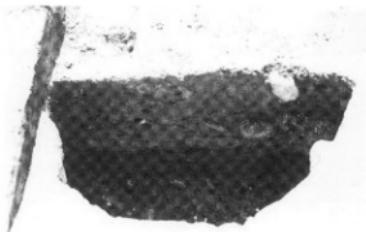


106号土坑断面

写真图版7 103·104·106号土坑



105号土坑完掘



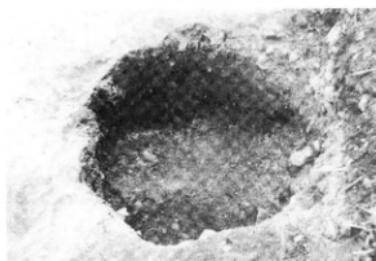
105号土坑断面



107号土坑完掘



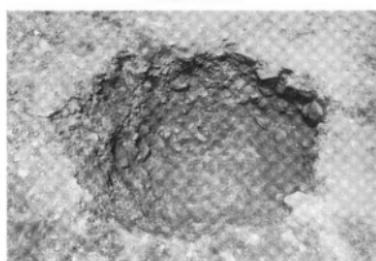
107号土坑断面



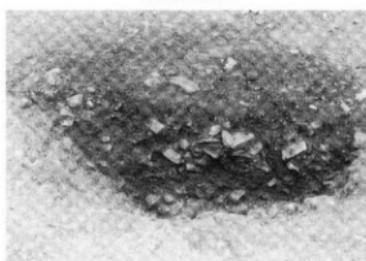
108号土坑完掘



108号土坑断面

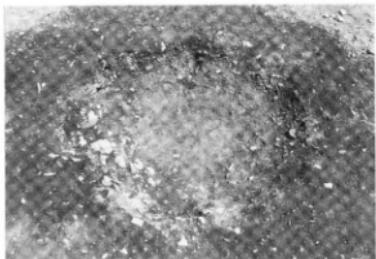


109号土坑完掘



109号土坑断面

写真図版 8 105・107～109号土坑



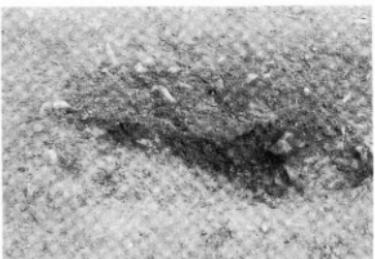
110号土坑完掘



110号土坑断面



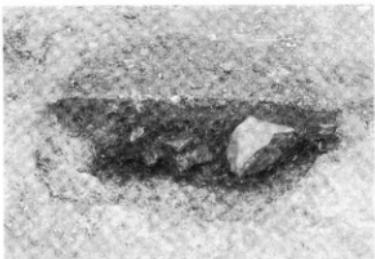
111号土坑完掘



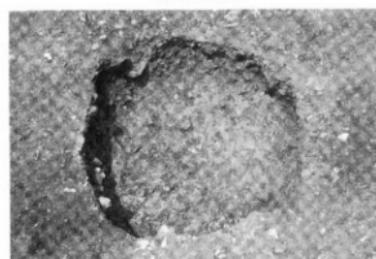
111号土坑断面



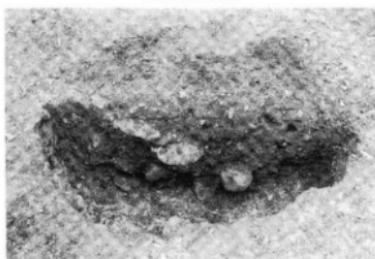
112号土坑完掘



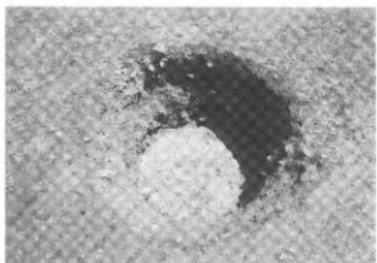
112号土坑断面



113号土坑完掘



113号土坑断面



114号土坑完掘



114号土坑断面



116号土坑完掘



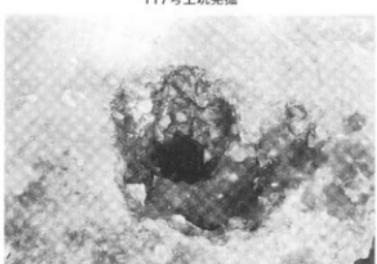
116号土坑断面



117号土坑完掘



117号土坑断面



118号土坑完掘

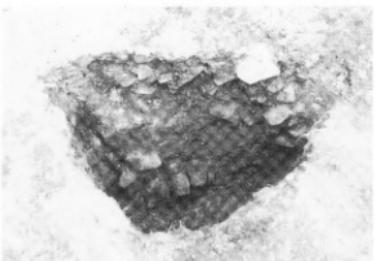


118号土坑断面

写真図版10 114・116～118土坑



115号土坑断面



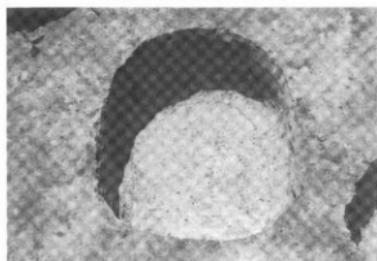
119号土坑断面



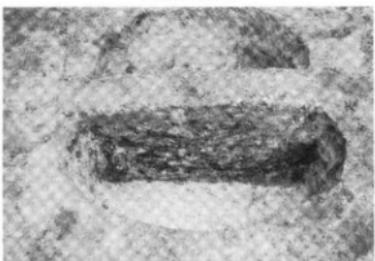
120号土坑·P61·P62完掘



120号土坑断面



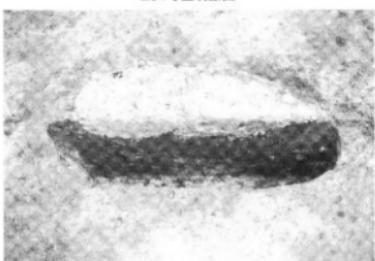
201号土坑完掘



201号土坑断面

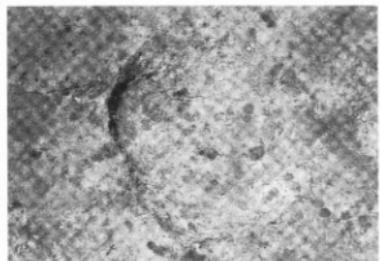


202号土坑完掘



202号土坑断面

写真図版11 115・119・120・201・202号土坑



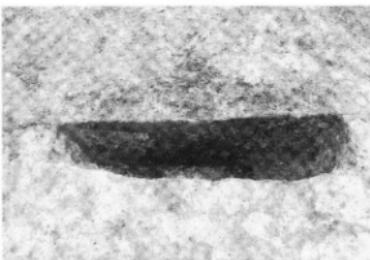
203号土坑完掘



204号土坑完掘



205号土坑完掘



205号土坑断面



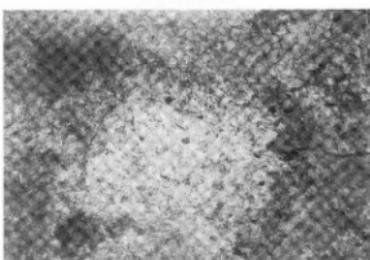
207号土坑完掘



207号土坑断面



206号土坑完掘

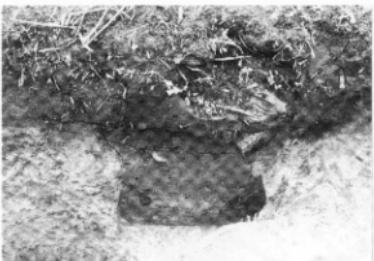


208号土坑完掘

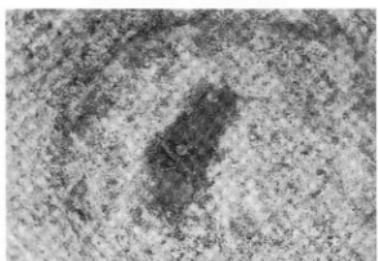
写真図版12 203～208号坑



209号(手前)・301号土坑完掘



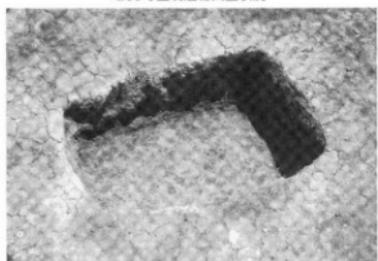
301号土坑断面



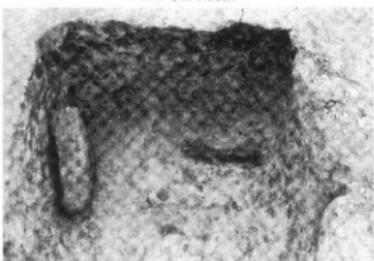
209号土坑遗物出土状况



210号土坑完掘



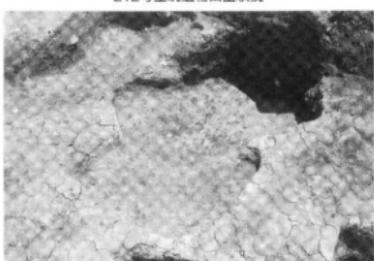
212号土坑完掘



212号土坑遗物出土状况



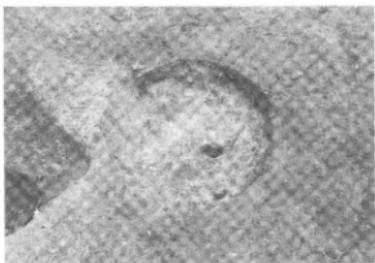
213号土坑遗物出土状况



213号・214号土坑(手前) 完掘



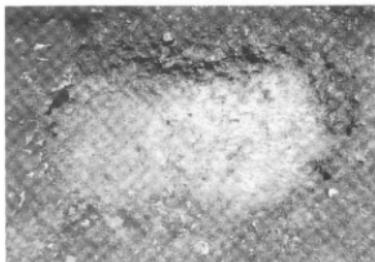
211号土坑完掘



215号土坑完掘



216号土坑完掘



217号土坑完掘



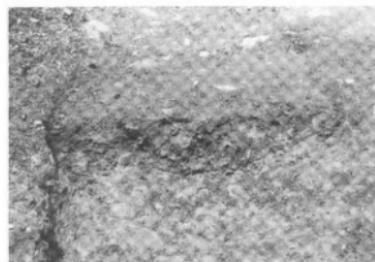
220号土坑断面



221号土坑断面



201号溝 219～222号坑

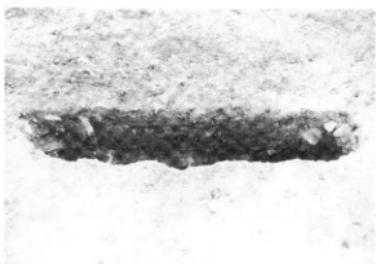


201号溝断面

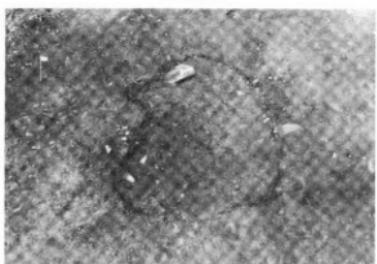
写真図版14 211・215～217・219～222号坑、201号溝



101号焼土



101号焼土断面



102号焼土



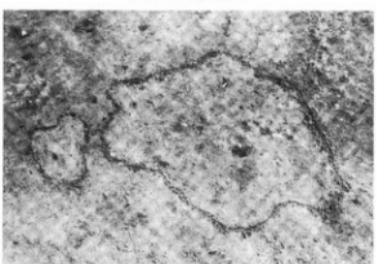
102号焼土断面



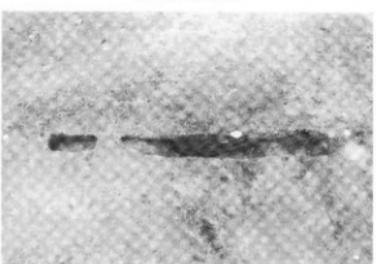
201号焼土①断面



201号焼土②断面

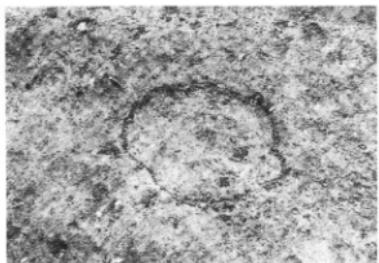


301号焼土

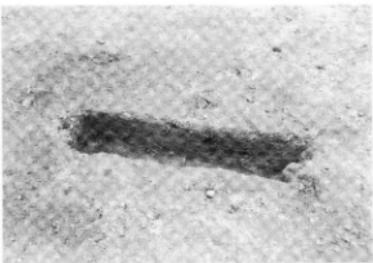


301号焼土断面

写真図版15 101・102・201・301号焼土



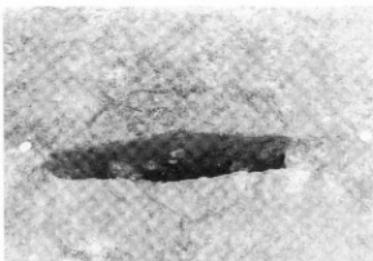
302号焼土



302号焼土断面



303号焼土



303号焼土断面



北側調査区調査風景 (北東→)



南側調査区調査風景 (平成19年.南西→)



墓石①



墓石②

写真図版16 302・303号焼土、作業風景、墓石(1)



墓石③



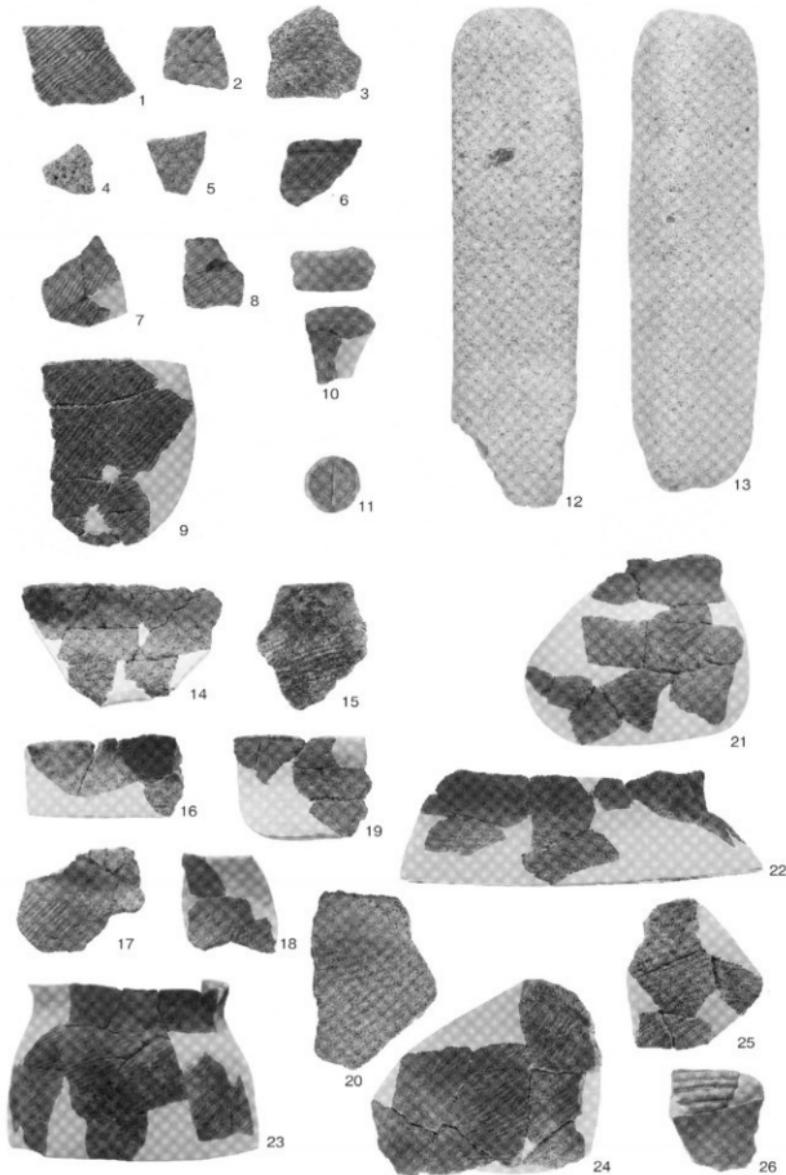
墓石④



墓石⑤



墓石⑥



写真図版18 遺構内出土遺物（1）



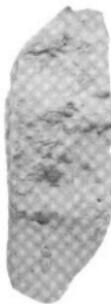
写真図版19 遺構内出土遺物 (2)



写真図版20 遺構内出土遺物（3）



83



84



82



85



86



87

88



93



91



92



94



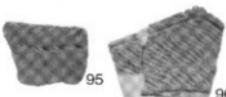
88



90



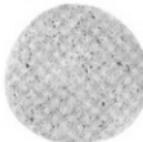
95



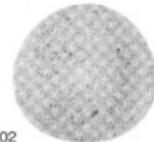
96



97



102



103



98



99



100



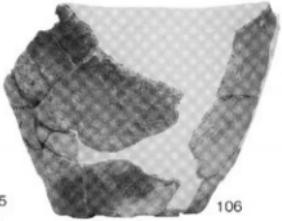
101



104

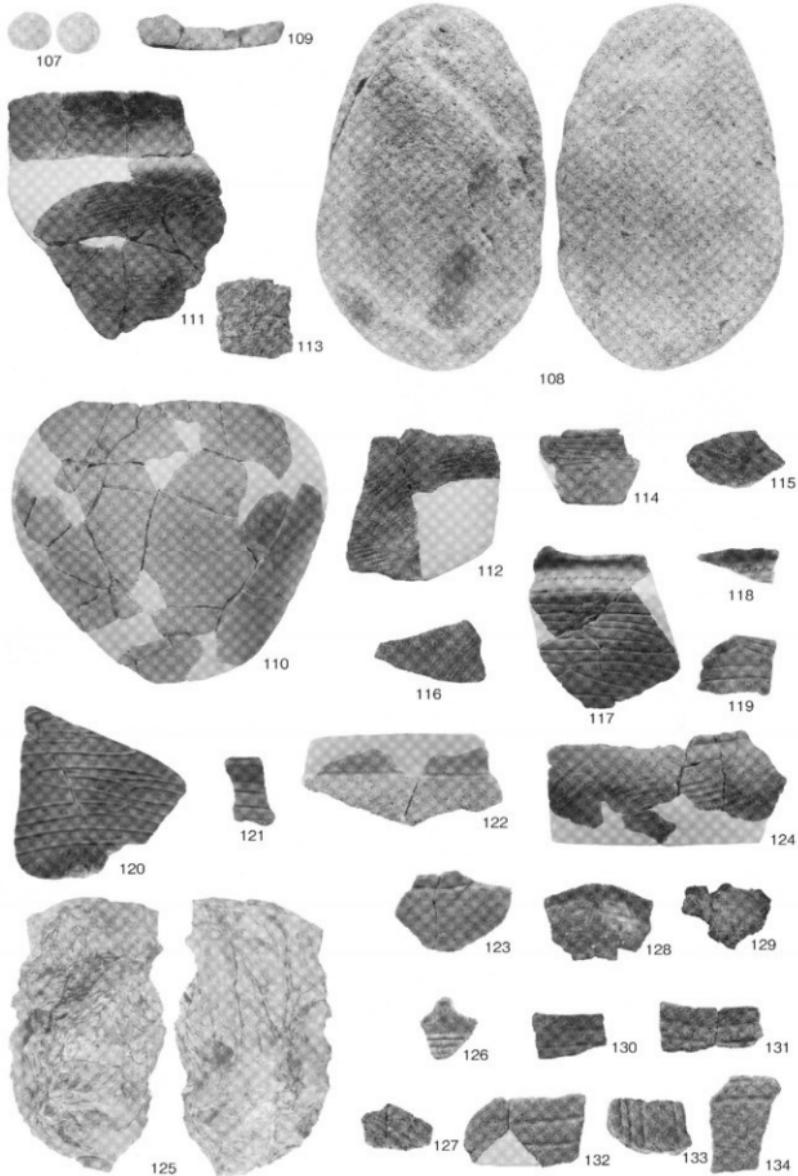


105

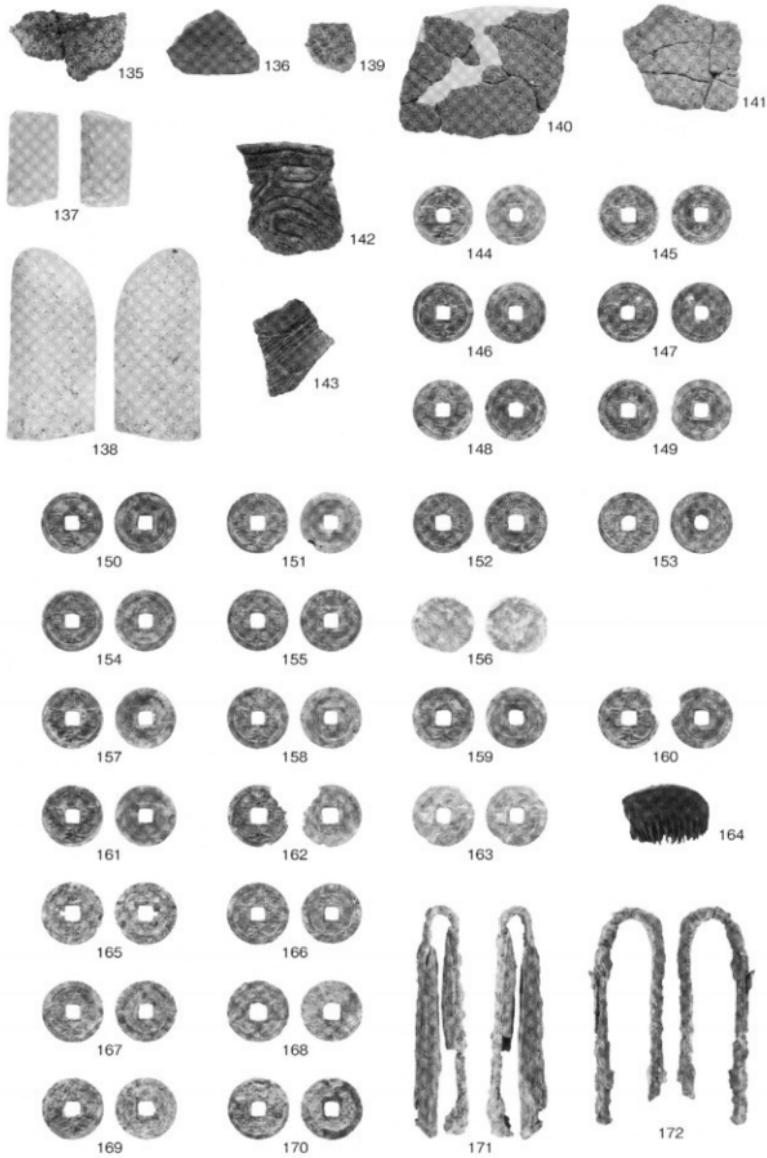


106

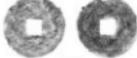
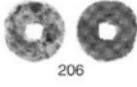
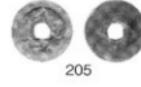
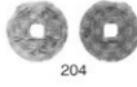
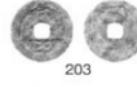
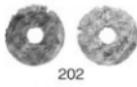
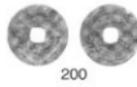
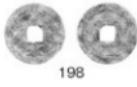
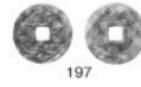
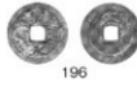
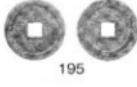
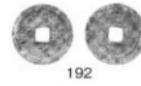
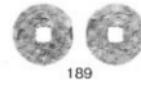
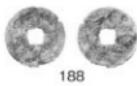
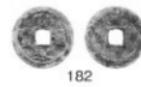
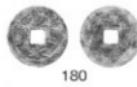
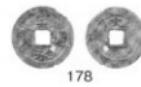
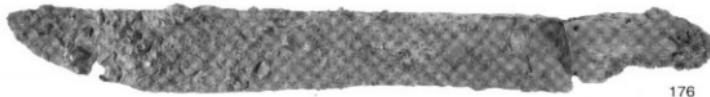
写真図版21 遺構内出土遺物 (4)



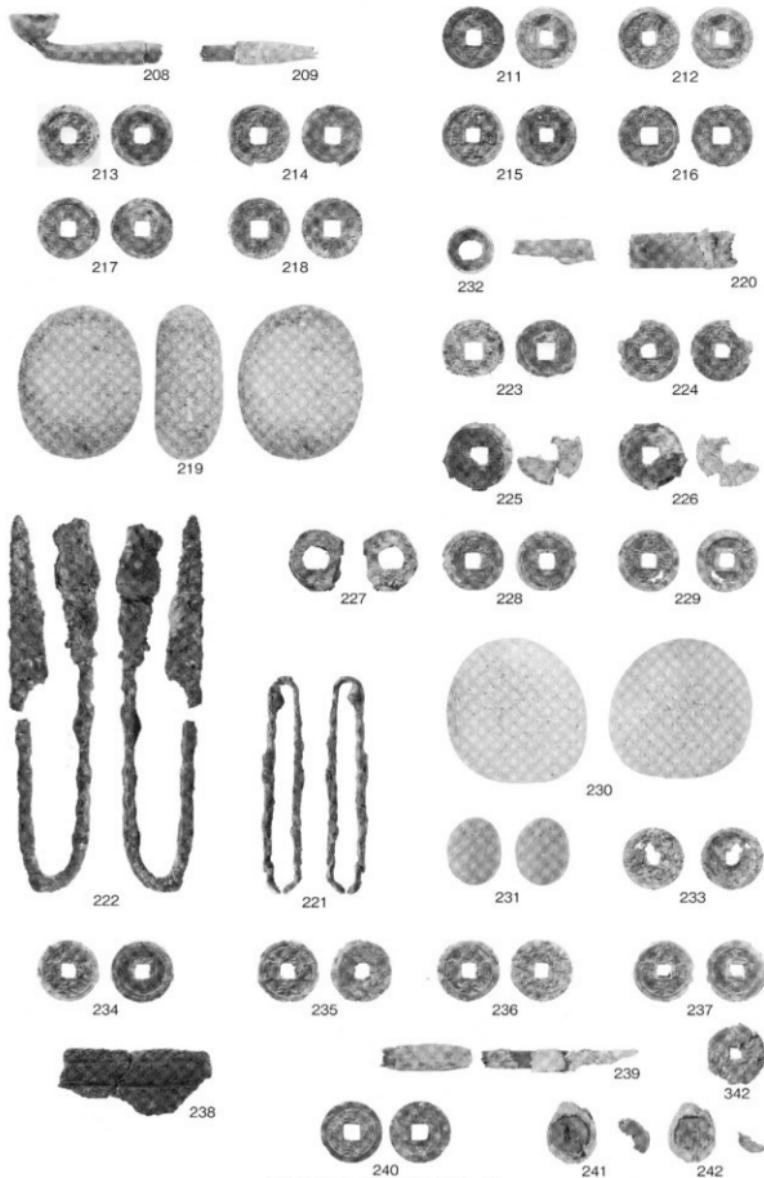
写真図版22 遺構内出土遺物（5）



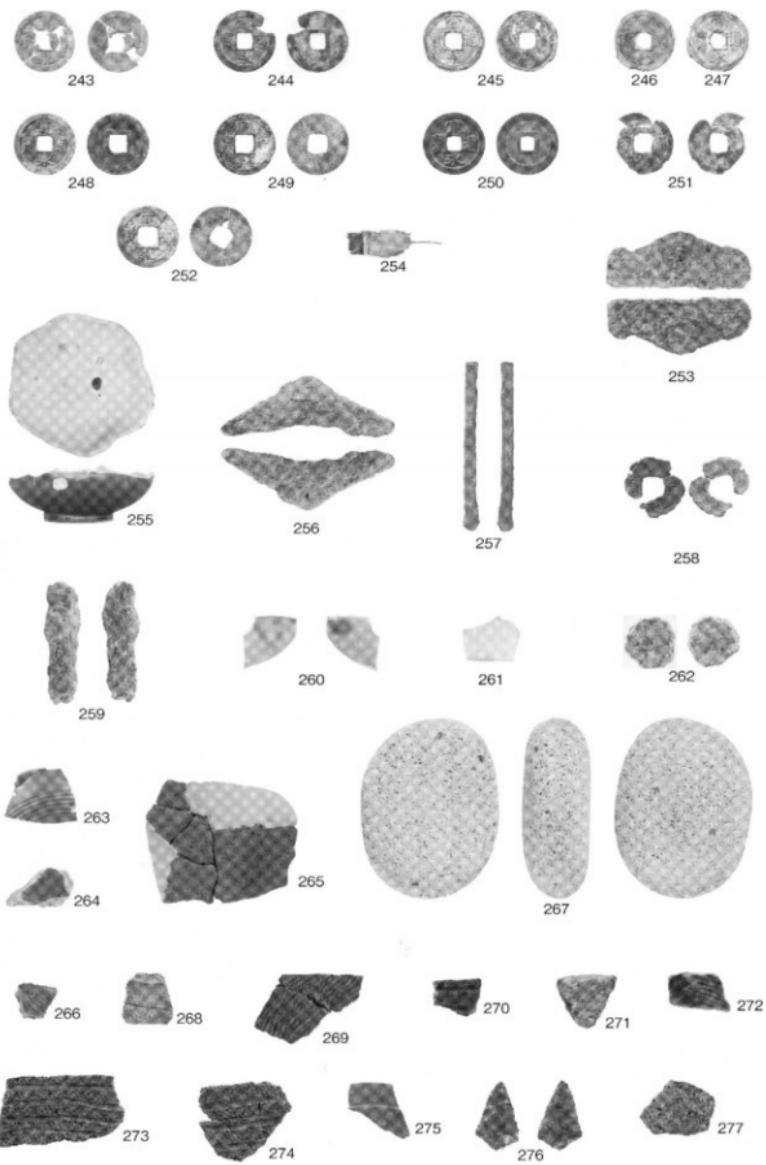
写真図版23 遺構内出土遺物 (6)



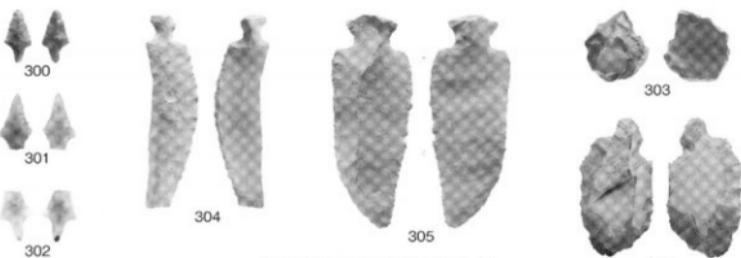
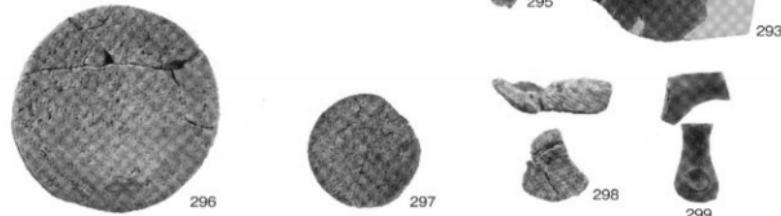
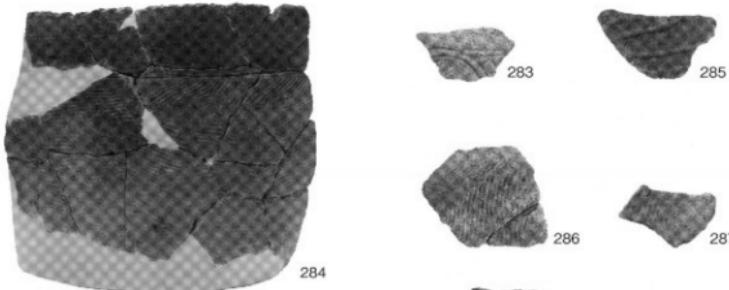
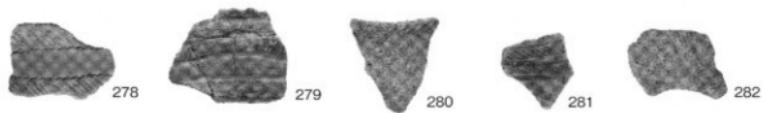
写真図版24 通橋内出土遺物 (7)



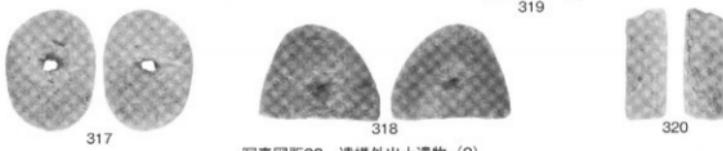
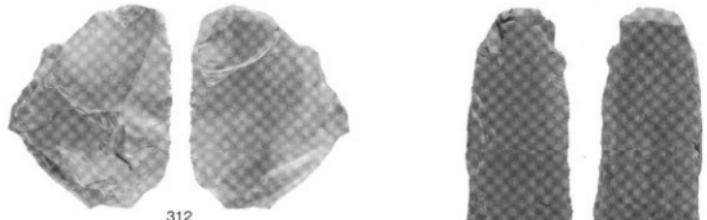
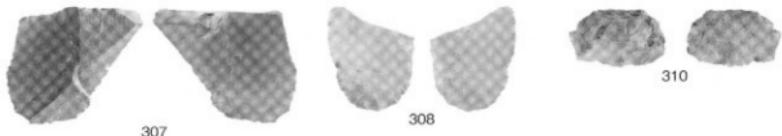
写真図版25 遺構内出土遺物 (8)



写真図版26 遺構内出土遺物 (9)



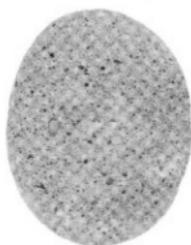
写真図版27 遺構外出土遺物 (1)



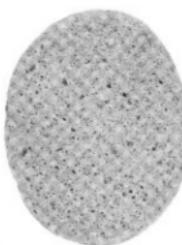
写真図版28 造構外出土遺物（2）



写真図版29 造構外出土遺物 (3)



337



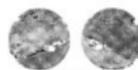
338



339



340



341



343



344



345



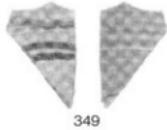
346



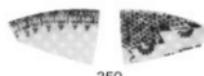
347



348



349



350



351



353



352

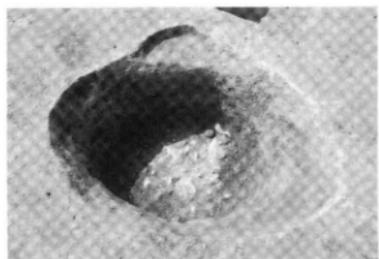
写真図版30 遺構外出土遺物 (4)



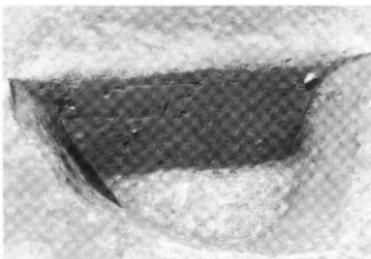
122号土坑完掘



122号土坑断面



123号土坑完掘



123号土坑断面



124号土坑完掘



124号土坑断面



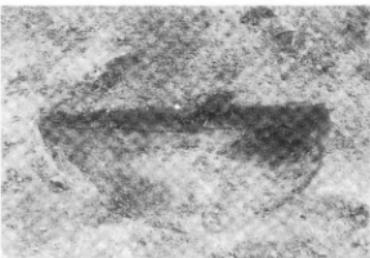
125号土坑完掘



125号土坑断面



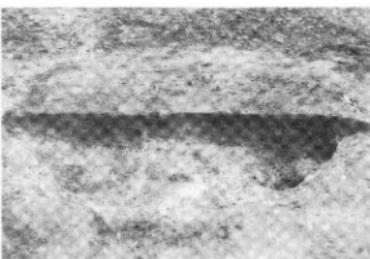
223号土坑完掘



223号土坑断面



224号土坑完掘



224号土坑断面



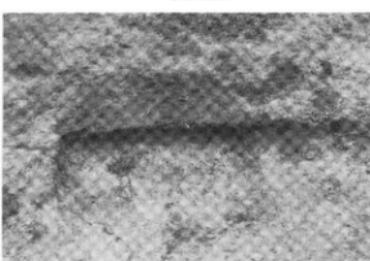
225号土坑完掘



225号土坑断面



226号土坑完掘

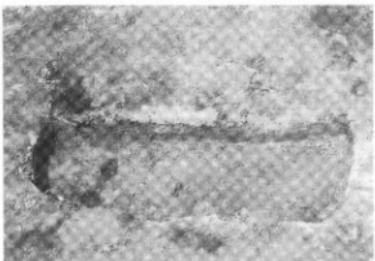


226号土坑断面

写真図版32 223～226号土坑



227号土坑完掘



227号土坑断面



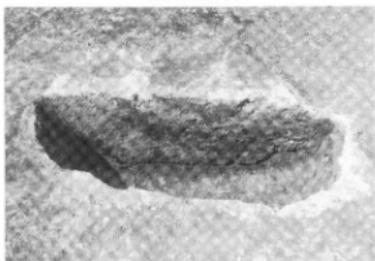
228号土坑完掘



228号土坑断面



229号土坑完掘



229号土坑断面



230・233・234号土坑完掘



230号土坑断面



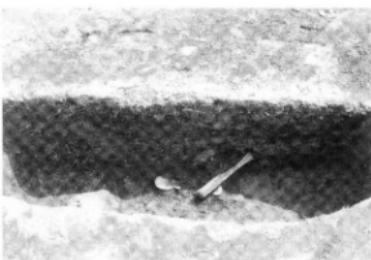
233号土坑完掘



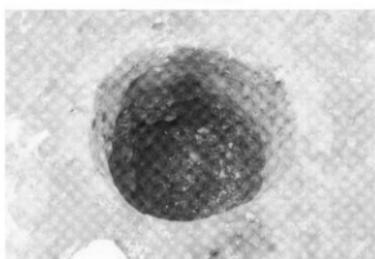
234号土坑断面



231号土坑完掘



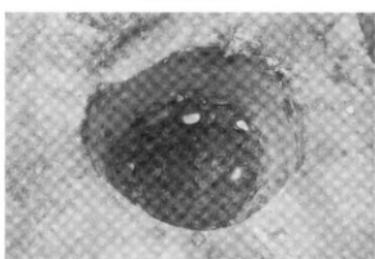
231号土坑断面



232号土坑完掘



232号土坑断面

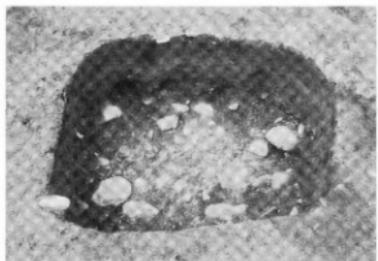


235号土坑完掘

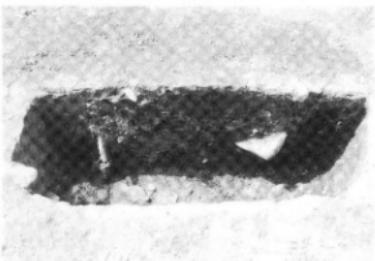


235号土坑断面

写真図版34 231～235号土坑



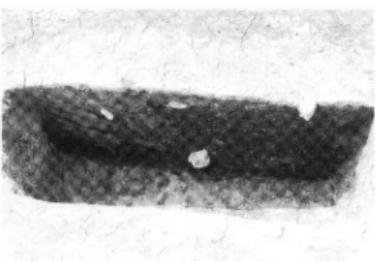
236号土坑完掘



236号土坑断面



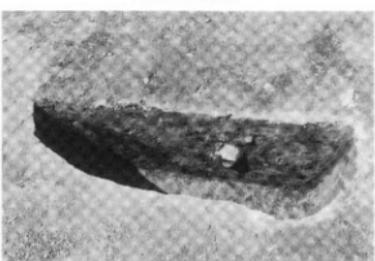
237号土坑完掘



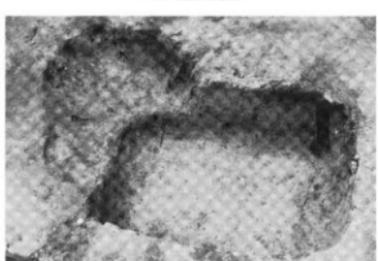
237号土坑断面



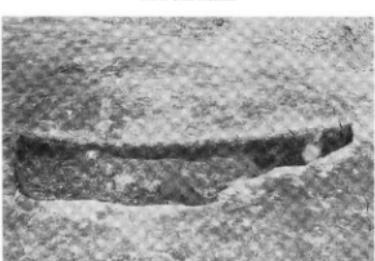
238号土坑完掘



238号土坑断面



239号土坑完掘

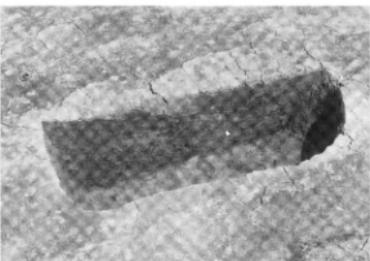


239号土坑断面

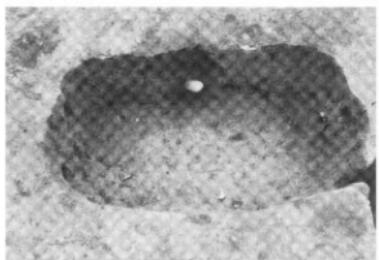
写真図版35 236 ~ 239号土坑



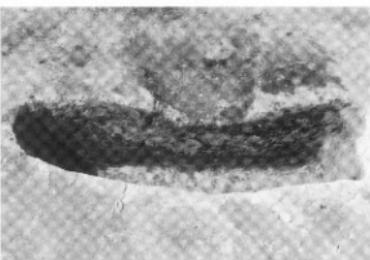
240号土坑実掘



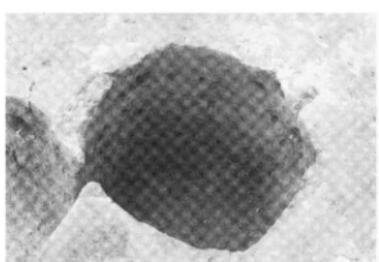
240号土坑断面



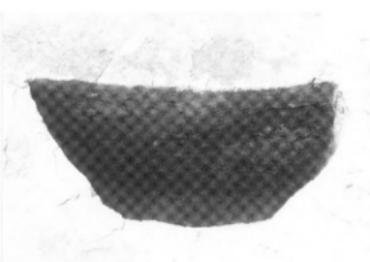
241号土坑実掘



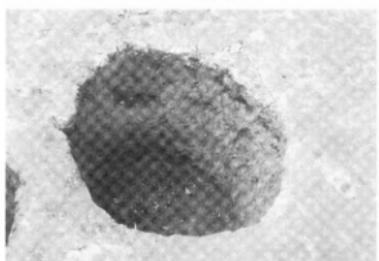
241号土坑断面



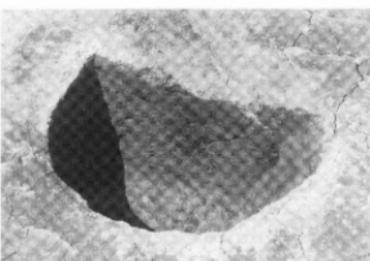
242号土坑実掘



242号土坑断面



243号土坑実掘



243号土坑断面

写真図版36 240 ~ 243号土坑



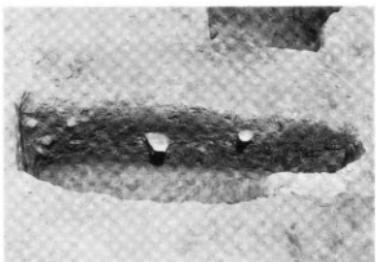
244号土坑完掘



244号土坑断面



245号土坑完掘



245号土坑断面



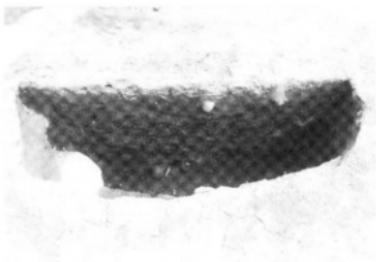
246号土坑完掘



246号土坑断面



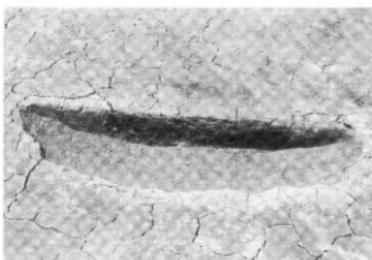
247号土坑完掘



247号土坑断面



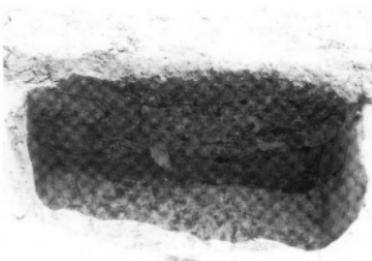
248号土坑完掘



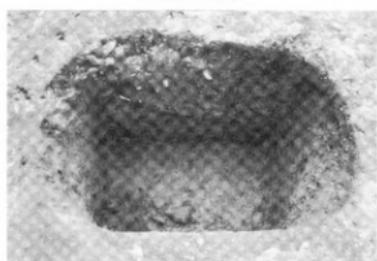
248号土坑断面



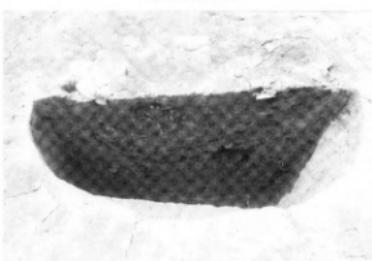
249号土坑完掘



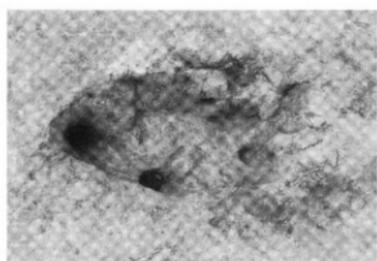
249号土坑断面



250号土坑完掘



250号土坑断面

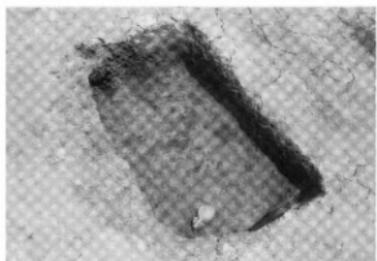


251号土坑完掘

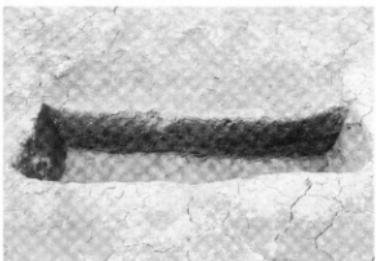


251号土坑断面

写真図版38 248～251号土坑



252号土坑完掘



252号土坑断面



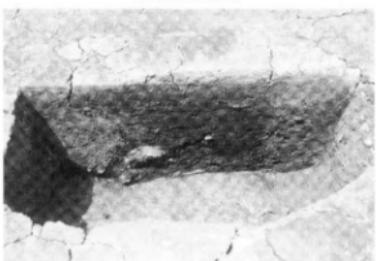
253号土坑完掘



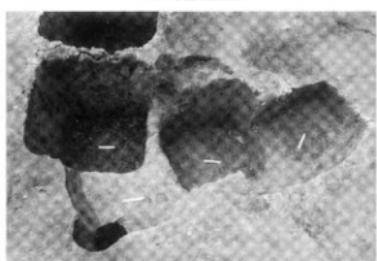
253号土坑断面



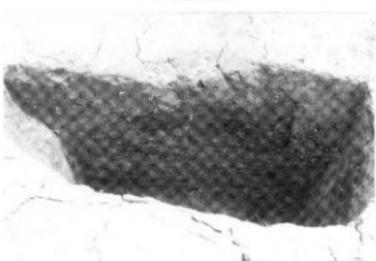
254号土坑完掘



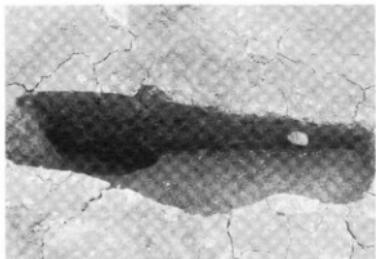
254号土坑断面



255 · 261 · 291 · 292号土坑完掘



255号土坑断面



261号土坑断面



291号土坑断面



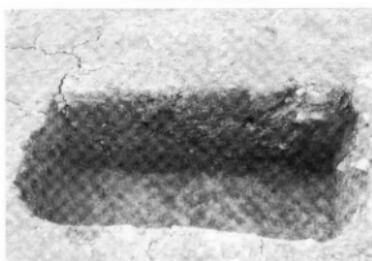
292号土坑断面



平成20年度調査区全景



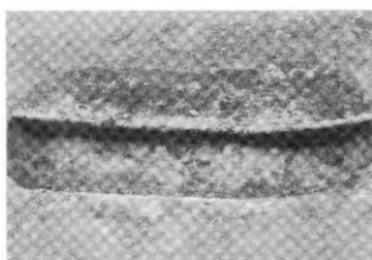
256号土坑完掘



256号土坑断面

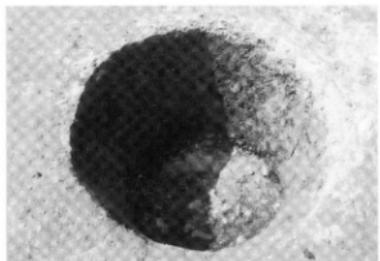


257号土坑完掘

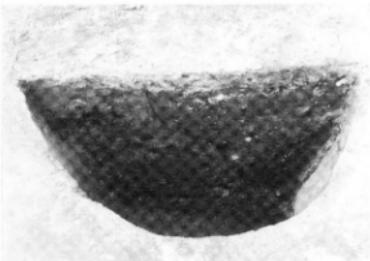


257号土坑断面

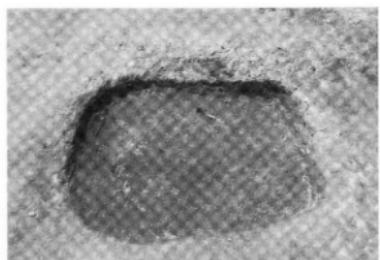
写真図版40 256・257・261・291・292号土坑



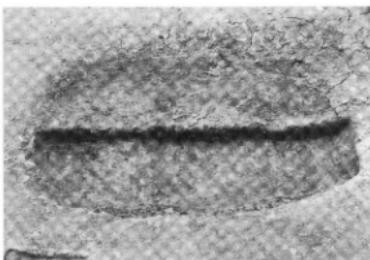
258号土坑完掘



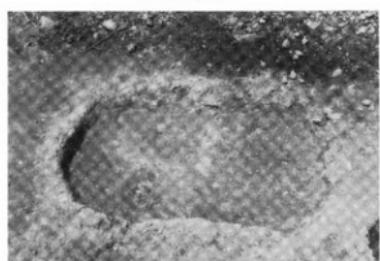
258号土坑断面



259号土坑完掘



259号土坑断面



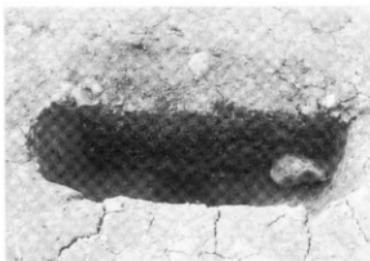
260号土坑完掘



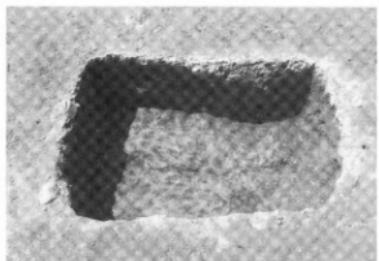
260号土坑断面



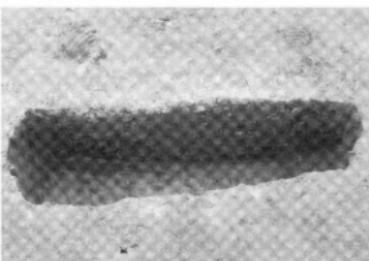
262号土坑完掘



262号土坑断面



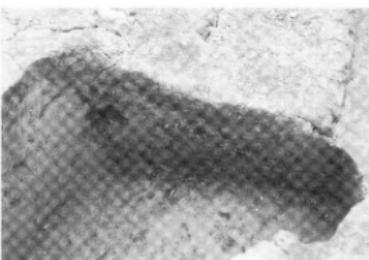
263号土坑完掘



263号土坑断面



264号土坑完掘



264号土坑断面



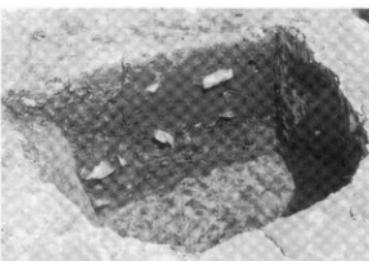
265号·290号土坑完掘



265号·290号土坑断面

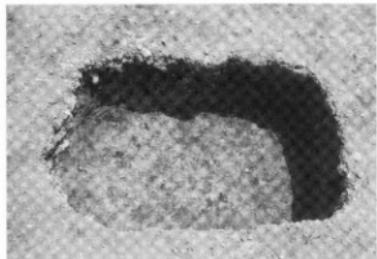


266号土坑完掘

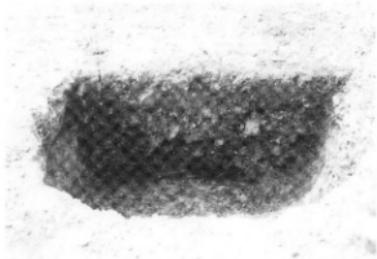


266号土坑断面

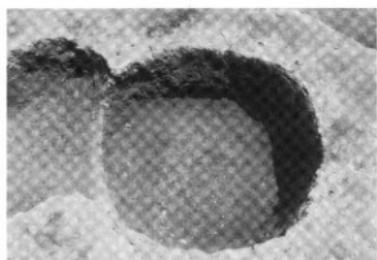
写真図版42 263~266・290号土坑



267号土坑完掘



267号土坑断面



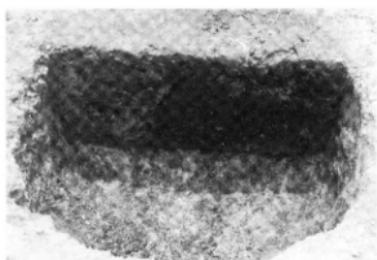
268号土坑完掘



268号土坑断面



269号土坑完掘



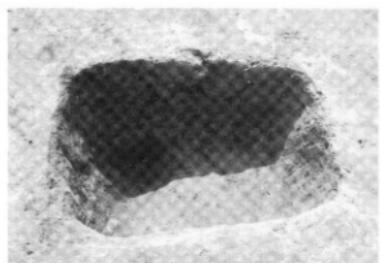
269号土坑断面



270号土坑完掘



270号土坑断面



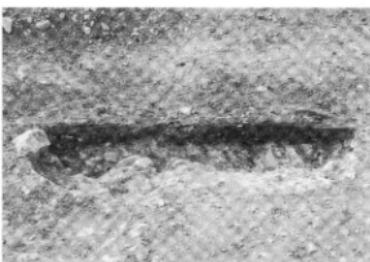
271号土坑完掘



271号土坑断面



272号土坑完掘



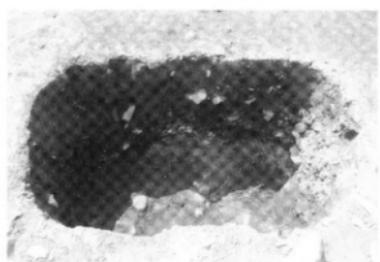
272号土坑断面



273号土坑完掘



273号土坑断面



274号土坑完掘

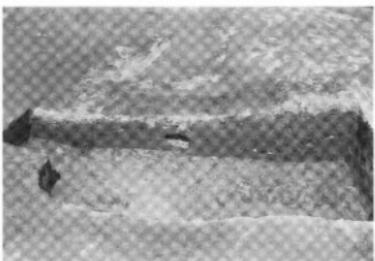


274号土坑断面

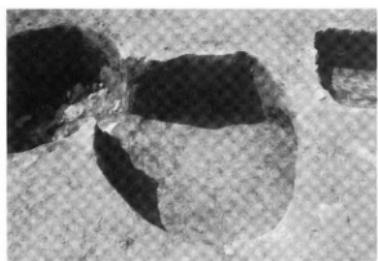
写真図版44 271～274号土坑



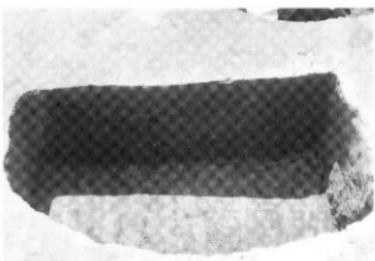
275号土坑完掘



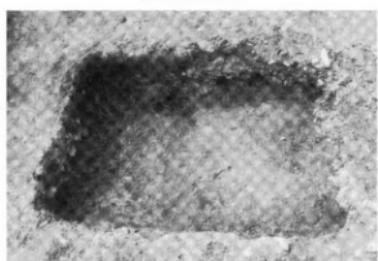
275号土坑断面



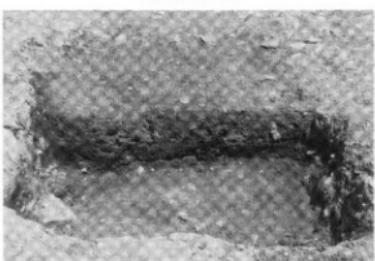
276号土坑完掘



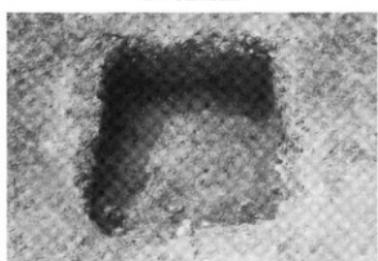
276号土坑断面



277号土坑完掘



277号土坑断面

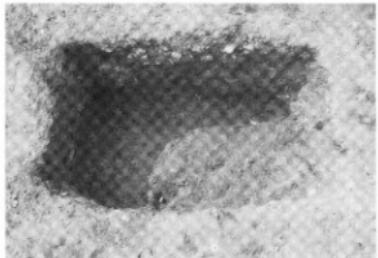


278号土坑完掘



278号土坑断面

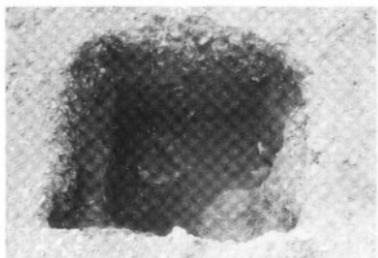
写真図版45 275～278号土坑



279号土坑完掘



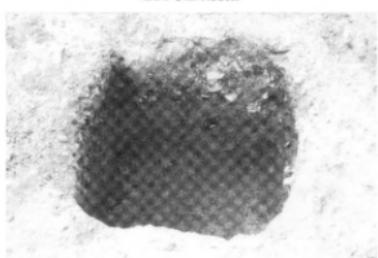
279号土坑断面



280号土坑完掘



280号土坑断面



281号土坑完掘



281号土坑断面



282号土坑完掘

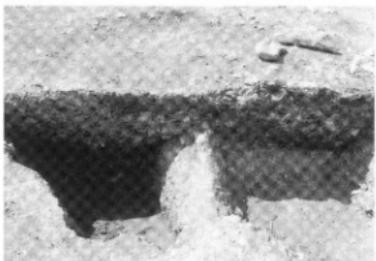


282号 (左侧)・283号土坑断面

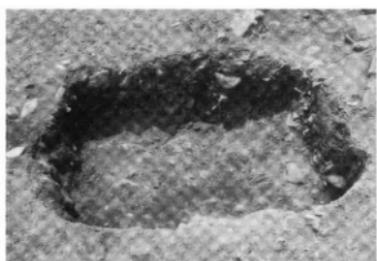
写真図版46 279～283号土坑



283号土坑完掘



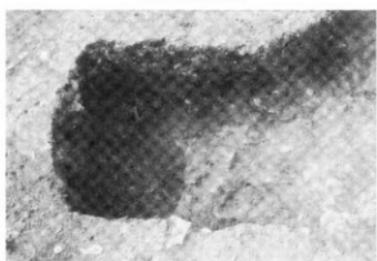
283号 (左侧)・282号土坑断面



284号土坑完掘



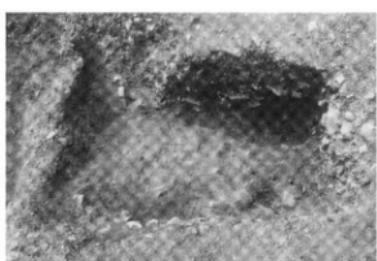
284号土坑断面



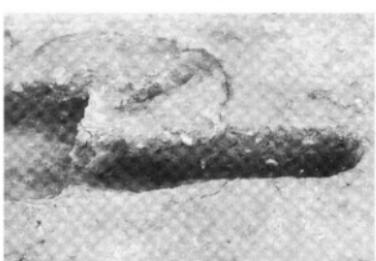
285号土坑完掘



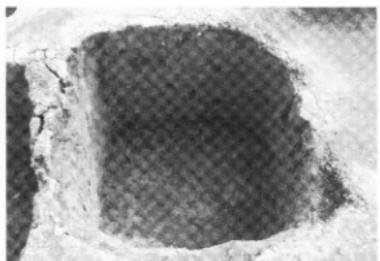
285号土坑断面



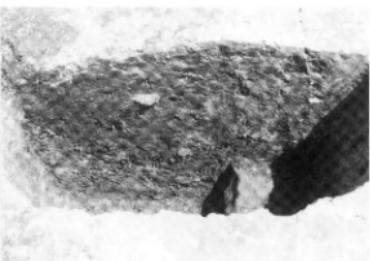
286号土坑完掘



286号土坑断面



287号土坑完掘



287号土坑断面



288号土坑完掘



作业风景



289号土坑完掘



289号土坑断面



290号土坑完掘



290号土坑断面

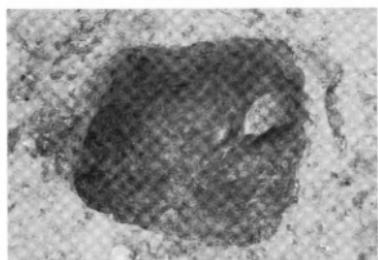
写真図版48 287～290号土坑



293号土坑完掘



293号土坑断面



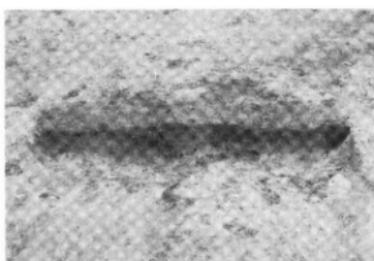
294号土坑完掘



294号土坑断面



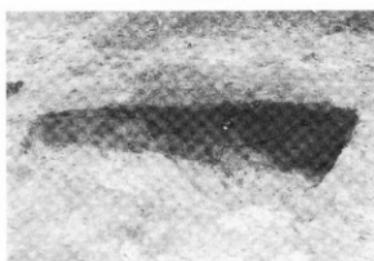
302号土坑完掘



302号土坑断面



303号土坑完掘



303号土坑断面



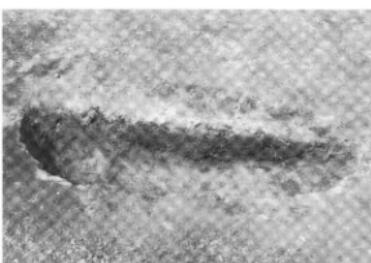
304号土坑完掘



304号土坑断面



305号土坑完掘



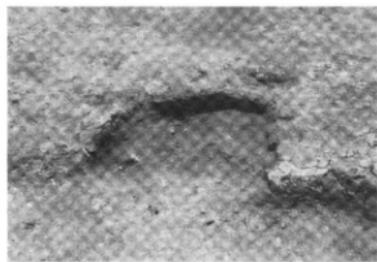
305号土坑断面



306号土坑完掘



306号土坑断面

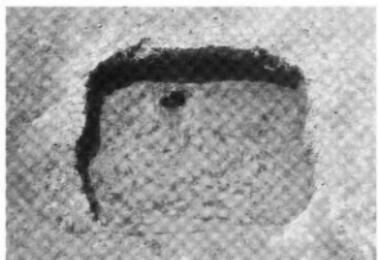


307号土坑完掘

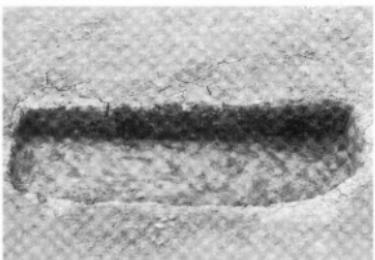


307号土坑断面

写真図版50 304～307号坑



308号土坑完掘



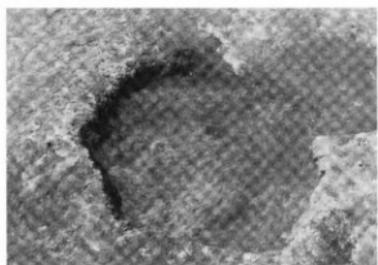
308号土坑断面



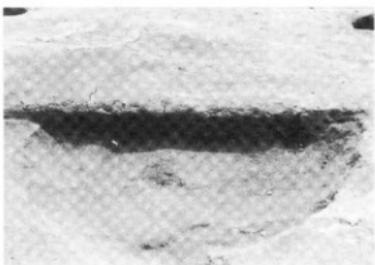
作業風景



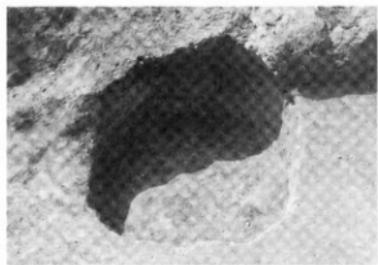
309号土坑断面



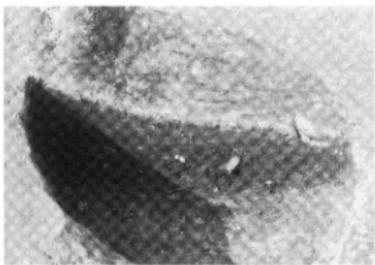
310号土坑完掘



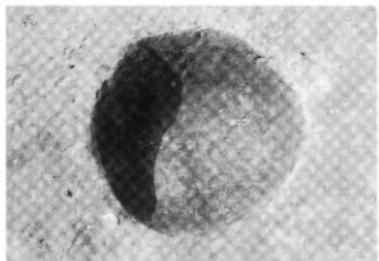
310号土坑断面



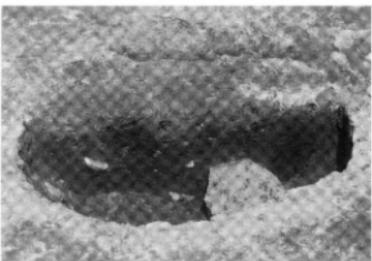
311号土坑完掘



311号土坑断面



312号土坑完掘



312号土坑断面



313号土坑完掘



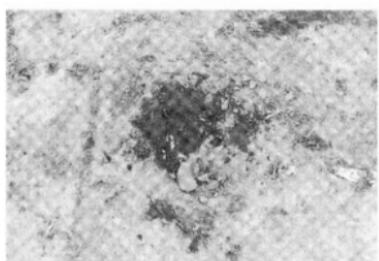
313号土坑断面



314号土坑完掘



314号土坑断面

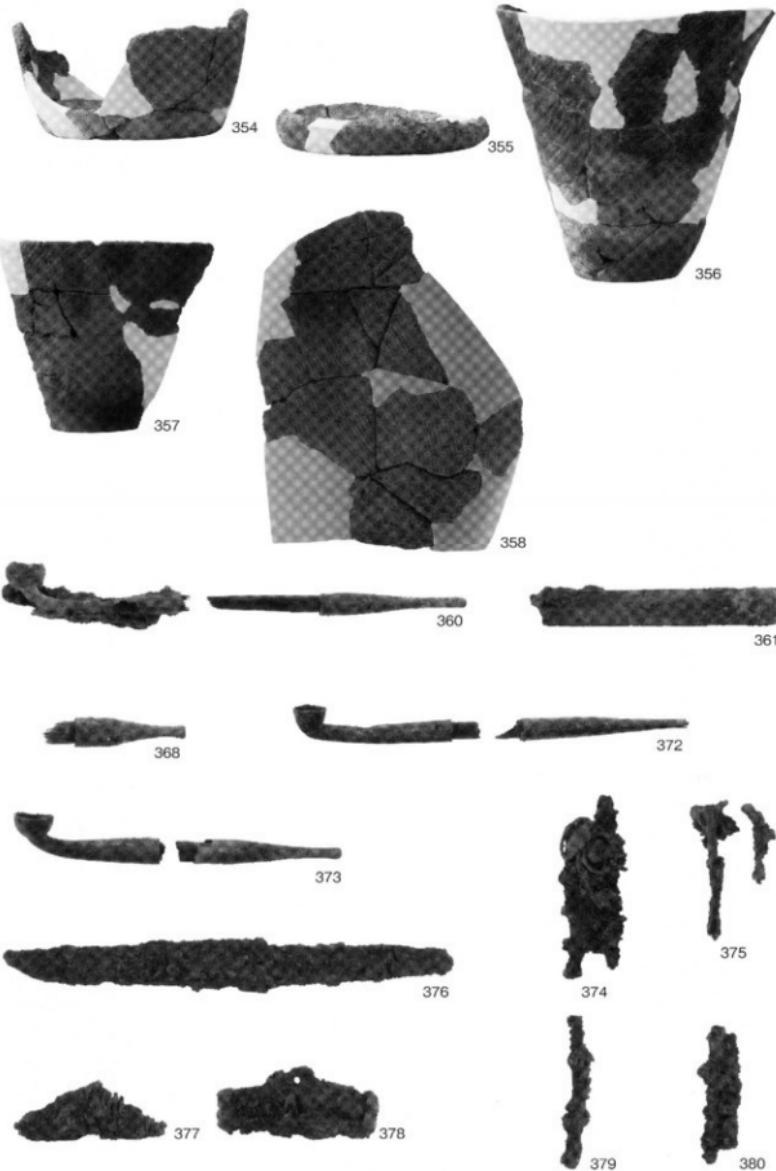


101号土器埋設遺構検出状況

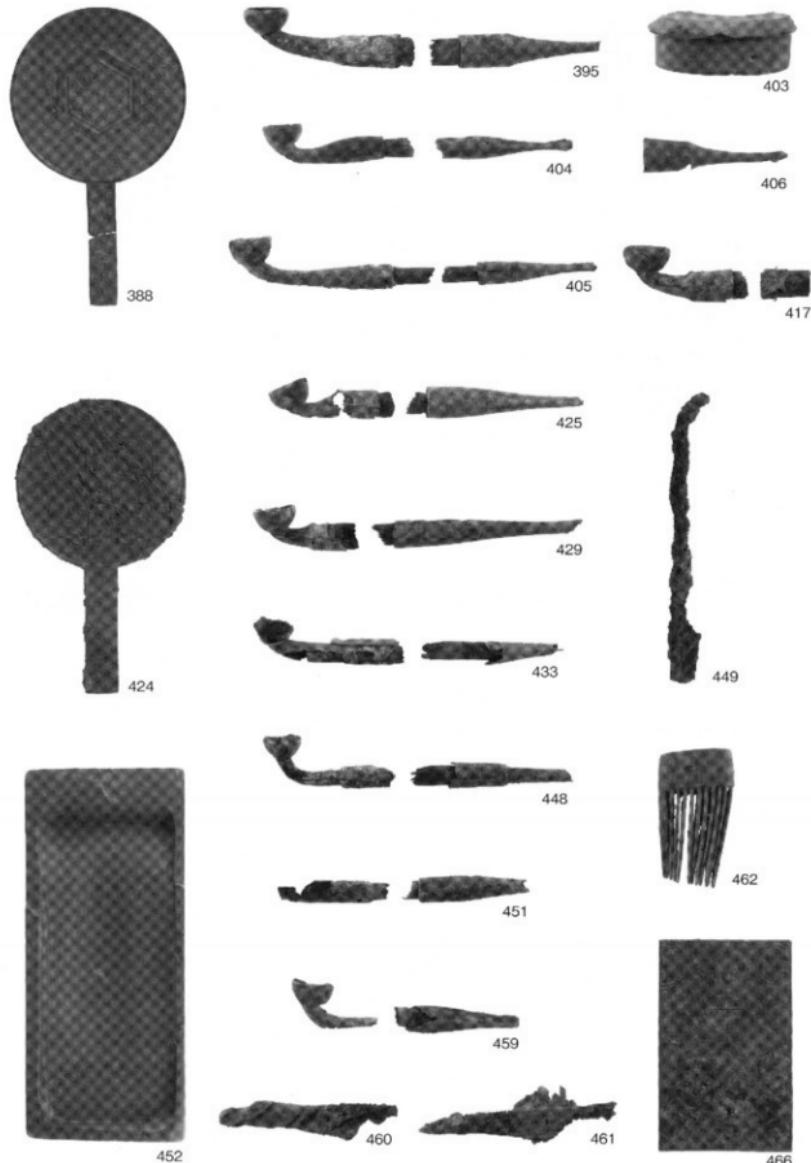


101号土器埋設遺構たち割り

写真図版52 312～314号土坑、101号土器埋設遺構



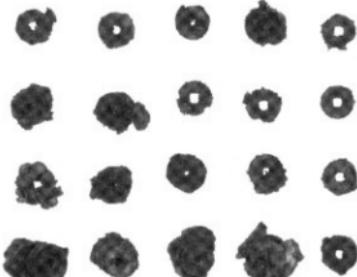
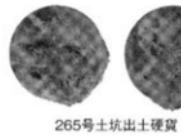
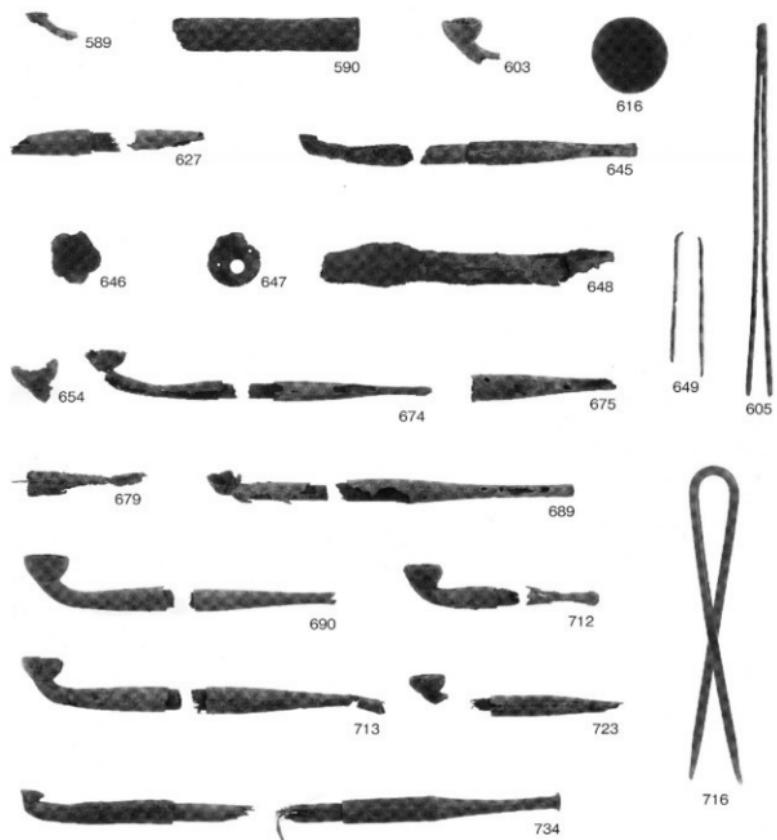
写真図版53 遺構内出土遺物（10）



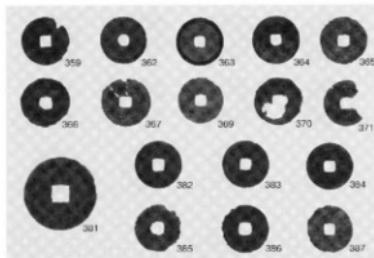
写真図版54 遺構内出土遺物 (11)



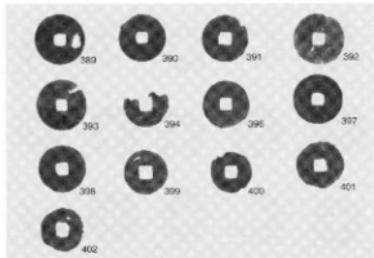
写真図版55 遺構内出土遺物（12）



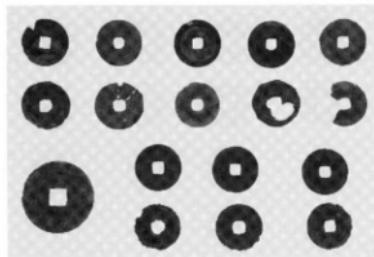
写真図版56 遺構内出土遺物（13）



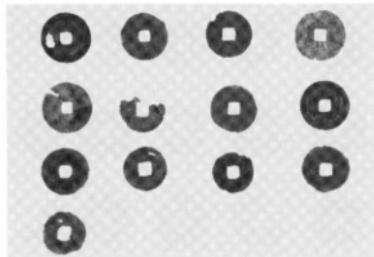
359～387（表）



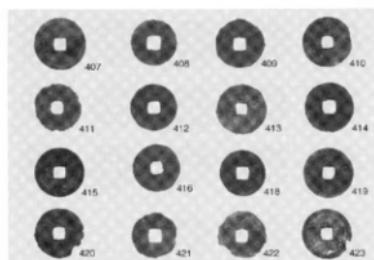
389～402（表）



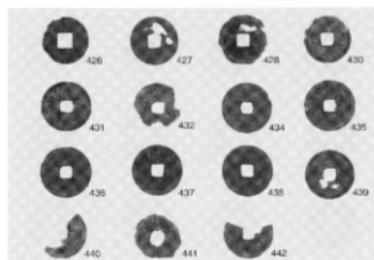
359～387（裏）



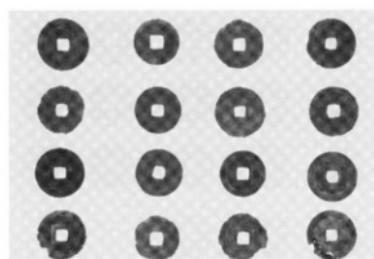
389～402（裏）



407～423（表）



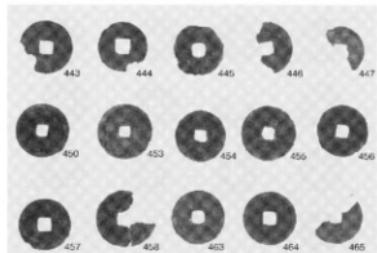
426～442（表）



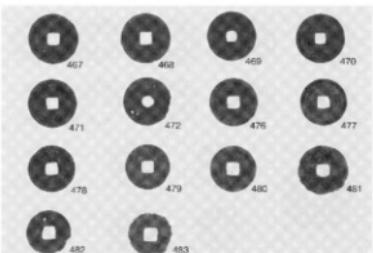
407～423（裏）



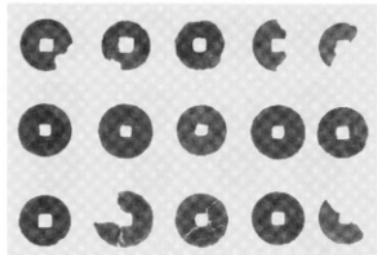
426～442（裏）



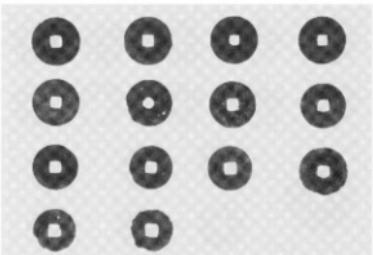
443 ~ 465 (表)



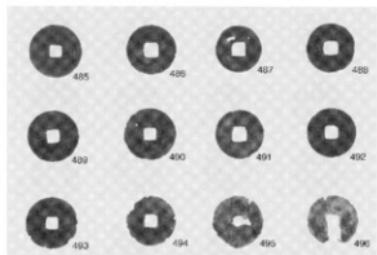
467 ~ 483 (裏)



443 ~ 465 (裏)



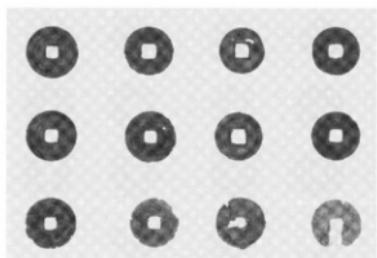
467 ~ 483 (裏)



485 ~ 496 (表)



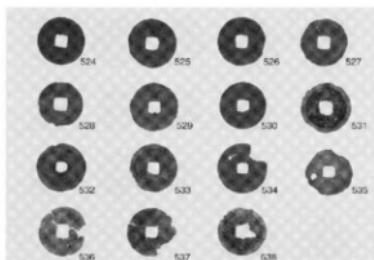
500 ~ 521 (表)



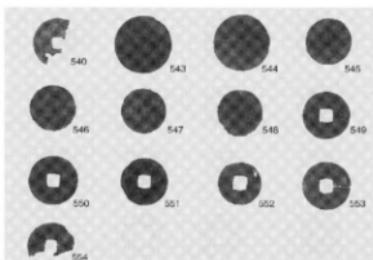
485 ~ 496 (裏)



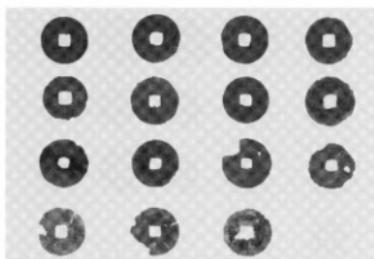
500 ~ 521 (裏)



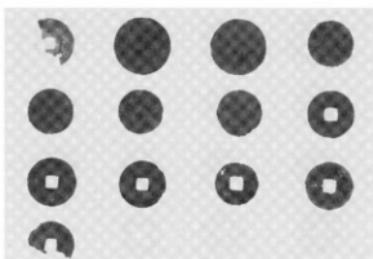
524 ~ 538 (表)



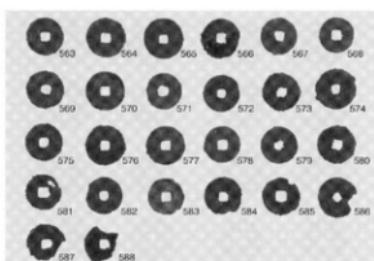
540 ~ 554 (裏)



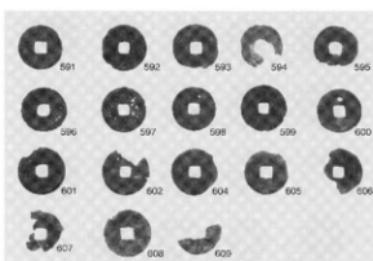
524 ~ 538 (裏)



540 ~ 554 (表)



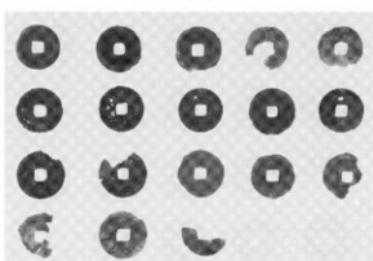
563 ~ 588 (表)



591 ~ 609 (裏)

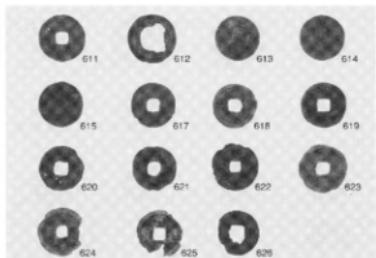


563 ~ 588 (裏)

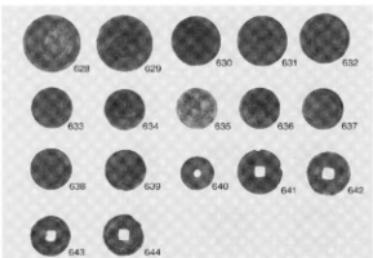


591 ~ 609 (表)

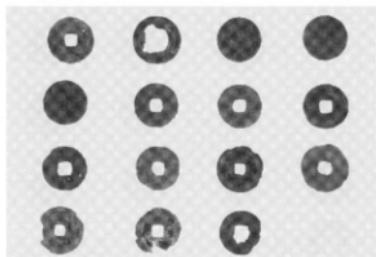
写真図版59 出土銭貨 (3)



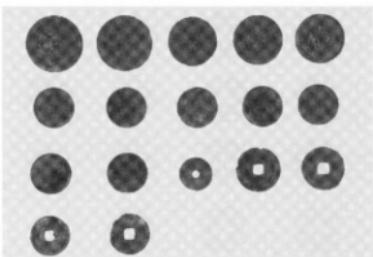
611 ~ 626 (表)



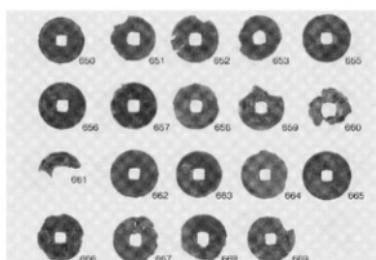
628 ~ 644 (表)



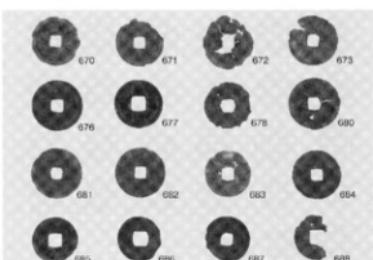
611 ~ 626 (裏)



628 ~ 644 (裏)



650 ~ 669 (表)



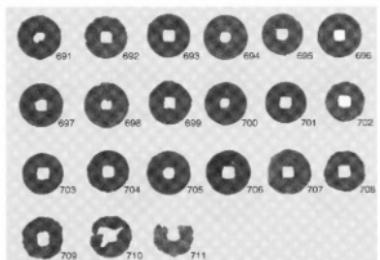
670 ~ 688 (表)



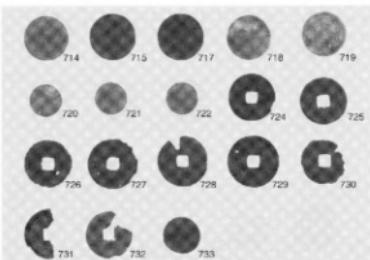
650 ~ 669 (裏)



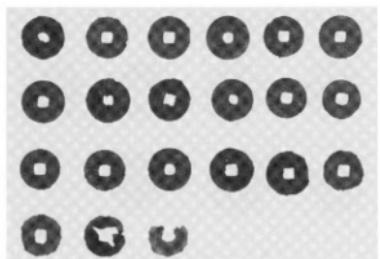
670 ~ 688 (裏)



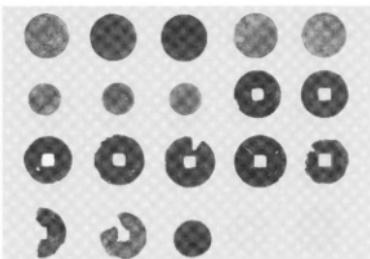
691 ~ 711 (表)



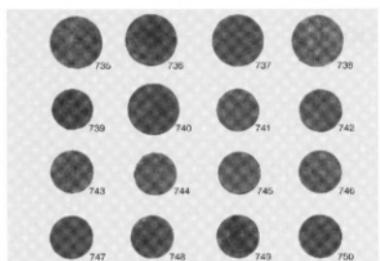
714 ~ 733 (表)



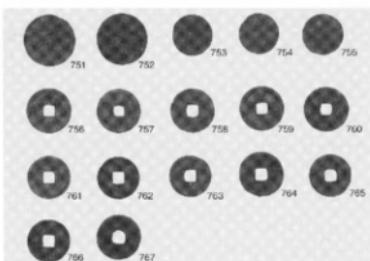
735 ~ 750 (表)



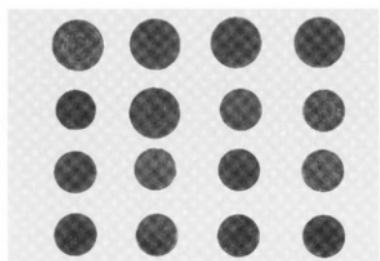
751 ~ 767 (表)



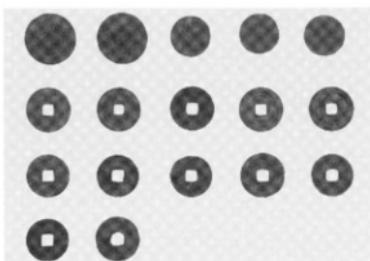
735 ~ 750 (表)



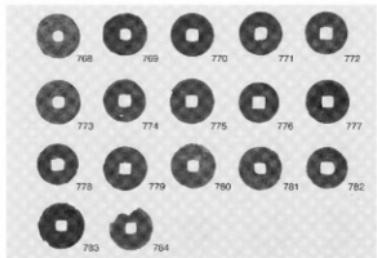
751 ~ 767 (表)



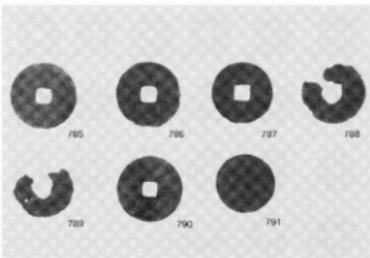
735 ~ 750 (表)



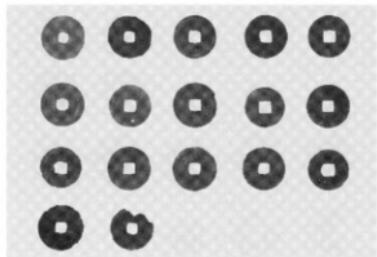
751 ~ 767 (表)



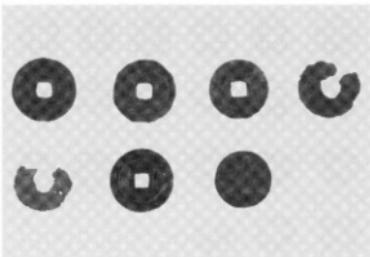
768～784（表）



785～791（表）



768～784（裏）



785～791（裏）

写真図版62 出土銭貨（6）

報告書抄録

ふりがな	つばみちかいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	坪潤Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第554集							
編著者名	木戸口俊子・濱田 宏							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯町11地割185番地 TEL. (019) 638-9001							
発行年月日	2010年1月29日							
あたりがな	あたりがな	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
坪潤Ⅱ遺跡	岩手県奥州市胆沢 区若柳字追分34ほか	3215	NE 31-1023	39度	140度	2007.05.01	5,029m ²	胆沢ダム建設事業
				5分	52分	~ 2007.06.22		
				57秒	48秒			
						2008.04.11 ~ 2008.05.30	2,000m ²	
所収遺跡名	種別	土な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
坪潤Ⅱ遺跡	朱落跡	縄文時代後・晩期	堅穴住居跡	2棟	縄文土器 石器 石製品			
			掘立柱建物跡	2棟				
			土坑	25基				
			土器組設遺構	1基				
			焼土	2基				
	近・現代		柱穴状小土坑	5個				
			掘立柱建物跡	1棟	銭貨 キセル 鉄製品 木製品 近世陶磁器			
			土坑	4基				
			墓塚	90基				
			溝	1基				
	時期不明		焼土	1基				
			柱穴状小土坑	15個				
			掘立柱建物跡	2棟				
			土坑	14基				
			焼土	3基				
			柱穴状小土坑	20個				

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第554集

坪沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成22年1月25日

発 行 平成22年1月29日

編 集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019) 638-9001

発 行 国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所

〒023-0403 岩手県奥州市胆沢区若柳字下松原77

電話 (0197) 46-4717

(財)岩手県文化振興事業団

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号

電話 (019) 654-2235

印 刷 株式会社 光文社

〒020-0106 岩手県盛岡市東松園3-12-1

電話 (019) 661-3441(代)

